

# I·O DATA



# もくじ




安全にお使いいただくために.....4	
使用上のご注意 .....7	
<b>準備編..... 9</b>	
特徴 ..... 10	
<b>セットアップ ..... 11</b>	
本製品を設置する ..... 12	
Windowsから本製品にアクセスする..... 21	
Windows Vista®から本製品にアクセスする ..... 22	
Windows XP から本製品にアクセスする ..... 23	
Windows 2000 から本製品にアクセスする ..... 25	
Mac OSから本製品にアクセスする..... 26	
Mac OS X(10.5)から本製品にアクセスする ..... 27	
Mac OS X(10.3以降)から本製品にアクセスする..... 28	
Mac OS X(10.2.8)から本製品にアクセスする ..... 29	
本製品にファイルを読み書きする際の注意 ..... 30	
設定画面の開き方 ..... 31	
Windows パソコンから設定画面を開く ..... 32	
Macintosh パソコンから設定画面を開く ..... 34	
<b>設定画面について..... 35</b>	
はじめて設定 ..... 36	
詳細設定 ..... 38	
フォトアルバム ..... 39	
ディスク状況表示 ..... 45	
<b>RAID モードの変更 ..... 46</b>	
本製品で設定できる RAID モード ..... 47	
RAID モードを変更する際の注意 ..... 48	
現在の RAID モードを確認する ..... 49	
RAID モードの各表示..... 50	
RAID モードを変更する..... 51	
<b>操作編 .....52</b>	
共有フォルダを使う ..... 53	
共有フォルダのアクセス権 ..... 54	
ネットワーク上での本製品の表示 ..... 55	
[ごみ箱]フォルダについて ..... 56	
共有フォルダを作成する ..... 57	
ユーザーを登録する ..... 57	
共有フォルダを作成する..... 58	
共有フォルダにアクセスする..... 60	
[ごみ箱]フォルダからファイルに戻す..... 62	
共有フォルダの設定を変更する..... 63	
共有フォルダを削除する ..... 65	
管理者からの共有フォルダへのアクセス方法 ..... 66	
ハードディスクをチェックする..... 68	
ハードディスクのチェック方法..... 69	
[アクティブリペア]でチェックする ..... 70	
[チェックディスク]でチェックする ..... 71	
ハードディスクを増設する..... 72	
増設できるハードディスク ..... 73	
増設ハードディスクの接続と取り外しに関する注意..... 74	
USB ポート 1 (前面)の設定について..... 75	
ハードディスクを増設する ..... 76	
ハードディスクを接続する..... 76	
ハードディスクの接続を確認する ..... 77	
増設ハードディスクにアクセスする ..... 78	
増設ハードディスクを取り外す..... 79	
増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする ..... 80	
バックアップする ..... 81	
データのバックアップについて..... 82	
デジカメコピー..... 83	
クイックコピー..... 87	
Sync With..... 90	
EasySaver LE..... 93	
UPS 装置を接続する..... 94	
UPS 装置の接続を確認する..... 95	
UPS 警告機能を有効にする..... 96	
DLNA サーバー機能を利用する ..... 97	
DLNA サーバー ..... 98	
本製品を DLNA サーバーとして使用する場合の注意 ..... 98	
メディアプレーヤーで再生できるファイルフォーマット..... 99	
メディアプレーヤーから参照できるようにする..... 100	
参照できる共有フォルダを追加・削除する ..... 102	
アクセスできるメディアプレーヤーを制限する..... 103	

動画管理ソフト Quick:FLO を使う	105	仕 様	154
Quick:FLO について	106	仕 様	155
iTunes サーバー機能を利用する	108	動作環境	156
iTunes サーバー	109	各部の名称・機能	157
本製品を iTunes サーバーとして使用する場合の注意	109	増設できる USB 機器	160
iTunes Server で公開できるファイルフォーマット	110	共有フォルダ使用上の注意	161
iTunes から再生できるようにする	111	ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い	163
公開する共有フォルダを追加・削除する	113	出荷時設定一覧	164
		文字制限一覧	166
		ログ一覧	167
リモートリンク機能を利用する	114	設定画面のリファレンス	171
iobb.net	115	[情報表示]→[システム情報]	172
本製品のリモートリンク機能を使用する場合の注意	115	[情報表示]→[ネットワーク情報]	173
iobb.net に登録する	116	[情報表示]→[ボリューム情報]	174
リモートアクセス	118	[情報表示]→[ログ情報]	177
リモートアクセスの設定を行う	118	[ネットワーク]→[基本設定]	178
インターネット経由で共有フォルダにアクセスする	119	[ネットワーク]→[TCP/IP 設定]	179
使用方法	122	[ネットワーク]→[サービス設定]	180
ホームメディアリンク	124	[共有管理]→[共有フォルダ一覧]	181
ホームメディアリンクの設定を行う	124	[共有管理]→[共有フォルダ追加]	182
インターネット経由で LAN DISK 内のコンテンツを		[共有管理]→[ユーザー一覧]	184
再生する	125	[共有管理]→[ユーザー追加]	184
マイウェブサーバー	127	[ボリューム]→[ボリューム操作]	184
マイウェブサーバーの設定を行う	127	[ボリューム]→[ボリューム設定]	185
インターネット経由で自分専用のウェブページを		[ボリューム]→[省電力設定]	186
閲覧する	128	[ボリューム]→[アクティブリペア]	187
		[ボリューム]→[USB1 取り外し]、[USB2 取り外し]	187
DVD/CD イメージ取り込み機能を利用する	129	[メール]→[メール基本設定]	188
DVD/CD イメージ取り込み機能	130	[メール]→[メール通知設定]	189
DVD/CD イメージ取り込み機能を設定する	130	[システム]→[システム基本設定]	190
DVD/CD イメージ取り込み機能を使用する	131	[システム]→[UPS 設定]	191
イメージ取り込みを確認する	132	[システム]→[スケジュール設定]	191
CD 革命/Virtual Client for LANDISK	133	[システム]→[シャットダウン]	192
		[システム]→[システム初期化]	192
		[システム]→[ファームウェア更新]	192
		[システム]→[管理者パスワード変更]	193
システムを管理する	135	[リモートリンク]→[iobb.net 設定]	193
管理者パスワードを変更する	136	[リモートリンク]→[リモートアクセス]	194
ファームウェアを更新する	137	[リモートリンク]→[ホームメディアリンク]	194
起動スケジュールを設定する	138	[リモートリンク]→[マイウェブサーバー]	194
システムログを確認する	139		
システムログをメール送信する	140	困ったときには	195
省電力機能を使う	142	本製品起動時のトラブル	199
出荷時設定に戻す	143	セットアップ時のトラブル (ネットワークへの導入時)	202
出荷時設定への戻し方	144	本製品へアクセス時のトラブル	213
IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す	145	設定画面に関するトラブル	219
本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す	146	本製品の IP アドレスについて	224
RAID が崩壊したときには	147	ファイルの保存について	225
RAID が崩壊したときには	148	ランプやブザーについて	226
ランプ表示別の対応	151	DLNA サーバー機能使用時のトラブル	228
ランプ表示別の対応	152	iTunes サーバー機能使用時のトラブル	230
		リモートアクセス機能使用時のトラブル	232
		内蔵および増設ハードディスクについて	233
		タイムサーバー機能使用時のトラブル	235
		メール送信でのトラブル	236
		パソコンのネットワーク設定について	237
		オプション品について	244
		本製品のお問い合わせ	245
		修理について	246

# 安全にお使いいただくために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

## ■警告および注意表示

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## ■絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)



「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)



「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)



「電源プラグを抜く」を表す絵表示



## 危険



分解禁止

ハードディスクの交換以外の目的で、本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因になります。

修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。



## 警告



厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。



電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントからプラグを抜いてください。

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



発火注意

本製品を接続する場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことをご注意ください。

- ケーブルにものを乗せる・引っ張る・折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因となることがあります。
- 給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。  
給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。
- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。



禁止

AC100V(50/60Hz)以外のコンセントに接続しないでください。

発熱、火災の恐れがあります。



厳守

電源プラグをコンセントに完全に差し込んでください。

ショート、発熱の原因となり、火災、感電の恐れ



**本製品の接続、取り外しの際は、必ず本書で、接続・取り外し方法をご確認ください。**

間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。

厳守



**本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。**

火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。

水濡れ禁止



**濡れた手で本製品を扱わないでください。**

感電や、本製品の故障の原因となります。

禁止



**ACアダプターについては以下にご確認ください。**

厳守

- 必ず添付または指定のACアダプターを使用してください。
- 添付ACアダプターは本製品専用であり他の機器に取り付けしないでください。
- ケーブル部分を加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- 電源コンセントから抜く場合は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災および感電の原因となることがあります。
- 電源プラグは、ぬれた手で電源コンセントに接続したり、抜いたりしないでください。感電の原因となります。
- 電源コンセントに接続されているときにはぬれた手で本製品に触らないでください。感電の原因となります。
- ACアダプターにものを乗せたり、かぶせたりしないでください。
- 保温・保湿性の高いものの近くで使用しないでください。（じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど）
- 本製品を長時間使わない場合は、ACアダプターを電源から抜いてください。ACアダプターを長時間接続していると、電力消費・発熱します。
- ACアダプターはAC100V以外の電圧で使用しないでください。本製品に添付のACアダプターは、AC100V専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
- ACアダプターを本製品から取り外す場合、必ず電源コンセント側から取り外してください。感電の原因となります。



**電源ケーブルについては以下にご確認ください。**

厳守

- 必ず添付または指定の電源ケーブルを使用してください。
- 電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- 電源ケーブルをACコンセントから抜く場合は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災および感電の原因となることがあります。
- 電源ケーブルの電源プラグは、濡れた手でACコンセントに接続したり、抜いたりしないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルがACコンセントに接続されているときには濡れた手で本製品に触らないでください。感電の原因となります。
- 本製品を長時間使わない場合は、電源ケーブルを電源から抜いてください。電源ケーブルを長時間接続していると、電力消費・発熱します。



**注意**



**本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。**

故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。

注意



**本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かないでください。**

禁止



**[STATUS] ランプが点滅・点灯中に（動作中にシャットダウンを完了せずに）、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。**

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

禁止



**本製品は精密機器です。以下のことにご確認ください。**

- 落としたり、衝撃を加えない
- 本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- 重いものを上にのせない
- そばで飲食・喫煙などをしない
- 本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

禁止



**動作中にケーブルを抜かないでください。**

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

禁止



**本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。**

故障の原因となることがあります。

- 振動や衝撃の加わる場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリが多い場所
- 温湿度差の激しい場所
- 熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- 強い磁力電波の発生する物の近く  
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- 水気が多い場所（台所、浴室など）
- 傾いた場所
- 腐食性ガス雰囲気中（ $Cl_2$ 、 $H_2S$ 、 $NH_3$ 、 $SO_2$ 、 $NO_x$ など）
- 静電気の影響の強い場所
- 保温性・保湿性の高い（じゅうたん・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません）

禁止



**電源を切った直後は、本製品側面および内蔵ハードディスクが非常に熱くなっています。**

ハードディスクの交換は、電源を切った後、十分に時間をおいてから行ってください。低温やけどの恐れがあります。

厳守



**本製品内部を結露させたまに使わないでください。**

時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。

本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。

禁止



**本体についた汚れなどを落とす場合、柔らかい布で乾拭きしてください。**

- 洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めて使用してください。
- ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
- 市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因となります。

厳守



**本製品内部およびコネクター部に液体、金属、たばこの煙などの異物が入らないようにしてください。**

禁止



**動作中にケーブルを激しく動かさないでください。**

接触不良およびそれによるデータ破壊などの原因となることがあります。

厳守



**ハードディスク内のデータは、こまめにバックアップするようにしてください。**

厳守



**本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。**

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。  
修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。  
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

厳守



**本製品で使用するハードディスクを廃棄あるいは譲渡などされる際は以下にご注意ください。**

本製品で使用するハードディスクに記録されたデータは、OS上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性があります。情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のためのソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめいたします。

厳守

**修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。  
必ず、データをバックアップしてから送付してください。**

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

# 使用上のご注意

本製品を使用する上で守っていただきたいご注意です。必ずお読みください。

## ■全般の注意

- 本製品の使用中またはハードディスク交換において、データが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。  
(故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。)
- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- チェックディスクを実行した場合は必ず終了するまで待ってから次の操作を行ってください。また、途中で電源を切ることはできません。  
終了するまでお待ちください。
- DHCP サーバーのある環境では、本製品は自動的に DHCP サーバーより IP アドレスが割り当てられるため、IP アドレスを設定する必要はありません。  
ただし、DHCP サーバーのない環境 (パソコンにそれぞれ固定の IP アドレスを設定している環境) では、ネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。
- 本製品を DHCP サーバーが存在するネットワークに接続しても、正常に IP アドレスを取得できない場合があります。その場合は、本製品の IP アドレスを固定に設定してご利用ください。
- 本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。  
本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。ルーターを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。インターネット経由での LAN DISK へのアクセスは、ルーターを設置した上で、リモートリンク機能をご使用ください。
- 本製品を複数台ネットワークに導入する場合や、他の LAN DISK と併用する場合は、本製品の IP アドレスと [LANDISK の名前] をそれぞれ別々にする必要があります。
- 本製品は工場出荷時状態では、DLNA サーバー機能が有効になっています。DLNA 機能をご使用にならない場合は、DLNA サーバー機能 (DLNA Server サービス) を無効にしてご使用ください。【共有サービス設定】 (180ページ) 参照
- 本製品内蔵 HDD は、本製品専用フォーマットです。他のフォーマット形式 (FAT、NTFS など) にフォーマットすることはできません。

## ■ネットワークで共有する場合の注意

- ファイアウォールソフトをお使いの場合、本製品へアクセスできない場合があります。  
その場合、ファイアウォールソフト側で、137~139 番、445 番のポートにアクセス許可する設定を行ってください。
- フォルダ名、ファイル名に使用できる文字の制限  
以下の個所を参照してください。【文字制限一覧】 (166ページ)
- 接続可能端末数について  
本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。

Windows パソコン	推奨する同時接続台数は 8 台まで (ネットワークドライブの割り当ても同様です。)
Mac OS パソコン	推奨する同時接続台数は 8 台まで (最大 16 台まで)

- リモートアクセス機能  
同時接続クライアント数は、3 クライアントまでです。
- ホームメディアリンク機能
  - ・1 台の LAN DISK Home とホームメディアリンククライアントは、2 クライアントまで接続できます。
  - ・同時再生は 2 台まで対応しています。複数のホームメディアリンククライアントで接続する場合、トータルで 2 台まで再生できます。

## ■共有、ユーザーの設定時の注意

本製品出荷時には、本製品に接続できるすべてのユーザーが読み書きできる [disk1]、[dlna]、[itunes] という共有フォルダがあります。新規に共有フォルダを作成することもできます。

- 本製品に作成する共有には、[全てのユーザー] [指定ユーザー] でアクセス制限を設定することができます。
- 本製品に登録可能な共有フォルダ数は最大 16 個までとなります。
- 本製品に登録可能なユーザー数は最大 8 個までとなります。
- ユーザー名、共有フォルダ名に使用できる文字の制限  
以下の個所を参照してください。【文字制限一覧】 (166ページ)

## ■本製品および増設ハードディスクのデータ管理について

- 本製品のデータは万が一に備えて、増設ハードディスクなどに定期的にバックアップをお取りください。  
本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。
- ハードディスクの交換を行う場合、必ず、本製品の電源がOFFの状態（[STATUS] ランプが消灯状態）で取り外し、取り付けを行ってください。
- 本製品の設定画面で表示される増設ハードディスク使用領域と Windows からネットワークドライブに割り当てしてプロパティから確認した使用領域の値は大きく異なります。本製品で使用するファームウェアの表示における仕様で、ハードディスク側には問題はありません。正しい使用領域は、本製品の設定画面からご確認ください。
- 設定画面上から行うハードディスクのチェックディスクでの「エラーチェックのみを行う」に要する時間は、ハードディスクの状態や容量により大きく異なります。  
通常は、非常に短い時間で終了しますが、ハードディスクの状態により、数分から数十分程度の時間を要することがあります。
- STATUS(ステータス)ランプ及び ACCESS(アクセス)ランプ点滅中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。  
故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品の管理者は、すべての共有フォルダにアクセスする権限をもっています。（Windows パソコンからアクセスする場合のみ）  
セキュリティのため、共有フォルダにアクセス時のパスワードを定期的に変更することをおすすめします。
- ファイルコピー中やバックアップ中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。  
本製品や増設用ハードディスクの ACCESS（アクセス）ランプを確認の上、電源を切ってください。

## ■USB 機器を接続する際の注意

- 本製品の USB ポート（1、2）には、対応の機器以外の機器は接続しないでください。  
（USB ハブも接続できません。最新の対応 USB 機器は、弊社ホームページ（<http://www.iodata.jp/>）をご覧ください。）  
本製品の USB ポートに増設できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】（160ページ）もご覧ください。

- 本製品に増設する USB ハードディスクは、下記のフォーマット形式に対応しています。

	対応フォーマット形式	
	FAT ※1	NTFS ※2
本製品に接続した場合	読み書き可	読み込みのみ可
パソコンに接続した場合	読み書き可※3	読み書き可※4

- ※1 本製品に接続して設定画面の【フォーマット（FAT32）】で FAT32 形式にフォーマットすることができます。
- ※2 本製品で NTFS 形式にフォーマットすることはできません。フォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。（方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。）
- ※3 FAT 形式の場合、1 ファイル 4G-1 バイトまでの対応となります。（Windows Vista®の場合、1 ファイル 4G-1M バイト）
- ※4 Macintosh の場合、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクの共有および読み取り専用設定の共有はマウントできません。

- 省電力設定の対応機器は、弊社ホームページ（<http://www.iodata.jp/>）をご覧ください。  
（省電力設定の動作確認機種以外には省電力設定を有効にしないでください。）
- バスパワーで動作する USB 機器（弊社製 EasyDisk など）は、前面の [USB ポート 1] にのみ接続できます。
- デジカメや USB メモリコピー用ポート（USB ポート 1）の注意
  - ・コピー開始、終了、エラーはランプやブザー音で確認してください。
  - ・何らかの原因により、正常にデータをコピーできなかった場合の写真などのデータの補償に関して、弊社は一切責任を負いません。必ず、コピーが完了した後、コピー内容をパソコンなどによりご確認ください。
- ファイルコピー中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常に行われません。
- 書き込み禁止スイッチ付きのハードディスクなど、物理的に書込保護できるドライブを本製品に接続する場合は、必ず書き込み可能な状態に切り替えてお使いください。
- デジカメコピー機能、クイックコピー機能では、マストレージもしくは PTP 転送に対応し、FAT または NTFS 形式のデジカメ、USB メモリーが使用可能です。
- マストレージモードと PTP モードを切り替えられるデジカメはマストレージモードでご利用ください。
- PTP 転送時は、1 ファイルの大きさが 1.5GB 以下のファイルのみ対応となります。



# 準備編



# 特徴

## ●コンパクトなのに TB（テラバイト）の大容量！

コンパクトなポティーに4台のハードディスクを内蔵し、動画なら最大 438 時間が保存できます。

（動画：MPEG2 720×480 5Mbps 30fps/HDL4-G1.0 ストライピングモードの場合）

## ●リビングに置けるデザイン！

白基調のスッキリとしたデザインで、リビング内に置いても違和感はありません。

## ●シンプル&かんたん！

ブロードバンドルーターがあればつなぐだけですぐにご利用いただけます。

Web ブラウザーでかんたんに細かな設定もできます。

家庭内利用を最大限に考慮したシンプルな機能構成になっています。

### ・かんたんバックアップ

かんたんバックアップツール「Sync with」同梱により、パソコンとのデータ同期もワンタッチで行えます。

### ・かんたんディスク交換

万一、ハードディスクに異常が発生したときでもかんたんにディスク交換ができます。ハードディスク交換説明ビデオ DVD を付属していますので、いざというときでも安心してディスク交換ができます。

ディスクを交換後は LANDISK Home が自動的に修復作業を実行しますので、電源を入れるだけで OK です。（RAID5 モード時）

## ●RAID5 対応

ハードディスクが1台故障しても保存されたデータをまもる RAID5 モードに対応しています。

LANDISK Home は、出荷状態で RAID5 モードに設定済みです。

また、自動的にハードディスクの故障領域を修復するアクティブリペア機能により、ハードディスクの寿命を延ばすことができます。

## ●ファイル共有

ネットワークに接続されているご家庭内のパソコンすべてから同時にアクセスすることができます。（最大同時接続数：8 台まで）Windows パソコン、Macintosh パソコンどちらにも対応していますので、データのやり取りも LANDISK Home 経由でかんたんに行えます。

## ●マルチメディア機能

### ・DLNA サーバー機能搭載

DLNA 1.0 に準拠したマルチメディアサーバー機能を搭載しています。

DLNA 対応のテレビなどから直接 LANDISK Home にアクセスして動画再生などが楽しめます。

### ・iTunes サーバー機能搭載

iTunes サーバー機能を搭載していますので、大量の音楽データを LANDISK Home に保存して、対応機器から直接再生することができます。

### ・<レグザ>Z3500/ZH500/Z7000/ZH7000 シリーズ 対応

東芝製 <レグザ>の<レグザリンク>に対応しています。

<レグザ>シリーズから直接 LAN DISK Home にフルスペックハイビジョン放送を録画、再生することができます。

もちろん、追っかけ再生機能もサポートしていますので、ますます <レグザ>シリーズが便利になります。

LAN DISK Home の「[はじめて設定]」機能により、<レグザ>シリーズから LAN DISK Home の基本設定ができるようになっています。

※HDL4-G3.0、HDL4-G4.0 は<レグザ>Z3500 シリーズのネットワークハイビジョン録画には対応していません。

## ●デジカメコピー機能

デジカメを直接 LAN DISK Home に接続して、ボタンを押すだけでデジカメ内の写真データを LAN DISK Home にコピーすることができます。重複する画像はスキップしますので、あとから写真を整理する必要もありません。もう、デジカメのデータコピーにパソコンは不要です。

## ●フォトアルバム機能

フォトアルバム機能を使って、パソコンはもちろん Wii や PS3 から、デジカメコピー機能で取り込んだ写真データの確認、アルバムを作成して整理ができます。DLNA 対応テレビ以外にも、写真データをご家庭のテレビに映して、家族みんなで楽しむことができます。

また、アルバム整理した写真データをメモリーカードに書き戻すことができるので、ご家庭でゆっくりプリント・現像したい写真を選んで、お店に依頼することもできます。

## ●リモートリンク機能

### ・リモートアクセス機能

インターネットを経由して、自宅の本製品のファイルを読み込み（ダウンロード）、または、書き込み（アップロード）する機能です。

### ・ホームメディアリンク機能

自宅の本製品内のコンテンツを外出先の DLNA 対応機器で楽しむことができる機能です。

### ・マイウェブサーバー機能

自宅の本製品内に作成した自分専用のウェブページを外出先から閲覧できる機能です。

セットアップ

# 本製品を設置する

通常、ネットワーク内にブロードバンドルーターなどの「DHCP サーバー」となる機器がある場合は、ネットワークに接続すればそのまま本製品をご利用になれます。

ただし、ネットワーク内に DHCP サーバーとなる機器がない場合には、Windows パソコンを使って本製品の IP アドレスなどを変更する必要があります。

## STEP1 ネットワーク機器を確認する

ネットワーク内のパソコン、ルーター、アクセスポイントなどが正常に動作していることを確認します。

## STEP2 ネットワークにつなぐ

本製品背面の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をパソコンやハブ(ルーター)などのネットワーク機器に接続します。

ネットワーク機器

**注意** ●必ず LAN ケーブルを先に接続してください。  
LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

## STEP3 電源を入れる

1 添付の「電源ケーブル」を [AC アダプター] に接続します。

2 添付の「AC アダプター」を本製品背面の [DC ジャック] に接続後、電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

3 本製品背面の電源ボタンを押します。  
「ピポッ」と音が鳴り [STATUS] ランプが緑色に点滅します。

ACアダプター  
抜け防止フック



電源ボタンを押す

ピポッ

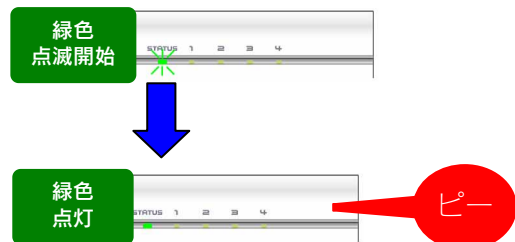


- 動作中に本製品のシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。
- また、AC アダプターの抜け防止フックをご利用ください。

## STEP4 ランプを確認する

1 点滅している [STATUS] ランプが約 2 分ほどで点灯となります。

2 起動が完了すると、「ピー」と音が鳴ります。



- ネットワーク内に DHCP サーバーがない場合、[STATUS] ランプは赤く点滅します。

ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってみてください。

- ①いったん、本製品の [電源] ボタンを押して本製品の電源を切ります。
- ②DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。
- ③ [電源] ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。  
※DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】の項をご覧ください。

# 本製品の設定を行う (設定画面を開く)

ご使用のOSにより、設定方法が異なります。  
(Windows、Mac OS両方お持ちの場合は、Windowsから設定してください。)

Windows の場合は、[次ページ](#)をご覧ください。  
Mac OSの場合は、[26ページ](#)をご覧ください。

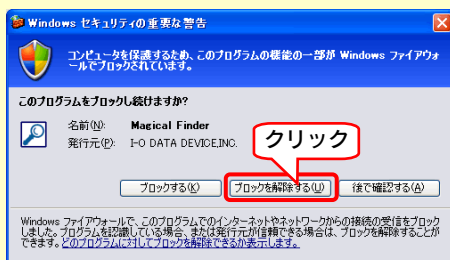
# Windows から設定する

**1** パソコンを起動します。

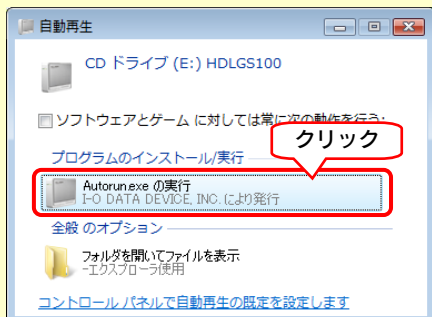
**2** 添付 DVD をセットし、起動してきたサポートソフトウェアメニューの[Magical Finder 起動]をクリックすれば、「Magical Finder」が起動します。

**注意**

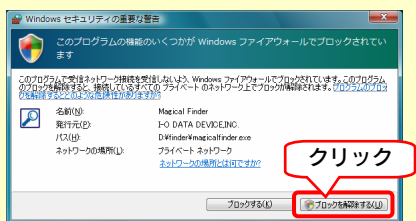
●Windows XP をお使いで以下の画面が表示された場合は、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



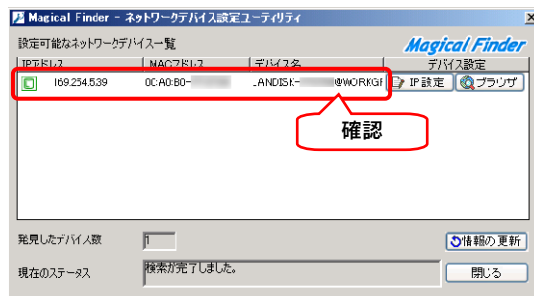
●Windows Vista®をお使いで、サポートソフト DVD を挿入すると、以下の画面が表示された場合、[Autorun.exe の実行]をクリックしてください。



●Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、「ブロックを解除する」をクリックしてください。その後[ユーザアカウント制御]の表示がされた場合は、「続行する」をクリックしてください。



**3** 自動で本製品が検索されます。



?

本製品が検索されない！

対処1: 30秒ほど待ってから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。

対処2: 以下の個所を参照してください。

205ページの【困ったときには】

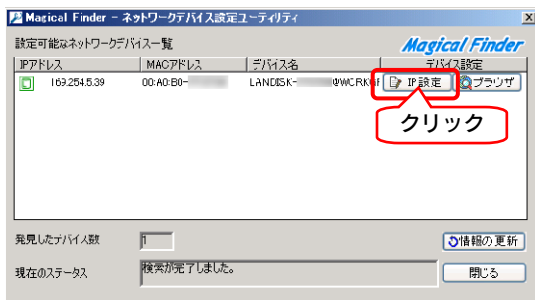
**4** 本製品の[STATUS]ランプの色を確認してください。

STATUS ランプが  
緑色で点灯している

次に、8へお進みください。

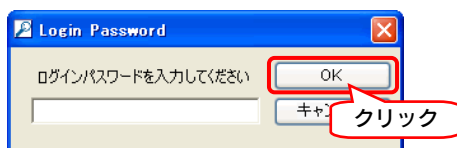
STATUS ランプが  
赤く点滅している

[IP 設定]ボタンをクリックします。  
次に、5へお進みください。

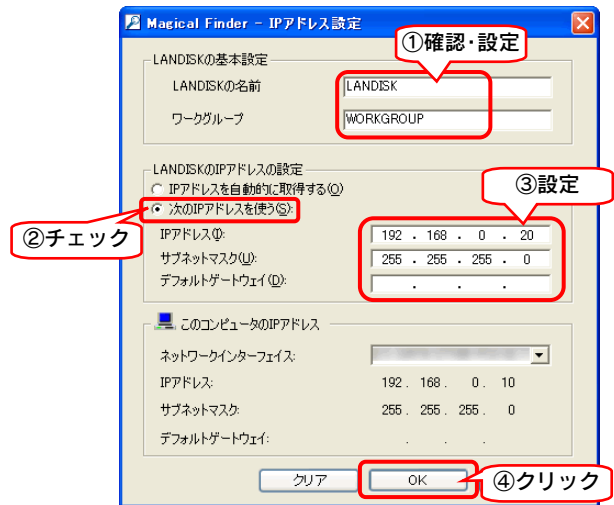


**注意** ● ネットワーク内に DHCP サーバーがない場合、  
[STATUS] ランプは赤く点滅します。  
ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってみてください。  
① いったん、本製品の [電源] ボタンを押して本製品の電源を切ります。  
② DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。  
③ [電源] ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。  
※ DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】の項をご覧ください。

**5** 何も入力せずに [OK] ボタンをクリックします。

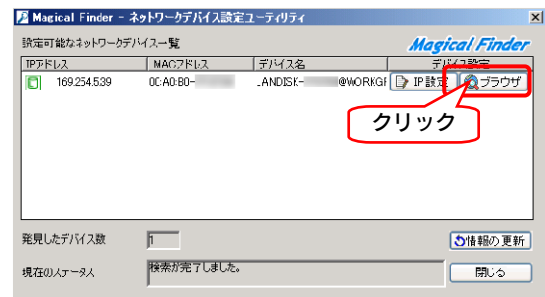


**6** [LANDISK の名前] [ワークグループ] を確認後、お使いのネットワークに合わせた IP アドレスを設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
※画面の詳細は次ページを参照してください。



**7** [OK] ボタンをクリックします。

**8** 3の画面に戻りますので、[ブラウザ] ボタンをクリックします。本製品の設定画面が開きますので、[はじめて設定]をクリックして、画面の指示にしたがって設定してください。



次に、【Windows から本製品にアクセスする】(21ページ)へお進みください。

▼ [IP アドレス設定] 画面

LANDISKの基本設定	
LANDISKの名前	<p>ネットワーク上（[マイネットワーク] あるいは[ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名称です。</p> <p>※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。</p> <p>※変更する場合は、必ずメモしてください。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>注意</b> ●本製品を複数台使用する場合や、他の LANDISK ※1 と併用する場合</p> <p>※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV、HDL-GXR、HDL4-G、HDL-GS、HDL2-Gのシリーズ</p> <p>必ず[LANDISKの名前]を変更し、同一のコンピュータ名がネットワーク内に複数存在しないように設定し、メモしてください。</p> <p>設定例) 1台目のLANDISKの名前 「LANDISK1」</p> <p>2台目のLANDISKの名前 「LANDISK2」 など</p> </div>
ワークグループ	<p>"ワークグループ"はパソコンの"ワークグループ名"と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名を確認してください。）</p> <p>ただし、ワークグループの名前が一致していない場合でも本製品にアクセスすることは可能です。</p> <p>※使用できる文字には制限があります。</p> <p>【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。</p>
LANDISKのIPアドレス設定	
IPアドレスを自動的に取得する	ネットワーク内にDHCPサーバーがある場合にチェックします。
次のIPアドレスを使う	<p>固定のIPアドレスを使う場合にチェックします。</p> <p>IP アドレス</p> <p>本製品に設定するIPアドレスを入力します。</p> <p>※使用しているネットワークのセグメント(IPアドレスのグループ)をご確認の上、他のネットワーク機器やパソコンのIPアドレスと重複しないように設定してください。</p>
	<p>サブネットマスク</p> <p>パソコンと同じサブネットマスクを入力します。</p> <p>画面の[このコンピュータのIPアドレス]欄の[サブネットマスク]と同じ値を入力します。</p>
	<p>デフォルトゲートウェイ</p> <p>パソコンと同じデフォルトゲートウェイを入力します。</p> <p>画面の[このコンピュータのIPアドレス]欄の[デフォルトゲートウェイ]と同じ値を入力します。表示されていない場合、入力する必要はありません。</p>
このコンピュータのIPアドレス	
ネットワークインターフェイス	パソコンのネットワークインターフェイス（LANアダプター名など）を表示します。
IPアドレス	パソコンのIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	パソコンのサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	パソコンのデフォルトゲートウェイを表示します。通常、ルーターのIPアドレスが設定されています。設定されていない場合、表示されません。



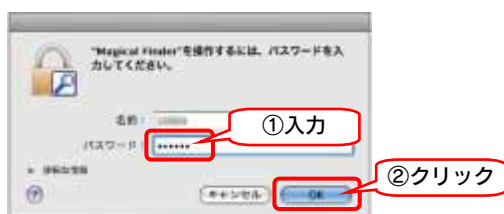
# Mac OS から設定する Mac OS X(10.4以降)の場合

**1** パソコンを起動します。

**2** 添付 DVD をセットし、表示された画面内の[Magical Finder] アイコンをダブルクリックします。



**3** お使いの Macintosh に設定してあるパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



**4** 自動で本製品が検索されます。本製品の[STATUS]ランプの色を確認してください。



本製品が検索されない！

対処1：30秒ほど待ってから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。

対処2：以下の個所を参照してください。  
205ページの【困ったときには】

STATUS ランプが  
緑色で点灯している

次に、8へお進みください。

STATUS ランプが  
赤く点滅している

[IP 設定]ボタンをクリックします。  
次に、5へお進みください。



●ネットワーク内に DHCP サーバーがない場合、  
[STATUS] ランプは赤く点滅します。

ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってみてください。

①いったん、本製品の【電源】ボタンを押して本製品の電源を切ります。

②DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。

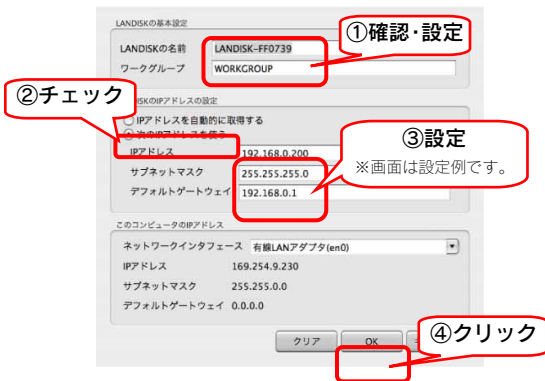
③【電源】ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。

※DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】の項をご覧ください。

**5** 何も入力せずに [OK] ボタンをクリックします。



**6** [LANDISKの名前] [ワークグループ] を確認後、お使いのネットワークに合わせた IP アドレスを設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
※画面の詳細は次ページを参照してください。

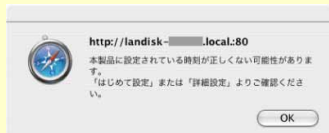


**7** [OK] ボタンをクリックします。



**8** 4の画面に戻りますので、[ブラウザ]ボタンをクリックします。  
以下の画面が表示されますので、何も入力せず[ログオン]ボタンをクリックします。

? 以下の画面が表示された場合は、本製品に設定されている時刻と実際の時刻にズレがあります。設定画面から時刻設定を行ってください。



**9** しばらくすると、設定画面の起動メニュー画面が表示されま  
す。[はじめて設定] をクリックして、画面の指示にしたが  
って設定してください。  
設定が完了したら、【本製品にアクセスする】へお進みくだ  
さい。

次に、【Mac OS から本製品にアクセスする】(26ページ)  
へお進みください。

▼ [IP アドレス設定] 画面 (Mac OS の場合)

LAN DISKの基本設定	
LANDISK の名前	<p>ネットワーク上（[マイネットワーク] あるいは [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名称です。</p> <p>※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。</p> <p>※変更する場合は、必ずメモしてください。</p>
ワークグループ	<p>"ワークグループ"はパソコンの"ワークグループ名"と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名を確認してください。）</p> <p>ただし、ワークグループの名前が一致していない場合でも本製品にアクセスすることは可能です。</p> <p>※使用できる文字には制限があります。</p> <p>【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。</p>
IP アドレス	<p>画面下の「<input type="checkbox"/>このコンピュータの IP アドレス」内の「IP アドレス」を参考に、末尾の値がパソコンや他のネットワーク機器と重複しない値に設定します。</p>
サブネットマスク	<p>画面下の「<input type="checkbox"/>このコンピュータの IP アドレス」内の「サブネットマスク」と同じ値を設定します。</p>
デフォルトゲートウェイ	<p>画面下の「<input type="checkbox"/>このコンピュータの IP アドレス」内の「デフォルトゲートウェイ」と同じ値を設定します。</p> <p>※値が表示されていない場合は設定を空欄にします。</p>

# Mac OS から設定する Mac OS X(10.2.8~10.3)の場合

**7** 本製品の[STATUS]ランプの色を確認してください。

STATUS ランプが  
緑色で点灯している

次に、2へお進みください。

STATUS ランプが  
赤く点滅している

ネットワークに導入後（本製品起動後）、[STATUS] ランプが赤く点滅している場合、本製品の IP アドレスは、Auto IP [169.254.xxx.xxx] に設定されています。

※Auto IP 環境のネットワークで本製品をご利用になる場合は、そのままご利用になれますが、固定 IP 環境のネットワークで本製品をご利用になる場合は、本製品にご利用のネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。設定画面は、設定用パソコンから Web ブラウザで本製品の IP アドレスを指定して開きます。[STATUS] ランプが赤く点滅している場合、本製品の IP アドレスは、Auto IP [169.254.xxx.xxx] に設定されていますが、同時に [192.168.0.200] にも設定されています。

## ●本製品の IP アドレスを決める

①現在ネットワークで使用しているパソコンやネットワーク機器の IP アドレスとサブネットマスク・ゲートウェイ（ルーターのアドレス）を確認し、メモします。

（パソコンの IP アドレスの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】をご覧ください。）

②本製品の IP アドレスを決定し、メモします。（サブネットマスク、ゲートウェイ（ルーターのアドレス）は、①で確認した値と同じ値をメモします。）

メモした内容は、【はじめて設定】（36ページ）で使用します。次に、2へお進みください。

● [サブネットマスク] [ゲートウェイ] の値はすべてパソコンと本製品で共通の値です。ご利用環境によっては、[ゲートウェイ] は設定されていない（空欄）の場合もあります。

### ●IP アドレスの決め方

ネットワーク上で使用しているパソコンの IP アドレスと同じセグメント値※で、かつ、末尾の数字を上記で使用されていない値に設定します。

※IP アドレスはピリオドで区切られた4つの数字で構成されています。最初の3つをセグメントと呼びます。

**2** Web ブラウザ「Safari」を起動します。

**3** ブックマークの [Bonjour]（または[Rendezvous]）から [LANDISK-xxxxxx] ※をクリックします。  
※xxxxxx は MAC アドレスの下 6 桁です。  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更している場合は、変更した名前をクリックします。



**4** ログインの確認画面が表示されますので、[名前] [パスワード] とともに空欄のまま、[ログイン] ボタンをクリックします。



**5** 以下の画面が表示されます。何も入力せずに [ログオン] ボタンをクリックします。

**6** しばらくすると、設定画面の起動メニュー画面が表示されます。【はじめて設定】をクリックして、画面の指示にしたがって設定してください。  
設定が完了したら、【本製品にアクセスする】へお進みください。

次に、【Mac OS から本製品にアクセスする】（26ページ）へお進みください。

# Windows から 本製品にアクセスする

ネットワークに導入した本製品にアクセスする方法を説明します。  
アクセス方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS を参照してください。

- ・ [Windows Vista®から本製品にアクセスする \(22ページ\)](#)
- ・ [Windows XP から本製品にアクセスする \(23ページ\)](#)
- ・ [Windows 2000 から本製品にアクセスする \(25ページ\)](#)

# Windows Vista®から 本製品にアクセスする

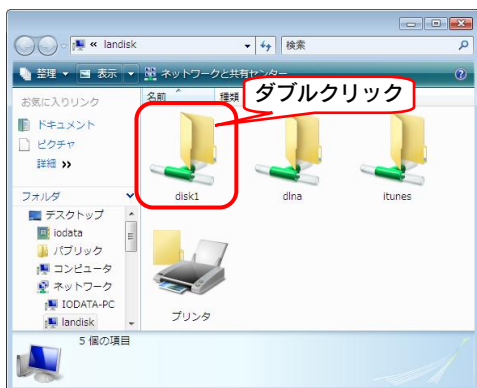
Windows Vista®から本製品にアクセスする手順です。

- 1** [スタート]をクリックし、[検索の開始]をクリック後、「¥landisk」と入力し[Enter]キーを押します。  
※本製品の「LANDISKの名前」を変更した場合は、¥の後に変更した名前を入力してください。



？ LANDISK が検索されない！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の215ページ

- 2** 本製品の共有フォルダの一覧が表示されます。  
[disk1]フォルダをダブルクリックします。



- 3** 表示された [disk1] フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザーと共有することができます。

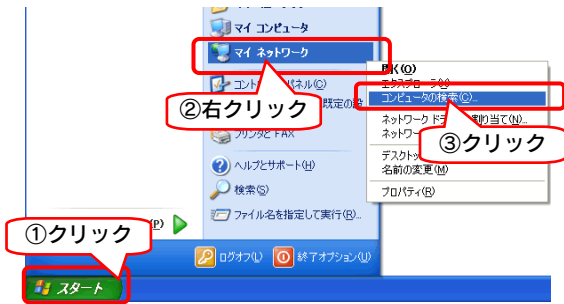


正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Windows XP から本製品にアクセスする

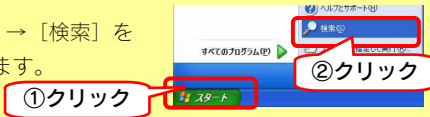
Windows XP から本製品にアクセスする手順です。

**1** [スタート] → [マイネットワーク] → [コンピュータの検索] をクリックします。

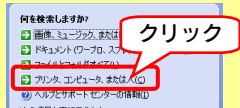


表示に「マイネットワーク」がない場合は、以下の手順を行います。

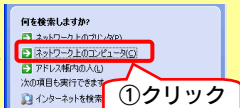
① [スタート] → [検索] をクリックします。



② "何を検索しますか?" で [プリンタ、コンピュータ、または人] をクリックします。



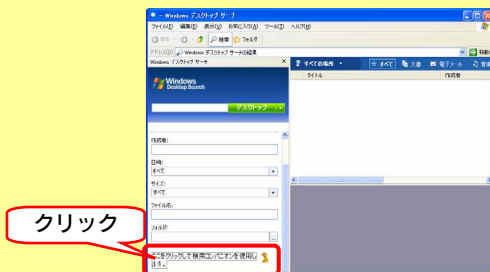
③ "何を検索しますか?" で [ネットワーク上のコンピュータ] をクリックします。



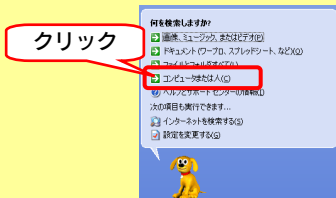
Windows Search 4.0 がインストールされている場合

① [マイネットワーク] を右クリックして、「コンピュータの検索」をクリックします。

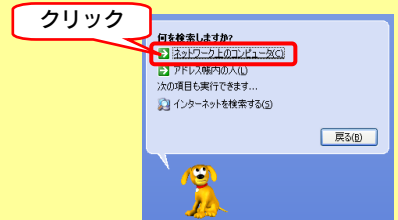
② 画面左下の「ここをクリックして検索コンパニオンを使用します。」をクリックします。



③ 左側メニューから「コンピュータまたは人」をクリックします。

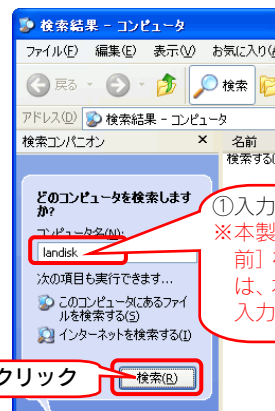


④ 左側メニューから「ネットワーク上のコンピュータ」をクリックします。



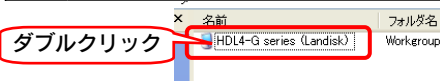
⑤ コンピュータ名に該当の LAN DISK の名前を入力し、[検索] ボタンをクリックします。

**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。



※本製品の [LANDISK の名前] を変更されている場合には、本製品に設定した名前を入力してください。

**3** 「HDL4-G series(Landisk)」が検索されますので、ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。



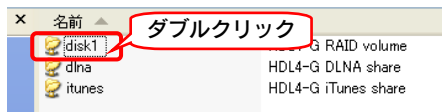
2つ表示された場合は、どちらかをダブルクリックします。  
Windows XP から、本製品のコンピュータ名で検索を行った場合、2つの LANDISK が発見されることがあります。2つのうちどちらかをダブルクリックしてください。

名前	フォルダ名
HDL4-G series (Landisk)	Workgroup
HDL4-G series (landisk)	Workgroup

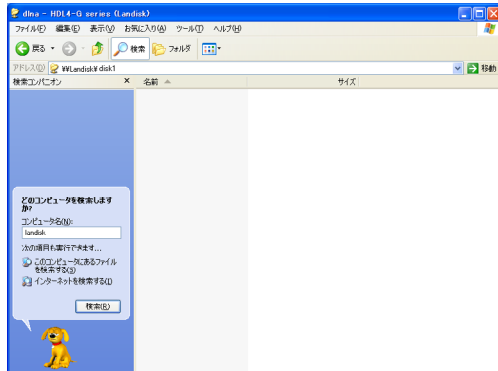
これは、本製品が使用しているファームウェアによる仕様となります。

LANDISK が検索されない！  
⇒以下の箇所を参照してください。  
【困ったときには】の215ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。



**5** 表示された [disk1] フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザーと共有することができます。



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。



# Windows 2000 から 本製品にアクセスする

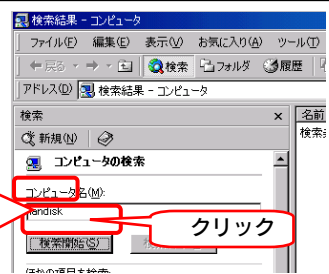
Windows 2000 から本製品にアクセスする手順です。

**1** マイネットワーク を右クリックして、コンピュータの検索 をクリックします。



**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索] ボタンをクリックします。

①入力  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更されている場合には、本製品に設定した名前を入力してください。



**3** 「Landisk」が検索されますので、ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。

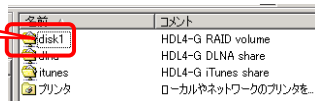
ダブルクリック



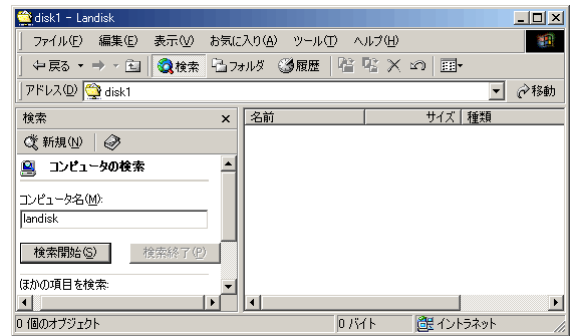
? LANDISK が検索されない！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときは】の215ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。

ダブルクリック



**5** 表示された [disk1] フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザーと共有することができます。



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Mac OS から 本製品にアクセスする

ネットワークに導入した本製品にアクセスする方法を説明します。

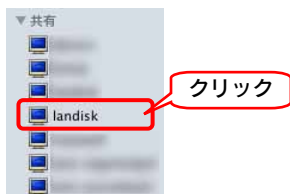
アクセス方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS を参照してください。

- ・ [Mac OS X\(10.5\)から本製品にアクセスする \(27ページ\)](#)
- ・ [Mac OS X\(10.3~10.4\)から本製品にアクセスする \(28ページ\)](#)
- ・ [Mac OS X\(10.2.8 以前\)から本製品にアクセスする \(29ページ\)](#)

# Mac OS X(10.5) から本製品にアクセスする

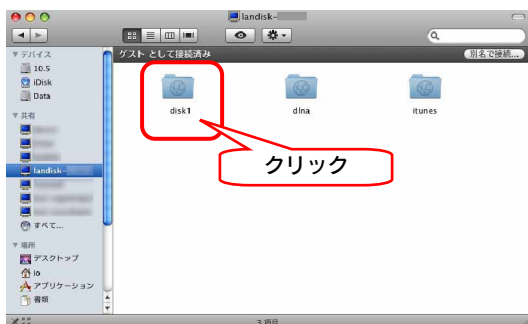
Mac OS X（10.5以降）から本製品にアクセスする手順です。

- 1** 画面下の Finder を開きます。  
[共有]に本製品（landisk）が表示されていることを確認し、  
クリックします。  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更している場合は、設  
定した名前が表示されます。



? LANDISK が検索されない!  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の218ページ

- 2** [disk1]をクリックします。

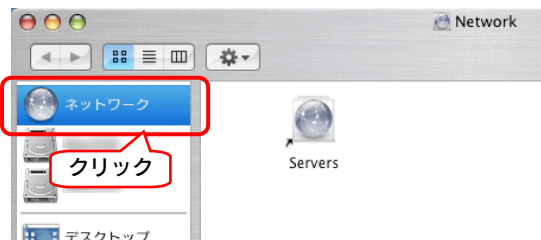


以上で本製品には正常にアクセスできています。  
新規に共有を作成し、2の画面で作成した共有を選  
択することで、ネットワークのフォルダとして使用  
できます。

# Mac OS X(10.3~10.4) から本製品にアクセスする

Mac OS X (10.3~10.4) から本製品にアクセスする手順です。

**1** Finder を開き、[ネットワーク] をクリックします。



**2** しばらくすると [Local] アイコン (または [My Network] アイコン) が表示されます。  
[Local] アイコン (または [My Network] アイコン) をダブルクリックします。



**3** 表示されている [landisk] アイコンをダブルクリックします。何も表示されない場合は、しばらく待つと表示されます。  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



**?** LANDISK が検索されない!  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の218ページ

**4** [ゲスト] を選択し、[接続] ボタンをクリックします。



**5** [disk1] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



**6** デスクトップ上に [disk1] アイコンが表示されます。

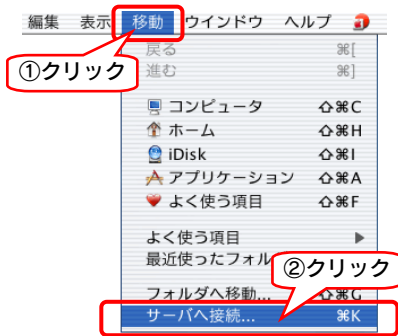


**7** [disk1] アイコンをダブルクリックすると、[disk1] フォルダのウィンドウが表示されます。このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザーとファイルを共有することができます。

# Mac OS X(10.2.8) から本製品にアクセスする

Mac OS X (10.2.8) から本製品にアクセスする手順です。

**1** [移動]メニュー→[サーバへ接続]をクリックします。

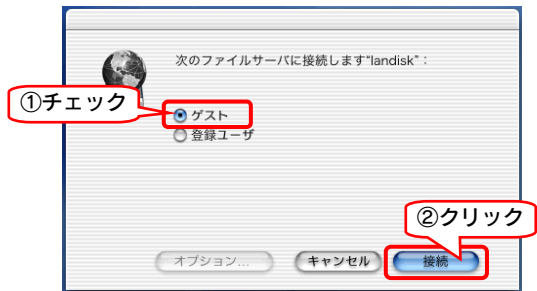


**2** 本製品に接続します。  
 ①[サーバへ接続]画面で、[場所]で[ネットワーク]または[ローカルエリアネットワーク]を選択します。  
 ②[Local] (または [ローカルネットワーク]) → [landisk] ※をクリック後、[接続]ボタンをクリックします。  
 ※本製品の [LANDISK の名前] を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



**?** LANDISK が検索されない！  
 ⇒以下の個所を参照してください。  
 【困ったときには】の218ページ

**3** [ゲスト]を選択し、[接続]をクリックします。



**4** [disk1]を選択し、[OK]をクリックします。



**5** デスクトップ上に本製品の共有フォルダ ([disk1]) がマウントされます。



**6** [disk1] アイコンをダブルクリックすると、[disk1] フォルダのウィンドウが表示されます。  
 このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザーとファイルを共有することができます。

# 本製品にファイルを 読み書きする際の注意

本製品の [disk1] フォルダや新しく作成した共有フォルダ、あるいは、増設ハードディスクにファイルを読み書きする場合は、ご使用前に、以下の項目を必ずご確認ください。

- 本製品の使用中またはハードディスク交換中において、データが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。  
(故障や万が一に備えて定期的にバックアップをお取りください。)
- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品のファイルやフォルダに「読み取り専用」などの属性情報を設定することはできません。
- フォルダ名、ファイル名に使用できる文字の制限  
本製品で使用できるフォルダ名やファイル名には制限があります。  
また、増設ハードディスク内にすでに作成されているファイル名、フォルダ名によっては正しく表示されないものがあります。  
詳細については、以下の個所を参照してください。  
【文字制限一覧】 (166ページ)
- 本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数に制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。  
・推奨する同時接続台数は 8 台までとなります。
- Windows と Mac OS で共有してご利用になる場合、Windows 上から見ると、見覚えの無いファイル、フォルダが見える場合があります。  
これは、Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル (フォルダ) の他に、別のファイル (フォルダ) が作成されるためです。  
このファイル (フォルダ) には、Mac OS ユーザー用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。
- NTFS 形式のハードディスクにネットワーク上から書き込みはできません。読み込み専用となります。  
また、NTFS 形式の増設ハードディスクなど、読み込み専用設定の共有は、Mac OS からはアクセスすることはできません。
- 共有フォルダを新規で作成できるのは、本製品内蔵ハードディスクのみです。  
増設する FAT/NTFS 形式のハードディスクには作成できません。
- ファイルコピー中や動作中に増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。  
本製品の電源を切った後、増設用ハードディスクの ACCESS ランプを確認の上、電源を切ってください。
- 増設ハードディスクに複数のパーティションがある場合、本製品で認識できるのは第 1 パーティションのみとなります。
- [ごみ箱] 機能を有効にした場合、[ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。
- デジカメコピー機能、クイックコピー機能では、マストレージもしくは PTP 転送に対応し、FAT または NTFS 形式のデジカメ、USB メモリーが使用可能です。
- マストレージモードと PTP モードを切り替えられるデジカメはマストレージモードでご利用ください。
- PTP 転送時は、1 ファイルの大きさが 1.5GB 以下のファイルのみ対応となります。
- 本製品のバックアップ機能を使用する場合は、1 ファイルの大きさが 4GB 以上のファイルはバックアップできません。

# 設定画面の開き方

本製品の設定画面の開き方を説明します。

方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS をクリックしてください。

[Windows パソコンから設定画面を開く \(32ページ\)](#)

[Macintosh パソコンから設定画面を開く \(34ページ\)](#)



[ヘルプ] ボタン

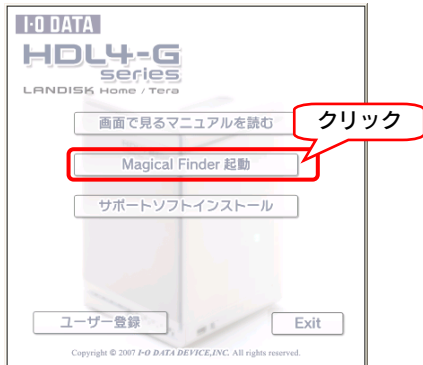
画面右上の本ボタンをクリックすることで、各設定画面の各項目のヘルプを表示させることができます。  
再度、クリックすればこのヘルプ機能を終了することができます。

項目	設定内容	参照ページ
<b>情報表示</b>	本製品の情報を表示します。	
システム情報	本製品のシステムに関する各種情報を表示します。	172
ネットワーク情報	ネットワークに関する情報を表示します。	173
ボリューム情報	内蔵および増設ハードディスクに関する情報を表示します。	174
ログ情報	ログ情報を表示します。	177
<b>ネットワーク</b>	ネットワークに関する設定です。	
基本設定	本製品のネットワーク上での名前、ワークグループに関する設定です。	178
TCP/IP 設定	本製品の IP アドレス、ジャンボフレームの設定です。	179
サービス設定	ファイル共有、DLNA サーバー、FTP サービスの設定です。	180
<b>共有管理</b>	共有に関する設定です。	
共有フォルダー一覧	共有フォルダの作成、変更の設定です。	181
共有フォルダ追加	新規フォルダを追加します。	182
ユーザー一覧	本製品に登録するユーザーの設定です。	184
ユーザー追加	新規ユーザーを追加します。	184
<b>ボリューム</b>	ディスクに関する設定です。	
ボリューム操作	各ボリュームのフォーマット、チェックディスクなどを操作する設定です。	185
ボリューム設定	内蔵ボリュームの RAID モード、USB ポート 1 のデジカメコピーモード/クイックコピーモードの設定です。	184
省電力設定	ディスク省電力の設定です。	186
アクティブリペア	アクティブリペアによるディスクチェックの設定です。	187
USB1 取り外し	USB 1 に取り付けした USB 機器を取り外します。	187
USB2 取り外し	USB 2 に取り付けした USB 機器を取り外します。	187
<b>メール</b>	メール通知に関する設定です。	
メール基本設定	本製品のログ情報などをメール送信するための基本的なメール設定です。	188
メール通知設定	システムログなどの各メール通知の設定です。	189
<b>システム</b>	各種システム関連の設定です。	
システム基本設定	本製品の時刻、ランプの明るさの設定です。	190
UPS 設定	UPS 装置使用時の設定です。	191
スケジュール設定	本製品の起動スケジュールの設定です。	191
シャットダウン	本製品のシャットダウンの設定です。	192
システム初期化	システム初期化の設定です。	192
ファームウェア更新	ファームウェア更新の設定です。	192
管理者パスワード変更	本製品の管理者用のパスワード設定です。	193
<b>リモートリンク</b>	リモートリンク関連の設定です。	
iobb.net 設定	リモートリンクを使用するために必要な iobb.net の設定です。	193
リモートアクセス	リモートアクセスの設定です。	194
ホームメディアリンク	ホームメディアリンクの設定です。	194
マイウェブサーバー	マイウェブサーバーの設定です。	194

# Windows パソコンから 設定画面を開く

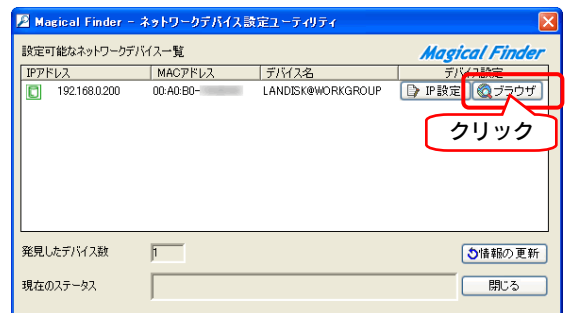
Windows パソコンからの本製品の設定画面の開き方を説明します。

- 1** 添付 DVD をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの [MagicalFinder 起動] をクリックし、 [MagicalFinder] を起動します。

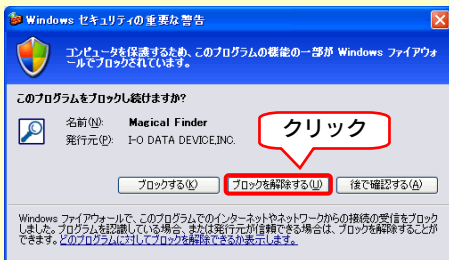


サポートソフトメニューが表示されていない場合  
① [マイコンピュータ] を開きます。  
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。  
② 「HDL4-Gxxx」※アイコンをダブルクリックします。  
※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。  
(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに [Autorun.exe] アイコンをダブルクリックしてください。)

- 2** 自動で本製品が検索されますので、 [ブラウザ] ボタンをクリックします。  
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1～2 分かかる場合があります。



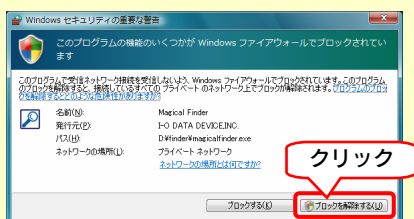
- Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、 [ブロックを解除する] をクリックしてください。



- Windows Vista®をお使いで、サポートソフト DVD を挿入すると、以下の画面が表示された場合、 [Autorun.exe の実行] をクリックしてください。



- Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、 [ブロックを解除する] をクリックしてください。その後 [ユーザーアカウント制御] の表示がされた場合は、 「続行する」 をクリックしてください。



本製品が検索されない！



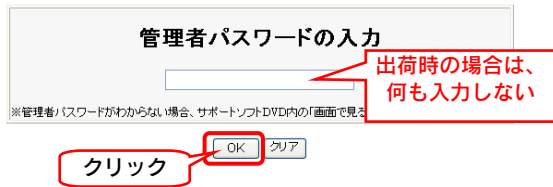
- 対処 1：30 秒ほど待ってから [情報の更新] ボタンをクリックしてください。
- 対処 2：以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の205ページ

- 3** しばらくお待ちになると、以下の画面が表示されます。  
[詳細設定] をクリックします。





- 4** 「管理者パスワードの入力」画面が表示されます。  
 管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK] ボタンをクリックします。



「管理者パスワードが違います」と表示された！

対処：以下をご覧ください。  
 【困ったときには】の223ページ

- 5** 本製品の設定画面が表示されます。

**情報表示**

- 情報表示
- ネットワーク
- 共有管理
- ボリューム
- メール
- システム
- リモートリンク
- ログオフ

**システム情報**

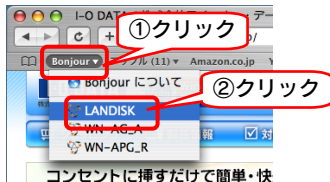
システムバージョン	
現在時刻	2008-12-17 09:45:42
システムサービスの再起動	無効
有効な共有サービス	Microsoftネットワークファイル共有 AppleShareネットワークファイル共有 iDisk Server iTunes Server
内蔵ハードウェアの動作モード	RAID0(多数取り込み)
FUNC 表示	ディスプレイモニター(アルビム)
ディスク省電力	なし
ランプの明るさ	暗い
起動スケジュール	無効
維持動作温度	40℃
FAN	通常回転
LIPS検出状態	正常検出
LIPSバッテリー充電容量	取得できません
LIPS警告機能	無効

# Macintosh パソコンから 設定画面を開く

Macintosh パソコンからの本製品の設定画面の開き方を説明します。

**1** Web ブラウザ「Safari」を起動します。

**2** ブックマークの [Bonjour] から [LANDISK] ※をクリックします。  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更している場合は、変更した名前をクリックします。

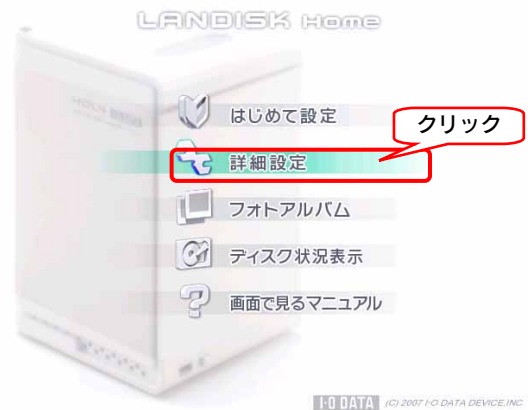


**3** ログインの確認画面が表示されますので、[名前] [パスワード] とともに空欄のまま、[ログイン] ボタンをクリックします。

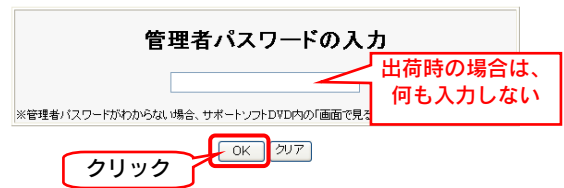


? Mac と本製品を直接接続した後、設定画面が表示されない！  
⇒以下の箇所を参照してください。  
【◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）】(202ページ)

**4** しばらくお待ちになると、以下の画面が表示されます。  
[詳細設定]をクリックします。



**5** [管理者パスワードの入力] 画面が表示されます。  
管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK] ボタンをクリックします。



? 「管理者パスワードが違います」と表示された！  
管理者パスワードが違います  
対処：以下をご覧ください。  
【困ったときには】の223ページ

**6** 本製品の設定画面が表示されます。



# 設定画面について

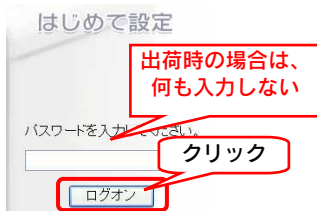
# はじめて設定

[はじめて設定]では、本製品をご利用いただく際に最低限必要な設定を簡単に行うことができます。

- 1** [はじめて設定] をクリックします。



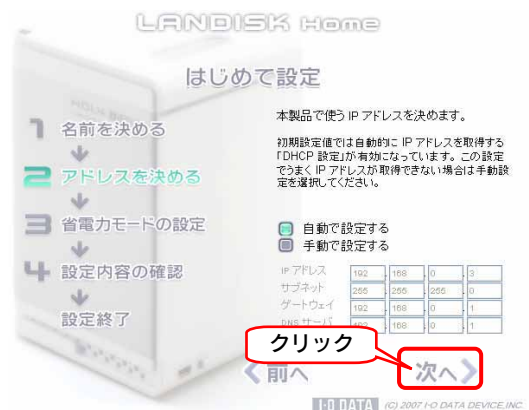
- 2** パスワード入力画面が表示されますが、空欄のまま [ログイン] をクリックします。



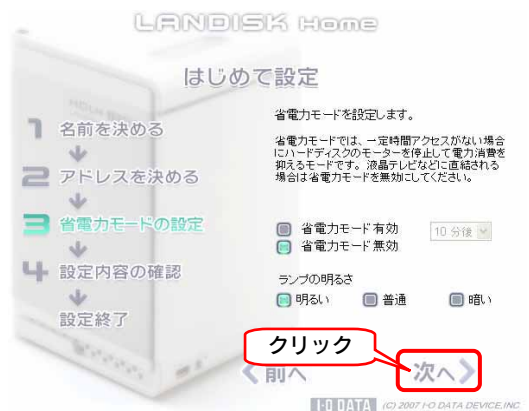
- 3** 本製品の名前を変えることができます。複数台 LAN DISK をお使いになる場合は、あらかじめ名前を変更する必要があります。[LANDISK1] などお好きな名前に変更するか、[名前を自動設定する] をクリックすると、名前を自動で設定します。設定したら、[次へ] をクリックします。



- 4** 本製品の IP アドレスを設定できます。初期設定値では自動的に IP アドレスを取得する設定になっていますが、IP アドレスが取得できない場合は、手動にて設定することもできます。



- 5** 省電力モードおよび本体正面上部のランプの明るさの設定ができます。
- 出荷時設定/省電力モード：無効  
ランプの明るさ：明るい
- ※省電力モードとは、一定時間アクセスがない場合にハードディスクのモーターを停止させ、電力消費を抑えるモードです。液晶テレビなどに直結させる場合は省電力モードを無効にしてください。
- ※iobb.net 設定が有効である場合に省電力モードは無効となり設定できません。



- 6** 設定した内容の確認をして、[設定する] ボタンをクリックします。  
設定中は電源を切らないでください。



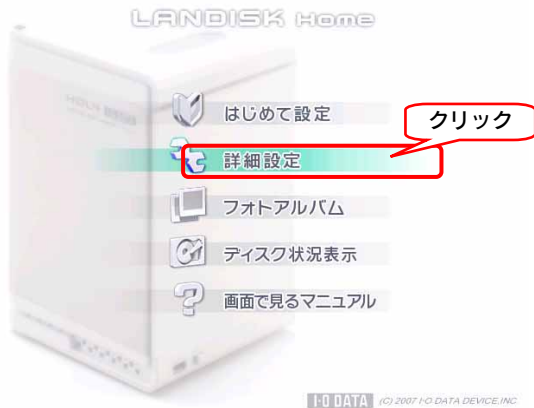
次の画面が表示されたら、設定完了です。



# 詳細設定

【詳細設定】では、本製品の各種設定ができます。詳細設定メニューはパソコンからのアクセスのみサポートしています。

**1** 【詳細設定】をクリックします。



**3** 本製品の設定画面が表示されます。

LANDISK Home I-O DATA

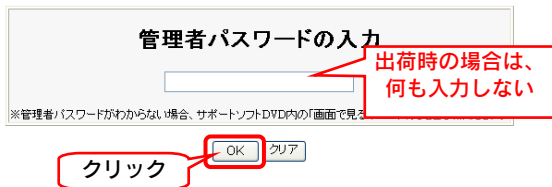
ヘルプ

情報表示

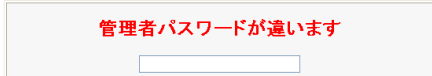
システム情報

システムバージョン	
現在時刻	2008-12-11 09:45:42
タイムサーバとの時刻同期	無効
毎分共有サービス	Microsoft ネットワークファイル共有 AppleShare ネットワークファイル共有 DLNA Server Torus Server
内蔵ハードウェアの動作モード	RAD56 (分散/リタイ)
FUNC ボタン	デジタルコピー (アルバム)
ディスク省電力	なし
ランプの明るさ	明る1
起動スケジュール	無効
筐体内温度	45 °C
FAN	通常回転
UPS接続状態	未接続
UPSの予備電源電圧	約100V (標準)
UPS警告音	無効

**2** 【管理者パスワードの入力】画面が表示されます。管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、【OK】ボタンをクリックします。



「管理者パスワードが違います」と表示された！



対処：以下をご覧ください。

【困ったときには】の223ページ

# フォトアルバム

【フォトアルバム】では、デジカメコピー機能で取り込んだ写真データをアルバムに登録したり、見ることができます。

- フォトアルバム機能で表示可能な画像ファイルの種類について

画像形式	JPEG BMP GIF PNG
ファイル拡張子	jpeg .jpg .bmp .gif .png

- 7 【フォトアルバム】をクリックします。



- 2 【管理者パスワードの入力】画面が表示されます。管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません。）、【ログオン】ボタンをクリックします。



- 3 【アルバム新規作成】ボタンをクリックします。  
※デジカメコピー機能を実行後、はじめて【フォトアルバム】をクリックしたときには、アルバムが登録されていません。



- 4 【アルバム名】を入力し、【設定する】ボタンをクリックします。



- 5 【アルバムの作成が完了しました。】と表示されたら、【一覧へ戻る】ボタンをクリックします。



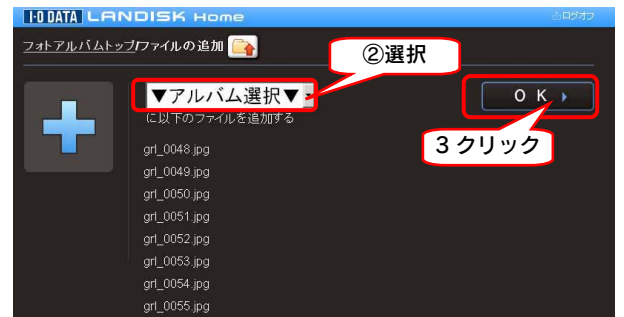
- 6** 作成したアルバムへ写真を登録します。  
 ①[全てのファイル]をクリックします。  
 ②アルバムに登録したい写真にチェックをつけます。

●各ボタンについて

[+アルバムに追加]	選択した写真をアルバムに追加
[全て選択/全て削除]	全ての写真にチェックをつける/つけない
[削除]	選択した写真を削除



- 7** [+アルバムに追加]ボタンをクリックし、表示された画面で作成したアルバムを選択して、[OK]ボタンをクリックします。



**注意** 1つのアルバムにつき、写真の登録枚数は、1000枚以下となるようにご利用ください。

これでアルバムへの登録は完了です。



## アルバムをメモリーカードに書き出す

「フォトアルバム」機能で整理・作成したアルバムをリーダーライターにセットしたメモリーカードに書き出すことができます。自宅の大画面テレビでじっくり見ながら選んだ写真をメモリーカードに書き出して、プリント店に持っていくと、スピーディーに希望の写真をプリント・現像してもらえます。

●使用可能なリーダーライター：USB2-SD、USB2-MS、USB2-miniRW

**1** アルバムを作成し書き出したい写真をアルバムに登録します。  
【フォトアルバム】 39ページ)

**2** 書き出し先となるメモリーカードをリーダーライターにセットし、本製品前面のUSBポート1に接続します。

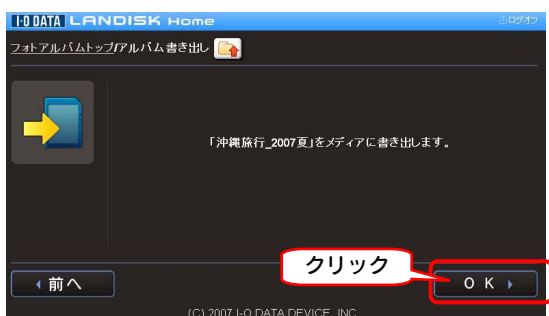
**3** [フォトアルバムトップ]ページの[アルバム書き出し]ボタンをクリックします。



**4** アルバム選択画面で作成したアルバムを選び[次へ]ボタンをクリックします。



**5** 確認画面が表示されるので、選んだアルバムに間違いがないことを確認し[OK]ボタンをクリックします。



**6** 書き出しが完了すると以下の画面が表示されますので、USBポート1からリーダーライターを取り外します。



これでアルバム書き出しは完了です。

## 書き出したデータを消去する

[アルバム書き出し]で書き出されたメモリーカード内のデータは、次回[アルバム書き出し]実行時には自動的に前回書き出したデータを消去して、新たに書き出しを行います。書き出したデータを消去したい場合は、以下の操作で消去することもできます。

**1** 前回書き出しを行ったメモリーカードをリーダーライターにセットし、本製品前面の USB ポート 1 に接続します。

**2** [フォトアルバムトップ]ページの[書き出しデータ消去]ボタンをクリックします。



**3** 以下の画面が表示されますので[OK]ボタンをクリックします。



**4** 消去が完了すると以下の画面が表示されますので、USB ポート 1 からリーダーライターを取り外します。



これでアルバムへ書き出したデータの消去は完了です。

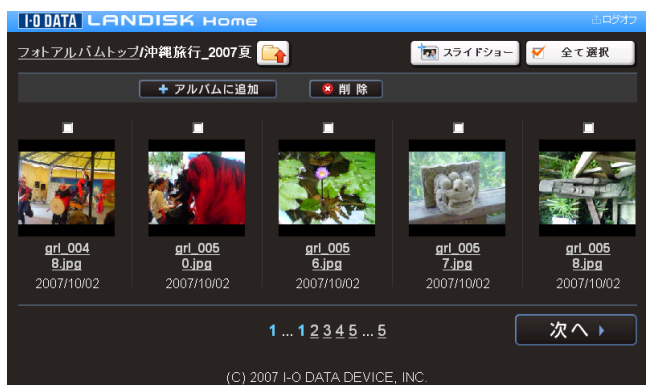
# フォトアルバム機能の リファレンス


## トップページ



項目	設定する内容
アルバム書き出し	選択したアルバムに登録してある写真をメモリーカードに書き出します。
書き出しデータ消去	[アルバム書き出し]を行ったメモリーカード内の書き出しデータを削除します。
アルバム新規作成	アルバムを新規に作成します。フォトアルバム機能を利用するには、まずアルバムを新規に作成することから始まります。 【フォトアルバム】(39ページ)を参照してください。
スライドショー	アルバム内の写真をスライドショー形式で閲覧します。
編集	アルバムのタイトルを編集します。
削除	作成したアルバムを削除します。

## 一覧ページ



項目	設定する内容
	ひとつ上の階層に戻ります。
スライドショー	チェックボックスにチェックを入れ、選択した画像をスライドショーで閲覧します。
全て選択	全ての写真 (チェックボックス) にチェックをつけます。
全て解除	全ての写真 (チェックボックス) にチェックを外します。
アルバムに追加	チェックボックスにチェックを入れ、選択した写真をアルバムに登録します。 写真の登録推奨枚数は、1つのアルバムにつき1000枚以下です。
削除	チェックボックスにチェックを入れ、選択した写真をアルバムから削除します。

## 詳細ページ



項目	設定する内容
表示方法の切り替え	Exif 情報の表示 / 非表示を切り替えます。

## スライドショー

[スライドショー]のボタンを押すと、スライドショーの設定画面になります。



項目	設定する内容
切り替え速度	画面の切り替わる速度を設定します。(5段階)
ランダム再生	スライドショーで表示する順番をランダムにしたい場合、on にします。
リピート再生	スライドショーをリピートで再生したい場合、on にします。
開始	スライドショーを開始します。

# ディスク状況表示

[ディスク状況表示] では、本製品の内蔵ボリュームの状態が表示します。

**1** [ディスク状況表示] をクリックします。



**3** [ディスク状況表示] 画面が表示されます。



**2** [管理者パスワードの入力] 画面が表示されます。  
管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK] ボタンをクリックします。



# RAID モードの変更

# 本製品で設定できる RAID モード

本製品内蔵ハードディスクは、出荷時 RAID5（分散パリティ）で構成されています。RAID モードは、設定画面で別の RAID モードに変更することもできます。本製品では、以下の2つの RAID モードに設定することができます。

※4つのハードディスクを別々のハードディスクとして使用することはできません。



●本製品で RAID 設定を変更すると、それまで RAID ボリュームに保存されていたデータはすべて失われます。  
あらかじめ、データをバックアップしてから RAID 構成を変更するか、初期状態からすぐに構成変更してください。

スパニングモード	内蔵ディスク1～4を結合させ、1つのハードディスクとして認識します。大容量で使いたい場合に最適です。
RAID5 モード (分散パリティ)	内蔵ディスク1～4で RAID5（分散パリティ）を構成し、1つのボリュームとして使用できます。 ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。

## <各 RAID モードの比較>

		スパニングモード	RAID5 モード (分散パリティ)
ディスクの使用効率		高 (すべてデータ領域として使用)	中 (3/4 がデータ領域、 1/4 は保護領域)
システムパフォーマンス		中	低 (パリティ生成のオーバーヘッド)
データの保護機能		なし (1台故障でボリューム崩壊)	中 (1台故障に対応、2台故障でボリューム崩壊)
利用可能な ディスク容 量	HDL4-G1.0	約 1TB	約 750GB
	HDL4-G2.0	約 2TB	約 1.5TB
	HDL4-G3.0	約 3TB	約 2.25TB
	HDL4-G4.0	約 4TB	約 3.0TB

# RAID モードを 変更する際の注意

## ●変更する前に

- ・内蔵ハードディスク(4台)はすべてフォーマットされます。また、マイウェブサーバーが有効な場合は、LAN DISK は再起動されます。
- ・RAID の設定を変更すると、本製品内に保存されているデータが消去されます。RAID モード変更前に必ず必要なデータはバックアップしてください。
- ・RAID の設定を変更すると、iobb.net 設定および各種リモートリンク設定は無効になります。変更後に再度設定してください。

## ●変更時

- ・RAID モードを変更すると、RAID 構築に移ります。
- ・RAID モードの切り替え処理自体は数分で終わりますが、RAID5 モードに切り替えた場合は、自動的にアクティブリペア機能が実行されます。
- ・アクティブリペア機能は、1TB モデルで約 1 時間、2TB モデルで約 2 時間かかりますが、その間も通常通り本製品をご利用いただけます。

### <RAID モード変更後の構築までの所要時間>

変更する RAID モード	スパニングモード	RAID5 モード (分散パリティ)
RAID 構築までの時間*	約2分	約2分

※ 表示されている時間は、ネットワークに HDL4-G1.0 を接続し、ファイル共有などの操作をしない状態で測定した値です。構築中に設定変更やファイル操作を行うと、上記以上の時間を要します。



# 現在の RAID モードを確認する

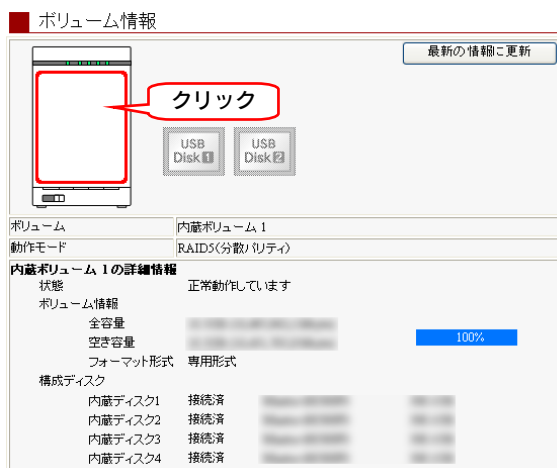
現在の RAID モードは、[システム情報] 画面、[ボリューム情報] 画面、[ボリューム設定] 画面、[ボリューム操作] 画面で確認することができます。

ここでは、[ボリューム情報] 画面での確認手順について説明します。

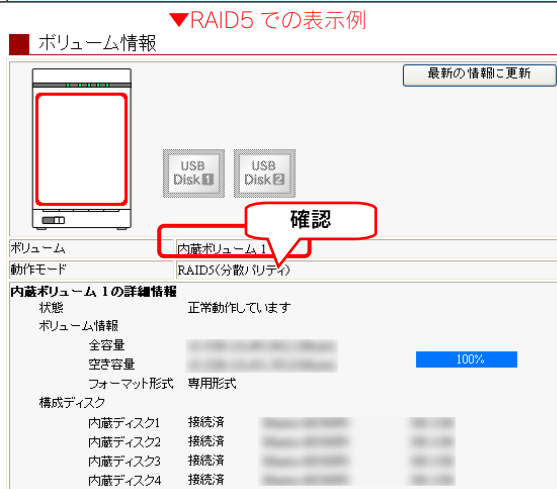
**1** 本製品の設定画面の[情報表示]の[ボリューム情報]をクリックします。



**2** 内蔵ハードディスクをクリックします。



**3** [動作モード] 欄に現在の RAID モードが表示されます。



●各 RAID モードでの動作モードの表示

RAID モード	表示される [動作モード]
RAID5 モード	RAID5 (分散パリティ)
スパニングモード	スパニング

**注意** ●内蔵ディスクに問題がある場合は、エラーが発生しているディスクが赤点滅して表示されます。

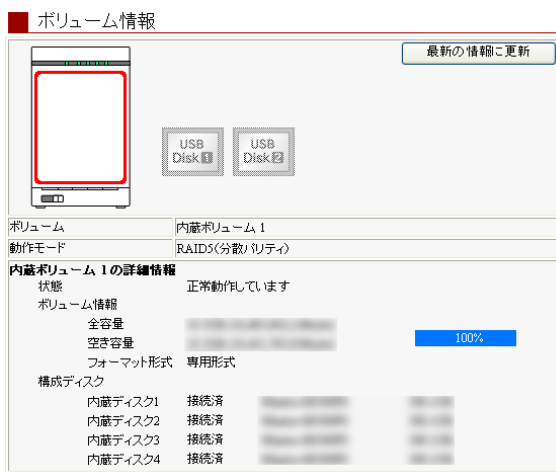
※この例では、1 番目のドライブに異常が発生しています。

# RAID モードの各表示

RAID の動作モードによって、設定画面で表示される内容は異なります。

## ●RAID5 モードの場合(分散パリティ)

[ボリューム情報] の表示



[共有フォルダ] の表示

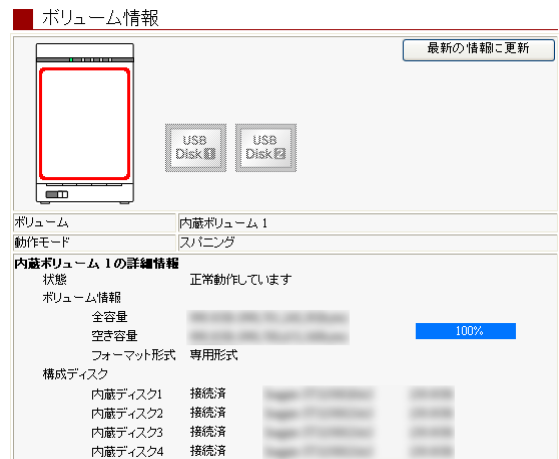


ネットワーク上での表示 (Windows XP での表示例)



## ●スパニングモードの場合

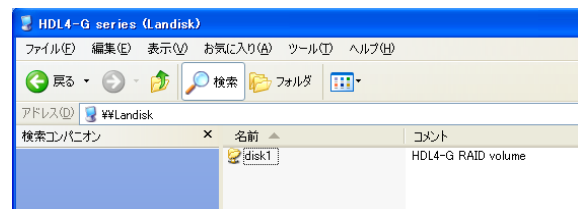
[ボリューム情報] の表示



[共有フォルダ] の表示



ネットワーク上での表示 (Windows XP での表示例)



※RAIDモードを変更すると、DLNA,iTunesフォルダは削除されます。

# RAID モードを 変更する

現在の RAID モードを他の RAID モードに変更することができます。

※RAID モードを切り替えると、内蔵ボリュームすべてのデータが消去されます。ご注意ください。

**1** 本製品の設定画面の[ボリューム] → [ボリューム設定] を順にクリックします。

- 情報表示
- ネットワーク
- 共有管理
- ボリューム
  - ボリューム操作
  - ボリューム設定
  - 省電力設定
  - アクティブリペア
  - USB1 取外し
  - USB2 取外し

クリック

**2** [内蔵ボリューム]での [動作モードの選択] で変更する RAID モードにチェック後、[変更] ボタンをクリックします。



変更 ②クリック

**3** [OK] ボタンをクリックします。

## ボリューム設定

内蔵ボリュームの設定を変更しようとしています。  
内蔵ボリュームの動作モードを「スパニング」に変更します。  
内蔵ボリュームの動作モードを変更すると、現在の内蔵ボリュームのすべてのデータが消去されます。  
必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。  
変更してもよろしいですか

クリック

OK 戻る

**4** [OK] ボタンをクリックします。



クリック

OK キャンセル

**5** 数分後、[結果] 画面が表示されます。

## 結果

内蔵ボリュームの動作モードを「スパニング」に変更しました

以上で RAID モードの変更は完了です。

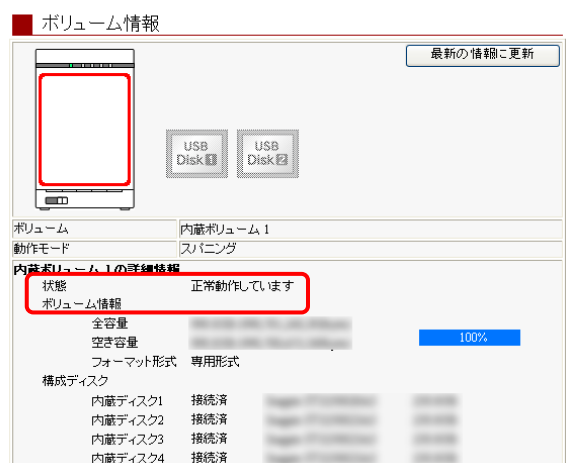
RAID5 モードに変更した場合は、構築完了後に、アクティブリペア機能が自動的に実行されるため、完了するまでパフォーマンスが多少低下する場合がありますが、そのままお使いいただけます。

注意

●マイウェブサーバーが有効な場合、RAID モードの変更後に LANDISK は再起動されます。

現在の構築状態は、[ボリューム情報] 画面で確認することができます。[状態] が「正常動作しています」となれば構築完了です。

## 情報表示



再度状態を確認するには、[最新の情報に更新] ボタンをクリックしてください。

# 操作編



# 共有フォルダを使う

# 共有フォルダの アクセス権

本製品の設定画面上で作成できる「共有」（アクセス権限）には以下の2つ（全共有、ユーザー共有）の種類があります。

## 全共有 全てのユーザーに許可

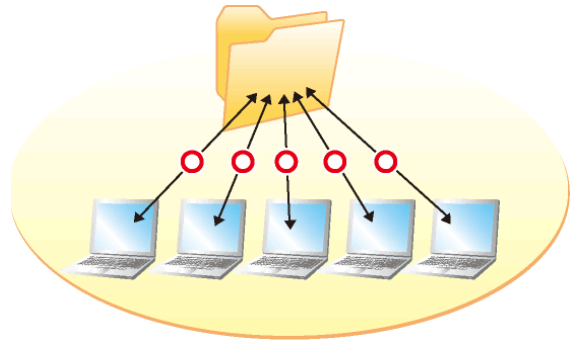
ネットワークに接続されている全てのパソコンから自由にファイルの読み書きができる共有です。

ネットワークにログイン時のユーザー名やパスワードに関係なく、そのままアクセスできますので、ユーザー管理やグループ管理を行う必要がありません。

本製品に初期設定で登録されている「disk1」、「dlna」、「iTunes」の各フォルダも全共有のフォルダになります。

有効にできる共有サービス：

- Microsoft ネットワークファイル共有
- AppleShare ネットワークファイル共有
- DLNA Server で公開
- iTunes Server で公開
- リモートアクセス共有



## ユーザー共有 指定ユーザーのみ許可

特定の単一ユーザーのみが読み書きできる共有です。

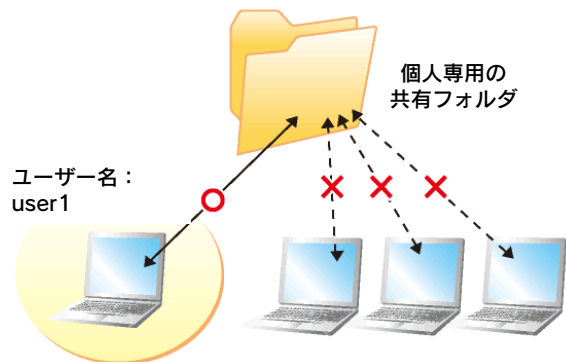
この共有にアクセスするためには、ネットワークにログイン時に特定ユーザーのユーザー名、パスワードの入力が必要です。

特定のユーザー以外でも共有フォルダの存在を知ることができますが、中に入ってファイルを見たり、ファイルやフォルダを作成することはできません。

本製品でこの共有を作成するためには、まず本製品にユーザー登録が必要です。

有効にできる共有サービス：

- Microsoft ネットワークファイル共有
- AppleShare ネットワークファイル共有
- DLNA Server で公開
- iTunes Server で公開
- リモートアクセス共有

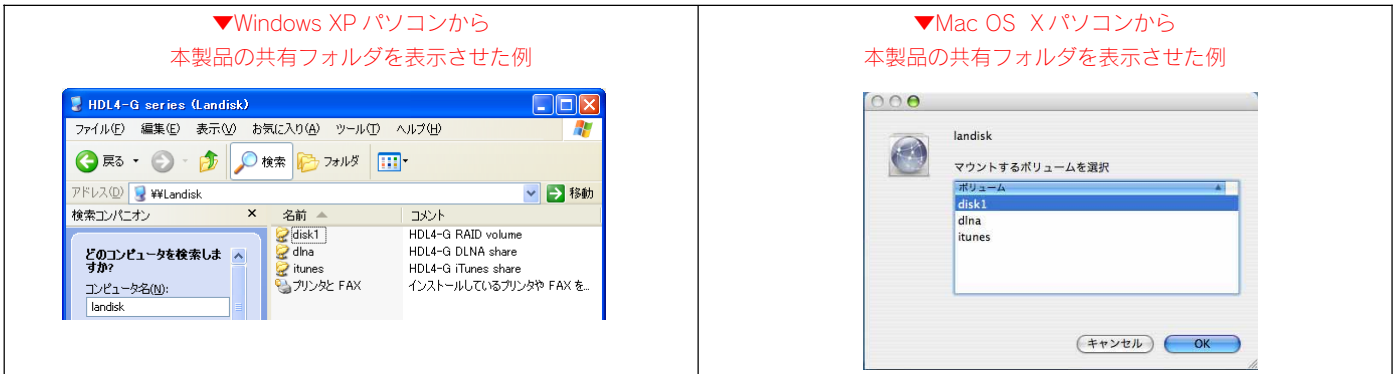


● マイウェブサーバーを使用する場合は、公開する共有フォルダを全共有にする必要があります。

# ネットワーク上での 本製品の表示

本製品や本製品に接続した増設ハードディスクへのファイルの読み書き（アクセス）は、ネットワーク上から行います。ネットワーク上から本製品に作成した、あるいは作成されている共有フォルダを通して、ネットワーク上の複数台のパソコンでファイルを共有することができます。

以下は、ネットワーク上から本製品にアクセスした場合に表示されている共有フォルダの例です。



共有フォルダ名	説明
disk1	本製品出荷時にすでに作成されている内蔵ハードディスクの共有フォルダです。 アクセス権限は [全てのユーザーに許可] として作成されているため、すべてのユーザーからアクセスできます。
dlna	本製品出荷時にすでに作成されている DLNA クライアント公開用の共有フォルダです。 DLNA で公開するコンテンツのみ入れてください。 アクセス権限は [全てのユーザーに許可] として作成されているため、すべてのユーザーからアクセスできます。
itunes	本製品出荷時にすでに作成されている iTunes サービス公開用の共有フォルダです。 iTunes で公開するコンテンツのみ入れてください。 アクセス権限は [全てのユーザーに許可] として作成されているため、すべてのユーザーからアクセスできます。

# [ごみ箱]フォルダ について

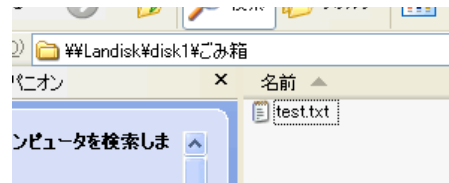
ごみ箱機能が有効となっている共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、いったん[ごみ箱]フォルダに保管されます。

ごみ箱機能は、初期設定で無効となっています。

(設定は、[共有管理] → [共有フォルダ一覧] 画面で行います。新しく[ごみ箱機能]を有効・無効にする共有フォルダを作成したり、すでに作成済みの共有フォルダに[ごみ箱機能]を有効・無効に設定することもできます。)

新規で[ごみ箱機能]を有効にする共有フォルダを作成する場合	→	<a href="#">【共有フォルダを作成する】 (57ページ)</a>
すでに作成済みの共有フォルダに[ごみ箱機能]を有効・無効にする場合	→	<a href="#">【共有フォルダの設定を変更する】 (63ページ)</a>
[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す手順	→	<a href="#">【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】 (62ページ)</a>

- ▼ [disk1]フォルダの[ごみ箱機能]が有効にされている例  
( [disk1]フォルダ下のファイルを消去すると[ごみ箱]フォルダが自動で作成されます)



- Windows (MS ネットワーク ファイル共有) でのみ利用できます。
- [ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除することをおすすめします。
- [ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除すると、該当ファイルはハードディスクから完全に消去されますのでご注意ください。
- [ごみ箱]フォルダは、ファイルを消去してはじめて表示されます。
- ご利用のアプリケーションによっては、その動作中にファイル作成→削除を繰り返すものがあります。知らない内に[ごみ箱]フォルダにファイルが大量に存在している場合がありますので、定期的に[ごみ箱]フォルダ内を確認することをおすすめします。



# 共有フォルダを作成する

特定のユーザーのみがアクセスできる共有フォルダを作成します。あらかじめユーザーを登録する必要があります。(登録できるユーザー数は8個までです。)

## ユーザーを登録する

### STEP1 アクセスユーザーを確認する

登録するユーザーのネットワークにログオン時の[ユーザー名]と[パスワード]を確認し、メモします。(確認した[ユーザー名]と[パスワード]を、後で設定画面に登録します。)

**注意**

[ユーザー名] [パスワード] を後で設定画面で登録しますが、設定できる文字には、以下の制限があります。以下の個所を参照してください。  
【文字制限一覧】 (166ページ)

### STEP2 本製品にユーザーを登録する

メモした[ユーザー名]と[パスワード]を、本製品の設定画面でユーザーとして登録します。

**1** 本製品の設定画面の[共有管理]→[ユーザー追加]をクリックします。

- 情報表示
- ネットワーク
- 共有管理
  - 共有フォルダ一覧
  - 共有フォルダ追加
  - ユーザー一覧
  - ユーザー追加

クリック

**2** STEP1の手順でメモした[ユーザー名]を[新しいユーザー名]欄に入力します。メモした[パスワード]を、[パスワード]、[確認パスワード]欄に入力後、[OK]ボタンをクリックします。

■ ユーザ追加

新しいユーザー名	user1	①入力
パスワード	●●●●	
確認パスワード	●●●●	

OK クリア

■ ユーザー一覧

既存のユーザー	
---------	--

②クリック

**3** [ユーザー追加結果]の画面が表示されます。ユーザーが追加されていることをご確認ください。

これで、ユーザー：user1が本製品に登録されました。

■ ユーザ追加結果

追加したユーザー名	user1	確認
-----------	-------	----

■ ユーザ追加

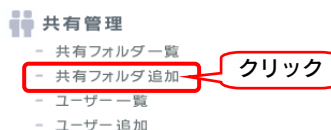
新しいユーザー名	
パスワード	

以上でユーザーの登録は終了です。

# 共有フォルダを作成する

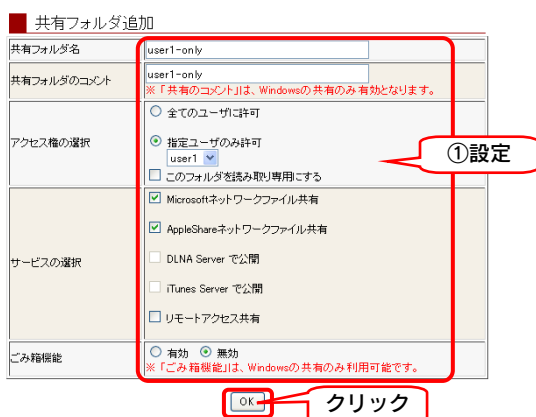
共有フォルダを作成します。  
以下の例は、「指定ユーザー」用の共有フォルダを作成する例です。

- 1** 本製品の設定画面の[共有管理]→[共有フォルダ追加]をクリックします。



- 2** 作成する共有フォルダを設定します。  
(設定項目の詳細な説明については、次ページを参照)

※以下は、「user1-only」という共有フォルダを作成する場合の例です。



- 3** [結果]の画面が表示されます。  
設定した内容をご確認ください。  
これで、ユーザー：user1 専用の共有フォルダが作成されました。

**結果**

共有フォルダの設定情報

共有フォルダ名	user1-only
コメント	user1-only
使用ボリューム	内蔵ボリューム1
対象ユーザー	(読み書き可能)
対象サービス	Win Microsoftネットワークファイル共有 Mac AppleShareネットワークファイル共有
ごみ箱機能	無効
状態	利用可能

◆ [新規共有フォルダの追加] 画面での設定内容

項目	設定する内容	
共有フォルダ名	共有フォルダの名前を入力します。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。	
共有フォルダのコメント	Windows 用です。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。	
アクセス権の選択	この共有フォルダにアクセスできるユーザーを選択します。 ここでは、[指定ユーザーのみ許可] を選択し、ユーザー（画面例では本製品に登録した「user1」）を選択します。	
サービスの選択	共有フォルダのサービスを選択します。 目的に応じて [Microsoft ネットワーク ファイル共有] と [AppleShare ネットワーク ファイル共有] のどちらかあるいは両方を選択します。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	DLNA Server で公開	このアクセス権限では指定できません。
	iTunes Server で公開	このアクセス権限では指定できません。
	リモートアクセス共有	リモートアクセス機能でこのフォルダを利用する場合にチェックをつけます。
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。 [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 [ごみ箱] フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（62ページ）	

# 共有フォルダに アクセスする

作成した共有フォルダにネットワーク上からアクセスします。

**7** ネットワークにログオンします。  
 「指定ユーザー」用の共有フォルダにアクセスする場合は、本製品にユーザー登録したユーザー（[ユーザー名] [パスワード]）でログオンする必要があります。  
 「全てのユーザー」用の共有フォルダにアクセスする場合は、ご利用のユーザーのまま、ネットワークにログオンします。

▼ 「指定ユーザー」用の共有フォルダにアクセスする場合（Windows Vista®の場合）

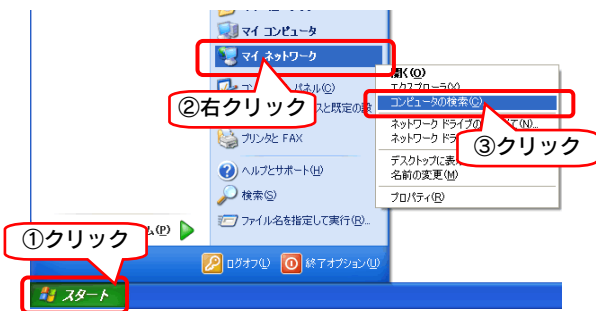


▼ 「指定ユーザー」用の共有フォルダにアクセスする場合（Windows XPの場合）

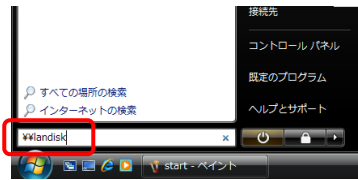
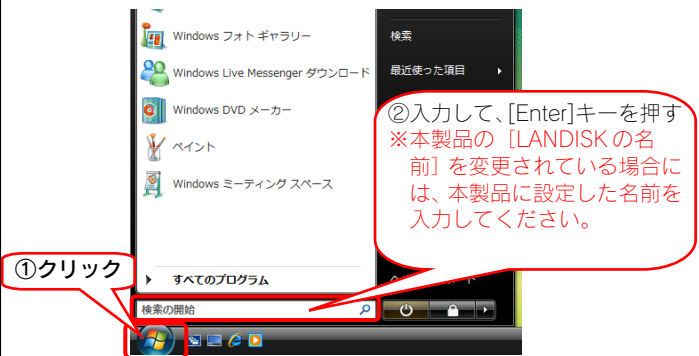


・別のユーザーでログオンしている場合は、パソコンを再起動するか、ログオフして、本製品に登録したユーザー（ユーザー名、パスワード）でログオンし直してください。

**2** [スタート] → [マイネットワーク] → [コンピュータの検索] をクリックします。  
 Windows Vista®の場合は、右上をご覧ください。

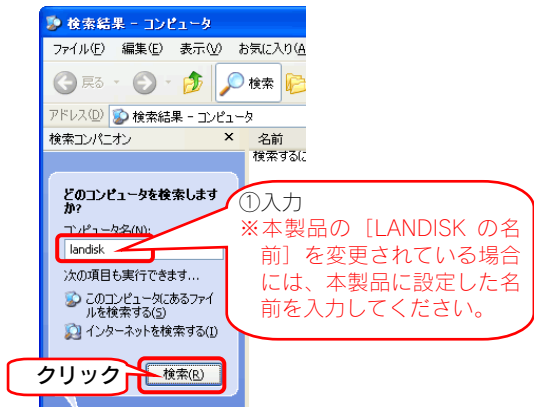


●Windows Vista®の場合  
 [スタート]をクリックし、[検索の開始]をクリック後、「¥landisk」と入力し[Enter]キーを押します。  
 ※本製品の「LANDISKの名前」を変更した場合は、¥の後に変更した名前を入力してください。  
 この後、5へお進みください。

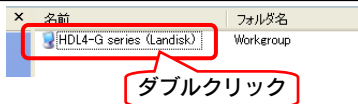


？ LANDISKが検索されない！  
 ⇒以下の個所を参照してください。  
 【困ったときには】の215ページ

**3** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、  
[検索]ボタンをクリックします。

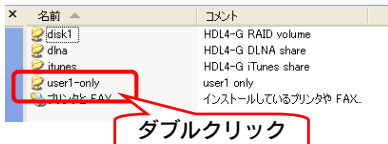


**4** 「HDL4-G series(Landisk)」が検索されますので、  
ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。



? LANDISK が検索されない!  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の215ページ

**5** 作成した共有フォルダ（以下の例では [user1-only]）が表  
示されます。  
共有フォルダ（ [user1-only] ）をダブルクリックします。



? 以下の画面が表示された！

または

⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の213ページ

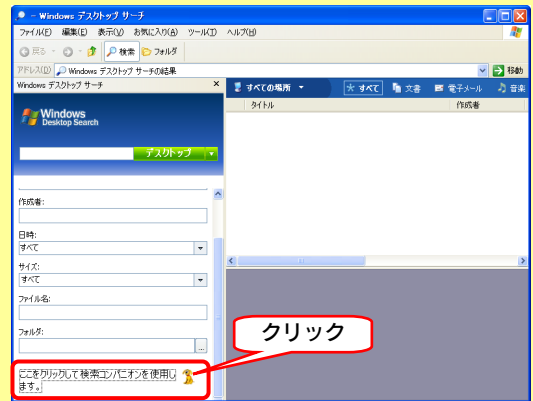
**6** 表示された共有フォルダ内にファイルを書き込むことが  
できます。

正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、  
共有フォルダとして使用できます。

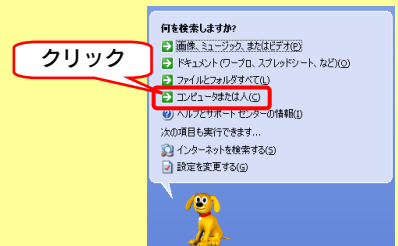
Windows サーチ 4.0 がインストールされている場合

①[マイネットワーク]を右クリックして、「コンピュータの  
検索」をクリックします。

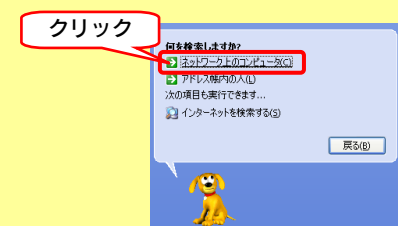
②画面左下の「ここをクリックして検索コンパニオンを使用  
します。」をクリックします。



③左側メニューから「コンピュータまたは人」をクリックし  
ます。



④左側メニューから「ネットワーク上のコンピュータ」をク  
リックします。



⑤コンピュータ名に該当の LAN DISK の名前を入力し、  
[検索]ボタンをクリックします。

# [ごみ箱]フォルダから ファイルを戻す

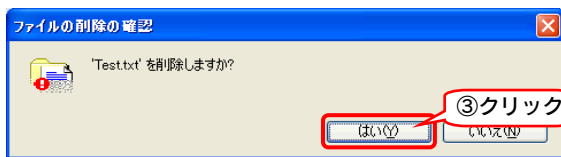
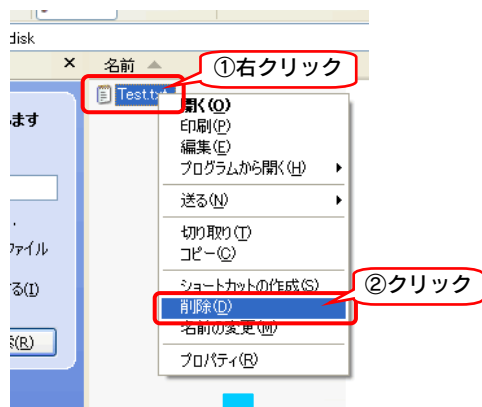
ここでは、「ごみ箱機能」を設定した [disk] フォルダからファイル (Test.txt) を削除後、[ごみ箱] フォルダから [disk] フォルダにファイル (Test.txt) を戻す手順について説明します。

※画面は Windows XP を例にしています。

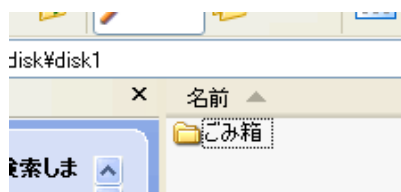
- 1** ネットワーク上から本製品の [disk1] 共有フォルダにアクセスします。



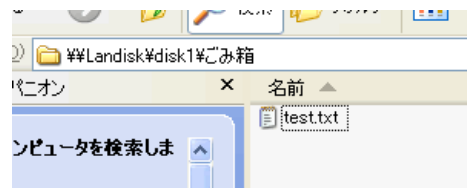
- 2** ファイルを削除します。



- 3** [disk1] フォルダからファイルが削除されると、[ごみ箱] フォルダが作成されます。  
(表示されていない場合は [F5] キーを押して更新してください。)  
[ごみ箱] フォルダをダブルクリックして、ファイルを移動 (またはコピー) します。



- 4** [ごみ箱] フォルダ内の削除したファイル (Test.txt) を [disk1] フォルダに移動 (またはコピー) します。



- 5** [disk1] フォルダにファイルを戻すことができます。



以上で「ごみ箱機能」を設定した場合の [ごみ箱] フォルダの使い方は終了です。

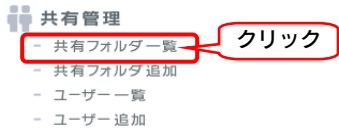
# 共有フォルダの設定を変更する

作成した共有フォルダの設定（[共有フォルダ名]、[コメント]、[アクセス権]、[サービス]）を変更することができます。

以下は、"share1"という共有フォルダのアクセス権を"全てのユーザーに許可"から"指定ユーザーのみ許可"に変更する例です。

**注意** 同時に[共有フォルダ名]、[コメント]、[アクセス権]、[サービス]を変更することはできません。変更は、変更したい項目1つ1つ順に変更してください。

**1** 本製品の設定画面の [共有管理] → [共有フォルダ一覧] をクリックします。



**2** 設定を変更したい共有フォルダのフォルダ名横の [変更] をクリックします。

■ 新規共有フォルダの追加  
新規共有フォルダの追加 共有フォルダを追加します

■ 共有フォルダ一覧

内蔵ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
disk1	詳細 変更 削除	HDL4-G RAID volume	Win Mac
dlha	詳細 変更 削除	HDL4-G DLNA share	Win Mac DLNA
itunes	詳細 変更 削除		Win Mac iTunes
share1	詳細 変更 削除		Win Mac
user1-only	詳細 変更 削除	user1 only	Win Mac

USB ボリューム2の共有

操作	コメント	サービス
詳細 変更 削除	HDL4-G USB2 disk	Win Mac

**3** 変更する項目を選択し（どれか1つのみ選択できます）、その項目の設定を変更後、[変更] ボタンをクリックします。（設定項目の詳細な説明については、次ページを参照）

■ 共有フォルダの設定変更

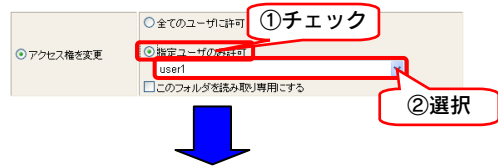
変更する項目の選択	変更内容の設定
<input type="radio"/> 共有フォルダ名を変更	share1
<input type="radio"/> コメントを変更	share1
<input type="radio"/> アクセス権を変更	<input checked="" type="radio"/> 全てのユーザーに許可 <input type="radio"/> 指定ユーザーのみ許可 (user1) <input type="checkbox"/> このフォルダを読み取り専用にする
<input type="radio"/> サービスを変更	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoftネットワークファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShareネットワークファイル共有 <input type="checkbox"/> DLNA Serverで公開 <input type="checkbox"/> iTunes Serverで公開 <input type="checkbox"/> リモートアクセス設定
<input type="radio"/> ごみ箱機能を変更	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

変更

**4** ここからは、アクセス権の変更を例として説明します。

現在、[全てのユーザーに許可]となっている設定を"user1"という【指定ユーザーのみ許可】する設定に変更します。

- ① [指定ユーザーのみ許可] をチェックします。
- ② [user1] を選択します。
- ③ [変更] ボタンをクリックします。



**注意**

共有の変更を開始しました。  
STATUSランプの点滅が終了したら共有の変更は完了です。完了したら自動的に結果画面を表示します。

**5** [結果] の画面が表示されます。[対象ユーザー] が、user1 のみに変更されています。

■ 結果

■ 共有フォルダの設定情報

共有フォルダ名	share1
コメント	share1
権限の種類	内部のみ (ローカル)
対象ユーザ	user1 (読み書き可能)
対象サービス	Microsoftネットワークファイル共有 AppleShareネットワークファイル共有
ごみ箱機能	有効
状態	利用可能

**6** 他の項目も変更する場合は、同様に 2 の手順から行って変更してください。

これで、共有フォルダの設定は変更されました。

◆ [共有フォルダの設定変更] 画面での設定内容

項目	設定する内容	
共有フォルダ名 を変更	共有フォルダの名前を変更できます。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の 名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。	
コメントを変更	Windows 用です。 共有フォルダのコメントを変更できます。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。	
アクセス権を変 更	共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を変更できます。	
	全てのユーザーに許可	本製品にアクセスできるすべてのユーザーがアクセスできる設定です。
	指定ユーザーのみ許可	本製品にユーザー登録したユーザーの内、特定のユーザーのみがアクセスできる設定で す。
	このフォルダを読み取り 専用にする	本製品にアクセスできるすべてのユーザーから読み取りのみできるようにする設定で す。（書き込みを禁止します。）
 <b>注意</b> NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず、読み取り専用となります。 書き込みできる設定にすることはできません。		
サービスを変 更	共有フォルダのサービスを変更できます。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワー ク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	DLNA Server で公開	DLNA 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	iTunes Server で公開	iTunes 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	リモートアクセス共有	リモートアクセス機能でこのフォルダを利用する場合にチェックを付けます。
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけでは なく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。 [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除する たびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ご み箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 [ごみ箱] フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（62ページ）	



# 共有フォルダを削除する

作成した共有フォルダを削除することができます。

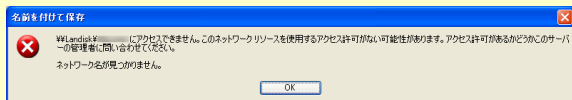
## 注意

●共有フォルダを削除すると、共有フォルダの中のデータも同時に削除されます。必要なデータはあらかじめバックアップしてください。

管理者からのアクセス方法については、【管理者からの共有フォルダへのアクセス方法】(次ページ)を参照してください。

●削除しようとしている共有フォルダ内のファイルを編集などに使用している場合、削除後、以下のような保存先が見つからないなどのエラーとなります。

削除前に、削除する共有フォルダにアクセスしているユーザーがいまいかがご確認ください。



●マイウェブサーバーの公開フォルダとして指定されているフォルダは削除できません。マイウェブサーバーの公開フォルダを変更してから削除してください。

**3** 削除する共有フォルダを確認後、[OK] ボタンをクリックします。

## 共有フォルダ削除の確認

共有フォルダ「share1」を削除しようとしています。  
共有フォルダの削除を行うと、フォルダ内のデータも同時に削除されますので、必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。  
この共有を削除してもよろしいですか？



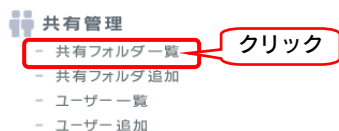
**4** [結果] の画面が表示されます。

## 結果

共有フォルダ「share1」を削除しました。

これで、共有フォルダが削除されました。

**1** 本製品の設定画面の [共有管理] → [共有フォルダー一覧] をクリックします。



**2** [共有フォルダー一覧]から削除する共有フォルダ名横の [削除] をクリックします。

■ 新規共有フォルダの追加  
新規共有フォルダの追加 共有フォルダを追加します

■ 共有フォルダー一覧

内蔵ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
disk1	詳細 変更 削除	HDL4-G RAID volume	Win Mac
dlna	詳細 変更 削除	HDL4-G DLNA share	Win Mac DLNA
itunes	詳細 変更 削除	HDL4-G iTunes share	Win Mac iTunes
share1	詳細 変更 削除		Win Mac
user1-only	詳細 変更 削除	user1 only	Win Mac

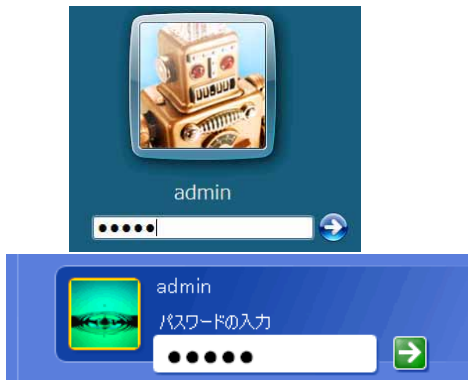
USB ボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
usb2	詳細 変更 削除	HDL4-G USB2 disk	Win Mac

# 管理者からの共有フォルダへのアクセス方法

本製品の管理者は、すべての共有フォルダ（アクセス制限を設定した共有フォルダにも）にアクセスすることができます。（Windows パソコンからアクセスする場合のみ）

ネットワークにログインする際に、ユーザー名（admin）、本製品の管理者パスワード（出荷時は未設定）のユーザーでログオンすれば、すべての共有フォルダにアクセスできます。

※管理者は、管理者以外の他のユーザー専用として作成した共有フォルダにもアクセスできます。



## 注意

- [管理者以外の場合も管理者用のユーザー名（admin）・パスワードが分かれば、すべての共有フォルダにアクセスできるようになります。必ず、設定画面を開く際のパスワードは変更してください。（ユーザー名 [admin] は変更することはできません。）【管理者パスワードを変更する】（136ページ）
- Macintosh パソコンから管理者権限で、すべての共有フォルダにアクセスすることはできません。

## STEP1 パスワードを設定する

設定画面を開く際のパスワードを設定します。（ユーザー名 [admin] は変更することはできません。）

以下の個所を参照してください。

【管理者パスワードを変更する】（136ページ）

※すでに設定済みの場合は設定の必要はありません。

## STEP2 ユーザーアカウントを作成する

(Windows Vista®/XP/2000 のみ)

Windows Vista®/XP/2000 の場合、[step1] でメモした [ユーザー名] と [パスワード] を、本製品の設定画面でユーザーとして登録します。

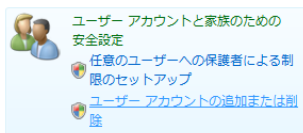
Windows XP/2000 の場合は、Windows XP/2000 に以下の [ユーザー名] [パスワード] のログオンユーザーを作成します。

ユーザー名： admin

パスワード： STEP1 の手順で設定したパスワード

### ●Windows Vista®の場合

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウントと家族のための安全設定] → [ユーザーアカウントの追加または削除] で上記ユーザーアカウントを作成します。



admin  
Administrator  
パスワード保護

### ●Windows XP の場合

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウント] で上記ユーザーアカウントを作成します。

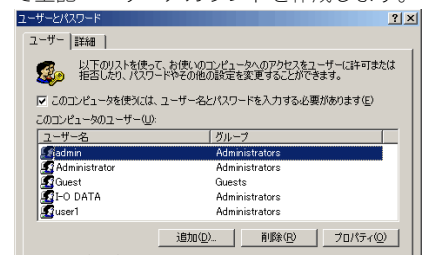
ユーザー  
アカウント



### ●Windows 2000 の場合

[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [ユーザーとパスワード] で上記ユーザーアカウントを作成します。

ユーザーと  
パスワード



## STEP3 共有フォルダにアクセスする

それでは実際に管理者から共有フォルダにアクセスしてみましょう。

※Macintosh パソコンからすべての共有フォルダにアクセスすることはできません。

**7** 以下の admin ユーザーでネットワークにログオンします。

ユーザー名:	admin
パスワード:	STEP1 の手順で設定したパスワード

### ●Windows Vista®での例



### ●Windows XP での例



**2** 共有フォルダにアクセスします。  
アクセス方法は、管理者がご利用の OS により異なりますので、下記のご使用の OS の箇所へお進みください。

[【Windows Vista®から本製品にアクセスする】\(22ページ\)](#)

[【Windows XP から本製品にアクセスする】\(23ページ\)](#)

[【Windows 2000 から本製品にアクセスする】\(25ページ\)](#)

以上で、管理者からの共有フォルダへのアクセスは終了です。

# ハードディスク をチェックする

# ハードディスクの チェック方法

ここでは、本製品のハードディスクの状態をチェックする方法について説明します。

チェックには、アクティブリペアでのチェック、チェックディスクでのチェックの2つの方法があります。

## ●アクティブリペアを行う場合

※本製品は、ファームウェアバージョン 1.11 以降で、アクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。

[アクティブリペア]では、内蔵ハードディスクの一部に不良セクタが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことにより、ディスク不良によるデータ損失を未然に防止する機能です。[アクティブリペア]でのチェックには、以下の特徴があります。

- ・内蔵ハードディスクに何らかのエラーが発生している場合、検出あるいは修復を行うことができます。
- ・アクティブリペア中、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。
- ・アクティブリペア実行中は、外部からの操作等を行っていない状態でも、アクセス LED がすべて点滅した状態になります。
- ・アクティブリペア結果（正常終了やディスクエラーの状況）をメール送信できます。
- ・アクティブリペアは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペア中に本製品の他の操作を行うことができます。ただし、アクティブリペア中に [電源] ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。
- ・アクティブリペア実行中にスケジュールシャットダウン時刻になってもアクティブリペアが完了するまでスケジュールシャットダウンが開始されません。
- ・アクティブリペア実行中に、スケジュールバックアップ開始時間になった場合、スケジュールバックアップは開始されますが、アクティブリペアとバックアップの所要時間が長くなります。アクティブリペア時間とスケジュールバックアップが同時実行されないように設定することをおすすめします。
- ・アクティブリペアには、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で、おおよそ 10G/1 分かかります。例えば、RAID5 構成の HDL4-G1.0 の場合、おおよそ  $750 \div 10 = 75$  分かかります。※あくまで目安の時間です。
- ・スケジュールを設定して指定した時間にアクティブリペアを実行することができます。
- ・本製品は、アクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。（ファームウェアバージョン 1.11 以降）
- ・アクティブリペアのスケジュール実行時刻に本製品の電源が OFF の場合、アクティブリペアのスケジュール実行は行われませんので、スケジュール実行時刻には本製品を起動しておいてください。

## ●チェックディスクを行う場合

[チェックディスク]でのチェックには、以下の特徴があります。

- ・チェックディスクは、ボリュームを構成しているファイルシステムに論理的な障害が発生していないか検査し、修復を行います。
- ・チェックディスク中は、本製品の他の操作を行うことができません。
- ・チェックディスクには、[エラーチェックのみを行う]と[エラーチェックと自動修復を行う]があります。[エラーチェックのみを行う]の場合、購入初期の正常な HDL4-G 1.0 の場合で約 2 分ほどかかります。[エラーチェックと自動修復を行う]の場合、購入初期の正常な HDL4-G 1.0 の場合で約 3 分ほどかかります。



チェックディスク中に電源を切ることはできません。完了するまでお待ちください。

# [アクティブリペア]で チェックする

ここでは、[アクティブリペア]でハードディスクの状態をチェックする方法について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[ボリューム]→[アクティブリペア]をクリックします。

## ボリューム

- ボリューム操作
- ボリューム設定
- 省電力設定
- **アクティブリペア**
- USB1 取外し
- USB2 取外し

クリック

**2** [アクティブリペア機能] 欄の[開始] ボタンをクリックします。  
→アクティブリペアを開始します。

## アクティブリペア設定

### アクティブリペア

現在の状態	アクティブリペアは実行していません
最終実行時刻	
アクティブリペア機能	<b>開始</b> <input type="button" value="停止"/>

アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ディスクおよび eSATA ディスク 1 の不良セクタの検出、および自動修復を行います。  
アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。また、自動修復に失敗した場合でも、フォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。  
[ディスクエラーのメール通知](#)を設定すると、アクティブリペアの開始/終了時にメール通知を行います。

### アクティブリペアのスケジュール実行

スケジュール実行機能	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
	曜日指定: <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土
	時刻指定: 2 時 0 分

スケジュール実行機能を設定しておく、指定した時間にアクティブリペアを実行します。ディスク故障の早期発見に役立ちます。

OK

注意

- アクティブリペア中にも本製品の他の操作を行うことができます。

アクティブリペアは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペア中に本製品の他の操作を行うことができますが、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。また、アクティブリペア中に[電源] ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。

- アクティブリペアには、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で、おおよそ 10G/1 分かかります。

例えば、RAID5 構成の HDL4-G1.0 の場合、おおよそ  $750 \div 10 = 75$  分かかります。

※あくまで目安の時間です。

- 異常があった場合は、システムログやログメールを参照してください。

**3** [結果] の画面が表示されます。

## 結果

アクティブリペアを開始しました。

再度、[アクティブリペア]の画面を開くと、[現在の状態]に「アクティブリペア実行中」と表示され、現在の進行状態のパーセント状態を確認できます。

## アクティブリペア設定

### アクティブリペア

現在の状態	アクティブリペア実行中 17% 完了
最終実行時刻	2006年8月14日 11:02:25に開始
アクティブリペア機能	<input type="button" value="開始"/> <input type="button" value="停止"/>

アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ボリューム1の不良セクタの検出、および自動修復を行います。アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。また、自動修復に失敗した場合でも、内蔵ボリューム1のフォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。  
[ディスクエラーのメール通知](#)を設定すると、不良セクタの検出、および自動修復時にメール通知を行います。

- アクティブリペアのフケ...

**4** [アクティブリペア] 終了後、アクティブリペアが正常終了すると、「エラーは発見されませんでした」と表示されます。

## アクティブリペア設定

### アクティブリペア

現在の状態	エラーは発見されませんでした
最終実行時刻	2006年8月14日 11:03:56に終了
アクティブリペア機能	<input type="button" value="開始"/> <input type="button" value="停止"/>

アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ボリューム1の不良セクタの検出、および自動修復を行います。アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。

# [チェックディスク]で チェックする

ここでは、[チェックディスク]でのハードディスクの状態をチェックする方法について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[ボリューム]→[ボリューム操作]をクリックします。

## ■ ボリューム

- ボリューム操作
- ボリューム設定
- 省電力設定
- アクティブリペア
- USB1 取外し
- USB2 取外し

クリック

**2** チェックするハードディスク横の [操作] 欄で、[チェックディスク]を選択後、[実行] ボタンをクリックします。

## ■ ボリューム操作

ボリューム	動作モード	RAID5(分散リソチ)
内蔵ボリューム1	動作モード 状態 操作	正常動作しています
USBボリューム1	動作モード 状態 操作	現在可能な操作はありません。
USBボリューム2	動作モード 状態 操作	共有ディスク(FAT/NTFS)モード 未接続 現在可能な操作はありません。

①選択

②クリック

**3** [チェックディスク方法選択] 欄でチェック方法を選択後、[OK] ボタンをクリックします。  
→チェックディスクを開始します。

## ■ チェックディスクの設定

選択ディスク	内蔵ボリューム1
チェックディスク方法選択	<input checked="" type="radio"/> エラーチェックのみ行う <input type="radio"/> エラーチェックと自動修復を行う
注意	チェックディスクは、ディスクの容量や状態によって数十分間かかる場合があります。完了したら自動的に結果画面を表示します。チェックディスクを完了するまで一切の操作を行わないでください。

①選択

OK

②クリック

## ■ 注意

チェックディスクを開始しました。

STATUSランプの点滅が終了したらチェックディスクは完了です。完了したら自動的に結果画面を表示します。チェックディスクが完了するまで一切の操作を行わないでください。

## ▼チェックディスク方法選択

エラーチェックのみ行う	ファイルシステムのチェックのみを行います。異常が無い場合は早くチェックが終わります。  ※本製品の内蔵ハードディスクの場合、本製品の状態および容量により異なりますが、購入初期の正常なHDL4-G1.0の場合で約2分ほどかかります。(時間は、保存されているファイル数、容量によって大きく変動します。)
エラーチェックと自動修復を行う	ファイルシステムのチェックとハードディスクの論理的なチェックと自動修復を行います。  ※本製品の内蔵ハードディスクの場合、状態および容量により異なりますが、購入初期の正常なHDL4-G1.0の場合で約3分ほどかかります。(時間は、保存されているファイル数、容量によって大きく変動します。)

## 注意

- チェックディスクを中断することはできません。チェックディスク中に電源を切るなどして中断しないでください。システムが破損する恐れがあります。
- FAT/NTFSでフォーマットされているハードディスクは選択できません。  
(直接パソコンに接続し、Windows上などでエラーチェックを行ってください。)

**4** [結果] の画面が表示されます。

## ■ 結果

チェックディスクが終了しました。  
特に異常な箇所は見つかりませんでした。

以上でハードディスクのチェックは終了です。

# ハードディスクを増設 する



# 増設できる ハードディスク

## ●USB ポートに増設できるハードディスクについて

本製品に USB ポートに増設できるハードディスクは、以下のハードディスクです。

※最新の対応機器については、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>)をご覧ください。

本製品の USB ポートで使用できる動作確認済みのハードディスク				
HDZ-UE シリーズ	HDW-UE シリーズ	HDW-UES シリーズ	HDX-UE シリーズ	HDA-iU シリーズ
HDOT-U シリーズ	HDOT-UE シリーズ	HDH-U シリーズ	HDH-UL シリーズ	HDH-UEH シリーズ
HDH-US シリーズ	HDH-USR シリーズ	HDA-iUM シリーズ	HDPX-U シリーズ	HDPX-SU シリーズ
HDC-U シリーズ	HDC-UX シリーズ	HDH-SU シリーズ	RHD-UX シリーズ	RHD2-U シリーズ
USB2-iVDR シリーズ	HDCN-U シリーズ	HDCS-U シリーズ	HDPG シリーズ	HDP-US シリーズ、
HDPS-U シリーズ	RHD4-UXE シリーズ	HDH-USR2 シリーズ		

※iSPIS 対応ハードディスクを本製品をご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。

※バスパワーモードのハードディスクは、使用できません。

ハードディスクはセルフパワーモードをご利用ください。

※HDOT-U シリーズ、HDOT-UE シリーズのワンタッチボタンは利用できません。

※RHD4-UXE シリーズの省電力機能には対応していません。

## ●増設ハードディスクのフォーマット形式と使い方

増設するハードディスクのフォーマット形式によって使い方に制限があります。

以下をご覧ください。

[【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】 \(163ページ\)](#)

# 増設ハードディスクの 接続と取り外しに関する注意

## ●接続時

---

- ・本製品の USB ポート（1、2）には、対応の機器以外の機器は接続しないでください。  
（USB ハブも接続できません。最新の対応 USB 機器は、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)をご覧ください。）
- ・本製品の USB ポートに増設できる USB 機器については、[【増設できる USB 機器】 \(160ページ\)](#) もご覧ください。
- ・バスパワーで動作する弊社製 EasyDisk などの USB メモリーは、前面の [USB ポート 1] にもみ接続できます。
- ・FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクは、そのまま接続すれば使用できます。  
本製品に接続後、本製品で FAT32 形式にフォーマットすることもできます。  
NTFS でフォーマットする場合は、Windows Vista®/XP/2000 のパソコンに直接接続してフォーマットしてください。
- ・NTFS でフォーマットされたハードディスクは、読み込みのみ可能です。
- ・[USB ポート 1] の出荷時の動作モードは、[デジカメコピー] 用となっています。
- ・FAT/NTFS 以外の増設ハードディスク（未フォーマット、あるいは、Macintosh でフォーマットしたハードディスクなど）を本製品に接続すると、[STATUS] ランプが赤く点滅し、ブザーが鳴ります。Windows パソコンでフォーマットするか、本製品に接続後、フォーマットを行ってください。ただし、増設ハードディスク内のデータはすべて消去されます。

## ●取り外し時

---

- ・ファイルコピー中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。  
コピーの処理が正常に行われません。
- ・取り外し時は、必ず [USBx 取り外し] 操作を行ってください。  
以下の個所を参照してください。  
[【増設ハードディスクを取り外す】 \(79ページ\)](#)

# USB ポート1 (前面) の設定について

出荷時 [USB ポート1] の動作モードは、[デジカメコピー (アルバム)] に設定されています。

その場合、増設するハードディスクを [USB ポート1] に接続してもそのままでは共有ディスクとして使用できません。

USB ポート1 で増設ハードディスクを使用できるようにするためには、動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS)] に変更する必要があります。以下は、[USB ポート1] の動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS)] に変更する手順です。

デジカメコピーとは…

本製品前面の[FUNC]ボタンの機能です。

デジカメコピーでは、USB メモリーやデジカメを [USB ポート1] に接続した後、前面の[FUNC]ボタンを押せば、自動的にUSB メモリーやデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダ内にコピーすることができます。

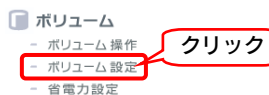
デジカメコピー機能は、本製品前面の [USB ポート1] でのみ機能します。



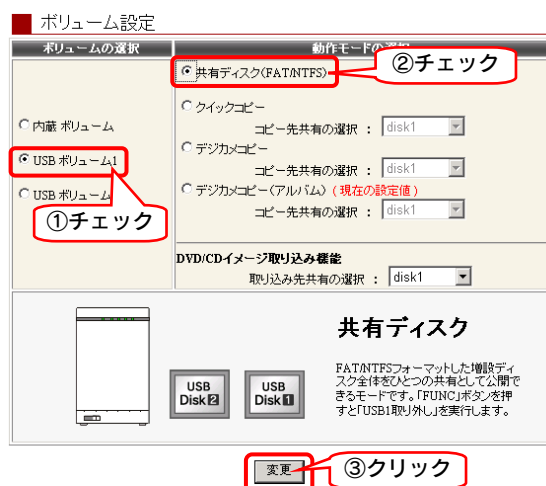
●USB ポート1 の増設ハードディスクを共有ディスク(FAT/NTFS)に変更したあとに、マイウェブサーバー機能の公開フォルダに指定したまま、他の動作モードに変更することはできません。マイウェブサーバーについては、124ページを参照ください。

## USB ポート1 を増設用に変更する

**1** 本製品の設定画面の[ボリューム]→ [ボリューム設定] をクリックします。



**2** [USB ボリューム1]をチェック後、[動作モードの選択]で [共有ディスク (FAT/NTFS)] にチェック後、[変更] ボタンをクリックします。



**3** [OK] ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

USB ボリューム1の設定を変更しようとしています。  
USB ボリューム1の動作モードを共有ディスク(FAT/NTFS)に変更します。  
変更してもよろしいですか

クリック [OK] [戻る]

**4** [OK] ボタンをクリックします。



**5** [結果] 画面が表示されます。

### 結果

USB ボリューム1の動作モードを共有ディスク(FAT/NTFS)に変更しました。

これで、USB ポート1 で増設ハードディスクを使用できるようになりました。

# ハードディスクを増設する

## ハードディスクを接続する

FAT32 形式や NTFS 形式のハードディスクは、接続すればそのままご利用になれます。

**注意** ●本製品の USB ポートに増設できるハードディスクは、FAT/NTFS 形式のハードディスクのみです。

●本製品に接続後、FAT32 形式でフォーマットすることもできます。

FAT32 形式以外の増設ハードディスクを FAT32 形式にフォーマットする場合は、接続後、[ボリューム操作] 画面にてフォーマットすることができます。

詳細については、以下の個所を参照してください。

【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】(80 ページ)

●本製品に接続して NTFS 形式にフォーマットすることはできません。

NTFS 形式にフォーマットする場合は、パソコンに直接接続してフォーマットしてください。詳細については、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。

●Macintosh パソコンから NTFS フォーマットのハードディスクにアクセスすることはできません。

NTFS フォーマットのハードディスクを接続しても Macintosh パソコンから共有ディスクとしてご利用になることはできません。

**1** 本製品の電源が入っていることを確認します。  
※本製品の電源が入っている状態でハードディスクを接続できます。

**2** 増設ハードディスクの電源を ON にします。  
増設ハードディスクの電源の入れ方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

電源連動機能ハードディスクの場合は、電源ボタン(スイッチ)を [AUTO] または [ON] にします。本製品に接続するまで増設ハードディスクの電源は入りませんが、問題ありません。

※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

**注意** ●増設ハードディスクの電源を入れてから、本製品に接続してください。

**3** 本製品の USB ポートに増設用ハードディスクを接続します。

**注意** ●本製品の [STATUS] ランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。

本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS] ランプが点滅中(設定画面操作中)や、本製品にアクセス中([ACCESS] ランプが点滅中)に増設ハードディスクを接続しないでください。

本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。

●ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点滅した場合は、ハードディスクが FAT/NTFS 形式ではありません。

本製品の設定画面でフォーマットするか、Windows パソコンに直接接続してフォーマットしてください。

以下の個所を参照して接続を確認してください。

【ハードディスクの接続を確認する】(次ページ)

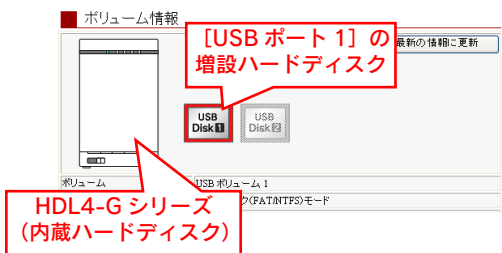
# ハードディスクの接続を確認する

正しく FAT32 あるいは NTFS ハードディスクが接続できているかを確認します。

**7** 本製品の設定画面の[情報表示]→[ボリューム情報]メニューをクリックします。

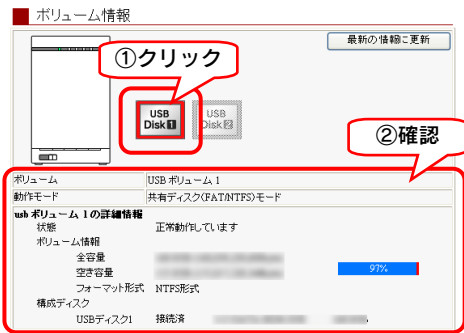


**2** 接続されているハードディスクの接続状況が表示されます。



※画面は、[USBポート1]にUSBハードディスクの増設ハードディスクを接続している例です。

**3** 確認したいハードディスクをクリックすれば、各ハードディスクの詳細情報が表示されます。



以上で確認は終了です。  
ネットワーク上から増設ハードディスクにアクセスする場合は、以下の個所を参照してください。

[【増設ハードディスクにアクセスする】](#) (次ページ)

▼ボリューム		
選択したボリュームの名前を表示します。		
USB ボリューム 1	外付け USB ドライブの内、前面の [USB ポート 1] に接続されているドライブです。	
USB ボリューム 2	外付け USB ドライブの内、背面の [USB ポート 2] に接続されているドライブです。	
▼動作モード		
ボリュームの動作モードを表示します。		
共有ディスク (FAT/NTFS) モード	接続された FAT/NTFS 形式のディスクが、共有ディスクとして使用できることを示します。	
デジカメコピー/デジカメコピー (アルバム)	( [USB ボリューム 1] のみ ) デジカメコピー機能が利用可能なことを示します。	
クイックコピー	( [USB ボリューム 1] のみ ) クイックコピー機能が利用可能なことを示します。	
▼詳細情報		
このボリュームの状態を表示します。		
状態	正常動作しています	ボリュームは正常に動作しています。
	停止	ドライブは取り外しできる状態にあります。
	未使用	未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。
	未接続	該当ポートにドライブが接続されていません。
	デジカメコピー可能	前面の [FUNC] ボタンでデジカメのデータを本製品へコピーする機能が実行可能です。
	クイックコピー可能	前面の [FUNC] ボタンでクイックコピーが実行可能です。
このボリュームの容量について表示します。		
ボリューム情報	全容量	ボリューム全体の容量を表示します。 (1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)
	空き容量	ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。 (1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)
フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を表示します。	
	FAT 形式	Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。 このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。
	NTFS 形式	Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。 このボリュームは本製品では読み込み専用となります。
	不明な形式	上記以外の形式です。
構成ディスク	このボリュームを構成しているドライブです。	

# 増設ハードディスクに アクセスする

増設したハードディスクにアクセスする手順について説明します。

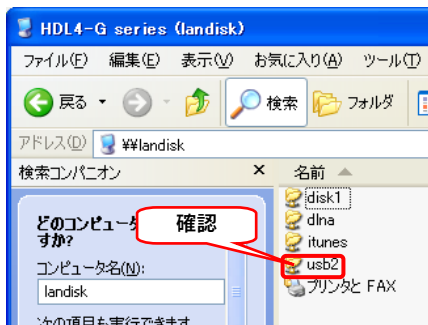
※以下は、Windows XP での確認例です。

ここでは、USB 接続ハードディスクを、【USB ポート 2】に接続した場合の確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。  
手順については、以下の個所を参照してください。  
・Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (21 ページ)  
・Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (26 ページ)

**2** USB 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダ [usb2] が表示されます。  
これが増設ハードディスクです。  
[usb ] をダブルクリックします。

▼Windows XP での表示例



●ネットワーク上での各ハードディスクの表示

ハードディスクの接続先	ネットワーク上での表示
内蔵ハードディスク	→ disk1
USB ポート 1 接続	→ usb1
USB ポート 2 接続	→ usb2

**3** 正常にウィンドウが表示されたら、増設ハードディスクのデータを使用できます。



●NTFS フォーマットの増設ハードディスクは、読み込み専用です。  
ネットワーク上から NTFS フォーマットのハードディスクのデータを読み込むことはできますが、書き込むことはできません。※本製品に接続後、FAT32 形式でフォーマットすることもできます。詳しくは、【増設ハードディスクをフォーマットする】をご覧ください。

- ハードディスクを複数パーティションに分割していた場合は、先頭のパーティションのみが表示されません。
- Mac OS から NTFS フォーマットの増設ハードディスクや読み取り専用の共有にアクセスすることはできません。
- Mac OS でお使いになる場合、本製品では、AFP over TCP/IP による接続のみをサポート対象とします。

# 増設ハードディスクを 取り外す

FAT32/NTFS 形式の増設ハードディスクを取り外す手順について説明します。

FAT32/NTFS 形式の増設ハードディスクを取り外す場合は、本製品の設定画面で「ディスクの取り外し」操作を行う必要があります。

取り外し時は、本製品の電源が入っている状態で取り外すことができます。

取り外し後、バックアップ用として保管したり、パソコンの USB ポートに接続してそのまま使用することができます。

下記の手順にしたがって取り外しを行ってください。

(以下の例は、「USB ポート 1」に接続したハードディスクを取り外す手順です。)



●本製品動作中に以下の手順を行わずに、USB ケーブルを取り外すと、データの破損や本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。

何らかの理由で、増設ハードディスクにアクセスが行われている最中に、USB ケーブルを取り外すとデータが破損するばかりか、本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。必ず以下の手順を行ってください。

●本製品をシャットダウンし、本製品の電源を切った後に取り外すこともできます。

**1** 本製品の設定画面の[ボリューム]→[USB1 取り外し]をクリックします。

## ■ ボリューム

- ボリューム 操作
- ボリューム 設定
- 省電力設定
- アクティブリペア
- **USB1 取り外し**
- USB2 取り外し

クリック

**2** 取り外すハードディスクを確認後、[OK]ボタンをクリックします。

## ■ usb1 取り外し

警告: USB ボリューム1 の取り外しを実行しようとしています。  
USB ボリューム1 の取り外しを実行してもよろしいですか?

OK

クリック

**3** 結果の画面が表示されますので、Web ブラウザを終了します。

## ■ 結果

USB ボリューム1 の取り外しを行いました。

USB ボリューム1 のケーブルを抜いてください。  
STATUSランプの点滅が停止後、ファイル共有が再開されます。

**4** 取り外し手順を行った増設ハードディスクの USB ケーブルを本製品から取り外します。



●本製品の電源が入っている状態で本製品から取り外すことができます。

**5** 増設ハードディスクの電源を切ります。  
電源連動機能ハードディスクの場合は、USB ケーブルを取り外した時点で、電源が切れます。

※増設ハードディスクの電源の切り方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

以上で作業は完了です。

# 増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする

増設ハードディスクを本製品で FAT32 形式にフォーマットする手順について説明します。



●フォーマットするとデータはすべて消去されます。  
増設ハードディスク内に必要なデータがある場合は、事前にパソコンなどにバックアップしておいてください。

●フォーマット中は電源を切ることはできません。  
完了するまでにお待ちください。

●FAT32 形式にできるのは、増設ハードディスクのみです。  
内蔵ハードディスクは、本製品専用フォーマットです。FAT32 形式にすることはできません。

●本製品で NTFS 形式にすることはできません。

増設ハードディスクを NTFS 形式にする場合は、Windows パソコンに直接接続してフォーマットしてください。  
詳細については、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。

**7** 本製品の設定画面の[ボリューム]→[ボリューム操作]をクリックします。

## ボリューム

- ボリューム操作
- ボリューム設定
- 省電力設定
- アクティブリペア
- USB1 取外し
- USB2 取外し

クリック

**2** フォーマットするボリューム欄の [操作] 欄で [フォーマット (FAT32)] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。

## ボリューム

### ボリューム操作

内蔵 ボリューム1	動作モード 状態	RAID5(分散)リリティ 正常動作しています
	操作	フォーマット(専用) 実行
	▶ 詳細情報	
USB ボリューム1	動作モード 状態	デジタルコピー 未接続
	操作	現在可能な操作はありません
	▶ 詳細情報	
USB ボリューム2	動作モード 状態	共有ディスク(FAT/NTFS)モード 正常動作しています
	操作	フォーマット(FAT32) 実行
	▶ 詳細情報	

①選択

②クリック

**3** [OK] ボタンをクリックします。

### フォーマットの確認

警告:USB ボリューム2をフォーマットしようとしています。

フォーマットを実行すると、USB ボリューム2のすべてのデータ、共有が消去され、ディスクはFAT32形式のフォーマットになります。必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

USB ボリューム2をフォーマットしますか？

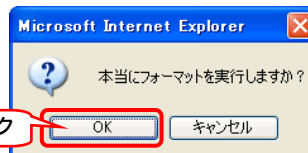
OK

クリック

### 削除される共有フォルダー一覧

共有名	コメント	アクセス権	サービス
usb2	HDL4-G USB2 disk	すべてのユーザ	Win Mac

**4** [OK] ボタンをクリックします。



**5** 結果の画面が表示されるまでお待ちください。

### 注意

USB ボリューム2のフォーマットを開始しました。

STATUSランプの点滅が終了したらフォーマットは完了です。完了したら自動的に結果画面を表示します。



### 結果

USB ボリューム2のフォーマットが完了しました。

以上で作業は完了です。



**バックアップする**

# データのバックアップ について

万一に備えて定期的にデータはバックアップすることをおすすめします。  
本製品では、以下のバックアップを行うことができます。

デジカメコピー	デジカメコピー機能は、デジカメや USB メモリーを [USB ポート 1] に接続し、前面の[FUNC]ボタンを押すと、[USB ポート 1]に接続したデジカメや USB メモリーのデータを、あらかじめ指定されている本製品の共有フォルダ内のデータと比較し、異なる（更新されている）ファイルのみにコピーすることができます。 デジカメコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] の動作モードが [デジカメコピー] または[デジカメコピー（アルバム）]となっている場合のみ動作します。
デジカメコピー（アルバム）	前面の[FUNC]ボタンを押すと、[USB ポート 1]に接続したデジカメや USB メモリーのデータを、日付ごとに振り分けて取り込みます。 コピーした画像は、フォトアルバム機能で閲覧できます。
クイックコピー	クイックコピー機能は、デジカメや USB メモリーを [USB ポート 1] に接続し、前面の[FUNC]ボタンを押すと、[USB ポート 1]に接続したデジカメや USB メモリーのデータを、あらかじめ指定されている本製品の共有フォルダにコピーすることができます。 クイックコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] の動作モードが [クイックコピー] となっている場合のみ動作します。
Sync with	Sync with は、パソコンのフォルダと本製品上のフォルダの内容を比較し、更新されたファイルを自動的にコピーします。簡単な操作でパソコンのフォルダと本製品上のフォルダの内容を同一に保つことができるソフトウェアです。パソコンにインストールして使用します。
EasySaver LE	EasySaver は、パソコンのデータを本製品にバックアップしたり、逆に本製品のデータをパソコンにバックアップすることができるソフトウェアです。パソコンにインストールして使用します。



●バックアップ中、ファイル共有などが遅くなる場合があります。

## 使用できるデジカメや USB メモリーについて

動作確認済みデジカメや USB メモリーについては、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)の製品情報をご覧ください。  
使用できるデジカメや USB メモリーは以下のものです。

- ・ USB マスストレージクラスの転送に対応し、かつ、そのモードに設定されているデジカメ
- ・ FAT または NTFS 形式のデジカメ、または USB メモリー

## デジカメコピー機能、クイックコピー機能利用時の注意事項

- ・ デジカメによっては、PTP 転送時に制限事項のあるものがあります。詳しくはお使いのデジカメの取扱説明書をご参照ください。  
また、なかには PTP ではなく、MTP と表記されているデジカメもあります。
- ・ PTP 転送時は、1 ファイルの大きさが 1.5GB 以下のファイルのみ対応となります。
- ・ マスストレージモードと PTP モードを切り替えられる機種はマスストレージモードでご使用ください。
- ・ 利用時には正しくコピーできていることをご確認ください。

## 本製品でご利用になる場合の注意

本製品でご利用になる場合は、以下にご注意ください。

- ・ デジカメや USB メモリーは本製品の **USB ポート 1** でのみご利用になれます。  
他の USB ポートにデジカメや USB メモリーを接続してもご利用いただけません。
- ・ コピー先のディスクに空き容量が十分あることをご確認ください。
- ・ コピー先が FAT32 形式の場合、ファイルシステムの制限のため、ファイルサイズが 4GB 以上のファイルはバックアップできません。
- ・ コピー先に NTFS 形式の増設ハードディスクを選択してもコピーすることはできません。  
NTFS 形式のハードディスクに書き込みはできません。

# デジカメコピー

## デジカメコピー機能を設定する

出荷時 [USB ポート 1] の動作モードは、[デジカメコピー (アルバム)] に設定されていますが、増設ハードディスク用に動作モードを他のモードに変更した場合は、[デジカメコピー (アルバム)] に戻す必要があります。

※ [デジカメコピー] または、[デジカメコピー (アルバム)] に設定すると、USB ポート 1 のネットワークへの公開は行われなくなります。

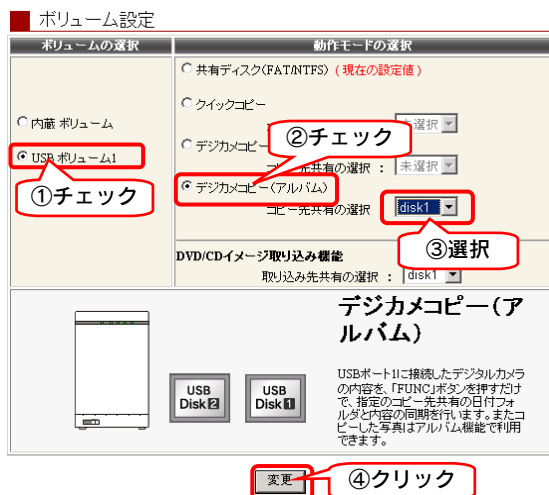
※ フォトアルバム機能を利用する場合は、[デジカメコピー (アルバム)] に設定します。

**1** [ボリューム] → [ボリューム設定] を順にクリックします。

### ボリューム

- ボリューム操作
- **ボリューム設定** クリック
- 省電力設定
- アクティブリハブ
- USB1 取外し
- USB2 取外し

**2** [USB ボリューム 1] をチェック後、[動作モードの選択] で [デジカメコピー (アルバム)] にチェック後、[コピー先共有の選択] でコピー先を選択後、[変更] ボタンをクリックします。



**注意**

- コピー先共有の選択は、内蔵 HDD 上の共有のみ選択できます。
- NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクはコピー先に選択できません。

**3** [OK] ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

USB ボリューム 1 の設定を変更しようとしています。

USB ボリューム 1 の動作モードを「デジカメコピー (アルバム)」に変更します。USB ボリューム 1 の動作モードを変更すると、現在の USB ボリューム 1 のすべての共有情報が消去され、ディスクは取り外すことができます。

USB1 ポートは「デジカメコピー」機能のコピー元カメラ機器の接続ポートになります。「デジカメコピー」モードでは、USB1 ポートに接続したディスクはネットワークに公開されません。

変更してもよろしいですか？

クリック OK

### 削除される共有フォルダー一覧

共有名	コメント	アクセス権	サービス
usb1	HDL4-G USB1 disk	すべてのユーザ	Win Mac

**4** [OK] ボタンをクリックします。



**5** [結果] 画面が表示されます。

### 結果

USB ボリューム 1 の動作モードを「デジカメコピー (アルバム)」に変更しました。

これで、USB ポート 1 をデジカメコピー (アルバム) 用に使用できるようになりました。

## デジカメコピー機能を使う

[FUNC]ボタンを使えば、本製品にデジカメやUSBメモリーのデータをコピーすることができます。



●必ず、USBポート1に接続してください。

USBポート2にデジカメやUSBメモリーを接続しても[FUNC]ボタンは使用できません。

●出荷時のコピー先は、内蔵ハードディスクの[disk1]共有フォルダに設定されています。

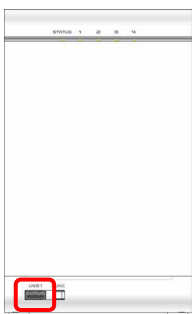
1

本製品前面のUSBポート1にデジカメやUSBメモリーを接続します。

[STATUS]ランプが点滅し、しばらくすると点灯します。

※USBポート2ではご利用になれません。

▼本製品前面



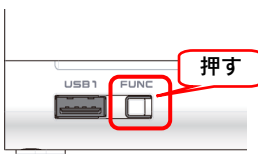
●必ず、USBポート1に接続してください。

他のUSBポートにデジカメやUSBメモリーを接続しても[FUNC]ボタンは使用できません。

2

本製品前面の[FUNC]ボタンを押します。

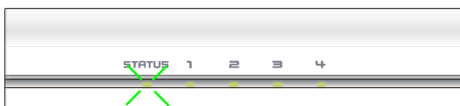
→コピーを開始します。



3

コピー中は、STATUSランプが点滅します。

“ピッピッピ”と音が鳴り、点滅が点灯に変わったらコピー完了です。



以上でコピーは完了です。コピー完了後は、そのままデジカメやUSBメモリーを取り外すことができます。

ネットワーク上からコピーしたデータを確認する場合は、以下の個所を参照して確認してください。

[【コピーしたデータを確認する】](#) (次ページ)

### ●データコピー先について

データは、コピー先（出荷時は内蔵ハードディスクの[disk1]）の共有フォルダの下に、自動で作成される[デジカメコピー]フォルダ内に接続したデジカメやUSBメモリーのデータがコピーされます。

・[デジカメコピー（アルバム）]の場合  
[指定したディスク共有フォルダ] - [デジカメコピー（アルバム）] フォルダ

・[デジカメコピー]の場合  
[指定したディスク共有フォルダ] - [デジカメコピー] フォルダ

デジカメコピーでは、コピー先共有にすでに同一ファイル名で、サイズまたは更新時刻が異なるファイルが存在している場合、新規にコピーするファイル名は、3桁数字をファイル名に追加して新規ファイルをコピーします。（例：AAA.jpg → AAA(001).jpg）

フォトアルバム機能を利用する場合は、[デジカメコピー（アルバム）]をご利用ください。

複数のデジカメ・USBメモリーをコピーする場合、「クイックコピー」をご利用ください。

# コピーしたデータを確認する [デジカメコピー(アルバム)]

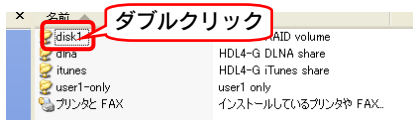
デジカメや USB メモリーのデータが正しくコピーされているかを確認します。

データを本製品内蔵ハードディスクの [disk1] 共有フォルダにコピーした場合での確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。手順については、以下の個所を参照してください。

- ・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (21ページ)
- ・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (26ページ)

**2** [disk1]フォルダをダブルクリックします。

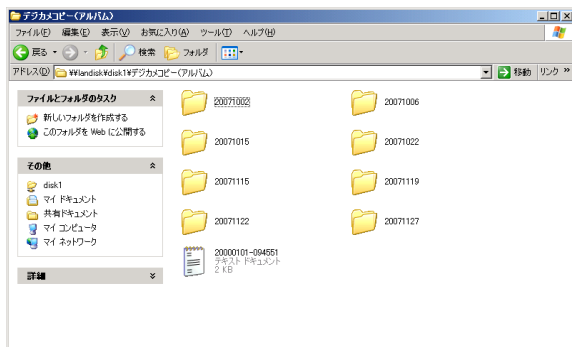


**3** [デジカメコピー]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



[デジカメコピー (アルバム)]フォルダについて・・・  
[FUNC]ボタンでコピーする手順を行った場合に自動で作成されるフォルダです。

**4** コピーしたファイルが日付フォルダに振り分けて表示されます。



以上で確認は終了です。

●ログファイルについて  
デジカメコピーは、[コピー先共有フォルダ]-[デジカメコピー]に[コピーした日付時刻.log]と言うファイルを自動的に作成します。  
ログファイルを確認することで、コピー結果を確認することができます。

・ 出力形式 (UTF-8、CRLF 改行)  
[1 行目: (ファイル名 or フォルダ名)      追加情報]

### 追加情報一覧

COPY	新規ファイルをコピー
COPY (RENAME : 新しいファイル名)	新規ファイルをリネームコピー
COPYERROR	新規ファイルをコピー失敗
COPYERROR (RENAME)	新規ファイルをリネーム失敗
COPYERROR (RENAME : 新しいファイル名)	新規ファイルをリネームコピー失敗
MKDIR	新規フォルダを作成
SKIP	新規ファイルをスキップ

### 実行結果一覧

SUCCESS. ( xxx files copied.)	コピー成功。xxx 個のファイルをコピー。
ERROR. ( xxx files copied.)	コピー失敗。xxx 個のファイルをコピー。

xxx の数値には、MKDIR、SKIP、COPYERROR の数は含まれません。

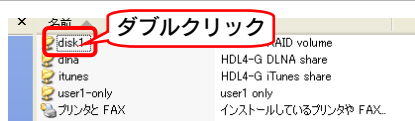
# コピーしたデータを確認する [デジカメコピー]

デジカメや USB メモリーのデータが正しくコピーされているかを確認します。

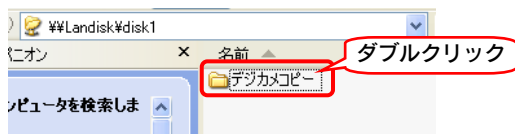
データを本製品内蔵ハードディスクの [disk1] 共有フォルダにコピーした場合での確認例を説明します。

- 1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。手順については、以下の個所を参照してください。
- ・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (21ページ)
  - ・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (26ページ)

- 2** [disk1]フォルダをダブルクリックします。



- 3** [デジカメコピー]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



[デジカメコピー]フォルダについて・・・  
[FUNC]ボタンでコピーする手順を行った場合に自動で作成されるフォルダです。

- 4** コピーしたファイルやフォルダが表示されます。



以上で確認は終了です。

## ●ログファイルについて

デジカメコピーは、[コピー先共有フォルダ]-[デジカメコピー]に[コピーした日付時刻.log]と言うファイルを自動的に作成します。  
ログファイルを確認することで、コピー結果を確認することができます。

- ・ 出力形式 (UTF-8、CRLF 改行)
- [1 行目: (ファイル名 or フォルダ名)      追加情報]

### 追加情報一覧

COPY	新規ファイルをコピー
COPY (RENAME : 新しいファイル名)	新規ファイルをリネームコピー
COPYERROR	新規ファイルをコピー失敗
COPYERROR (RENAME)	新規ファイルをリネーム失敗
COPYERROR (RENAME : 新しいファイル名)	新規ファイルをリネームコピー失敗
MKDIR	新規フォルダを作成
SKIP	新規ファイルをスキップ

### 実行結果一覧

SUCCESS. ( xxx files copied.)	コピー成功.xxx 個のファイルをコピー。
ERROR. ( xxx files copied.)	コピー失敗.xxx 個のファイルをコピー。

xxx の数値には、MKDIR、SKIP、COPYERROR の数は含まれません。

# クイックコピー

## クイックコピー機能を設定する

出荷時 [USB ポート 1] の動作モードは、[デジカメコピー] に設定されていますので、クイックコピー機能を使うには、[クイックコピー] に変更する必要があります。

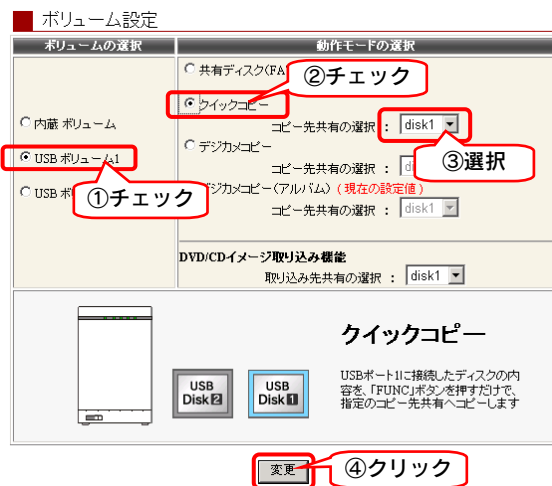
※ [クイックコピー] に設定すると、USB ポート 1 のネットワークへの公開は行われなくなります。

**1** [ボリューム] → [ボリューム設定] を順にクリックします。

### ■ ボリューム

- ボリューム 操作
- ボリューム 設定 **クリック**
- 省電力設定
- アクティブリペア
- USB1 取外し
- USB2 取外し

**2** [USB ボリューム 1] をチェック後、[動作モードの選択] で [クイックコピー] にチェック後、[コピー先共有の選択] でコピー先を選択後、[変更] ボタンをクリックします。



### 注意

- コピー先共有の選択は、内蔵 HDD 上の共有のみ選択できます。
- NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクはコピー先に選択できません。

**3** [OK] ボタンをクリックします。

### ■ ボリューム設定

USB ボリューム 1 の設定を変更しようとしています。

USB ボリューム 1 の動作モードを「クイックコピー」に変更します。  
USB ボリューム 1 の動作モードを変更すると、現在の USB ボリューム 1 のすべての共有情報が消去され、ディスクは取り外すことができます。  
USB1 ポートは「クイックコピー」機能のコピー元ディスクの接続ポートになります。  
「クイックコピー」モードでは、USB1 ポートに接続したディスクはネットワークに公開されません。  
変更してもよろしいですか？

**クリック** **OK** 戻る

### ■ 削除される共有フォルダー一覧

共有名	コメント	アクセス権	サービス
usb1	HDL4-G USB1 disk	すべてのユーザ	Win Mac

**4** [OK] ボタンをクリックします。



**5** [結果] 画面が表示されます。

### ■ 結果

USB ボリューム 1 の動作モードをクイックコピーに変更しました

これで、USB ポート 1 をクイックコピー用に使用できるようになりました。

# クイックコピー機能を使う

[FUNC]ボタンを使えば、本製品にデジカメやUSBメモリーのデータをコピーすることができます。



●必ず、USBポート1に接続してください。

USBポート2にデジカメやUSBメモリーを接続しても[FUNC]ボタンは使用できません。

1

本製品前面のUSBポート1にデジカメやUSBメモリーを接続します。

[STATUS]ランプが点滅し、しばらくすると点灯します。

※他のUSBポートではご利用になれません。

▼本製品前面



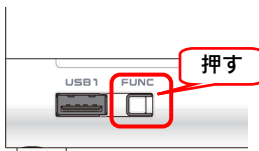
●必ず、USBポート1に接続してください。

他のUSBポートにデジカメやUSBメモリーを接続しても[FUNC]ボタンは使用できません。

2

本製品前面の[FUNC]ボタンを押します。

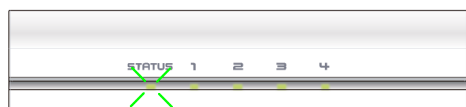
→コピーを開始します。



3

コピー中は、STATUSランプが点滅します。

“ピッピッピ”と音が鳴り、点滅が点灯に変わったらコピー完了です。



以上でコピーは完了です。コピー完了後は、そのままデジカメやUSBメモリーを取り外すことができます。

ネットワーク上からコピーしたデータを確認する場合は、以下の個所を参照して確認してください。

【コピーしたデータを確認する】(次ページ)

## ●データコピー先について

データは、コピー先(出荷時は内蔵ハードディスクの[disk1])の共有フォルダの下に、自動で作成される「クイックコピー」フォルダ内にコピーされます。

さらにその下に順に「コピー時点の[年月日-時刻]」を元にしたフォルダ」フォルダを作成し、そのフォルダ内に接続したデジカメやUSBメモリーのデータがコピーされます。

[指定したディスク共有フォルダ] - [クイックコピー] - [年月日-時刻]

複数のデジカメ・USBメモリーをコピーする場合にも、データは「年月日-時刻」フォルダで区別されますので、上書きされることはありません。



# コピーしたデータを 確認する

デジカメや USB メモリーのデータが正しくコピーされているかを確認します。

※以下は、Windows XP での確認例です。

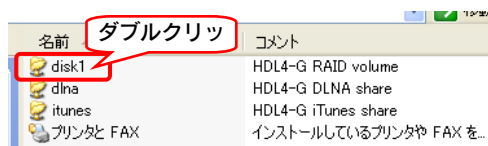
データを本製品内蔵ハードディスクの [disk1] 共有フォルダにコピーした場合での確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。

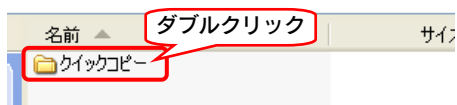
手順については、以下の個所を参照してください。

- ・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (21ページ)
- ・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (26ページ)

**2** [disk1]フォルダをダブルクリックします。

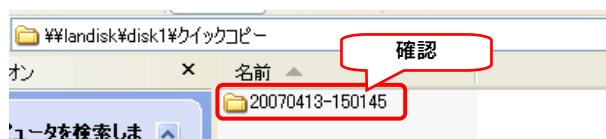


**3** [クイックコピー]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



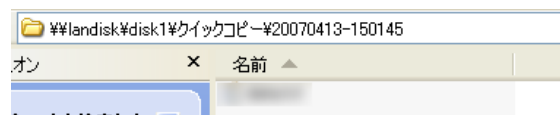
[クイックコピー]フォルダについて…  
[FUNC]ボタンでコピーする手順を行った場合に自動で作成されるフォルダです。

**4** 年月日-時刻のフォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックし、ファイルがコピーされているかご確認ください。



年月日-時刻フォルダについて…  
[FUNC]ボタンでコピーする手順を行った場合に、[クイックコピー]フォルダの下に、デジカメ・USBメモリーのデータコピーを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダです。  
上記画面例 ( [20070413-150145] ) は、2007年04月13日15時01分45秒にコピーを開始したときに作成した例です。

**5** コピーしたファイルやフォルダが表示されます。



以上で確認は終了です。

# Sync with

Sync with は2つのフォルダ内容を比較し、更新されたファイルを自動的にコピーします。  
簡単な操作でフォルダ内容を更新したり一致させることのできるソフトウェアです。



- 同期するドライブに十分な容量の空きが必要です。
- 同一のフォルダは指定できません。
- 下位のフォルダとの同期はできません。
- ネットワークドライブ内のフォルダは指定できません。
- OS が使用しているフォルダは、同期できないものもあります。
- アクセス権がないものや、ロックやライトプロテクトされているフォルダ・CD-ROM・MOなどは同期できません。
- 実行中・使用中のファイルの同期はできません。
- 隠しファイル(隠しフォルダ)はフォルダの設定にて「隠しファイルを表示する」となっていた時のみ同期できます。
- Windows 標準の文字コードを使用していないフォルダやファイルは、設定・同期できません。

## STEP1 インストールする

1 サポートソフト DVD をパソコンにセットします。

2 自動で表示されるメニューから、[サポートソフトインストール]→[Sync with]をクリックします。

3 画面の指示にしたがってインストールを進めてください。

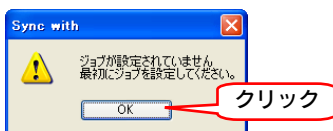
以上でインストールは完了です。

## STEP2 使い方

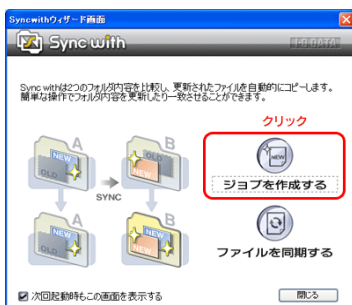
### ●ジョブの設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] (または[プログラム]) → [I-O DATA] → [Sync with] → [Sync with] を順にクリックします。

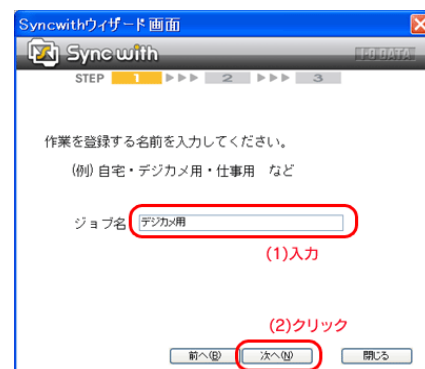
2 はじめて起動したときなど、まだ同期のジョブが何も設定されていないときは、以下が表示されますので[OK]をクリックします。



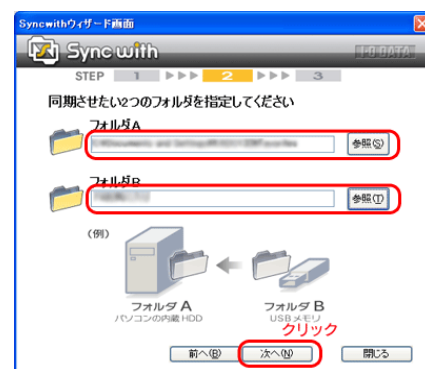
3 [ジョブを作成する] をクリックします。



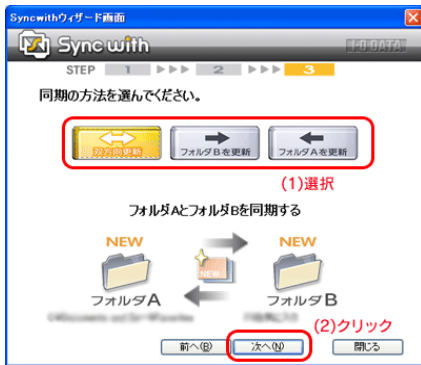
4 ジョブ名を入力します。



5 同期させたいフォルダを指定し、[次へ]をクリックします。

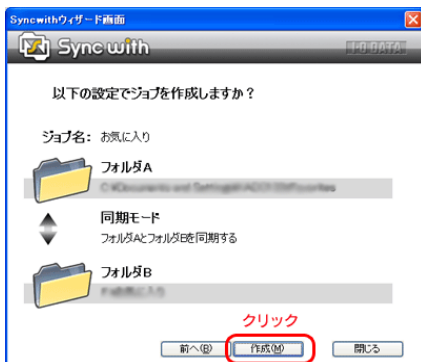


**6** 同期の方法を選択して、[次へ] をクリックします。

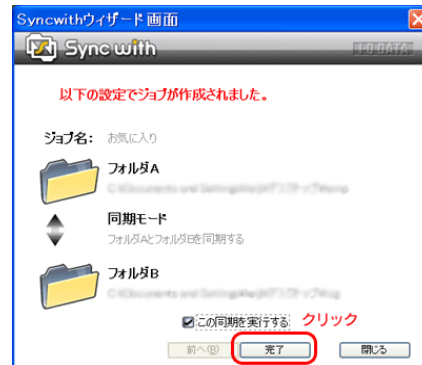


双方向更新	<p>フォルダ A とフォルダ B を比較し、双方の新しいファイルを相手にコピーします。同期完了後はフォルダ A フォルダ B ともに最新のファイルとなります。</p> <p>&lt;用途例&gt; 双方に同じデータを持ちたい際に、この更新方法をお勧めします。</p>
フォルダ B を更新	<p>フォルダ A とフォルダ B を比較し、フォルダ A にある新しいファイルのみフォルダ B にコピーします。</p> <p>デジカメの写真データをパソコンの画像編集用フォルダにコピーするといった元データを変えたくない際に、この更新方法をお勧めします。</p> <p>&lt;用途例&gt; デジカメの写真データのフォルダを A に指定し、パソコンの編集用フォルダを B に指定します。</p> <p>同期を実行すると、デジカメの新しいデータが編集用フォルダにコピーされ、編集用フォルダで編集したファイルは元データにコピーされません。</p> <p>元データ（デジカメの写真データ）を残しつつ新たなデータを編集用フォルダにコピーできます。</p> <p>また、編集用フォルダで編集されたファイルの方が新しいファイルなので、元データに上書きされることもありません。</p>
フォルダ A を更新	<p>フォルダ A とフォルダ B を比較し、フォルダ B にある新しいファイルのみフォルダ A にコピーします。</p>

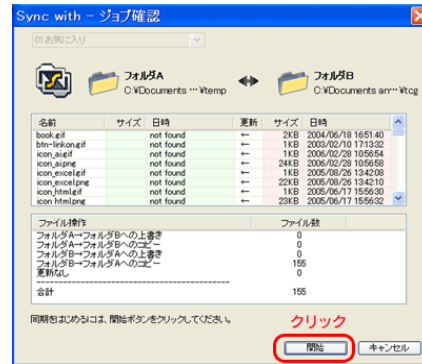
**7** 表示内容を確認して、[作成] をクリックします。



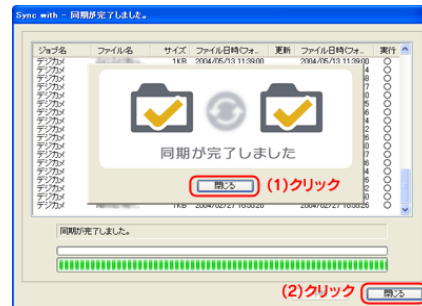
**8** [完了] をクリックします。



**9** [開始] をクリックします。  
→同期処理が開始します。



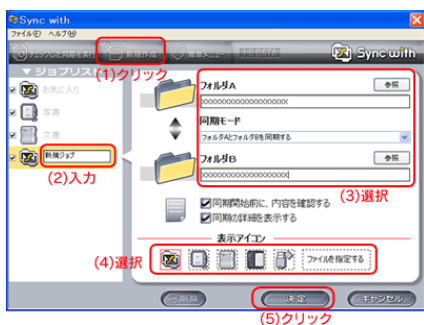
**10** [閉じる] → [閉じる] を順にクリックします。



以上で設定は完了です。

## ●新規ジョブの作成方法

[新規作成] をクリック→ジョブ名を入力→フォルダA、同期モード、フォルダBを指定→表示アイコンを選択→[決定]をクリックします。

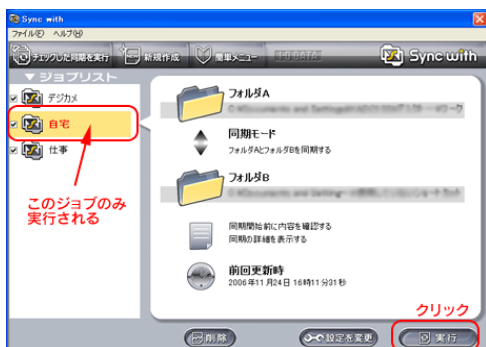


## ●ジョブの実行

ジョブ（同期）を実行するには、[実行]または[チェックした同期を実行]をクリックします。

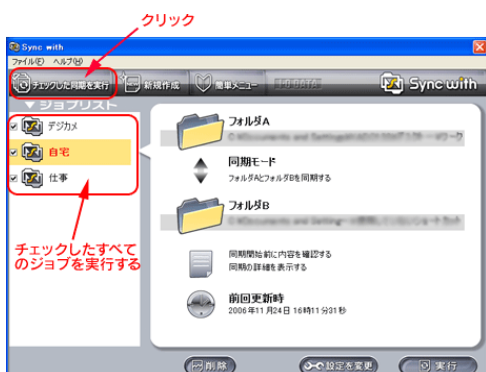
→[実行]をクリックする場合

ジョブリストから選択して、[実行]をクリックします。



→[実行]をクリックする場合

ジョブリストの同期を実行したいジョブにチェックして、[チェックした同期を実行]をクリックします。



→ジョブ実行時のエラーについて

エラー内容	説明
チェックがつけられていません。同期したいジョブにチェックをつけてから実行してください	チェックされたジョブが無かった時
Sync withの設定を確認してください フォルダxxエラー ディレクトリ名が無効です	フォルダA、フォルダBが存在して しなかった(または書き込み不可 だった)場合
フォルダ XXXX のフォルダ名が正しくありません	フォルダA、フォルダBが同一 フォルダ・サブフォルダなど設 定できないフォルダだった場合
エラーが発生したため同期を中止しました	コンペア中にエラーが発生した 場合
空き容量がありません。 処理を中止します	ハードディスクの容量が足りな くなった場合
xxxxxx (ファイル名) エラーが発生しました。 処理を続けますか？ [はい] [いいえ]	ここで[はい]を選択すると、次 のファイルから再度コピーを開 始します。 [いいえ]を選択した際には、以 降のファイルはコピーされなく なります。 コピーに失敗したファイルの結果 欄に「×」(赤字)がつきます。

# EasySaver LE

本製品は、オートバックアップソフト「EasySaverLE」の無料ダウンロード対象製品です。

EasySaverLEは弊社ホームページ「サポートライブラリ」からダウンロードできます。

<サポートライブラリ>

<http://www.iodata.jp/lib/>

弊社製 EasySaver LE を使用して、パソコンのデータを本製品にバックアップしたり、逆に本製品のデータをパソコンにバックアップしたりすることができます。

詳細は、EasySaver LE の取扱説明書を参照してください。

**注意**

- EasySaverLE を使用してバックアップする場合、バックアップ元（先）に使用する本製品、あるいは、増設ハードディスクを事前にネットワークドライブに割り当てておく必要があります。  
【（Windows）ネットワークドライブの割り当て方法がわからない】（238ページ）
- 増設ハードディスクをバックアップで使用する場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。  
【ハードディスクを増設する】（72ページ）

# UPS 装置を接続する

# UPS 装置の接続を確認する

UPS 装置を本製品の USB ポート 2 に接続し、UPS 装置の接続を確認します。

## STEP1 UPS を接続する

本製品で UPS を使用できるように接続します。

**注意**

- 本製品の電源が入っていても入ってなくても接続できます。
- 本製品に接続できる UPS 装置については、弊社ホームページをご覧ください。

**1** UPS の電源を入れ、UPS が起動することを確認します。

**2** 本製品背面の USB ポート 2 に UPS を接続します。

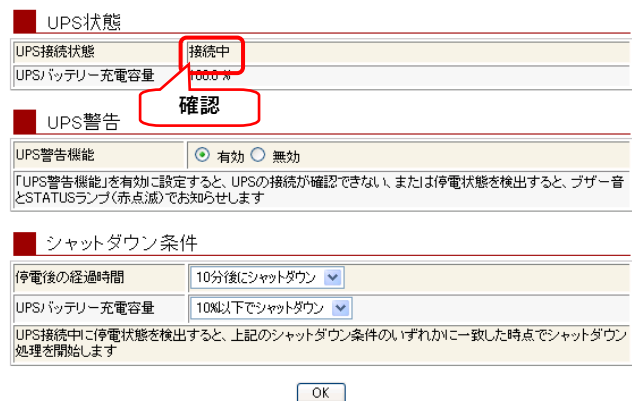
以上で接続は完了です。  
次に正しく接続されているかを確認します。

## STEP2 接続を確認する

**1** 本製品の設定画面の[システム]→[UPS 設定]をクリックします。



**2** [UPS 接続状態]を確認します。



以上で完了です。

**注意**

- エラーメッセージが表示された場合

「UPS が電源に接続されていません。UPS のバッテリー電源で動作している可能性があります。UPS の電源接続を確認してください。この警告が不要な場合は、「UPS 警告機能」を無効に設定してください。」  
→ UPS が正常に接続され、UPS から「電源断」信号を受信した場合に表示します。

「本製品に UPS が接続されていません。UPS の接続を確認してください。この警告が不要な場合は、「UPS 警告機能」を無効に設定してください。」

# UPS 警告機能を有効にする

本製品の USB ポートに接続した UPS 装置の状況によって警告メッセージを表示させるようにします。

- 1** 本製品の設定画面の[システム]→[UPS設定]をクリックします。



- 2** [UPS 警告機能]の[有効]にチェックを付け、[シャットダウン条件]を選択してから、[OK]ボタンをクリックします。

**UPS状態**

UPS接続状態	接続中
UPSバッテリー充電容量	100.0 %

**UPS警告**

UPS警告機能  有効  無効  
[UPS警告機能]を有効に設定すると、UPSの接続が確認できない、または停電状態とSTATUSランプ(赤点滅) **①チェック**

**シャットダウン条件**

停電後の経過時間	10分後にシャットダウン <b>②設定</b>
UPSバッテリー充電容量	10%以下でシャットダウン

UPS接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれかに一致し、処理を開始します

**③クリック** OK

以上で完了です。



# DLNA サーバー 機能を利用する

# DLNA サーバー

## 本製品を DLNA サーバーとして使用する際の注意

「DLNA 対応ネットワークメディアプレーヤー」などの DLNA クライアント<sup>※1</sup>なら、ネットワーク経由で本製品内のコンテンツをテレビなどで楽しむことができます<sup>※2</sup>。

※1 DLNA 対応版の弊社製 AVeL LinkPlayer や各家電メーカー製の DLNA ガイドライン準拠「ネットワークメディアプレーヤー」

※2 本製品は DLNA の策定するデジタル機器の相互接続性の標準設計ガイドライン「Home Network Device Interoperability Guidelines v1.0」に対応しています。

ご利用になる前に、以下をご確認ください。



- ライブラリとして公開できる共有フォルダは、共有フォルダのアクセス権が「**全てのユーザに許可**」となっている共有フォルダのみです。
- 本製品で再生できるファイルフォーマットは以下を参照してください。  
【メディアプレーヤーで再生できるファイルフォーマット】（次ページ）
- 本製品は工場出荷時状態で、DLNA サーバー機能が有効となっています。本機能を利用しない場合は、[サービス設定] の [DLNA Server] 機能は無効に設定してください。【サービス設定】（180ページ）参照
- 公開しているフォルダ内のファイル数は、合計 1 万ファイル以内でご利用ください。
- 公開しているフォルダ内のファイルに変化があると、データベースの構築が行われます。この間、クライアントから再生できない場合があります。  
また、DLNA サーバーで公開している共有フォルダへのファイルコピーは、公開していないものより遅くなります。
- パスワード機能はありません。
- FAT フォーマットの増設ハードディスクのファイルを再生する場合、再生できるファイルサイズは 4G-1 バイトまでとなります。
- 本製品の設定中は、ネットワークメディアプレーヤーから接続しないでください。
- ネットワークメディアプレーヤーで再生中に本製品上の再生中のファイルや、ファイルのある共有フォルダを削除したり移動させたりしないでください。
- 同時再生を行ったり、再生中にパソコンから本製品へファイルコピーなどの操作をした場合やバックアップ処理などが起動している場合、再生するファイルによっては動画がコマ落ちしたり、音とびしたりすることがあります。
- 公開する共有に含まれるファイル数が多い場合には、DLNA クライアントからの接続に時間がかかります。  
また、公開中の共有にファイルをコピーしたり削除した場合にも、データベース構築が行われるため、時間がかかる場合があります。ファイル数によっては、数時間かかることもあります。
- 本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。  
故障や万一に備えて定期的にデータをバックアップしてください。
- Windows Vista®のネットワークに表示されるアイコンについて  
本製品の DLNA Server 機能を有効に設定している場合、Windows Vista®の「スタート」→「ネットワーク」で開いた画面に追加アイコンが表示されます。ダブルクリックするとメディアプレーヤーが起動する場合がありますが、お使いの PC のメディアプレーヤーが DLNA に準拠していない場合は、本製品の共有フォルダ内のコンテンツの再生はできません。
- 弊社修理センターでは、本製品が故障した場合のデータ復旧は行っておりません。
- 本製品では地デジなどの保護コンテンツを扱うことはできません。

## メディアプレーヤーで再生 できるファイルフォーマット

DLNA クライアントで再生できるファイルのファイルサイズによる制限はありませんが、本製品は以下のファイル拡張子のファイルにのみ対応しています。

※最新の対応情報は弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>)をご覧ください。

種類	ファイル拡張子										
動画	mpg	mpeg	mpeg2	vob	wmv	asf	avi	mts	m2ts	mp4	divx
写真	jpeg	jpg	png	bmp							
音楽	mp3	wma	wav	pcm	lpcm	m4a	mpa				

※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合があります。



- ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で本製品内のファイルを再生する場合、本製品およびネットワークメディアプレーヤーの両方が対応しているファイルフォーマットである必要があります。お使いのネットワークメディアプレーヤーが対応しているファイルかを、ネットワークメディアプレーヤーの取扱説明書などで確認してください。

# メディアプレーヤーから参照できるようにする

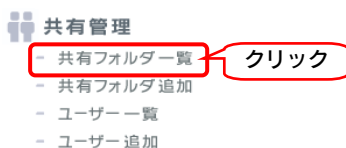
ここでは、DLNA 対応ネットワークメディアプレーヤーから本製品内のデータを参照できるようにする手順について説明します。

参照できるようにするには、参照させる共有フォルダに「DLNA Server で公開」設定する必要があります。  
※本製品には、出荷時すでに「DLNA Server で公開」設定されている「dlna」フォルダがあります。

## STEP 1 公開する共有フォルダを確認する

ネットワークメディアプレーヤーから参照できる共有フォルダを確認します。

**1** 設定画面の「共有管理」→「共有フォルダ一覧」を順にクリックします。



**2** 現在ネットワークメディアプレーヤーに公開されている共有フォルダを確認します。「サービス」欄に「DLNA」と表示されている共有フォルダが公開されているフォルダとなります。

### 新規共有フォルダの追加

新規共有フォルダの追加 共有フォルダを追加します

### 共有フォルダ一覧

共有フォルダ	操作	コメント	サービス
内蔵ボリューム1の共有			
disk1	詳細 変更 削除	HDL4-G RAID volume	Win Mac
dlna	詳細 変更 削除	HDL4-G DLNA share	Win Mac DLNA
itunes	詳細 変更 削除	HDL4-G iTunes share	Win Mac iTunes
USB 本ボリューム2の共有			
usb2	詳細 変更 削除	HDL4-G USB2 disk	Win Mac

確認

注意

●共有フォルダの一覧の「サービス」欄に「DLNA」と表示されている共有フォルダが無い場合は、ネットワークメディアプレーヤーで見ることができません。  
【参照できる共有フォルダを追加・削除する】の102ページをご覧になり、参照できる共有フォルダを追加してください。

## STEP 2 DLNA Server サービスを確認する

**1** 設定画面の「ネットワーク」→「サービス設定」を順にクリックします。



**2** 「サービス設定画面」で「DLNA Server」にチェックがついていることを確認します。  
チェックがついていない場合は、チェックをつけて、「OK」ボタンをクリックしてください。



以上でネットワークメディアプレーヤーで見ることができる共有フォルダの設定は完了です。  
次に実際にネットワークメディアプレーヤーからアクセスできるかを確認します。

## STEP3 ネットワークメディアプレーヤーからアクセスする

ネットワークメディアプレーヤーからのアクセス方法については、お持ちの「ネットワークメディアプレーヤー」の取扱説明書を参照してください。

以下は、弊社製 AVeL LinkPlayer (DLNA 対応版) からのアクセス手順の例です。



●ネットワークメディアプレーヤーで本製品が表示されない！

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の228ページ

●ネットワークメディアプレーヤーに表示されない、あるいは、再生できないファイルがある！

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の228ページ

## 参考： DLNA 対応の AVeL LinkPlayer からのアクセス手順

ここでは、DLNA 対応の AVeL LinkPlayer からのアクセス手順を例として説明します。

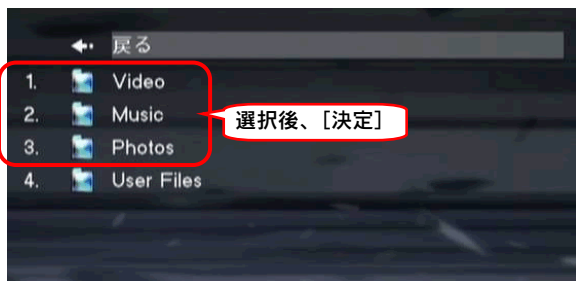
**1** AVeL LinkPlayer をネットワークに接続します。  
※詳細については、AVeL LinkPlayer の取扱説明書を参照してください。

**2** AVeL LinkPlayer を起動すると自動的に「LANDISK」を認識します。  
表示された本製品を選択後、リモコンの「決定」ボタンを押します。



▲設定されている本製品の名前が表示されます。

**3** 再生したい種類（[Video] [Music] [Photos]）を選択後、リモコンの「決定」ボタンを押します。



**4** [DLNA Server で公開] 設定した共有フォルダ内のデータ一覧が表示されます。



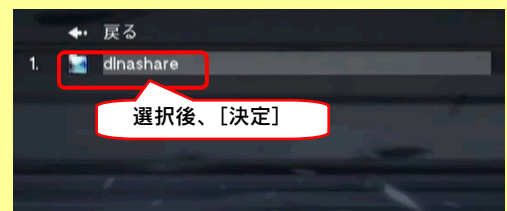
●弊社製 AVeL LinkPlayer でのムービーの再生方法などについては、弊社製 AVeL LinkPlayer の取扱説明書をご覧ください。

●複数の共有フォルダを [DLNA Server で公開] 設定した場合は、それらすべての共有フォルダ内のデータ一覧として表示されます。（共有フォルダ別には表示されません。）

●共有フォルダの一覧表示にしたい場合・・・

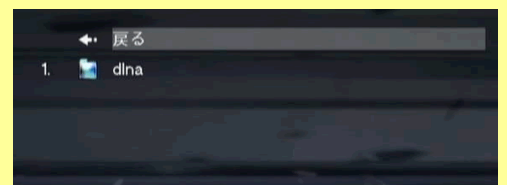
①共有フォルダ毎にデータを確認したい場合は、上記 3の  
手順の「User Files」で確認できます。

②以下の画面が表示されますので、「dlnashare」を選択後、  
リモコンの「決定」ボタンを押します。



③本製品で公開した共有フォルダ一覧が表示されます。

▼製品出荷状態の表示例



以上ですべての設定は終了です。

# 参照できる共有フォルダを追加・削除する

ネットワークメディアプレーヤーからの本製品内のデータの参照は、共有フォルダ単位での設定で行います。ここでは、参照できる共有フォルダを追加したり、逆に参照できなくする手順について説明します。

**7** 設定画面の [共有管理] → [共有フォルダ一覧] を順にクリックします。



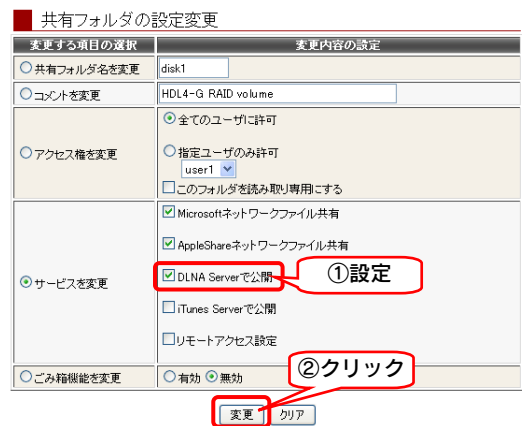
**2** 現在、ネットワークメディアプレーヤーに公開されている共有フォルダを確認します。  
[サービス] 欄に [DLNA] と表示されている共有フォルダがネットワークメディアプレーヤーに公開されている共有フォルダです。



**3** 追加して公開したい、あるいは、公開させなくする共有フォルダ名横の [変更] ボタンをクリックします。



**4** 公開させる場合は、[DLNA Serverで公開] をチェックします。  
公開をやめる場合は、[DLNA Serverで公開] のチェックを外します。  
設定後、[変更] ボタンをクリックします。  
※ネットワークメディアプレーヤーに公開できる共有は、アクセス権設定が「全てのユーザーに許可」の場合のみ選択できます。



**注意** この [共有フォルダの設定変更] 画面で変更できるのは、同時に1つの項目のみです。  
公開するために他の設定も変更する場合は、[DLNA Serverで公開] 設定の後で再度この画面を開いて他の項目を変更してください。

**5** [結果] の画面が表示されます。  
[対象サービス] に [DLNA Serverで公開] が表示されていること (公開設定した場合)、あるいは、[DLNA Serverで公開] が表示されていないこと (公開設定した場合) をご確認ください。

## ▼公開設定した場合の例



以上でネットワークメディアプレーヤーで見ることができ、あるいは、見えなくさせる共有フォルダの設定は完了です。

# アクセスできるメディアプレーヤーを制限する

一部の「ネットワークメディアプレーヤー」で再生できなくする（アクセスできなくする）手順について説明します。

本製品の「DLNA Server」設定を有効にした場合、同一ネットワーク内のすべての「ネットワークメディアプレーヤー」からデータを再生できるように設定されます。

一部の「ネットワークメディアプレーヤー」で再生できなくする（アクセスできなくする）には以下の手順を行います。



アクセス制限を行うには、「ネットワークメディアプレーヤー」から事前に一度本製品にアクセスしておく必要があります。

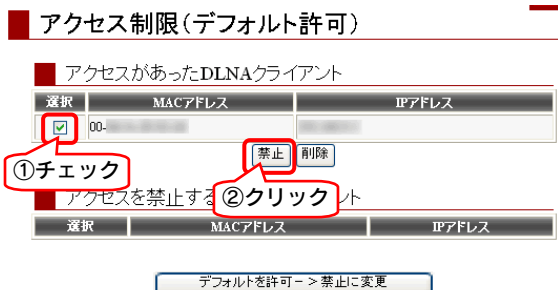
**1** 設定画面の「ネットワーク」→「サービス設定」を順にクリックします。



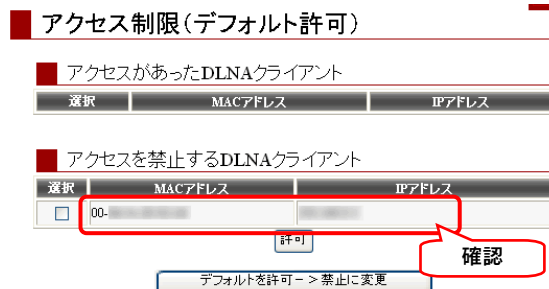
**2** 「DLNA Server」横の「アクセス制限」をクリックします。



**3** 「アクセスがあった DLNA クライアント」一覧からアクセスを禁止する DLNA クライアント（ネットワークメディアプレーヤー）の「選択」をチェック後、「禁止」ボタンをクリックします。



**4** 選択した DLNA クライアントが、「アクセスを禁止する DLNA クライアント」一覧に移動したことを確認します。



上記設定変更後は、ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）を起動しなおしてください。

これで、選択したネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）からは本製品にアクセスできなくなります。

※アクセスを禁止したネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）を元に戻す（アクセスを許可させる）場合は、画面の禁止したネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）横の「選択」ボタンをチェック後、「許可」ボタンをクリックすれば戻ります。

初期設定をアクセス禁止にする設定にしたい場合は、以下の個所を参照してください。

[【初期設定をアクセスを禁止する設定にする場合】](#)  
(次ページ)

## 初期設定をアクセスを禁止する設定にする場合

複数のネットワークメディアプレーヤーの内、アクセス禁止よりも、アクセス許可のネットワークメディアプレーヤーの方が少ない場合には、初期設定をアクセス禁止（デフォルトを禁止）にし、許可するネットワークメディアプレーヤーのみを選択することもできます。

**7** 上記アクセス設定画面の「[デフォルトを許可->禁止に変更]」ボタンをクリックします。  
ボタンが「[デフォルトを禁止->許可に変更]」になります。

これで、今後本製品にアクセスする新規のネットワークメディアプレーヤーはすべてアクセス禁止になります。

※以前にアクセスを許可したネットワークメディアプレーヤーは、「[アクセスを許可する DLNA クライアント]」欄に表示され、許可した設定のままとなります。

### アクセス制限(デフォルト許可)

■ アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

■ アクセスを禁止するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

許可

クリック

デフォルトを許可->禁止に変更

### アクセス制限(デフォルト禁止)

■ アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

■ アクセスを許可するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

禁止

デフォルトを禁止->許可に変更

**2** 以前にアクセス許可をしたネットワークメディアプレーヤーを禁止に変更する場合は、「[アクセスを許可する DLNA クライアント]」一覧から禁止する DLNA クライアント横の「[選択]」ボタンをチェック後、「[禁止]」ボタンをクリックすれば禁止となります。

### アクセス制限(デフォルト禁止)

■ アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

■ アクセスを許可するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	00-...	...

禁止

①チェック

②クリック

デフォルトを禁止->許可に変更

右上へ

左下より

### アクセス制限(デフォルト禁止)

■ アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

許可 削除

■ アクセスを許可するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

デフォルトを禁止->許可に変更

**3** アクセス禁止しているネットワークメディアプレーヤーを許可に変更する場合は、「[アクセスがあった DLNA クライアント]」一覧から許可する DLNA クライアント横の「[選択]」ボタンをチェック後、「[許可]」ボタンをクリックすれば許可となります。

### アクセス制限(デフォルト禁止)

■ アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	00-...	...

①チェック 許可 削除

■ アクセスを許可するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

②クリック

デフォルトを禁止->許可に変更

### アクセス制限(デフォルト禁止)

■ アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

■ アクセスを許可するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

禁止

デフォルトを禁止->許可に変更

上記設定変更後は、ネットワークメディアプレーヤーを起動しなおしてください。



# 動画管理ソフト Quick:FLO を使う

# Quick:FLO について

## ■Quick:FLO とは？

「ハードディスクに動画がいっぱいになっている。」 「子供や家族のプライベート動画がどこにあるかわからない。」  
こんな時に便利なのが、Quick:FLO です。

Quick:FLO は、あらかじめ設定したハードディスクの対象フォルダを常に監視し、バックグラウンドにて、動画ファイルから 10 コマのサムネイルを作成します。Quick:FLO ビューワーにより、動画の中身が、一目で理解できます。

従来の Windows 縮小表示では、動画の 1 コマ目しか表示されないため、中身を把握するには、実際に動画プレーヤーを起動し、中身を確認する方法しかありませんでした。

動画が、テラバイトハードディスクを埋め尽くすようなコンテンツ数ですと、その動画を把握するだけでも、非常に多くの時間を使ってしまうます。

Quick:FLO は、動画を把握しやすくするため、1 つの動画の全体から、サムネイル画像を、自動的に作成し、データベース登録することで、高速閲覧できます。

このため、動画の発見から、閲覧までが非常にスピーディに行えます。また、検索機能やカテゴリ分類、コメントなどの情報登録もできますので、動画の整理、管理なども行えます。

また、あらかじめデータベースに登録しますので、外付ハードディスクでも、つながっていないオフライン状態でも、動画を探すことができますので、大量の動画をお持ちのユーザーに最適です。

## ■対応動画

Quick:FLO では、Windows の標準で再生可能な動画について、対応しております。

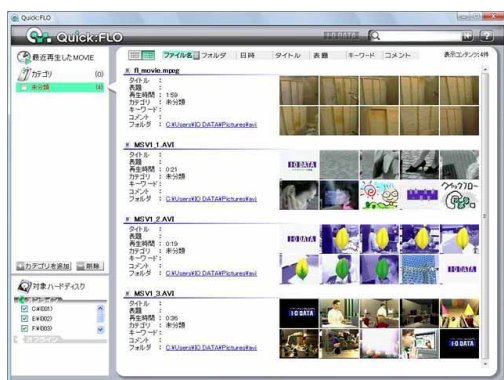
- ・ MPEG 形式
- ・ Windows Media Video 形式
- ・ AVI 形式

ただし、DirectShow プラグインを利用できますので、市販やフリーなプラグインを利用することで、あらゆる動画コーデックに対応できます。

※動作を保証するものではありません。

## ■動作環境

対応パソコン	メインメモリ 1GB 以上を搭載した Pentium4 1.0GHz 以上の CPU を搭載した DOS/V パソコン
対応 OS	Windows Vista®(64bit/32bit) / Windows XP(32bit)
コンテンツ登録数制限	最大動画ファイル:10,000 個、最大サムネイル数:100,000 個
その他	Net Framework ランタイム 2.0/DirectX 9.0 以上の環境が必要

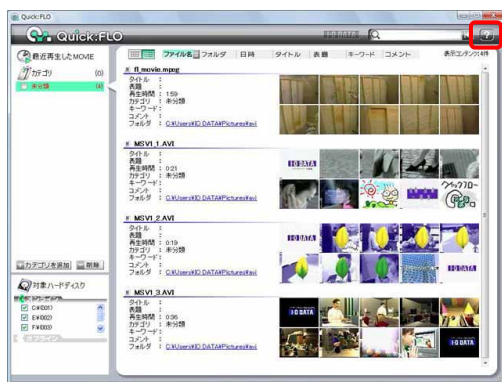


# Quick : FLO をインストールする

- 1 パソコンを起動します。
- 2 添付 DVD をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの[サポートソフトインストール]→[Quick:FLO]をクリックします。
- 3 あとは、画面表示にしたがってインストールを行ってください。

## Quick : FLO ヘルプのみかた

Quick:FLO の使い方については、ヘルプをご覧ください。  
画面右上の？マークをクリックすると表示されます。



クリック



# iTunes サーバー 機能を利用する

# iTunes サーバー

## 本製品を iTunes サーバーとして使用する際の注意

本製品の iTunes サーバー機能で公開した音楽ファイルは、iTunes をインストール済みのネットワーク接続されたパソコン上で再生することができます。

本製品の iTunes サーバー機能を利用するには、以下の iTunes が必要です。

Windows XP/2000 の場合…iTunes7 以降

Mac OS X の場合…iTunes7 以降または 6.0.5

iTunes は apple 社のホームページ (<http://www.apple.com.jp/itunes/download/>) より入手することができます。

ご利用になる前に、以下をご確認ください。



●ライブラリとして公開できる共有フォルダは、共有フォルダのアクセス権が **[全てのユーザに許可]** となっている共有フォルダのみです。

●本製品で公開できるファイルフォーマットは以下を参照してください。

[【iTunes Server で公開できるファイルフォーマット】](#) (次ページ)

●本製品は工場出荷時状態で、iTunes サーバー機能が有効となっています。本機能を利用しない場合は、[サービス設定] の [iTunes Server] 機能は無効に設定してください。 [【サービス設定】](#) (180ページ) 参照

●公開しているフォルダ内のファイル数は、合計 1 万ファイル以内でご利用ください。

●公開しているフォルダ内にファイルの追加・削除を行った場合、最新状態を iTunes に反映するには、データベースの更新操作が必要です。データベースの更新中は、iTunes から再生できません。

●公開する共有に含まれるファイル数が多い場合には、iTunes からの接続に時間がかかる場合があります。

●FAT フォーマットの増設ハードディスクのファイルを再生する場合、再生できるファイルサイズは 4G-1 バイトまでとなります。

●iTunes 再生中に本製品上の再生中のファイルや、ファイルのある共有フォルダを削除したり移動させたりしないでください。

●同時再生を行ったり、再生中にパソコンから本製品へファイルコピーなどの操作をした場合やバックアップ処理などが起動している場合、再生するファイルによっては動画がコマ落ちしたり、音とびしたりすることがあります。

●MP3 の ID3 タグ情報の文字は、UTF-16 のエンコーディングに対応しています。

UTF-16 以外の形式でエンコードされた ID3 タグ情報は、iTunes 上で曲名、アーティスト名、アルバム名などの情報が文字化けして見える場合があります。

●iTunes Store で購入した著作権保護されたファイルを共有する場合、iTunes にて再生しようとすると、「コンピュータ認証」画面が表示される場合があります。これは、iTunes の著作権管理機能により、著作権保護されたファイルを再生する場合の手続きになります。「コンピュータ認証」画面で認証を行うことで、最大 5 台まで著作権保護されたファイルを再生することができます。

●本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。故障や万一に備えて定期的にデータをバックアップしてください。

●弊社修理センターでは、本製品が故障した場合のデータ復旧は行っておりません。

# iTunes Server で公開 できるファイルフォーマット

本製品は以下のファイル拡張子のファイルのみ可能です。

種類	ファイル拡張子		
音楽	mp3	m4a	m4p

※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合があります。

# iTunes から再生できるようにする

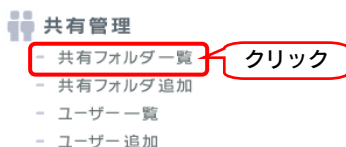
ここでは、iTunes から本製品内の音楽ファイルを再生できるようにする手順について説明します。

再生できるようにするには、iTunes に公開する共有フォルダに [iTunes Server で公開] 設定する必要があります。  
 ※本製品には、出荷時すでに [iTunes Server で公開] 設定されている [itunes] フォルダがあります。

## STEP 1 公開する共有フォルダを確認する

iTunes から参照できる共有フォルダを確認します。

1 設定画面の [共有管理] → [共有フォルダ一覧] を順にクリックします。



2 現在ネットワークメディアプレーヤーに公開されている共有フォルダを確認します。[サービス]欄に[iTunes]と表示されている共有フォルダが公開されているフォルダとなります。



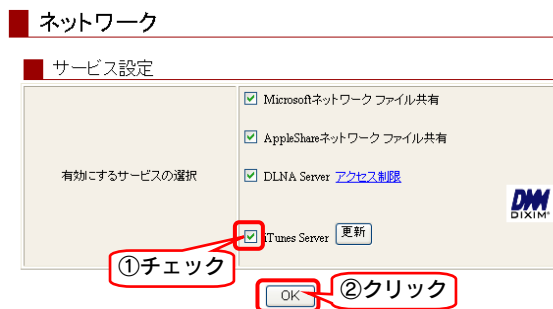
**注意** ●共有フォルダの一覧の[サービス]欄に[iTunes]と表示されている共有フォルダが無い場合は、ネットワークメディアプレーヤーで見ることができません。  
 【公開する共有フォルダを追加・削除する】の113ページをご覧ください。

## STEP 2 iTunes Server サービスを確認する

1 設定画面の [ネットワーク] → [サービス設定] を順にクリックします。



2 [サービス設定画面]で [iTunes Server]にチェックがついていることを確認します。  
 チェックがついていない場合は、チェックをつけて、[OK] ボタンをクリックしてください。



## STEP 3 データベースを更新する

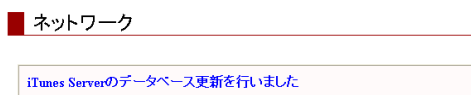
1 設定画面の [ネットワーク] → [サービス設定] を順にクリックします。



2 [サービス設定画面]で [iTunes Server]の[更新]ボタンをクリックします。



3 iTunes Server のデータベース更新が行われます。



以上で iTunes で再生することができる共有フォルダの設定は完了です。

次に実際に iTunes からアクセスできるかを確認します。

## STEP4 iTunes からアクセスする

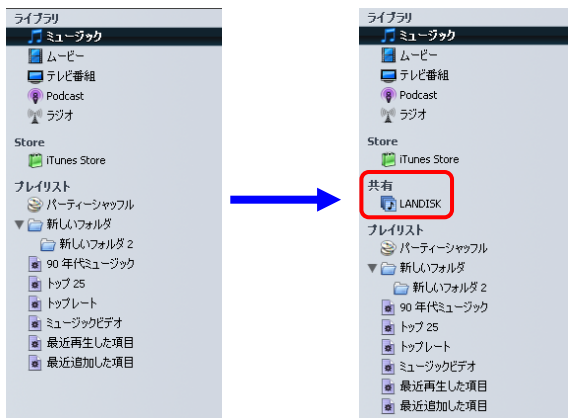
以下は、アクセス手順の例です。

- iTunes で本製品が表示されない！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の230ページ
- iTunes に表示されない、あるいは、再生できないファイルがある！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の230ページ

## 参考：iTunes からのアクセス手順

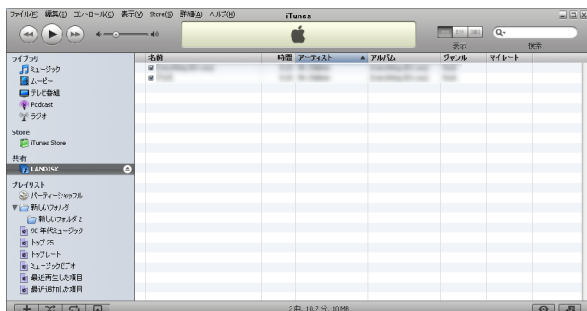
**1** 本製品と同じネットワークに接続されたパソコンの iTunes を起動します。

**2** iTunes が起動すると、自動的に本製品の LANDISK の名前が iTunes の共有に表示されます。



**注意** ● LANDISK の名前を変更している場合は、変更した名前が表示されます。

**3** iTunes に表示された LANDISK の名前をクリックすると、本製品の iTunes サーバー機能で公開されている音楽ファイルが表示されます。



曲名をダブルクリックするとパソコンで音楽ファイルを再生します。



# 公開する共有フォルダを追加・削除する

iTunes からの本製品内のデータの参照は、共有フォルダ単位での設定で行います。  
ここでは、参照できる共有フォルダを追加したり、逆に参照できなくする手順について説明します。

**7** 設定画面の [共有管理] → [共有フォルダ一覧] を順にクリックします。



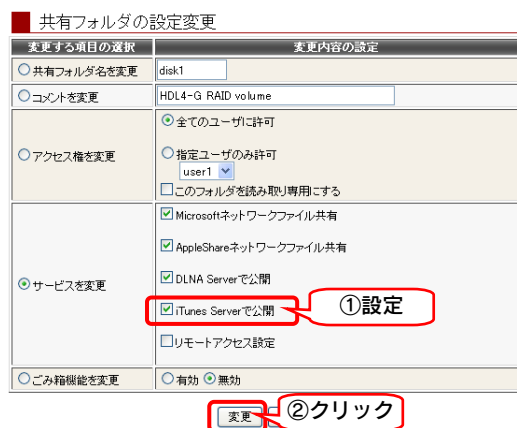
**2** 現在、iTunes に公開されている共有フォルダを確認します。  
[サービス] 欄に [iTunes] と表示されている共有フォルダがネットワークメディアプレーヤーに公開されている共有フォルダです。



**3** 追加して公開したい、あるいは、公開させなくする共有フォルダ名横の [変更] ボタンをクリックします。



**4** 公開させる場合は、[iTunes Serverで公開] をチェックします。  
公開をやめる場合は、[iTunes Serverで公開] のチェックを外します。  
設定後、[変更] ボタンをクリックします。  
※iTunes に公開できる共有は、アクセス権設定が「全てのユーザに許可」の場合のみ選択できます。



**注意** この [共有フォルダの設定変更] 画面で変更できるのは、同時に 1 つの項目のみです。  
公開するために他の設定も変更する場合は、[iTunes Serverで公開] 設定の後で再度この画面を開いて他の項目を変更してください。

**5** [結果] の画面が表示されます。  
[対象サービス] に [iTunes Serverで公開] が表示されていること (公開設定した場合)、あるいは、[iTunes Serverで公開] が表示されていないこと (公開設定した場合) をご確認ください。

▼公開設定した場合の例



以上で、iTunes で見ることができ、あるいは、見えなくさせる共有フォルダの設定は完了です。

# リモートリンク機能を利用する

## 本製品のリモートリンク機能を使用する場合の注意

弊社 (I-O DATA) が提供するダイナミック DNS サービス「iobb.net」について説明します。

リモートリンク機能を使用するには、弊社が提供するダイナミック DNS サービスである「iobb.net」を使用します。ダイナミック DNS とは、仮想サーバーなどを公開する場合に、IP アドレスを指定せずにドメイン名で指定できるようにする機能です。接続するたびに IP アドレスが変わってしまう場合でも、ダイナミック DNS サービスを利用すれば、常にドメイン名でアクセスできます。



### 注意

- リモートリンク機能は HDL4-G シリーズのファームウェア Ver.1.20 よりお使いいただけます。Ver.1.20 以前のファームウェアでお使いの場合は【[ファームウェアを更新する](#)】(137ページ)を参照の上、最新のファームウェアに更新してください。なお、ファームウェアを更新後に設定画面を開く際、一度お使いの Web ブラウザのインターネット一時ファイル(キャッシュ)を削除してください。
- 本製品は「iobb.net」以外のダイナミック DNS サービスには対応していません。
- アクセスしようとしているサーバーと同じ LAN 内でのパソコンからはドメイン名ではアクセスできません。外部の別のネットワークからドメイン名でアクセスできる事をご確認ください。サーバーと同じ LAN 内から接続する場合は、ローカル IP アドレスでアクセスしてください。
- リモートリンク機能をご利用になる場合は、FTTH(光)、ADSL、CATV 等のブロードバンド回線をご用意ください。
- ホームメディアリンク機能を利用して外出先から自宅の本製品のコンテンツの再生を行う場合、本製品およびホームメディアリンククライアントを動作させるインターネット環境は FTTH(光)などの高速回線(実効速度 10Mbps 程度の回線速度を想定)を推奨します。
- 高ビットレートの動画コンテンツ(8Mbps 以上)は正常に再生できない場合があります。
- ホームメディアリンク機能は、お客様のご利用環境、通信環境、接続回線の混雑状況により映像が乱れる、途切れる、見えない等の品質劣化が生じる場合があります。予めご了承ください。
- 以下の環境の場合、リモートリンク機能が正常にご利用いただけない場合があります。
  - ・ ルーターを多重に接続されている場合
  - ・ ご利用のプロバイダとの契約によりローカル IP が配布されている場合
  - ・ 企業等、通信が制限されている高セキュリティの環境の場合
  - ・ ルーターが無くモデムのみ環境の場合
  - ・ ダイアルアップや ISDN 等、ナローバンド回線をご利用の場合

# iobb.net に登録する

## STEP1 仮登録する

**1** 詳細設定の画面左側のメニューから[リモートリンク]→[iobb.net 設定]をクリックします。

- 2** 以下の順に設定します。
- ①[iobb.net へ登録・更新]を[有効]にチェックをつけます。
  - ②[シリアル番号]に本製品のシリアル番号（12桁の英数字）を入力します。  
※本製品貼付のシールに記載されています。
  - ③[ホスト名]に iobb.net に登録するホスト名を入力します。  
※ここで登録するホスト名が iobb.net で登録するドメイン名「http://(ホスト名).iobb.net/」となります。
  - ④[パスワード]、[確認パスワード]に iobb.net に登録するパスワードを入力します。  
※iobb.net の登録情報の確認、変更の為に必要です。  
パスワードは確認のため、2回入力してください。
  - ⑤[メールアドレス]に iobb.net から送信される登録通知メールを受信するメールアドレスを入力します。  
※iobb.net は仮登録と本登録があり、それぞれ入力したメールアドレス宛に通知メールが送られます。
  - ⑥[UPnP 機能利用]の[使う]にチェックをつけます。  
※UPnP 機能はリモートリンクを利用する上で必要な機能です。
  - ⑦[OK]ボタンをクリックします。

HID44 I/O DATA  
LAN DISK (home) (PC)

- 情報表示
- ネットワーク
- 共有管理
- ボリューム
- メール
- システム
- リモートリンク
  - iobb.net 設定
  - リモートアクセス
  - ホームメディアリンク
  - マイウェブサーバー
- ログオフ

### 設定

#### リモートリンク

iobb.net設定	
jobb.netへの登録・更新	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
ステータス	jobb.net更新は無効です。
シリアル番号	
ホスト名	iobb.net
パスワード	
確認パスワード	
メールアドレス	
UPnP機能利用	<input type="radio"/> 使わない <input checked="" type="radio"/> 使う

OK

**注意** ●使用できる文字については、【文字制限一覧】（166ページ）をご覧ください。

**3** 入力内容が表示されますので、確認の上、[OK]ボタンをクリックします。  
→iobb.netの登録処理が始まります。

#### iobb.net設定 登録・設定内容の確認

jobb.netへの登録・更新	有効
シリアル番号	
ホスト名	
パスワード	****
メールアドレス	
UPnP機能利用	使う

クリック

OK 戻る

**4** しばらくすると、以下のような画面が表示されます。

HID44 I/O DATA  
LAN DISK (home) (PC)

#### 結果

現在の内容で、仮登録が完了しました。通知メールを確認し、iobb.netサービスを開始してください。

- 情報表示
- ネットワーク
- 共有管理
- ボリューム
- メール
- システム
- リモートリンク
  - iobb.net 設定
  - リモートアクセス
  - ホームメディアリンク
  - マイウェブサーバー
- ログオフ

これで仮登録は完了です。

**注意** ●画面にエラーが表示される場合は、エラー内容にしたがって、入力し直し、再度[確認する]ボタンをクリックしてください。

- 一部の環境では、LAN DISK の設定画面から UPnP 機能を使用してポート設定ができないことがあります。  
この場合は、設定画面から UPnP 機能を使わないを選び、お使いのルーターの設定画面より手動でポートを開放の設定をしてください。  
ポートの開放方法については、お使いのルーターの取扱説明書を参照してください。  
※「ポートの開放」はお使いのルーターによって、「ポートフォワーディング」や「仮想サーバー」などと表記される場合があります。

## STEP2 本登録する

**1** iobb.net より仮登録の通知メール（件名：ダイナミック DNS サービス「iobb.net」申込みのご案内(xxx.iobb.net)）が送信されますので、通知メールの内容にしたがい、本登録のための登録フォームにアクセスします。

様  
このたび、アイ・オー・データ機器提供のダイナミックDNSサービス「iobb.net」へお申し込み頂きありがとうございます。  
本サービスの受付の確認のメールです。  
もしこのメールに思い当たるところのない方は、申し訳ありませんがこのメールを削除して下さい。  
ダイナミックDNSサービス開始をご希望の方は下記のリンクをクリックまたは、ブラウザでお開き下さい。  
（ただしこの操作は、1回のみとして下さい。  
ダイナミックDNSサービス「iobb.net」開始のご案内メールを差し上げます。）

**注意**

● 仮登録後 1 時間経つと、iobb.net 設定が無効となります。この場合は本登録を行った後、再度設定を有効にしてください。

**2** 登録フォームの指示にしたがって、iobb.net の本登録を行います。

ダイナミックDNSサービス  
**iobb.net**  
iobb.netサービスに登録します。  
利用者登録規約をよくお読みになり、「同意する」「同意しない」をお選びください。  
利用者登録規約  
登録フォーム  
メール送信  
登録完了  
ダイナミックDNSサービス利用登録規約  
この規約は、株式会社アイ・オー・データ機器（以下、弊社という）が提供するダイナミックDNSサービス（以下「本サービス」）を利用する際の条件 並びにお客様（以下、利用者という）が本サービスをご利用の結果収集される利用者情報の取扱いを定めたものです。  
・「ダイナミックDNSサービスのご利用について」以下の本規約は、当サイトで弊社のダイナミックDNSサービスをご利用する際に適用されます。ご利用の前にお読み頂き、ダイナミックDNSサービスを利用中に必要に応じて承認してください。  
当サイトをご利用頂くことは、皆さまが本利用者登録規約に同意したものとみなします。従って、何らかの理由で規約に同意できない場合は、本サービスの利用はできません。

次のように表示されたら、iobb.net の登録は完了です。

ダイナミックDNSサービス  
**iobb.net**  
登録が完了しました。  
利用者登録規約  
登録フォーム  
メール送信  
登録完了  
ダイナミックDNSサービスを開始しました。  
サービス開始のご案内メールを送信しました。  
詳細・設定変更などについてはメールをご覧ください。  
ユーザー登録がお済みでないお客様は、この機会にオンラインユーザー登録をお済ませください。  
[オンラインユーザー登録はこちら](#)  
[トップページへ](#)

**注意**

● 仮登録完了後、改めて設定画面（iobb.net 設定）を開き直すと、以下のように表示されますが、本登録が済んでいないためです。本ページの本登録を完了してください。「シリアル番号、パスワードが間違っているか、ダイナミック DNS サービスが開始されていません」

iobb.net設定  
iobb.netへの登録・更新  無効  有効  
ステータス シリアル番号、パスワードが間違っているか、iobb.netが開始されていません  
シリアル番号  
ホスト名 iobbnet  
パスワード  
確認パスワード  
メールアドレス  
UPnP機能利用  使わない  使う  
OK

**3** iobb.net の本登録完了のメールが送信されます。

本登録後、設定画面に戻ると、以下のように表示されます。

リモートリンク  
ヘルプ  
iobb.net設定  
iobb.netへの登録・更新  無効  有効  
ステータス 正しく設定されています  
シリアル番号  
ホスト名 iobbnet  
パスワード  
確認パスワード  
メールアドレス  
UPnP機能利用  使わない  使う  
OK  
情報表示  
ネットワーク  
共有管理  
ポリシー  
メール  
システム  
リモートリンク  
- iobb.net 設定  
- リモートアクセス  
- ホームメディアリンク  
- マイウェブサーバー  
ログオフ

iobb.net のサイトから登録情報の確認と変更が行えます。Web ブラウザーで次の URL を入力すると画面が表示されます。

http://www.iobb.net/ddns/xxx.iobb.net/

※xxx は登録したホスト名になります。

（サイトにアクセスする際、登録した製品シリアル番号とパスワードの入力が必要です。）

ダイナミックDNSサービス  
**iobb.net**  
登録内容を変更できません。  
登録変更画面  
\*\*\*\*\* 様の登録情報  
あなたのシリアル番号 \*\*\*\*\*   
あなたのホスト名 \*\*\*\*\*   
あなたのメールアドレス \*\*\*\*\*   
IPアドレス \*\*\*\*\*

これで、iobb.net の登録は完了しました。次に【リモートアクセス】（次ページ）の設定を行ってください。

# リモートアクセス

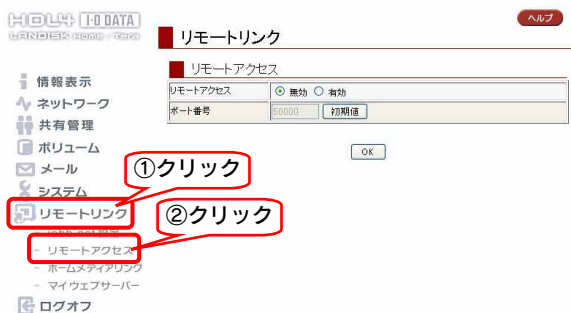


●リモートアクセスにログインできるのは、同時に3ユーザーまでです。

## リモートアクセスの設定を行う

本製品の共有フォルダを「公開フォルダ」として設定することで、インターネット経由で外部からファイルにアクセスできる「リモートアクセス機能」を以下の方法で設定します。

**1** 詳細設定の[リモートリンク]→[リモートアクセス]をクリックします。

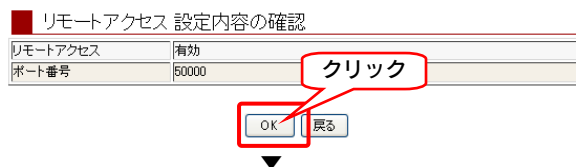


**2** 以下の順に設定します。  
①[リモートアクセス]を[有効]にします。  
②[ポート番号]にリモートアクセスに使用するポート番号を入力します。  
③[OK]ボタンをクリックします。



- ポート番号の設定は通常初期設定値からの変更は必要ありません。  
ただし、同一ネットワーク上で複数のLAN DISK Homeでリモートアクセスを使用する場合は、それぞれ異なるポート番号を設定する必要があります。
- 画面にエラーが表示される場合は、エラー内容にしたがって、入力し直し、再度[OK]ボタンをクリックしてください。

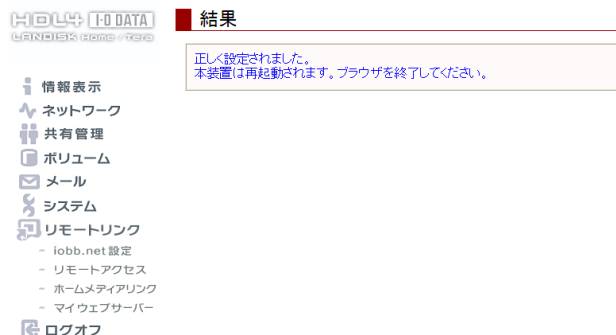
**3** 入力内容が表示されますので、確認の上、[OK]ボタンをクリックします。  
→リモートアクセスの設定処理が始まります。



しばらくお待ちください



次のような画面が表示されたら、設定完了です。



これで、リモートアクセスの設定は完了しました。  
次ページ以降で、リモートアクセスでの操作を説明していますのでご確認ください。

# インターネット経由で共有フォルダにアクセスする

## リモートアクセスにログインするユーザーを確認/登録する

### ■ 新規ユーザの追加

新規ユーザの追加	ユーザを追加します
----------	-----------

### ■ ユーザー一覧

ユーザ名	操作	備考
user1	パスワード変更 削除	

リモートアクセスは、リモートアクセスクライアントをリモートリンクスタートページから実行します。このとき LAN DISK に登録されているユーザーでリモートアクセスクライアントにログインします。LAN DISK に登録されているユーザーを確認するには、設定画面の詳細設定の左側メニューから[共有管理]→[ユーザー一覧]をクリックし、表示されるユーザー一覧を確認してください。

また、ユーザーが登録されていない場合は、新規ユーザーボタンよりユーザーを新規登録してください。【ユーザーを登録する】(57ページ)

リモートアクセスクライアントにログインするユーザーはパスワードを必ず設定してください。パスワードなしのユーザーではリモートアクセスクライアントでログインすることができません。

## リモートアクセスで公開する共有フォルダを設定する

- 1 詳細設定の左側メニューから[共有管理]→[共有フォルダ一覧]をクリックします。
- 2 リモートアクセス共有を有効にしたい共有フォルダの[変更]をクリックします。
- 3 共有フォルダの設定変更にて、[リモートアクセス共有]にチェックをつけ、共有フォルダの設定を変更します。

インターネットから、リモートアクセス機能にて LAN DISK 内のファイルにアクセスする手順について説明します。

## リモートアクセスを開始する

- 1 Web ブラウザでリモートリンクスタートページを開きます。  
http://rm.ioobb.net/
- 2 リモートリンクスタートページの[リモートアクセス]ボタンをクリックします。  
→しばらく待つとリモートアクセスクライアントが起動します。

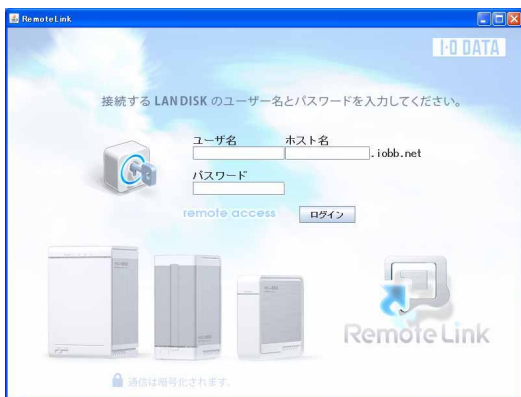
**注意** ● 次のような画面が表示された場合は、「この発行社からのコンテンツを常に信頼します」にチェックをつけて「実行」ボタンをクリックしてください。

● 次のような画面が表示された場合は、お使いのパソコンに Java Runtime Environment がインストールされていません。【Java Runtime Environment をインストールする】(121ページ)の手順にしたがって、Java Runtime Environment をインストールしてください。

### 3

リモートアクセスクライアントにログインします。

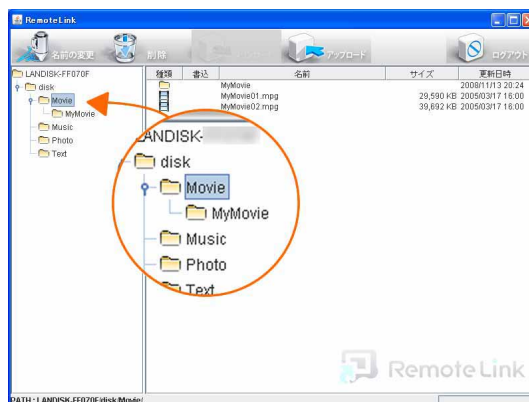
- ①[ユーザー名]に、LAN DISKに登録したユーザー名を入力します。
- ②[ホスト名]に、LAN DISKのiobb.net設定で登録したホスト名を入力します。
- ③[パスワード]に、LAN DISKに登録したユーザーのパスワードを入力します。
- ④[ログイン]ボタンをクリックします。



- リモートアクセスに同時にログインできるのは、3ユーザーまでです。
- リモートアクセスクライアントにログインするユーザーはパスワードを必ず設定してください。パスワードなしのユーザーではリモートアクセスクライアントでログインすることができません。

## 公開するフォルダを参照する

公開するフォルダがツリー構造で表示されます。





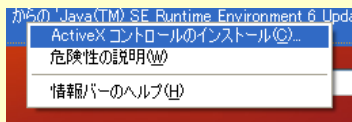
## 【参考】Java Runtime Environment をインストールする

①次のサイトで、Java Runtime をダウンロードします。  
<http://www.java.com/ja/download>



**注意**

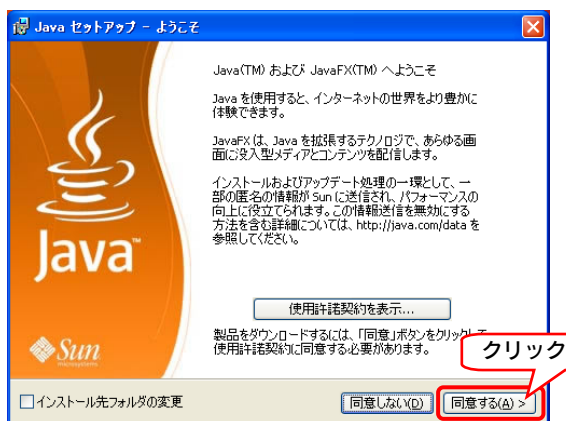
●自動的にダウンロードが開始されずに、エラーが発生した場合は、Web ブラウザのアドレス表示部下の帯部分を右クリックして、「ActiveX コントロールのインストール」をクリックします。



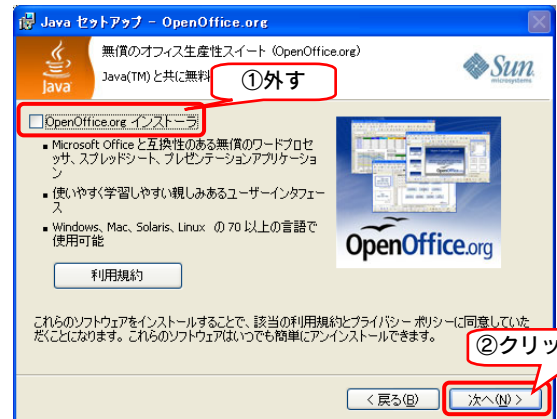
②以下のような画面が表示された場合は、[インストールする]ボタンをクリックします。



③使用許諾契約を確認の上、[同意する]をクリックします。



④オプションソフトウェアのインストールが選択できます。リモートリンク機能を使用する上で、このソフトウェアは必要ないので、チェックボックスのチェックを外して、[次へ]ボタンをクリックします。



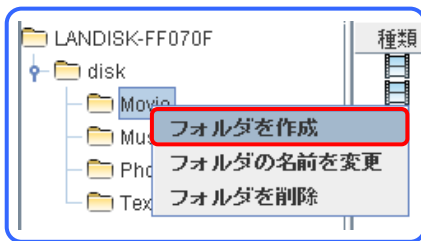
⑤以下の画面で[完了]ボタンをクリックしたら、Java Runtime のインストールが完了です。



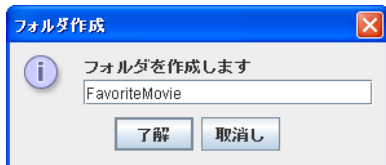
# 使用方法

## フォルダを作成する

- 1 フォルダを右クリックし、表示されたメニューから[フォルダを作成]をクリックします。



- 2 名前を入力し、[了解]ボタンをクリックします。



## ファイルやフォルダの名前を変更する

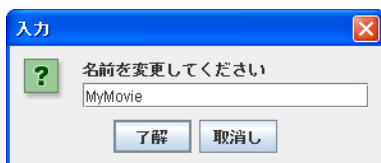
- 1 [名前の変更]ボタンをクリックします。



ファイル/フォルダを選択して、右クリックメニューでも実行できます。



- 2 名前を入力し、[了解]ボタンをクリックします。



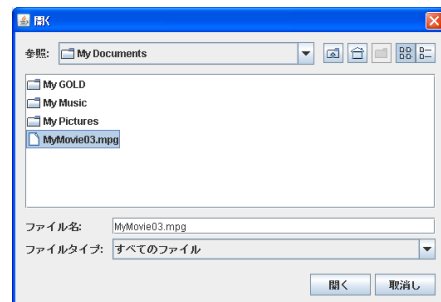
- 注意** ●使用できる文字については、【文字制限一覧】(166ページ)をご覧ください。

## ファイルをアップロードする

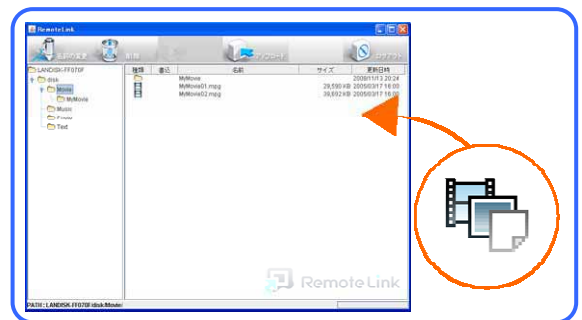
- 1 [アップロード]ボタンをクリックします。



- 2 表示されるファイルダイアログからアップロードするファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。  
→ファイルがLAN DISK内にアップロードされます。






ファイルのアップロードはドラッグ&ドロップでもできます。



- 注意** ●フォルダごとにアップロードすることはできません。フォルダを作成後、作成したフォルダ内にファイルをアップロードしてください。
- すでにアップロードされているファイルを再度アップロードして上書きすることはできません。すでにアップロードされているファイルを削除して、再度アップロードしてください。

## ファイルをダウンロードする




1 ダウンロードするファイルを選択します。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

2 [ダウンロード]ボタンをクリックします。



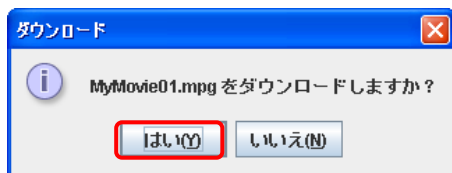
ファイルを選択して右クリックメニューでも実行できます。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

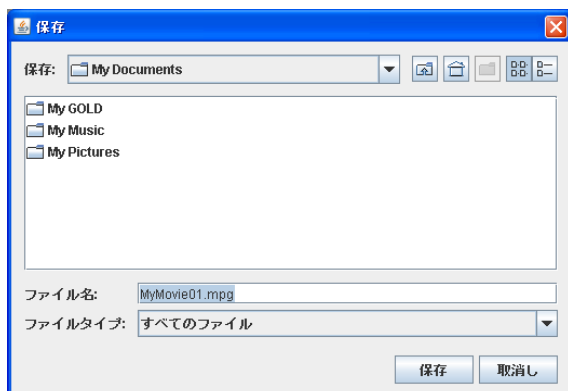
右クリックメニュー:

- ダウンロード
- 名前の変更
- 削除

3 [はい]をクリックします。






4 表示されるファイルダイアログからファイルのダウンロード先を選択し、[保存]ボタンをクリックします。



- フォルダごとにダウンロードすることはできません。フォルダを作成後、作成したフォルダ内にファイルをダウンロードしてください。
- ファイルのダウンロードはドラッグ&ドロップで行えません。

## ファイル/フォルダを削除する




1 削除するファイル/フォルダを選択します。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

2 [削除]ボタンをクリックします。



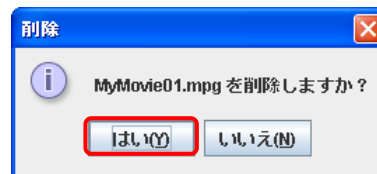
ファイル/フォルダを選択して、右クリックメニューでも実行できます。

種類	書込	名前
		MyMovie
		MyMovie01.mpg
		MyMovie02.mpg

右クリックメニュー:

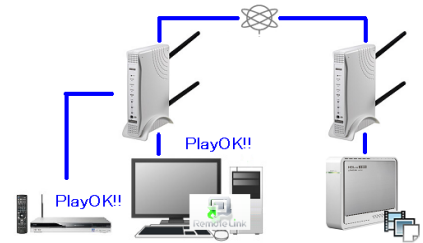
- ダウンロード
- 名前の変更
- 削除

3 [はい]ボタンをクリックすると、削除されます。



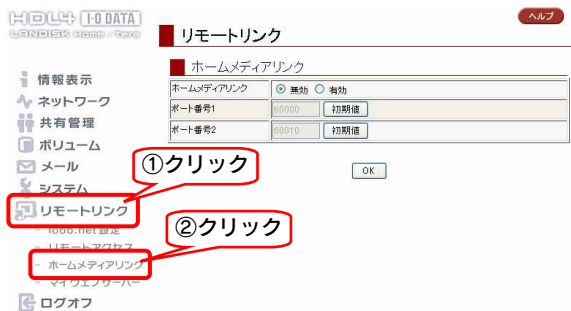
# ホームメディアリンク

異なるネットワーク上にある PC にて、ホームメディアリンククライアントからログインすることで、インターネットを経由して、LAN DISK 上に保存されているコンテンツを再生することが可能になります。

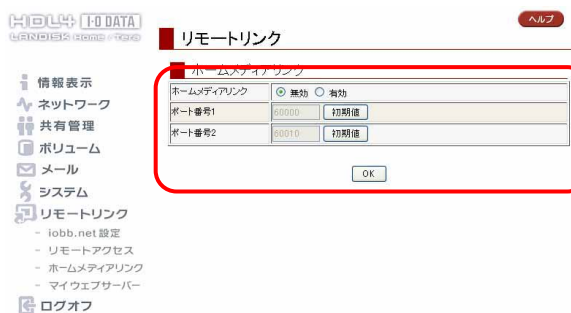


## ホームメディアリンクの設定を行う

7 詳細設定の[リモートリンク]→[ホームメディアリンク]をクリックします。



2 以下の順に設定します。  
①[ホームメディアリンク]を[有効]にします。  
②[ポート番号 1][ポート番号 2]にホームメディアリンクに使用するポート番号を入力します。  
③[OK]ボタンをクリックします。

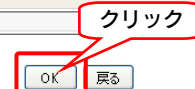


- 注意**
- ポート番号の設定は通常初期設定値からの変更は必要ありません。
  - 画面にエラーが表示される場合は、エラー内容にしたがい、入力しなおしてから、再度[OK]ボタンをクリックしてください。
  - 同一ネットワーク上で複数の LAN DISK Home がホームメディアリンクを使用する場合は、それぞれの LAN DISK home に異なるポート番号を設定してください。

3 入力内容が表示されますので、確認の上、[OK]ボタンをクリックします。  
→ホームメディアリンクの設定処理が始まります。

ホームメディアリンク 設定内容の確認

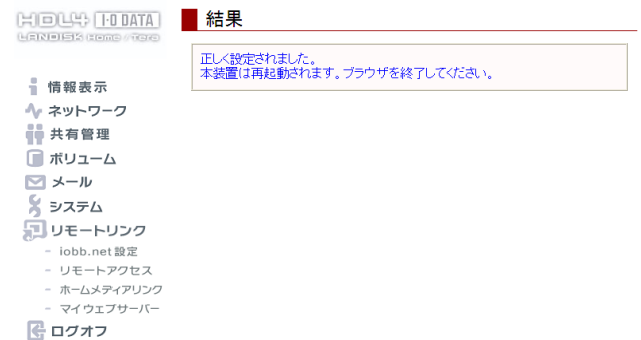
ホームメディアリンク	有効
ポート番号	60000
ポート番号	60010



しばらくお待ちください



次のような画面が表示されたら、設定完了です。



これで、ホームメディアリンクの設定は完了しました。  
次ページで、インターネット経由で LAN DISK 内のコンテンツを再生する方法を説明していますのでご確認ください。

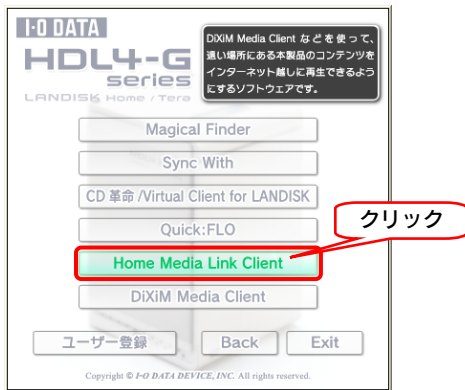
# インターネット経由で LAN DISK 内のコンテンツを再生する

## 各種クライアントソフトをインストールする

**1** 本製品添付の DVD をセットし、起動したサポートソフトのメニューから、[サポートソフトインストール]をクリックします。



**2** [Home Media Link Client]をクリックします。→インストールが始まります。画面の指示にしたがって、インストールを完了させてください。

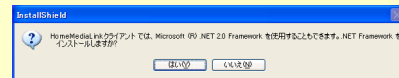


**3** [DiXiM Media Client]をクリックします。→インストールが始まります。画面の指示にしたがってください。



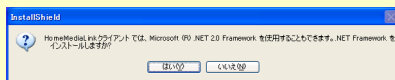
**注意**

●下記画面が表示される場合があります。「はい(Y)」をクリックしてお進みください。

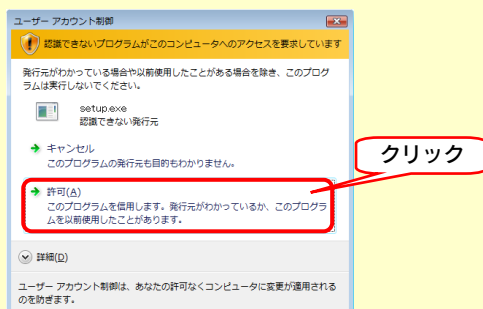


**注意**

●下記画面が表示される場合があります。「はい(Y)」をクリックしてお進みください。



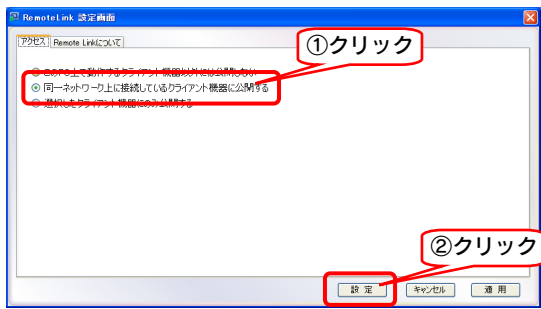
●Windows Vista®の場合、以下の画面が表示されたら、「許可」をクリックしてください。



## Home Media Link Client を起動する

**1** インストールした Home Media Link Client を起動します。  
[スタート]→[(すべての) プログラム]→[I-O DATA]→  
[RemoteLink]→[Home Media Link Client]をクリックして、  
起動してください。

**2** 接続する機器を設定します。  
①ネットワーク上のクライアント機器で再生できるように  
するため、[同一ネットワーク上に接続しているクライ  
アント機器に公開する]をクリックします。  
②[設定]ボタンをクリックします。



? 再生できる機器を限定したい場合は、[選択したクライ  
アント機器にのみ公開する]をクリックします。  
機器のリストが表示されますので、再生できる機器を選択  
して、[公開]ボタンをクリックします。



**3** ログインします。  
①[ユーザ名]に、LAN DISK に登録されたユーザー名を入力  
します。  
②[ホスト]に iobb.net に登録したホスト名を入力します。  
③パスワードに、LAN DISK ユーザーのパスワードを入力し  
ます。  
④[リンク開始]ボタンをクリックします。



## DiXiM Media Client を起動する

**1** DiXiM Media Client を起動し、コンテンツを再生します。  
使用方法については、[スタート] → [すべてのプログラム]  
→ [DigiOn] → [DiXiM ヘルプ] をご確認ください。



**注意**

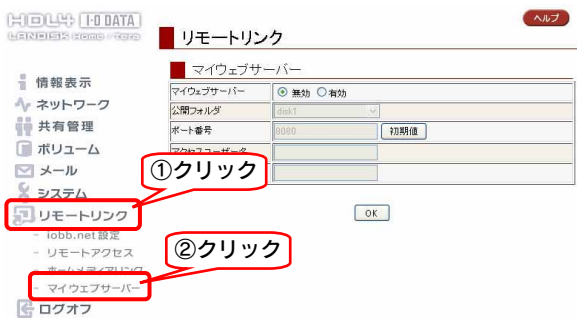
- 1 台の LAN DISK Home に対して、ホームメディアリンククライアントは、2 クライアントまで接続できます。
- 同時再生は 2 台まで対応しています。複数のホームメディアリンククライアントで接続する場合、トータルで 2 台まで再生できます。
- ホームメディアリンククライアントを実行するパソコンはスタンバイ機能を無効に設定してください。

# マイウェブサーバー

マイウェブサーバー機能とは、自分で作成したお好みの Web ページを本製品内に保存し、自分専用の Web サーバーとしてインターネット経由で Web ページを参照することができます。マイウェブサーバー機能の設定は以下の手順で行います。

## マイウェブサーバーの設定を行う

**1** 詳細設定の[リモートリンク]→[マイウェブサーバー]をクリックします。



**2** 以下の順に設定します。

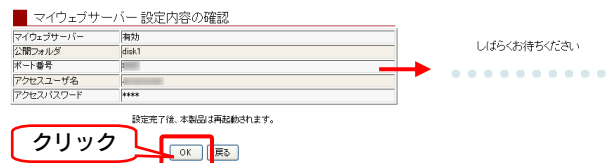
- ①[マイウェブサーバー]を[有効]にします。
- ②[公開フォルダ]から、公開する Web ページが保存されている共有フォルダを選択します。
- ③[ポート番号]にポート番号を設定します。ポート番号は通常変更する必要がありません。
- ④[アクセスユーザー名]と[パスワード]を設定します。自分専用の Web ページを公開するとき、特定のユーザーのみ参照できるように、認証機能を設定するためのものです。何も入力しない場合は、Web ページへのユーザー制限を行いません。
- ⑤[OK]ボタンをクリックします。



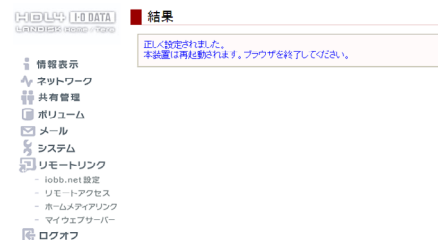
- ポート番号の設定は通常初期設定値からの変更は必要ありません。
- 画面にエラーが表示される場合は、エラー内容にしたがい、入力しなから、再度[OK]ボタンをクリックしてください。

- 同一ネットワーク上で複数の LAN DISK Home がマイウェブサーバー設定する場合は、それぞれの LAN DISK Home に異なるポート番号を設定してください。
- 公開フォルダは、すべてのユーザーがアクセス可能な全共有のみ指定できます。
- ここで指定するアクセスユーザーは、マイウェブサーバー専用です。【ユーザを登録する】(57ページ)で作成したユーザーとは関係ありません。

**3** 入力内容が表示されますので、確認の上、[OK]ボタンをクリックします。



次のような画面が表示されたら、設定完了です。いったん本製品が再起動します。



これで、マイウェブサーバーの設定は完了しました。次ページで、インターネット経由で自分専用のウェブページを閲覧する方法を説明していますのでご確認ください。

- マイウェブサーバー設定を有効に設定したタイミングで、選択した公開用共有フォルダのルートに「robots.txt」というファイルが存在しなければ生成します。「robots.txt」はマイウェブサーバー機能で公開する Web コンテンツを、検索エンジンの検索対象になりにくくする効果があります。特に問題なければ削除することもできます。
- 設定によっては、アクセス制限なしで共有フォルダ内の WEB コンテンツをインターネット上に公開することになりますのでご注意ください。

## インターネット経由で自分専用のウェブページを閲覧する

マイウェブサーバーにアクセスするには、Web ブラウザに以下のアドレスを入力します。

[http://\[ホスト名\].iobb.net:\[ポート番号\]/\[HTMLファイル\]](http://[ホスト名].iobb.net:[ポート番号]/[HTMLファイル])

※ホスト名は、iobb.net に登録したホスト名、[ポート番号] はマイウェブサーバーを有効にした際に設定したポート番号、[HTML ファイル]は公開フォルダ内に保存された、閲覧したいウェブページファイルを入力します。

マイウェブサーバーへアクセスした時、以下のような画面が表示された場合は、マイウェブサーバー設定で登録した「アクセスユーザ名」と「アクセスパスワード」を入力します。



以上で自分専用の Web ページが参照できます。



- マイウェブサーバー機能では、CGI 機能は使用できません。
- マイウェブサーバー機能で公開する共有フォルダのディレクトリインデックスは、共有フォルダのルート「index.html」または、「index.htm」となります。
- ウェブページを閲覧する場合には、本製品と同一 LAN 内のパソコンからはホスト名ではアクセスができません。外部の別のネットワークからホスト名でアクセスしてください。
- 本製品と同じ LAN 内のパソコンから接続する場合には、本製品のローカル IP アドレスでアクセスしてください。



# DVD/CD イメージ 取り込み機能を利用する

# DVD/CD イメージ取り込み機能

本製品前面の USB ポート 1 に外付け DVD ドライブを接続し、[FUNC]ボタンを押すと、DVD ドライブに装填した DVD/CD のデータを本製品の内蔵ハードディスクに ISO イメージとして取り込むことができます。

※市販のコピープロテクトされているメディアや、音楽 CD には対応していません。

接続可能な外付 DVD ドライブについては、[【増設できる USB 機器】](#) (160ページ) を確認してください。

## DVD/CD イメージ取り込み機能を設定する

**1** 設定画面の[ボリューム]→[ボリューム設定]を順にクリックします。

### ボリューム

- ボリューム操作
- **ボリューム設定** **クリック**
- 省電力設定
- アクティブリペア
- USB1 取外し
- USB2 取外し

**2** [USB ボリューム 1]を選択後、[DVD/CD イメージ取り込み機能]の[取り込み先共有の選択]で取り込み先となる共有(出荷時は内蔵ディスクの[disk1])を選択し、[変更]ボタンをクリックします。

※以下は、例で作成した"user1-only"という共有フォルダを取り込み先に指定した場合の例です。

### ボリューム

#### ボリューム設定

ボリューム設定画面のスクリーンショット。左側の「ボリュームの選択」で「USB ボリューム1」が選択されています。右側の「動作モードの選択」で「デジタルカメラ」が選択されています。下部の「DVD/CDイメージ取り込み機能」で「取り込み先共有の選択」が「user1-only」に設定されています。右下の「変更」ボタンが赤い枠で囲われ、「③クリック」とラベルされています。

**3** [OK]ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

USB ボリューム1の設定を変更しようとしています。

DVD/CDイメージ取り込み先共有を「user1-only」に変更します。変更してもよろしいですか

**クリック**

OK

**4** [OK]ボタンをクリックします。



**5** [結果]画面が表示されます。

### 結果

DVD/CDイメージ取り込み先共有を「user1-only」に変更しました

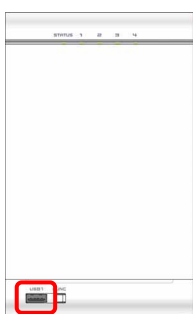
これでDVD/CDイメージ取り込み機能を使用する準備ができました。

# DVD/CD イメージ取り込み機能を使用する

**1** DVD/CD イメージ取り込み機能で使用する外付け DVD ドライブの電源を入れ、取り込む DVD/CD をセットします。

**2** 本製品前面の USB ポート 1 に外付け DVD ドライブを接続します。  
[STATUS]ランプが点滅し、しばらくすると点灯します。  
※USB ポート 2 ではご利用になれません。

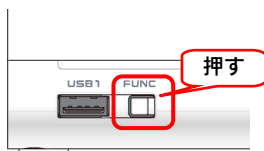
▼本製品前面



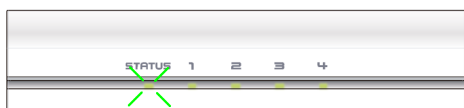
**注意**

●必ず、USB ポート 1 に接続してください。  
他の USB ポートに外付け DVD ドライブを接続しても [FUNC] ボタンは使用できません。

**3** 本製品前面の [FUNC] ボタンを押します。  
→取り込みを開始します。



**4** 取り込み中は、STATUS ランプが点滅します。  
"ピー"と音が鳴り、自動で DVD ドライブからメディアが排出されると取り込み完了です。



以上で取り込みは完了です。

## ●データの取り込み先について

データは、取り込み先（出荷時は内蔵ハードディスクの [disk1]）の共有フォルダの下に自動で作成される [VCDROMS] フォルダ内に、取り込んだ DVD に [VIDEO\_TS] が存在すれば [VIDEO]、なければ [DATA] フォルダを作成して ISO イメージを保存します。

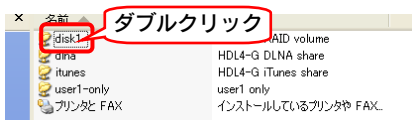
取り込んだ ISO イメージファイルは "日付\_時刻\_VIDEO もしくは DATA.iso" というファイル名で保存されます。

# イメージ取り込みを確認する

データを本製品内蔵ハードディスクの[disk1]共有フォルダにコピーした場合の確認例を説明します。

- 1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。手順については、以下の個所を参照してください。
- ・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (21ページ)
  - ・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (26ページ)

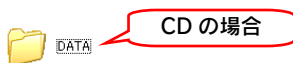
- 2** [disk1]フォルダをダブルクリックします。



- 3** [VCDROMS]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



- 4** 取り込んだ DVD が動画データの場合[VIDEO]フォルダが作成されます。  
取り込んだ CD がデータ CD の場合[DATA]フォルダが作成されます。



- 5** [VIDEO]もしくは[DATA]フォルダの下に取り込んだ日付で名前がつけられたイメージファイルが保存されています。



以上で確認は終了です。

## ●データの取り込み先について

データは、取り込み先（出荷時は内蔵ハードディスクの[disk1]）の共有フォルダの下に自動で作成される[VCDROMS]フォルダ内に、取り込んだ DVD に[VIDEO\_TS]が存在すれば[VIDEO]、なければ[DATA]フォルダを作成して ISO イメージを保存します。

取り込んだ ISO イメージファイルは"日付\_時刻\_VIDEO もしくは DATA.iso"というファイル名で保存されます。

# CD 革命/Virtual Client for LANDISK

本ソフトウェアは、株式会社アーク情報システム DVD/CD 仮想化ユーティリティ「CD 革命/Virtual」の LANDISK 用カスタマイズ版です。本ソフトウェアは、パソコン 3 台までにインストールできます。

「CD 革命/Virtual Client for LANDISK」は弊社ホームページからダウンロードできます。

<http://www.iodata.jp/>

DVD/CD イメージ取り込み機能を利用して取り込んだ DVD/CD イメージファイルを、「CD 革命/Virtual Client for LANDISK」をインストールしたパソコンでご利用いただくことができます。

詳しくは、「CD 革命/Virtual Client for LANDISK」の取扱説明書を参照してください。

● 「CD 革命/Virtual Client for LANDISK」対応 OS

Windows Vista®

Windows XP

Windows 2000 Professional

● 「CD 革命/Virtual Client for LANDISK」に関する問い合わせ先

お問い合わせの際は、必ずソフトウェアのオンラインマニュアルを確認し、必要となる資料をご用意の上、次までご連絡ください。また、お問い合わせの際に製品のシリアル番号を確認させていただく場合があります。

□株式会社 アーク情報システム

e-mail kakumei@ark-info-sys.co.jp

サポート電話番号 03-3234-9251

サポート FAX 番号 03-3234-9252

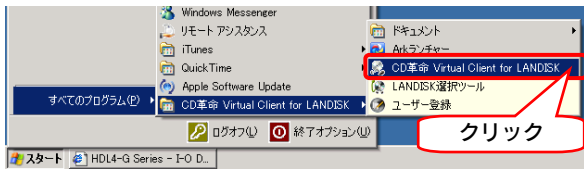
受付時間 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00

月曜日～金曜日（11月1日、祝祭日を除く）

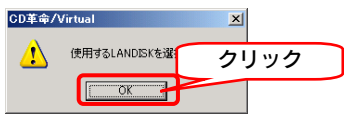
住所 〒102-0076 東京都千代田区五番町 4-2 東プレビル  
企画販売部 ユーザーサポート係 宛

● 「CD 革命/Virtual Client for LANDISK」 起動手順

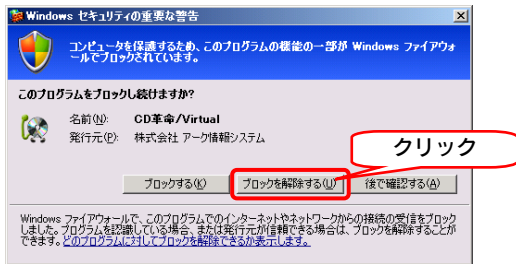
**1** [スタート]→[すべてのプログラム]→[CD 革命 Virtual Client for LANDISK]→[CD 革命 Virtual Client for LANDISK]を順にクリックします。



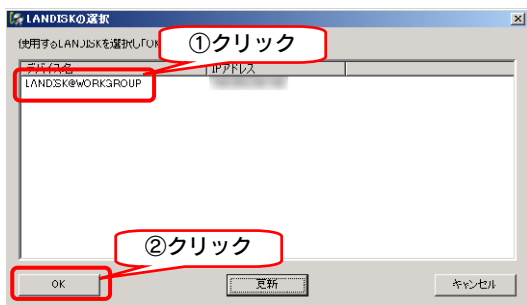
**2** 以下の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。



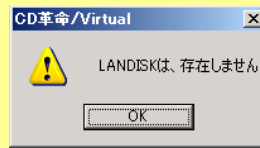
※以下の画面が表示された場合は、[ブロックを解除する]をクリックしてください。



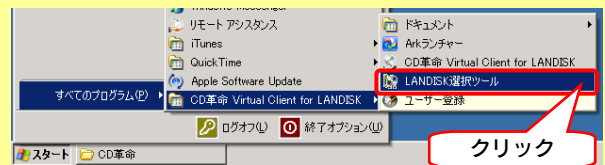
**3** ネットワーク上の LANDISK が表示されます。DVD/CD イメージ取り込み機能で ISO イメージを保存した LANDISK を選択し、[OK]ボタンをクリックします。  
※画面中に LANDISK が表示されていない場合、[更新]ボタンをクリックし、検索を行います。



● 「LANDISK は存在しません」と表示された場合

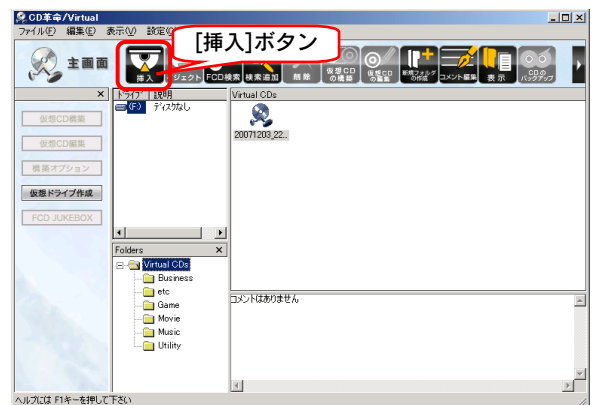


→LAN ケーブルが正常に接続されていることを確認し、[スタート]→[すべてのプログラム]→[CD 革命 Virtual Client for LANDISK]→[LANDISK 選択ツール]をクリックして、[LANDISK の選択]画面を再度起動します。  
※画面中に LANDISK が表示されていない場合、[更新]ボタンをクリックし、検索を行います。



・セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能を一時的にセキュリティ機能を解除してご確認ください。詳しくはセキュリティ関連のソフトウェアのメーカーにお問合せください。

**4** 「CD 革命/Virtual Client for LANDISK」の「主画面」が表示されます。  
[Virtual CDs]から利用したいイメージファイルを選択し、[挿入]ボタンをクリックすることで、仮想 DVD を仮想ドライブにセットして利用することができます。



# システムを管理する

# 管理者パスワードを 変更する

管理者は本製品の設定すべてや、全ての共有（全共有、ユーザー共有）にアクセスできる権限を持っています。

※全ての共有にアクセスできるのは Windows パソコンからのみです。他の人にパスワードが漏れないようしっかり管理し、定期的にパスワードを変更するようにしましょう。

※管理者パスワードは以下の場合に使用します。

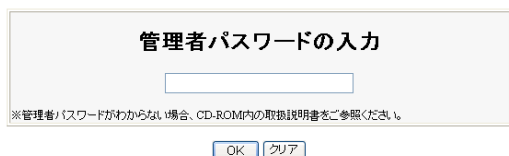
**注意** ●パスワードは忘れないようしっかり管理しましょう。設定したパスワードを忘れた場合、確認する方法はありません。

設定したパスワードを忘れてしまった場合には、本製品背面の [RESET] ボタンでリセットしないと使用できなくなります。

【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】  
(145ページ) 参照

●出荷時、パスワードは設定されていません。

・本製品の設定画面を開く場合

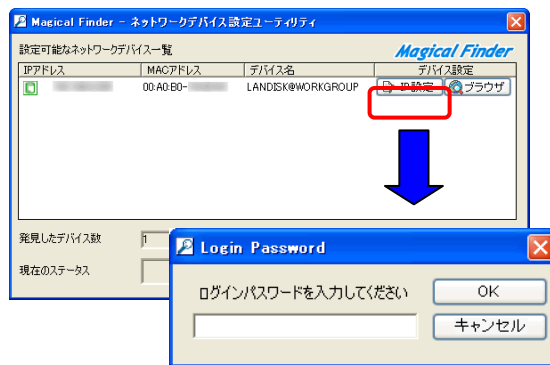


・管理者として共有フォルダにアクセスする際のパスワード

※全ての共有にアクセスできるのは Windows パソコンからのみです。



・Windows用ユーティリティ「Magical Finder」から「IP設定」画面を開く場合



ここでは、管理者用の本製品設定時のパスワードの設定手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[システム]→[管理者パスワード]をクリックします。

- システム
  - システム基本設定
  - UPS設定
  - スケジュール設定
  - シャットダウン
  - システム初期化
  - フォームウェア更新
  - **管理者パスワード**

クリック

**2** 「現在のパスワード」と「新パスワード」「確認パスワード」を設定後、[OK] ボタンをクリックします。

管理者パスワード設定

①入力

現在のパスワード

新パスワード

確認パスワード

②クリック

OK クリア

現在のパスワード	管理者の現在のパスワードを入力します。 ※出荷時の場合は、設定されていません。（空欄のままにします。）
新パスワード	管理者の新しいパスワードを入力します。
確認パスワード	確認のため管理者の新しいパスワードをもう一度入力します。

**注意** ●パスワードで使用できる文字には、以下の制限があります。

【文字制限一覧】(166ページ)を参照してください。

●入力するパスワードは、「●●●●●●」と表示され、確認できませんので、お間違えないようご注意ください。

**3** [結果] の画面が表示されます。

以上で管理者用パスワードの設定は終了です。



# ファームウェアを 更新する

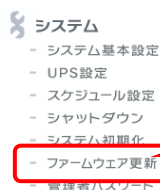
ファームウェアは弊社ホームページよりダウンロードできます。

<http://www.iodata.jp/lib>

ファームウェアの更新（アップデート）には、新しい機能の追加のほかにも装置の修正など、重要な更新が含まれます。定期的に弊社サポート・ライブラリ（<http://www.iodata.jp/lib>）を確認し、最新のファームウェアで本製品をご利用ください。

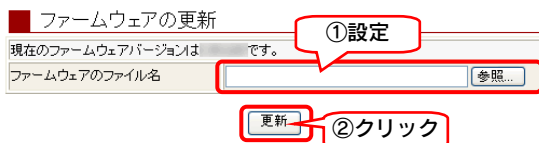
ここでは、ファームウェアの更新手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[システム]→[ファームウェア更新]をクリックします。



クリック

**2** [参照]ボタンをクリックして、ダウンロードしたファームウェアのファイル名(update.tgz)を設定し、[更新]ボタンをクリックします。



①設定

②クリック

**3** 本製品の[STATUS]ランプが点滅を開始します。更新後、本製品が再起動します。

※ファームウェアのファイルサイズおよび本製品の状態により変化しますが、5～6分程度かかります。

以上でファームウェアの更新（アップデート）は終了です。

注意

- ファームウェアを更新する際は、パソコンのファイアウォールの設定を解除してください。解除されていないと、正常に更新できない場合があります。
- ファームウェアの更新中は本製品の電源を切らないでください。更新中に電源を切ると、本製品を破損する恐れがあります。
- ファームウェアの更新後、本製品は自動的に再起動します。再起動完了時、DHCPサーバーのあるネットワーク環境では、[STATUS]ランプ（緑色）が点灯します。DHCPサーバーのないネットワーク環境や、DHCPサーバーからのIPアドレス取得に失敗すると、[STATUS]ランプが赤く点滅します。DHCPサーバーがあるのに、[STATUS]ランプが赤く点滅している場合には、以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の206ページ
- 完全にファームウェアを更新するために、本製品にアクセスしているユーザーがいらないことを確認するか、パソコンと本製品を1対1で接続して実行してください。
- ファームウェアバージョンを以前のバージョンに戻すことはできません。
- ファームウェアを更新後、設定画面が変更される場合がありますので、ブラウザのキャッシュのクリアを行ってください。

# 起動スケジュールを設定する

**1** 本製品の設定画面の[システム]→[スケジュール設定]をクリックします。

- システム
  - システム基本設定
  - IIPS設定
  - **スケジュール設定**
  - シャットダウン
  - システム初期化
  - ファームウェア更新
  - 管理者パスワード

クリック

**2** [起動スケジュール機能] の [有効] をチェック後、[起動スケジュール表の設定] を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

**■ 起動スケジュール機能**

①チェック

起動スケジュール機能  
 有効  無効  
「起動スケジュール機能」の設定で「無効」を選択した場合、「起動スケジュール表」で設定を行っても起動スケジュール機能は動作しません。

**■ 起動スケジュール表の設定**

②設定

設定方法の選択

- 毎日指定時刻に起動・終了
- 平日の指定時刻に起動・終了
- 曜日個別の指定時刻に起動・終了

曜日	起動設定	起動時刻指定	終了設定	終了時刻指定
日曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
月曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
火曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
水曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
木曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
金曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
土曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0

OK ③クリック

**3** [結果] 画面が表示されます。

**■ 結果**

起動スケジュール設定を有効にしました。

**■ 起動スケジュール表**

曜日	起動設定	起動時刻指定	終了設定	終了時刻指定
日曜日	無効	0時0分	無効	0時0分
月曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
火曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
水曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
木曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
金曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
土曜日	無効	0時0分	無効	0時0分

以上で起動スケジュールの設定は終了です。

**注意**

起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態（電源を切った場合は [STATUS] ランプが赤点灯の状態：スタンバイ状態）にしておいてください。  
 電源コンセントから電源ケーブルを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。

▼起動スケジュール機能	
起動スケジュール機能	起動スケジュールの有効・無効を設定します。
▼起動スケジュール表の設定	
毎日指定時刻に起動・終了	毎日、同じ起動時刻、同じ終了時刻で設定する場合に選択します。
平日の指定時刻に起動・終了	月～金曜日で曜日毎に設定する場合に選択します。 (土曜、日曜日は無効となります。)
曜日個別の指定時刻に起動・終了	各曜日を個別に設定したい場合に選択します。

# システムログを確認する

設定画面の「情報表示」→「ログ情報」でシステムログを確認することができます。

本製品の動作履歴がログ情報として記録されています。

※システムログの一覧は、以下の個所を参照してください。

[【ログ一覧】（167ページ）](#)

**1** 本製品の設定画面の「情報表示」→「ログ情報」をクリックします。



**2** 「ログ」欄にシステムログが表示されます。



※画面は一例です。

ご利用環境により、表示される内容は異なります。

▼表示イベント指定	
表示するプログラム	記録されたログの種類のうち、表示するイベントを選択できます。 → 「再表示」ボタンを押すとチェックをつけた項目のみが表示されます。
「再表示」ボタン	「表示するプログラム」設定に応じて、再度ログを表示します。
▼ログ	
日時	ログを記録した日時を表示します。
プログラム	イベント名を表示します。
内容	ログ内容を表示します。 ログ内容の詳細については <a href="#">【ログ一覧】（167ページ）</a> をご覧ください。

**注意**

ログ情報は、以下のような状況のときに削除されます。

- ・ ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
- ・ 本製品をシャットダウンした場合
- ・ 「システムログのメール送信」を[有効]にしていて、ログメールが送信された後

※システムログをメール送信する設定については、[【システムログをメール送信する】（次ページ）](#) をご覧ください。

これでシステムログの確認は終了です。

# システムログをメール送信する

システムログ情報をメール送信することができます。  
 ※システムログの一覧は、以下の個所を参照してください。  
[【ログ一覧】 \(167ページ\)](#)

**1** 本製品の設定画面の[メール]→[メール通知設定]をクリックします。



**2** [システムログ]欄で、[有効] にチェックし、[送信先メールアドレス] を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

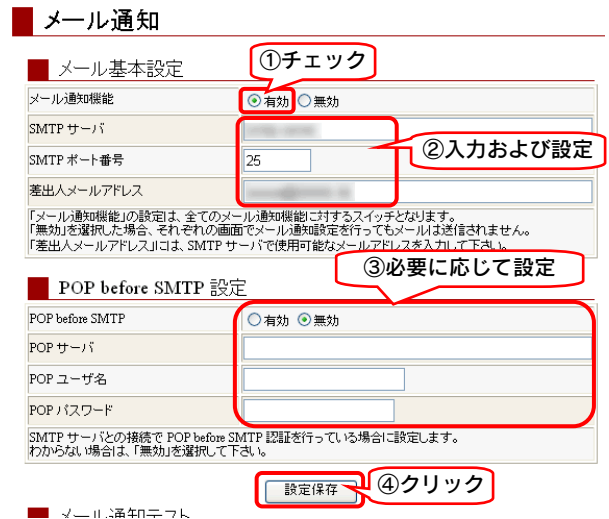


エンコード	メールの本文のエンコード方式を指定します。 ※通常は、「ISO-2022-JP」を選択してください。
送信先メールアドレス	システムログを送信する送信先のメールアドレスを入力します。 ※メール送信先は、1宛先のみです。

**3** メール送信機能全般の設定をします。  
 [メニュー]の[メール] → [メール基本設定] をクリックします。



**4** [メール通知機能] の[有効] をチェックし、[SMTPサーバー] [SMTPポート番号] [差出人メールアドレス] を入力および設定します。  
 必要に応じて、[POP before SMTP 設定] を設定します。  
 すべて設定後、[設定保存] ボタンをクリックします。



メール基本設定	
メール通知機能	ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。
SMTPサーバー	メール送信に利用する SMTP サーバーを設定します。プロバイダや会社のメールサーバーなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバー名を入力してください。
SMTPポート番号	メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。(初期値: 25) ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。
差出人メールアドレス	送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバーが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。

POP before SMTP 設定	
POP before SMTP	送信メールサーバーのセキュリティ設定により、送信前にメール受信動作が必要な場合に設定します。 ※本動作において、本製品は実際にメール受信は実行しません。送信のために必要な認証処理のみ実行します。
POP サーバ	POP サーバ名を入力します。
POP ユーザー名	メール受信に使用するユーザー名を入力します。
POP パスワード	メール受信に使用するパスワードを入力します。

**5** "メール設定を保存しました" と表示されます。

#### ■ メール通知

メール設定を保存しました

**6** 画面下の [メール通知テスト] で、正しく設定されたかを確認します。  
[送信先メールアドレス] を入力後、 [テストメール送信] ボタンをクリックします。  
→テストメールを送信します。

#### ■ メール通知テスト

送信先メールアドレス  ①入力

メールエンコード  ISO-2022-JP  UTF-8

上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。  
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。  
実際の宛先は、各機能で別々の宛先を設定することができます。

②クリック

メール通知テスト	
送信先メールアドレス	送信先のメールアドレスを入力します。 ※通常は、 [ISO-2022-JP] を選択してください。
メールエンコード	メール本文のエンコード方式を指定します。

**7** 正しく送信されると以下の画面となります。

#### ■ メール通知

メール送信のテストを行いました  
メールの送信に成功しました。宛先にメールが届いているか確認して下さい。

? 以下のようなエラーが表示された！

#### ■ メール通知

メールの送信のテストを行いました  
メール送信サーバーの接続に失敗しました。

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】 の236ページ

**8** メール受信側のパソコンでは、以下のようなメールが届きません。  
※表示はお使いのメーラーにより異なります。

▼件名



▼内容

差出人: LANDISK 宛先:  
件名: [landisk] メール通知テスト 日時: Mon, 1  
テストメールです

これでシステムログ情報のメール送信設定は終了です。

**注意** システムログは、LANDISK 内のログが一定の大きさを超えた場合に送信されます。

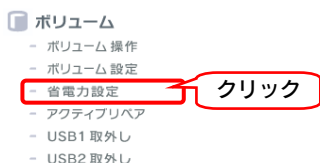
# 省電力機能を使う

ここでは、ハードディスクの省電力機能の設定について説明します。

ハードディスクを省電力設定にすることにより、一定時間アクセスがなければ内蔵ハードディスクの回転を停止します。

これにより電力消費を抑えることができます。また、本製品の省電力機能に対応しているドライブを増設ハードディスクとして使用することにより増設ハードディスクも同時に省電力モードに設定することができます。

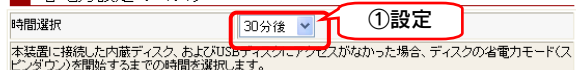
**1** 本製品の設定画面の[ボリューム]→[省電力設定]をクリックします。



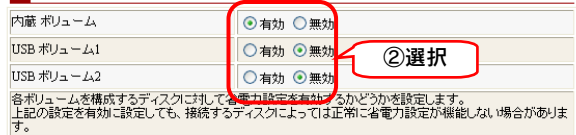
**2** [時間選択] で時間を設定後、省電力機能を設定したいドライブの[有効]を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

## ボリューム

### 省電力設定:ディスク



### 省電力設定:ボリューム



▼ディスクの省電力設定	
時間選択	一定時間、本製品や増設ハードディスクにアクセスがない場合に、ハードディスクの動作を停止させる機能です。この停止までの時間を変更できます。「10分後」、「20分後」、「30分後」、「1時間後」、「なし」から選択できます。(初期値は「なし」です。)
▼ボリュームごとの省電力設定	
内蔵ボリューム	省電力機能を設定したいドライブは「有効」を選択します。増設ドライブは必ず省電力機能に対応しているドライブをご利用の時のみ「有効」を選択してください。
USB ボリューム 1	
USB ボリューム 2	

- 注意**
- USB ポートに接続した増設ハードディスクの省電力機能は、省電力機能に対応している場合のみ省電力機能が有効となります。
  - 増設ハードディスクの省電力機能の動作確認済み機種は、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>) をご覧ください。
  - 設定時間内にハードディスクにアクセスしなくても、本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクは停止しません。  
また、ハードディスク停止中に本製品にアクセスしていても、本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクが回転する場合があります。
  - 冷却ファンは停止しません。

**3** [結果] の画面が表示されます。

## 結果

### ディスク省電力設定

ディスク省電力	30分後
内蔵 ボリューム	有効
USB ボリューム1	無効
USB ボリューム2	無効

以上でハードディスクの省電力機能の設定は終了です。

**注意** ●本製品を DHCP クライアントモードでご使用の場合、アドレスを更新する際に、内蔵ディスクがスピンアップします。また、ネットワークの通信中やシステム処理のためにディスクアクセスすることがあります。

DHCP サーバーのリース時間を長く設定すると、アドレス更新によるスピンアップ間隔も長くできます。

●リモートリンク機能をお使いの場合、省電力設定は行えません。

・省電力設定は iobb.net 設定が有効になっている場合、設定することができません。iobb.net 設定を無効にしてから省電力設定を行ってください。

・省電力設定が有効になっている場合に、iobb.net 設定を有効にすると、省電力設定が無効になります。

**出荷時設定に戻す**

# 出荷時設定への戻し方

次のような場合、設定を出荷時設定（初期設定）に戻してください。

- ・本製品の IP アドレスがわからなくなった場合
- ・管理者の情報（[パスワード] など）がわからなくなった場合

## 本製品の出荷時設定への戻し方

本製品の出荷時設定への戻し方には 2 通りの方法があります。

### ●方法 1：IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

→手順については [【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】](#)（次ページ）参照

本製品背面の [RESET] ボタンで初期化します。

万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

初期化される項目は下記の 3 つのみです。

IP アドレス	[DHCP クライアント] 設定を [on] にします。 IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
管理者パスワード	[なし] に設定します。 管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
ジャンボフレーム	[未使用 (mtu:1500)] に設定します。



- 上記以外のすべての設定情報は変更されません。
- ハードディスク内のデータは残ります。(消去されません。)

### ●方法 2：本製品のすべての設定を出荷時状態に戻す

→手順については [【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】](#)（146ページ）参照

設定画面の[システム初期化]で本製品のすべての設定の初期化、および、内蔵ハードディスクをフォーマットします。

※HDL4-G1.0 の場合で約 3 分かかります。（時間は本製品の容量によって変化します。）

初期化される項目は下記のとおりです。

- ・すべての装置設定
- ・内蔵ハードディスクの全データ



事前にハードディスク内のデータをバックアップしてください。  
(増設ハードディスクのデータも事前にバックアップしてください。)



## 方法 1

# IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

本製品背面の [RESET] ボタンで IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す（初期化する）ことができます。万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

### ●初期化項目

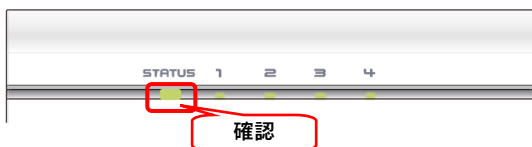
初期化される項目は下記の3つのみです。  
※他の設定は初期化されません。

IP アドレス	[DHCP クライアント] 設定を [on] にします。IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
管理者パスワード	「なし」に設定します。管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
ジャンボフレーム	「未使用 (mtu : 1500)」に設定します。



- 初期化処理中は、本製品の電源を切らないでください。
- ハードディスク内のデータは残ります。（消去されません。）
- ネットワークに接続したまま行うことができます。

- 1** 本製品の電源が入っていること（[STATUS] ランプが点灯していること）を確認します。  
電源が入っていない場合は、電源を入れます。

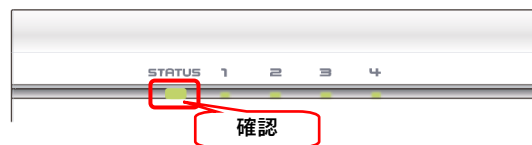


- 初期化は、本製品の電源が入っている状態で行います。
- ACCESS ランプ点灯・点滅中には、初期化しないでください。

- 2** 背面の RESET ボタンを先の細いもので約 2 秒以上、STATUS ランプが点滅し、「ピッ」と音が鳴るまで押します。



- 3** [STATUS] ランプが**緑色点灯**（合）、または、**赤色点滅**（DHCP サーバーがない場合）すれば、初期化完了です。



IP アドレスと管理者パスワードが初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

## 方法2

# 本製品のすべての設定を 出荷時設定に戻す

設定画面の[システム初期化]で本製品のすべての設定を  
出荷時設定にもどし（初期化）、さらに、内蔵ハードディスクを  
フォーマットします。

### ●初期化項目

初期化される項目は下記の項目です。

- ・すべての装置設定
- ・内蔵ハードディスクの全データ

### 注意

●事前にハードディスク内のデータをバックアップ  
してください。  
(増設ハードディスクのデータも事前にバックア  
ップしてください。)

- 増設ハードディスクのデータは消去されませんが、取り外し  
しておくことをおすすめします。
- 内蔵ハードディスクは4つすべて接続しておく必要があり  
ます。
- [システム初期化]を行うと、以前のRAIDモードに関係な  
く、RAID5（分散パリティ）になります。

## 1

本製品の設定画面の [システム] → [システム初期化] をク  
リックします。

### システム

- システム基本設定
- UPS設定
- スケジュール設定
- ネットワーク
- システム初期化
- ファームウェア更新
- 管理者パスワード

クリック

## 2

[OK] ボタンをクリックします。

### システムの初期化

**警告**

システム初期化を実行すると、全ての設定、  
及び内蔵HDDのデータが消去されます。

システム初期化を実行しますか？  
 内蔵 HDD の完全消去を行う

「内蔵 HDD の完全消去を行う」にチェックをつけて「システム初期化」を実行すると、内蔵HDDの  
データ領域をゼロクリアします。完全消去には数時間かかる場合があります。

クリック

### 注意

●[内蔵 HDD の完全消去を行う]をチェック  
した場合、内蔵ハードディスクをフォーマ  
ットした後、全てのデータ領域に 0（ゼロ）  
を書き込みます。

本製品を廃棄や譲渡される場合にチェックしてくだ  
さい。（本処理には、目安として、以下の時間を要します。

- ・HDL4-G1.0 : 3 時間
- ・HDL4-G2.0 : 7.5 時間

## 3

[OK] ボタンをクリックします。



## 4

[結果] 画面が表示されます。

### 結果

本装置のシステム初期化を開始しました。  
システム初期化には数分間掛かります。

システム初期化が完了するとすべての設定は出荷時設定に戻ります。  
アクセスできるようパソコンの設定を変更して、Webブラウザでアクセスし直して  
ください。

### 注意

●[結果] 画面が表示された後、自動的に本製品が  
再起動しますが、再起動後もシステム初期化処  
理を続行しています。  
[STATUS] ランプが緑点灯または赤点滅状態に  
なるまでそのまましばらくお待ちください。

●システム初期化処理中に電源を切ると、本製品が正常に起動  
しなくなります。  
[STATUS] ランプが緑点灯または赤点滅状態になるまで、  
何も操作しないでください。

すべての設定が初期値となりますので、再度設定  
をやり直してください。

**RAID が  
崩壊したときには**

# RAID が 崩壊したときには

本製品起動時、または使用中に内蔵ボリューム 1 に異常が発生し、RAID が崩壊した状態（RAID 崩壊モード）となった場合、以下の状態になります。

いったん、強制的に内蔵ボリューム 1 を再設定\*（RAID を再構成）するしかありません。手順については、以下の個所を参照してください。[【強制的に RAID を再構成する】](#)（次ページ）



強制的に再設定を行うと、内蔵ボリューム 1 を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム 1 上の共有フォルダの設定、および共有フォルダ内のデータは失われます。ただし、それ以外のネットワークやシステムなどの各種設定は引き継ぐことができます。

## ▼RAID 崩壊モードの状態

ランプやブザー	状態	補足
[STATUS] ランプ	赤点滅	
[ACCESS] ランプ	赤点灯	すべての[ACCESS]ランプが赤点灯します。
ブザー	「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	本製品起動時または、本製品使用中に RAID 崩壊モードになった場合。 [FUNC]ボタンを押すとブザーは停止します。

# 強制的に RAID を再構成する

ここでは、RAID を構成する複数の内蔵ハードディスクの故障、あるいは、RAID 崩壊後、本製品の電源を入れなおした場合など、正常な RAID が構成されていないために、本製品を起動できなくなった場合の再構成を行う手順について説明します。

- 注意** ●本操作を行うと、ネットワークやシステムなどの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム 1 を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム 1 上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。
- すべての内蔵ディスクを交換して RAID を再構築することはできません。
- 内蔵ディスクは 4 台接続した状態で RAID を再構成してください。

## はじめに

本製品使用中に RAID が崩壊した場合は、いったん電源を OFF にしてください。

## STEP1 電源を ON にする

- 1 本製品の [電源] ボタンを押します。
- 2 しばらくすると、ブザーが「ピーポーピーポー」と繰り返し鳴り、[STATUS] ランプが赤点滅、すべての [ACCESS] ランプが赤点灯します。  
※本製品は RAID が崩壊しているため、システムを起動停止している状態です。

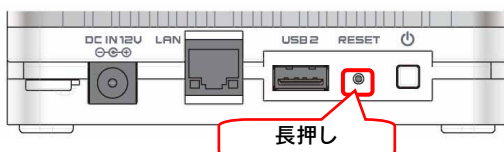


- 注意** ●接続していない内蔵ハードディスクがある場合、その内蔵ハードディスクの [ACCESS] ランプは、消灯します。すべての [ACCESS] ランプが赤点灯していることを確認してください。

- 3 [FUNC] ボタンを押して、まずブザーを止めます。

## STEP2 システムを起動させる

本製品背面のリセットスイッチを長押しします。  
→ [RAID] 崩壊モードでシステム起動します。

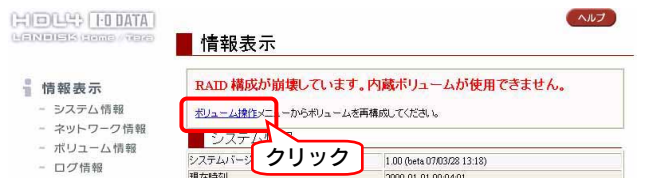


- 注意** ●システム起動停止している理由を確認する場合は、【困ったときには】→【起動停止状態を確認する】をご覧ください。

## STEP3 RAID を再構成する

- 注意** ● [メンテナンス] での RAID の再構成は現在の RAID モードでの再構成です。  
設定画面の [ボリューム] → [ボリューム設定] で、別の [RAID モード] に変更することも可能です。  
ただし、[メンテナンス] 操作同様、ユーザーの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム 1 を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム 1 上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。

- 1 本製品の設定画面を開きます。  
開き方については、以下の個所を参照してください。  
【設定画面の開き方】(31ページ)
- 2 設定画面を開くと、[システム情報]に、「RAID 構成が崩壊しています」と表示されています。  
画面上の [ボリューム操作] をクリックします。

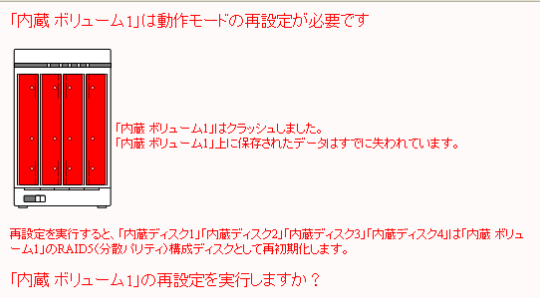


- 3 [操作] 欄で [メンテナンス] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



**4** [OK] ボタンをクリックします。

#### ■ 内蔵 ボリューム1のメンテナンス



OK クリック

**5** [OK] ボタンをクリックします。



**6** 数分後、以下の画面となります。

#### ■ 結果

内蔵 ボリュームの動作モードをRAID5(分散/リテリ)に変更しました

以上で RAID の再構成は終了です。

他の RAID モードに変更する場合は、以下の個所を参照してください。

[【RAID モードの変更】 \(46ページ\)](#)

# ランプ表示別の対応

# ランプ表示別の対応

ランプやブザーによって、現在の状態や操作が正常か、あるいは、エラーが発生しているかを知ることができます。

[STATUS] ランプ	緑点灯	システムが使用可能な状態を示します。
	緑点滅	システムが設定処理を行っている状態を示します。 この状態では設定画面を操作することはできません。
	赤点滅	直近の処理がエラー終了したことを示します。
	消灯	システムの電源が入っていないことを示します。
[ACCESS] ランプ (1~4)	緑点灯	番号に対応する内蔵ディスクが正常動作であることを示します。
	緑点滅	番号に対応する内蔵ディスクに対する処理をおこなっていることを示します。
	赤点灯	番号に対応する内蔵ディスクに問題が発生していることを示します。
	赤点滅	番号に対応する内蔵ディスクに問題が発生し、使用しない状態になっています。 ディスクを接続しているにもかかわらずシステム起動後に赤点滅する場合は、ディスクに障害が発生していると考えられますので、ディスクの交換を行ってください。
	消灯	番号に対応する内蔵ディスクが接続されていない、または障害のため使用しない状態になっています。 ディスクを接続しているにもかかわらずシステム起動後に消灯する場合は、ディスクに障害が発生していると考えられますので、ディスクの交換を行ってください。

ランプ・ブザー 状態・操作	ブザー	STATUS	ACCESS (1,2,3,4)	状態
電源コンセント接続時	なし	消灯	消灯	本製品の電源が入っていない状態です。
電源投入後	ピポ	緑点滅	緑点灯*1	システム起動中
	「ピーポー ピーポー…」 (繰り返し)	赤点滅	赤点灯*1	システム起動停止状態です。 RAID が崩壊している可能性があります。 【困ったときには】 → 【起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている】 (200ページ)
	「ピピピピ …」 (繰り返し)	赤点滅	緑点灯*1	システム起動不能状態です。 内蔵ディスクのシステムが読み取れない場合に発生します。内蔵ディスクが接続されていることを確認してください。
システム起動直後	ピー	緑点灯	緑点灯*1	正常起動完了
	ピーピーピー ー	赤点滅	緑点灯*1	IP アドレス取得エラーが発生しています。 【困ったときには】 → 【本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った】 (199ページ)
	ドレミドレ ミドレミ… (繰り返し)	赤点滅	緑点灯*1	UPS 警告機能有効で UPS が未接続です。 UPS の電源、及び監視用の USB ケーブルの接続を確認してください。
システム使用中に突然	ピツ、ピツ、 ピツ… (繰り返し)	赤点滅	緑点灯*1と 赤点滅	赤点滅した番号のディスクに問題が発生し、RAID はデグレード状態になりました。 別紙【内蔵 HDD の交換手順】にしたがい問題のある内蔵 HDD を交換してください。
	ピーポーピー ポー (繰り返し)	赤点滅	赤点灯	RAID は崩壊状態になりました。RAID の再構成が必要な状態です。 【RAID が崩壊したときには】 (148ページ)
	ドミソド	緑点灯	緑点灯*1	リビルドが完了しました。
システムシャットダウン時	なし	緑点滅	緑点灯*1	システムシャットダウン処理中です。
設定操作を実行中	なし	緑点滅	緑点灯*1	本製品の設定画面による設定操作を実行中です。STATUS ランプが点滅中は WEB 設定画面による操作はできません。

\*1 接続されていないディスクは消灯しています。ディスクアクセス発生時は高速に緑点滅します。



ランプ・ブザー 状態・操作	ブザー	STATUS	ACCESS (1,2,3,4)	状態
内蔵ボリュームに対する操作（フォーマット、チェックディスク、メンテナンス）を実行中	なし	緑点滅	緑点灯※1	内蔵ボリュームに対する操作（フォーマット、チェックディスク、メンテナンス）を実行中は共有サービスが停止しており、共有フォルダのファイルにアクセスすることはできません。
USB デバイス接続した	なし	緑点滅	緑点灯※1	USB デバイスの接続処理中です。
USB デバイス接続処理完了	ピッ	緑点灯	緑点灯※1	USB デバイスの接続処理成功。
USB デバイス接続処理完了	ピーピーピー	赤点滅	緑点灯※1	USB デバイスの接続処理失敗。 【困ったときには】 → 【本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った】（199ページ）
FUNC ボタンを押した	ピッ	緑点滅	緑点灯※1	FUNC ボタンの機能を実行中です。
FUNC ボタン処理完了	ピッ、ピッ、ピッ	緑点灯	緑点灯※1	FUNC ボタンの機能が正常終了。
FUNC ボタン処理完了	ピーピーピー	赤点滅	緑点灯※1	FUNC ボタンの機能が失敗した。 【困ったときには】 → 【本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った】（199ページ）
システム運用中	ピーピーピー	赤点滅	消灯	インターネット接続障害などの理由で、iobb.net と通信できない状態です。iobb.net が無効になっています。ネットワーク環境が復旧後、再度有効にしてください。

※1 接続されていないディスクは消灯しています。ディスクアクセス発生時は高速に緑点滅します。

仕 様

# 仕 様

商品名		LAN DISK Home			
製品型番		HDL4-G1.0	HDL4-G2.0	HDL4-G3.0	HDL4-G4.0
内蔵 HDD	容量	1.0TB	2.0TB	3.0TB	4.0TB
LAN	転送規格	IEEE 802.3、IEEE802.3ab、IEEE802.3u (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)			
	最大転送速度	1000/100/10Mbps			
	コネクタ	RJ45×1			
	アクセス方法	CSMA/CD			
	MDI/MDI-X	自動切換			
	適合ケーブル	UTP カテゴリ6以上、100m 以下			
USB ホスト	転送規格	USB 2.0(1.1 含む)			
	最大転送速度	480Mbps			
	コネクタ	USB A コネクタ×2			
電力	電源	AC 100V、50/60Hz			
	消費電力	DC12V 6A			
環境仕様	省エネ法区分	i	i	i	i
	エネルギー消費効率※1	0.046(W/GB)	0.023(W/GB)	0.017(W/GB)	0.013(W/GB)
	グリーン購入法	適合			
動作環境	使用温湿度	5~35℃、10~85%(結露無きこと)			
物理仕様	外形寸法	121.0(W)×126.5(D)×195.0(H)mm (突起部除く)			
	質量	約 3.8kg			

※1 省エネ法に基づくエネルギー消費効率は、最大構成における待機中の消費電力を、物理的な最大記憶容量で除したものです。

# 動作環境

本製品は、「LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP が正常に動作する機器」であれば対応しています。

## ● サポート対象機種・OS

LAN インターフェイスを使用できる下記の機種

機種	OS
・ DOS/V マシン ※弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認しています。	・ Windows Vista® ・ Windows XP ・ Windows 2000 Professional
・ Power Mac ・ Power Book ・ Mac mini ・ iMac ・ eMac	・ iBook ・ Mac Book ・ MacBook Pro ・ Mac Pro ・ Mac OS X (10.2.8~10.5)

※リモートリンク対応 OS

リモートアクセス対応 OS	・ Windows Vista® ・ Windows XP ・ Mac OS X (10.4~)
ホームメディアリンク対応 OS	・ Windows Vista® ・ Windows XP

弊社では、上記の OS でご利用いただく場合のみをサポート範囲とさせていただきます。  
上記以外の OS でご利用いただく場合のサポートは行っておりませんのでご了承ください。

## ● 設定に必要なソフトウェア

本製品を設定するには、以下のバージョンのいずれかの Web ブラウザが必要です。お持ちでない場合は、別途ご用意ください。

- ・ Internet Explorer バージョン 6.0 以上
- ・ Safari バージョン 2.0 以上
- ・ Netscape 7.0.2

## ● LAN 環境

本製品は、LAN で接続します。

パソコンが LAN コネクタを搭載していない場合は、LAN アダプターが必要です。(別売の弊社製 ETG2-PCI など)

複数のパソコンを接続するには、ハブ (ハブ機能付きルータ含む)が必要です。(別売の弊社製 ETG3-SH8N など)

無線 LAN 接続をする場合は、無線アクセスポイントと無線 LAN アダプターを接続したパソコンが必要です。

リモートリンク機能を使用する場合は、光回線を推奨します。

### LAN アダプター

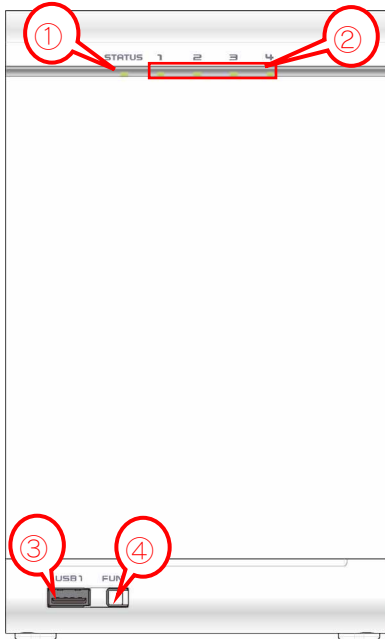
本製品に接続するパソコンの LAN アダプターの設定をご確認ください。

(LAN アダプター：LAN ボード、USB LAN アダプター、LAN PC カードなど)

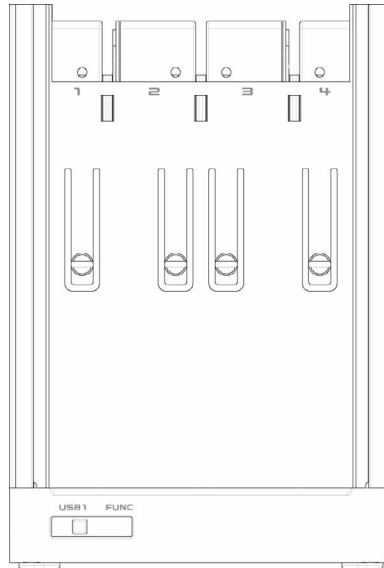
※LAN アダプター使用時は、パソコンに取り付け、必要なソフトウェアをインストールしておいてください。(詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。)

# 各部の名称・機能

## ●前面

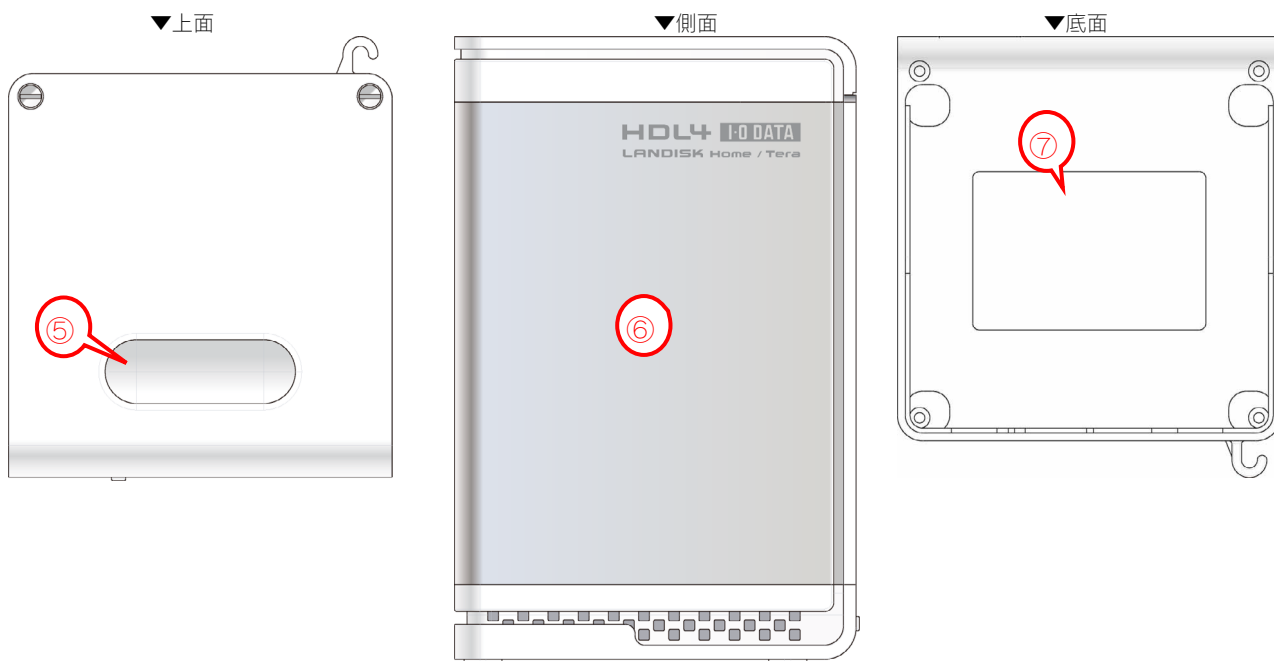


▼カバー取り外し後



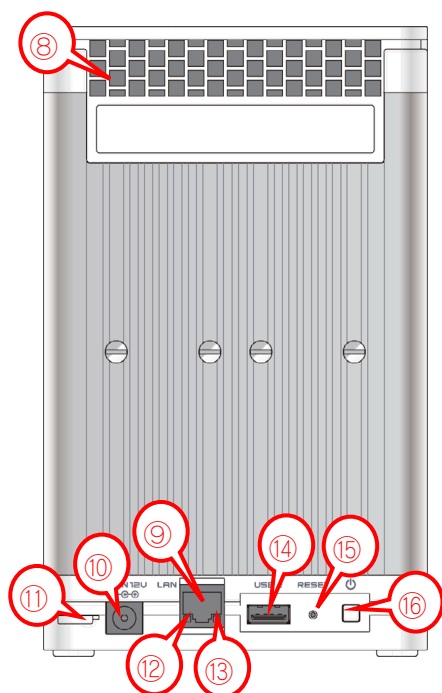
No	名称	機能・状態	
①	[STATUS]ランプ	緑点灯	正常に起動完了した状態
		緑点滅	起動中、シャットダウン中、チェックディスク時、本製品設定中、ファームウェアアップデート中、USBの取り外し、フォーマット中、デジカメコピー/クイックコピー中
		赤点滅	DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態、または、デジカメ/クイックコピーなどでエラーが発生している(エラーについては、設定画面内の[情報表示]メニュー→[ログ情報]で確認できます。)
②	[ACCESS] ランプ	緑点灯	本製品内蔵ハードディスクへアクセスがない状態
		緑点滅	本製品内蔵ハードディスクへアクセス中
		赤点灯	未フォーマットか、認識できないフォーマットのハードディスクが接続されている状態
		赤点滅	ハードディスクに復旧困難なエラー(セクターエラーなど)が発生している状態
		消灯	ハードディスクが未接続、または、使用不可能なハードディスクが接続されている状態
③	USB ポート 1	USB 機器を接続します。 バスパワーモードの USB 機器は、[USB ポート 1]のみに接続できます。	
④	[FUNC] ボタン (スライドカバー)	[USB ボリューム 1]の動作モード設定により、機能が異なります。	
		動作モード	機能
		デジカメコピー デジカメコピー (アルバム)	ボタンを押すと、前面の[USB ポート 1]に接続したデジカメデータを本製品の内蔵ハードディスクにコピーします。 (出荷時設定：デジカメコピー (アルバム))
		クイックコピー	ボタンを押すと、前面の[USB ポート 1]に接続した USB ハードディスクのデータを本製品の内蔵ハードディスクにコピーします。
		FAT/NTFS 共有	ボタンを押すと、前面の[USB ポート 1]に FAT/NTFS 共有ディスクとして接続した USB ハードディスクの取り外しを実行します。
		DVD/CD イメージ取り込み機能 ※市販のコピープロテクトされているメディア や音楽 CD には対応していません。	ボタンを押すと、前面の[USB ポート 1]に接続した外付け DVD ドライブから DVD/CD のデータを本製品の内蔵ハードディスクに ISO イメージとしてコピーします。
[USB ポート 1]を使用しない場合は、左にスライドさせることにより、[USB ポート 1]をカバーします。 ※[FUNC]ボタン使用時は、スライドを右の位置に戻してください。			

## ●上面・側面・底面



No	名称	機能・状態
⑤	取っ手	本製品を持ち運ぶときは、必ず下からも支えてお持ちください。
⑥	放熱アルミボディ	動作中や動作直後はここに触れないでください。動作中は放熱のため熱くなります。
⑦	シール	シリアル番号と MAC アドレスが記載されたシールが貼られています。 シリアル番号は、12桁の英数字です。ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードの際に使用します。 MAC アドレスは、「00A0B0」で始まる12桁の英数字です。

## ●背面



	名称	機能・状態	
⑧	FAN	本製品全体を冷却します。ふさがないでください。	
⑨	LAN ポート	LAN ケーブルを接続します。 ※Auto MDI/MDI-X です、ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。	
⑩	DC ジャック	添付の AC アダプターを接続します。	
⑪	DC ジャック 抜け防止フック	AC アダプターの抜け防止のため、ケーブルを引っ掛けます。	
⑫	[1000/100/10] ランプ	橙点灯	1000BASE-T で接続中
		緑点灯	100BASE-TX で接続中
		消灯	LAN 未接続または 10BASE-T で接続中
⑬	[ACT/LINK] ランプ	黄点灯	LAN リンク時
		黄点滅	データ送受信中
		消灯	LAN 未接続
⑭	USB ポート 2	USB 機器を接続します。 セルフパワーの USB 機器のみ接続可能です。	
⑮	[RESET] ボタン	本製品の [IP アドレス] [管理者パスワード] [ジャンボフレーム] 設定を初期化します。 (ハードディスク内のデータは残ります) LAN ケーブルを取り外した後、本製品の電源を入れたまま、[STATUS] が点滅するまで、約 2 秒以上押しっぱなしにしてください。 ※すべての設定を初期化する場合は、本製品の設定画面で行ってください。 ※本製品の起動時に RAID 崩壊状態 (すべての [ACCESS] ランプが赤点滅) になった場合、【RESET】ボタンを押すと RAID 崩壊モードでシステム起動することができます。	
⑯	[電源] ボタン	本製品の電源を入/切します。 電源を入れるときは 1 回押しします。 電源を切るときは 2 秒間長押しします。	

# 増設できる USB 機器

本製品の前面および背面の USB ポートに USB 機器を接続して使用することができます。



- USB 機器を増設する前に、以下の注意もご確認ください。  
【使用上のご注意】（7ページ）
- 本製品の USB ポートには、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。  
※USB ハブも接続できません。  
最新の対応機器については、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>)をご覧ください。

## 増設できる USB ハードディスク

※最新の対応機器については、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>)をご覧ください。

本製品の USB ポート で利用できる動作確 認済みのハードディ スク	・ HDZ-UE シリーズ ・ HDW-UE シリーズ ・ HDW-UES シリーズ ・ HDX-UE シリーズ ・ HDA-iU シリーズ ・ HDOT-U シリーズ ・ HDOT-UE シリーズ	・ HDH-U シリーズ ・ HDH-UL シリーズ ・ HDH-UEH シリーズ ・ HDH-US シリーズ ・ HDH-USR シリーズ ・ HDA-iUM シリーズ ・ HDPX-U シリーズ	・ HDPX-SU シリーズ ・ HDC-U シリーズ ・ HDC-UX シリーズ ・ HDH-SU シリーズ ・ RHD2-U シリーズ ・ RHD-UX シリーズ ・ USB2-iVDR シリーズ
	※iSPIS 対応ハードディスクを本製品でご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。 ※バスパワーモードのハードディスクは、使用できません。 ハードディスクはセルフパワーモードでご利用ください。 ※HDOT-U シリーズ、HDOT-UE シリーズのワンタッチボタンは利用できません。 ※RHD2-U シリーズのマルチディスクモードでご使用になる場合は、HDD 1 のみ本製品で使用できます。 ※RHD4-UXE シリーズの省電力機能には対応しておりません。		
対応フォーマット	本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下の個所を参照してください。 【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】（163ページ） ※弊社製 LAN-iCN、LAN-iCN2、LAN DISK で使用していたハードディスクは、本製品が対応するフォーマット形式に再フォーマットしてからご利用ください。		

## 接続できる外付 DVD ドライブ

※最新の対応機器については、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>)をご覧ください。

対応 DVD ドライブ	DVR-UN18GV	DVR-UH18GT	DVR-UN18GS	DVR-UN18E
	DVR-UN20GL	DVR-UN20E	DVR-UXN20GL	DVRP-UN8LX <sup>※</sup>
	DVRP-UN8PL2 <sup>※</sup>	DVRP-UN8PS <sup>※</sup>	DVRP-U8XLE <sup>※</sup>	DVRP-UN8LX2 <sup>※</sup>
	DVDP-U8X <sup>※</sup>	※バスパワー対応ドライブにおいて、バスパワーモードでの使用はできません。DVD ドライブに添付の AC アダプタをご利用の上、セルフパワーモードでご利用ください。		

## 接続できる UPS

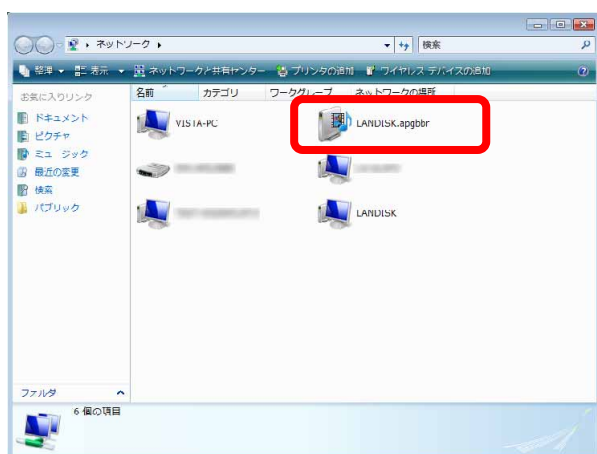
対応 UPS	小型タイプ	ES500、ES725、CS350、CS500、BR900-JP、BR1200LCD-JP
	大型タイプ	SUA500JB、SUA750JB、SUA1000JB、SUA1500JB、SUA2200JB、SUA3000JB、SUA750RMJ1UJB、SUA1500RMJ2UB



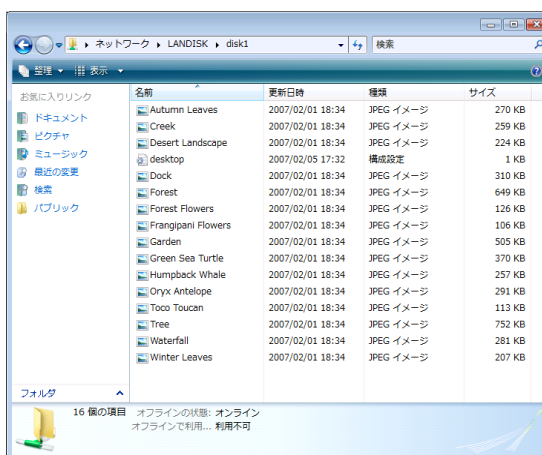
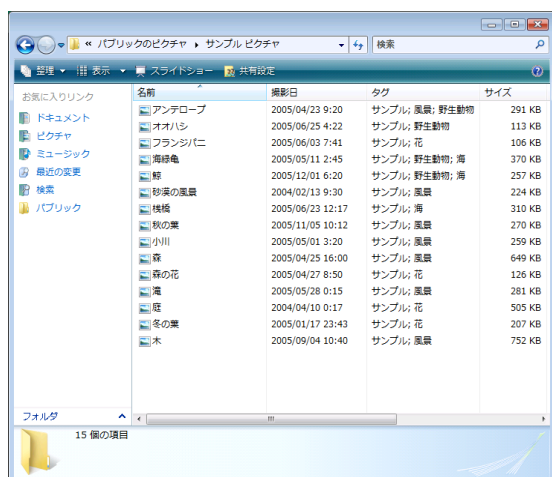
# 共有フォルダ使用上の注意

## Windows Vista®での制限・注意事項

- Windows Vista®の「ファイルのバックアップ」機能について  
Windows Vista®付属の「ファイルのバックアップ」機能で、バックアップの保存先として本製品の共有フォルダを指定することはできません。
- Windows Vista のネットワークに表示されるアイコンについて  
本製品の DLNA Server 機能を有効に設定している場合、Windows Vista®のネットワーク画面に以下のようなアイコンが表示されます。ダブルクリックするとメディアプレーヤーが起動する場合がありますが、お使いの PC のメディアプレーヤーが DLNA に準拠していない場合は、本製品の共有フォルダ内のコンテンツの再生はできません。



- Windows Vista®上の表示と共有フォルダ上の表示の違いに関する注意  
Vista に標準インストールされるサンプルピクチャフォルダのファイルは、Vista 上では画面例(左)のように表示されています。画面例左のサンプルピクチャを共有フォルダ上にコピーすると、画面例(右)のように全く名前が異なって表示されます。



実際のファイル名は、LAN DISK 共有フォルダで表示されるアルファベット文字のファイル名で正しいようですが、Vista 上のサンプルピクチャのフォルダはファイルの表示設定が、実ファイル名表示しない設定がデフォルト設定になっています。このように名前=ファイル名ではないフォルダ表示設定が Vista では可能ですので、注意してください。

## ファイル名やフォルダ名の文字制限

本製品に保存できるファイルやフォルダ名は、OSにより以下の文字数までとなっています。

### 【Windows の場合】

半角 255 文字（全角 85 文字）まで

※使用する文字種によっては上記の数値よりも少なくなる場合があります。

※Windows Vista®では従来の Windows と比較し、扱える文字数が増えています。

よって Windows Vista®でのみ使用可能な文字を共有フォルダに保存するファイル名やフォルダ名に使用した場合、従来の Windows で参照すると文字が正しく表示されない場合があります。

Windows Vista®と従来の Windows との間で文字表示について問題が発生しないようにするには Microsoft 社の公開情報 ([http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/jp\\_font/default.mspx](http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/jp_font/default.mspx))にある、「Microsoft Windows Vista における JIS X 0213:2004(JIS2004)対応について」の「フォントパッケージと JIS2004 への移行シナリオ」に沿った対応をして頂く必要があります。

### 【Macintosh の場合】

・ Mac OS X では半角 255 文字（全角 85 文字）まで

## 各 OS で使用できるファイルサイズについて

Windows Vista®/XP/2000	特に制限はありません。
Mac OS X	特に制限はありません。

# ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い

増設するハードディスクのフォーマット形式によって使い方に制限があります。

	対応フォーマット※1	
	FAT※2	NTFS※3
本製品での対応	○ (読み書き可)	△ (読み込みのみ可) ※書き込み不可
パソコンに接続した場合	○ (読み書き可)	○ (読み書き可)
主な用途	・本製品の容量増設用 ・データバックアップ用	データ参照用
本製品からの取り外し	○ (取り外し可)	
ネットワーク上からのファイルの読み書き	○ (読み書き可)	△ (読み込みのみ可) ※書き込み不可
共有フォルダの作成	×  ※本製品に接続後、初期状態で以下の共有フォルダが作成されます。 ・USB ポート 1 に接続したハードディスク→「usb1」 ・USB ポート 2 に接続したハードディスク→「usb2」	
ユーザー別アクセス制限	○	
最大ファイルサイズ	4G-1 byte ※Windows Vista®は、4G-1Mbyte	△ (読み込みのみ可) ※書き込み不可

※1 OS により、ネットワーク上で扱えるファイルサイズには制限があります。  
以下の個所を参照してください。

[【各 OS で使用できるファイルサイズについて】 \(162ページ\)](#)

※2 本製品で FAT32 にフォーマットする場合は以下の個所をご覧ください。

[【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】 \(80ページ\)](#)

※3 NTFS でフォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。  
(方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。)

Macintosh から、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクを共有フォルダとして利用することはできません。

# 出荷時設定一覧

項目		初期値		
システムバージョン		1.20(出荷時期による)		
MAC アドレス		00:A0:B0:xx:xx:xx (製品ごとに異なる)		
◆ネットワーク				
基本設定	LANDISK の名前	LANDISK		
	コンピュータの説明	HDL4-G series		
	ワークグループ	WORKGROUP		
TCP/IP 設定	TCP/IP の設定	IP アドレスを自動取得する (DHCP)		
		自動取得失敗時	IP アドレス	192.168.0.200 AutoIP 自動割当 169.254.xxx.xxx
			サブネットマスク	255.255.255.0 AutoIP アドレスは 255.255.0.0
			デフォルトゲートウェイ	なし
			DNS ドメイン名	localdomain
	DNS サーバアドレス		なし	
ジャンボフレーム	未使用 (1500byte)			
サービス設定	Microsoft ネットワーク ファイル共有	有効		
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	有効		
	DLNA Server	有効		
	iTunes Server	有効		
◆共有管理				
共有フォルダ一覧	作成済み共有	disk1		
		場所	内蔵ボリューム1	
		コメント	HDL4-G RAID volume	
		アクセス権	全てのユーザーに許可/読み書き可能	
		サービス	Microsoft ネットワーク ファイル共有 AppleShare ネットワーク ファイル共有	
		ごみ箱機能	無効	
		dlna		
		場所	内蔵ボリューム1	
		コメント	HDL4-G DLNA share	
		アクセス権	全てのユーザーに許可/読み書き可能	
		サービス	Microsoft ネットワーク ファイル共有 AppleShare ネットワーク ファイル共有 DLNA Server	
		ごみ箱機能	無効	
		itunes		
		場所	内蔵ボリューム1	
		コメント	HDL4-G iTunes share	
		アクセス権	全てのユーザーに許可/読み書き可能	
		サービス	Microsoft ネットワーク ファイル共有 AppleShare ネットワーク ファイル共有 iTunes Server	
		ごみ箱機能	無効	
ユーザー一覧	登録済みユーザー	なし		
◆ボリューム				
ボリューム操作	内蔵ボリューム1	動作モード	RAID5 (分散パリティ)	
		状態	正常動作しています	
		操作	フォーマット (専用)	
	USB ボリューム1	デジカメコピー (アルバム)		
USB ボリューム2	共有ディスク (FAT/NTFS モード)			
ボリューム設定	ボリュームの選択	内蔵ボリューム		
	動作モードの選択	RAID5 (分散パリティ)		

◆ボリューム			
省電力設定	時間選択		なし
	内蔵ボリューム		無効
アクティブリペア	現在の状態		アクティブリペアは実行していません
	スケジュール実行機能		使用する ※ファームウェアバージョン 1.11 以降
ディスク省電力	時間選択		なし
	内蔵ボリューム		無効
◆メール			
メール基本設定	メール基本設定	メール通知機能	無効
		SMTP サーバー	なし
		SMTP ポート番号	25
		差出人メールアドレス	なし
	POP before SMTP 設定	POP before SMTP	無効
		POP サーバー	なし
		POP ユーザー名	なし
		POP パスワード	なし
	メール通知テスト	送信先メールアドレス	なし
		メールエンコード	ISO-2022-JP
メール通知設定	システムログ	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
		エンコード	ISO-2022-JP
	システム起動終了通知	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
		エンコード	ISO-2022-JP
	システム温度エラー通知	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
		エンコード	ISO-2022-JP
	ディスクエラー通知	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
		エンコード	ISO-2022-JP
◆システム			
システム基本設定	時刻設定		手動設定
	ランプの明るさ		明るい
UPS 設定	UPS 警告		無効
	シャットダウン条件	停電後の経過時間	1 分後にシャットダウン
		UPS バッテリー充電容量	10%以下でシャットダウン
スケジュール設定	起動スケジュール機能		無効
	起動スケジュール表の設定	設定方法の選択	曜日個別の指定時刻に起動・終了
		起動設定	無効
		起動時刻設定	なし
		終了設定	無効
終了時刻設定	なし		
◆管理者パスワード			
管理者パスワード	現在のパスワード		なし
	新パスワード		なし
	確認パスワード		なし

# 文字制限一覧

## 設定画面上で使用できる文字/できない文字

本製品の設定画面で設定する下記項目は、**半角英数字のみ**が有効となります。さらに各項目には、使用文字の制限があります。次の文字はそれぞれの項目に対して使用できません。(パスワードに空白文字を使用しないでください。)

項目名	文字数	使用できる文字	使用できない文字
ワークグループ	15 文字以下	[使用できない文字]以外	\ / ~ \$ : , ' ; * ? " < >   ` [ ] = + . 空白 (ハイフン - で始まる文字列は不可)
コンピュータの説明	48 文字以下	[使用できない文字]以外	\ : " ! ' [ ] ~ \$ '
コメント		[使用できない文字]以外	\ ~ \$ : , " ! ' [ ] (ハイフン - で始まる文字列は不可)
ユーザー名	20 文字以下	[使用できない文字]以外の小文字のみ	\ ~ \$ / : , ' ; * ? " < >   ` [ ] = + . @ ( ) # % ^ 空白 (ハイフン - で始まる文字列は不可) (数字のみでの設定は不可)
パスワード		[使用できない文字]以外	\ : , ; * < > ! ' [ ] = + . ` ( ) ~ \$ " / ? 空白 (ハイフン - で始まる文字列は不可)
コンピュータ名	14 文字以下	半角英数文字 0~9 A~Z a~z (数字で始まる文字列は不可) アンダーバー _ ハイフン - (ハイフン - で始まる文字列は不可)	[使用できる文字] 以外の記号や空白などの文字列は不可
共有フォルダ名	12 文字以下	半角英数文字 0~9 A~Z a~z アンダーバー _ ハイフン - (ハイフン - で始まる文字列は不可)	

## iobb.net 設定で使用できる文字/できない文字

項目名	文字数	使用できる文字	使用できない文字
ホスト名	3 文字以上 16 文字以内	小文字英字, 数字, - (ハイフン)	「使用できる文字」以外不可 ※- (ハイフン) をホスト名の頭、末尾につけることはできません。
パスワード	6 文字以上 8 文字以内	小文字英字, 数字, - (ハイフン)	「使用できる文字」以外不可

## ファイル名やフォルダ名の文字制限

本製品に保存できるファイルやフォルダ名は、OS により以下の文字数までとなっています。

### 【Windows の場合】

半角 255 文字 (全角 85 文字) まで

※使用する文字種によっては上記の数値よりも少なくなる場合があります。

※Windows Vista®では従来の Windows と比較し、扱える文字数が増えています。

よって Windows Vista®でのみ使用可能な文字を共有フォルダに保存するファイル名やフォルダ名に使用した場合、従来の Windows で参照すると文字が正しく表示されない場合があります。

Windows Vista®と従来の Windows との間で文字表示について問題が発生しないようにするには Microsoft 社の公開情報 ([http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/jp\\_font/default.mspx](http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/jp_font/default.mspx))にある、「Microsoft Windows Vista における JIS X 0213:2004(JIS2004)対応について」の「フォントパッケージと JIS2004 への移行シナリオ」に沿った対応をして頂く必要があります。

### 【Macintosh の場合】

・ Mac OS X では半角 255 文字 (全角 85 文字) まで

# ログ一覧

※表中\*\*\*の部分には USB ポート番号や共有名などの情報が入ります。

## ● デジカメコピー・クイックコピー

内容	詳細
usbp1: 停止処理異常終了	クイックコピー後、USB ポート 1 のデバイスの抜きとり処理が異常終了した場合に出力されます。
デジカメコピー正常終了	デジカメコピーが正常終了しました。
デジカメコピー異常終了	デジカメコピーが異常終了しました。
デジカメコピー設定エラー	デジカメコピーの設定取得でエラーが発生しました。
デジカメコピー開始***	デジカメコピーを開始しました。
デジカメコピー (アルバム) 正常終了	デジカメコピー (アルバム) が正常終了しました。
デジカメコピー (アルバム) 異常終了	デジカメコピー (アルバム) が異常終了しました。
デジカメコピー (アルバム) 設定エラー	デジカメコピー (アルバム) の設定取得でエラーが発生しました。
デジカメコピー (アルバム) 開始***	デジカメコピー (アルバム) を開始しました。
クイックコピー正常終了	クイックコピーが正常終了しました。
クイックコピー異常終了	クイックコピーが異常終了しました。
クイックコピー設定エラー	クイックコピーの設定取得でエラーが発生しました。
クイックコピー開始***	クイックコピーを開始しました。
コピーエラー***	コピー実行中にエラーが発生しました。
コピー元エラー***	コピー元フォルダに問題があります。
コピー先エラー***	コピー先フォルダに問題があります。
コピー先フォルダ作成エラー***	コピー先フォルダの作成でエラーが発生しました。
コピー先フォルダ削除エラー***	コピー先フォルダの削除でエラーが発生しました。
コピー先共有エラー***	コピー先共有に問題があります。
コピー先に空き容量がありません***	コピー先に空き容量がありません。
ログメール送信エラー	ログメールの送信でエラーが発生しました。
履歴フォルダ削除エラー	履歴フォルダの削除でエラーが発生しました。
設定ファイルオープンエラー***	装置内部で設定ファイルのオープンでエラーが発生しました。

## ● フォトアルバム

内容	詳細
アルバム: 作成	アルバムの新規作成を行った時に出力されます。
アルバム: 作成失敗	アルバムの新規作成に失敗した時に出力されます。
アルバム: 変更	アルバムの設定変更を行った時に出力されます。
アルバム: 変更失敗	アルバムの設定変更失敗した時に出力されます。
アルバム: 削除	アルバムの削除を行った時に出力されます。
アルバム: 削除失敗	アルバムの削除に失敗した時に出力されます。
フォト: 追加	アルバムに画像を追加した時に出力されます。
フォト: 追加失敗	アルバムに画像を追加できなかった時に出力されます。
フォト: 削除	アルバムから画像を削除した場合に出力されます。
フォト: 削除失敗	アルバムから画像を削除できなかった時に出力されます。
メディア: 書き出し	アルバム書き出しが成功した時に出力されます。
メディア: 書き出し失敗	アルバム書き出しが失敗した時に出力されます。
メディア: 消去	書き出しデータ消去が成功した時に出力されます。
メディア: 消去失敗	書き出しデータ消去が失敗した時に出力されます。

## ● DVD コピー

内容	詳細
DVD ドライブが見つかりません.	DVD コピー機能が呼び出されたのに DVD デバイスが接続されていない場合に出力されます。
対応メディアが見つかりません	DVD/CD メディアがドライブにセットされていないか、未対応のディスクの場合に出力されます。
著作権保護された DVD Video ディスクです.	CSS コピープロテクトを検出した場合に出力されます。
コピー先共有が無効です.	コピー先のデバイスが動作していない場合に出力されます。
コピー先共有は書き込み不可です.	コピー先共有が readonly の場合に出力されます。
コピー先フォルダ作成失敗	コピー先フォルダが無い場合にフォルダを作成しようとしたが失敗した場合に出力されます。
コピー開始	DVD/CD コピーを開始した時点で出力されます。
コピー失敗	メディアに傷があるなどの原因でコピーに失敗した場合に出力されます。
アクセス権限設定失敗	コピーしたファイルのアクセス権限の設定に失敗した場合に出力されます。
リネーム失敗	コピー時の一時的なファイル名から正式なファイル名にリネームしようとしたときに失敗した場合に出力されます。
コピー完了	コピー処理が正常に完了した場合に出力されます。

●ログ記録

内容	詳細
開始	ログ記録プログラムが起動された時に出力されます。

●DHCP クライアント

内容	詳細
DHCP 成功: アドレス: ***, 更新間隔: *** 秒	DHCP サーバーから取得に成功した時に出力されます。
DHCP 失敗: AutoIP アドレス: ***	DHCP サーバーから取得に失敗した時に出力されます。

●ユーザー管理

内容	詳細
ユーザー *** の削除	ユーザーの削除処理を行った時に出力されます。
ユーザー *** の追加	ユーザーの追加処理を行った時に出力されます。
***: パスワード変更	そのユーザーのパスワードの変更処理を行った場合に出力されます。
***: ユーザー削除	ユーザーの削除処理を行った時に出力されます。
***: ユーザー追加	ユーザーの追加処理を行った時に出力されます。

●デバイス管理

内容	詳細
***: 開始	USB ポートにデバイスが差し込まれた時に出力されます。また、チェックディスク・フォーマット時にも出力されます。
***: 開始処理正常終了	USB ポートなどに差し込まれたデバイスの挿し込み処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。
***: 開始処理異常終了	USB ポートなどに差し込まれたデバイスの差し込み処理に失敗した場合に出力されます。
RAID 崩壊モードへ移行	RAID ボリュームが崩壊した場合に出力されます。
***: 停止	デバイスが抜かれた時に出力されます。また、チェックディスク・フォーマット時にも出力されます。
***: 停止処理異常終了	USB ポートのデバイスの抜きとり処理に失敗した場合に出力されます。
***: フォーマット開始	ディスクのフォーマットを開始した時点で出力されます。
***: フォーマット正常終了	ディスクのフォーマットが正常終了した時点で出力されます。
***: フォーマット異常終了	ディスクのフォーマットに失敗した場合に出力されます。
***: チェックディスク: 開始	チェックディスクを開始した時点で出力されます。
***: チェックディスク: エラー発見	チェックディスクで異常が発見された場合に出力されます。
***: チェックディスク: 異常なし	チェックディスクで異常が発見されなかった場合に出力されます。
***: ディスク故障: 別のディスクに交換してください。	挿入した RAID ドライブが規定回数のエラーを起こし、ディスクが切り捨てられた場合に出力されます。
***: ディスク交換を検出	電源 OFF 時に交換されたディスクを検出したときに出力されます。
***: ポート設定変更: *** =>	ポート設定変更の開始段階で、ポート設定を解除した時点で出力されます。
***: ポート設定変更完了: => ***	ポート設定変更が正常終了した場合に出力されます。
***: ポート設定変更失敗: => ***	ポート設定変更が異常終了した場合に出力されます。
RAID 構成変更完了: => ***	RAID 構成変更が正常終了した場合に出力されます。
RAID 構成変更失敗: => ***	RAID 構成変更が異常終了した場合に出力されます。

●共有サービス設定

内容	詳細
設定変更	共有サービスの起動設定が変更された場合に表示されます。

●共有設定

内容	詳細
***: *** の属性変更	共有の属性が変更された場合に出力されます。
***: 共有削除	共有が削除された場合に出力されます。
***: 共有追加	共有が追加された場合に出力されます。
***: 名前変更	共有の名前が変更された場合に出力されます。
***: 所有者変更	共有の所有者が変更された場合に出力されます。

●WEB 設定画面

内容	詳細
管理者ログアウト : ***	WEB 設定画面よりログアウト時にログアウトした PC の IP アドレスとともに出力されます。
管理者ログイン失敗 : ***	WEB 設定画面にログイン失敗時にログインを試みた PC の IP アドレスとともに出力されます。
管理者ログイン成功 : ***	WEB 設定画面にログイン成功時にログインした PC の IP アドレスとともに出力されます。



●NTP 時刻同期

内容	詳細
NTP サーバー: ***接続失敗	NTP サーバーへの接続に失敗した場合に出力されます。
微調整: サーバー: ***, 誤差: *** 秒	NTP プロトコルによる時刻同期を行ったときに出力されます。この場合、システムクロックは徐々に調整されます。
有効な NTP サーバーなし NTP 終了	NTP プロトコルによる時刻同期を終了します。
調整: サーバー: ***, 誤差: *** 秒	NTP プロトコルによる時刻同期を行ったときに出力されます。この場合、システムクロックはジャンプしています。

●ファームウェア更新

内容	詳細
ファームウェア更新失敗: ***	ファームウェア更新に失敗した場合にエラーコードと共に表示されます。
ファームウェア更新成功: ***	ファームウェア更新に成功した場合に表示されます。

●RAID 監視

内容	詳細
監視プログラム開始	監視プログラムが起動したときに出力されます。
監視プログラム停止	監視プログラムが停止したときに出力されます。
***: HDD 発見	監視プログラムが起動時にディスクを発見した時に出力します。
***: 単体動作	単体動作に移行した時に出力します。
***: 再構築開始	再構築を開始した時に出力されます。
***: 再構築 *** % 完了	再構築の進捗を出力します。
***: 再構築終了	再構築を終了した時に出力されます。
***: エラー	ディスクにエラーを検出した時に出力されます。
***: 回復不能エラー	再構築中に回復不能なエラーを検出した時に出力されます。

●ディスク

内容	詳細
致命的エラー: 内蔵ハードディスクをマウントできません。	内蔵ハードディスクがマウントできない場合に出力されます。 内蔵ハードディスクが論理的に、もしくは物理的に破損しています。

●ディスク修復

内容	詳細
***: 終了 欠陥修復完了	アクティブリペアのスキャンが終了し、修復可能なエラーを修復した時に出力されます。
***: 終了 欠陥修復失敗 ディスクの内容をバックアップした後に、フォーマットを実行してください	アクティブリペアのスキャンが終了し、エラーを修復できない場合に出力されます。
不良ブロック: ***: ***** . . . ***: ***** . . . . . .	次の行から不良ブロックの一覧が追記されます。
開始	アクティブリペアを開始したときに出力されます。
終了 異常なし	アクティブリペアのスキャンが終了し、異常セクタがなかった時に出力されます。
終了 欠陥修復完了	アクティブリペアのスキャンが終了し、修復可能なエラーを修復した時に出力されます。
終了 欠陥修復失敗 ディスクの内容をバックアップした後に、フォーマットを実行してください	アクティブリペアのスキャンが終了し、エラーを修復できない場合に出力されます。
失敗	何らかの理由でアクティブリペアのスキャンが失敗した場合に出力されます。
中断	アクティブリペアのスキャンが中断された時に出力されます。

●システム温度エラー通知

内容	詳細
装置温度が異常です。装置の設置環境を見直してください。 システムを強制終了します。	装置温度が異常な高温となった場合に出力されます。

●UPS 接続

内容		詳細
UPS 監視	起動	UPS 監視プログラムが起動した時点で出力されます。
	停止	UPS 監視プログラムが停止された時点で出力されます。
	バッテリーでの運用を開始	UPS が電源供給元をバッテリーへと切替えた時に出力されます。
	商用電源での運用に復旧	UPS が商用電源からの電源供給に復旧した時に出力されます。
	バッテリー稼働時間の制限に達しました。	UPS がバッテリーから電源を供給していたが、バッテリーが空に近付いた時に出力されます。
	バッテリー残量の下限に達しました。	UPS がバッテリーから電源を供給していたが、バッテリーが空に近付いた時に出力されます。
	シャットダウン処理を開始します。	シャットダウン処理を開始した時に出力されます。
UPS 接続	UPS 異常: UPS 状態を確認してください	UPS が通常運用と確認できない場合に出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UPS が接続されていない。</li> <li>・ 内蔵バッテリー運用など通常運用ではない。</li> <li>・ その他何らかの通信異常, で発生します。</li> </ul> 起動後は、UPS 抜去時のみ発生します。
デバイス管理	UPS 開始処理終了	UPS の開始処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。
	UPS 停止処理終了	UPS の停止処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。

●iobb.net 設定

内容		詳細
ダイナミックDNS設定	iobb 設定: 変更	iobb.net 設定の変更を行った時に出力されます。
	iobb 設定: 登録	iobb.net 設定の仮登録を行った時に出力されます。
	iobb 設定: 失敗:***	iobb.net 設定の有効化に失敗した時に出力されます。
	iobb 設定: 無効	iobb.net 設定が無効にされた時に出力されます。
ダイナミックDNS更新通知	iobb 更新: 成功	iobb.net 更新通知に成功した時に出力されます。
	iobb 更新: 失敗:***	iobb.net 更新通知に失敗した時に出力されます。

●リモートリンク設定

内容		詳細
リモートリンク設定	リモートリンク設定: 変更	リモートリンク設定の変更を行った時に出力されます。
マイウェブサーバー設定	マイウェブサーバー設定: 変更	マイウェブサーバー設定の変更を行った時に出力されます。
ポート通知	ポート通知: 成功	ポート通知に成功した時に出力されます。
	ポート通知: 失敗:***	ポート通知に失敗した時に出力されます。
ポートオープン	UPnP ポートオープン: 失敗	UPnP ポートオープンに失敗した時に出力されます。

# 設定画面の リファレンス

情報表示

システム情報

システムバージョン	1.10 (beta 07/11/26_23:32)
現在時刻	2000-01-01 09:10:48
タイムサーバーとの時刻同期	無効
有効な共有サービス	Microsoft ネットワークファイル共有 AppleShare ネットワークファイル共有 DLNA Server iTunes Server
内蔵ボリューム1の動作モード	RAID5(分散)パリティ
FUNC ボタン	デジカメコピー(アルバム)
ディスク省電力	なし
ランプの明るさ	明るい
起動スケジュール	無効
筐体内温度	37℃
FAN	低速回転
UPS 接続状態	未接続
UPS バッテリー充電容量	取得できません
UPS 警告機能	無効

項目	内容	出荷時設定
システムバージョン	本製品システムのバージョンです。	1.00 (出荷時期による)
現在時刻	本製品に設定されている時刻です。	—
タイムサーバーとの時刻同期	装置の時刻をタイムサーバーから取得するかどうかについて表示します。 取得する場合、タイムサーバーの設定状況と設定するタイミングも表示します。 例) タイムサーバー： ntp.jst.mfeed.ad.jp 同期タイミング：装置起動時など 設定は、 <a href="#">[システム] → [システム基本設定]</a> (190ページ) をご覧ください。	無効

有効な共有サービス	現在、本製品が提供しているサービスを表示します。 設定は、 <a href="#">[ネットワーク] → [サービス設定]</a> (180ページ) を参照してください。		
	Microsoft ネットワークファイル共有	Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。	有効
	AppleShare ネットワークファイル共有	Macintosh パソコンがファイル共有に使用するサービスです。	有効
	DLNA Server	DLNA 対応製品からアクセスする場合の DLNA サーバーサービスです。	有効
	iTunes Server	iTunes からアクセスする場合に使用するサービスです。	無効
内蔵ボリュームの動作モード	現在の内蔵ボリュームがどのようなモードで動作しているのを表示します。 設定は、 <a href="#">[ボリューム] → [ボリューム設定]</a> (184ページ) を参照してください。		
	スパニング	ディスクの利用効率、システムパフォーマンスが最も高いモードです。 (データ保護機能はありません。)	RAID5 (分散パリティ)
FUNC ボタン	デジカメコピー デジカメコピー(アルバム)	ボタンを押すと、前面の[USB ポート 1]に接続したデジカメデータを本製品の 内蔵ハードディスクにコピーします。	デジカメ コピー (アル バム)
	クイックコピー	ボタンを押すと、前面の[USB ポート 1]に接続した USB ハードディスクの データを本製品の内蔵ハードディスクにコピーします。	
	FAT/NTFS 共有	ボタンを押すと、前面の[USB ポート 1]に FAT/NTFS 共有ディスクとして 接続した USB ハードディスクの取り外しを実行します。	
ディスク省電力	一定時間ディスクアクセスがない場合に内蔵ドライブ、外付けドライブを省電力モードにして消費電力を抑える機能を提供します。時間が表示されている場合は、最後のディスクアクセスからその時間経過すると消費電力を抑えるモードに入ります。次回ディスクアクセスが発生すると、自動的に通常モードに戻ります。 <b>外付けドライブにおいては対応する装置以外、省電力モードは利用できません。</b> 詳しくは弊社ホームページ ( <a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a> ) をご参照ください。 設定は、 <a href="#">[ボリューム] → [省電力設定]</a> (186ページ) を参照してください。		
ランプの明るさ	本製品前面の [STATUS] ランプ、および、4台のディスクの [ACCESS] ランプの明るさを表示します。 明るさは「明るい」「普通」「暗い」の3段階から選択できます。 設定は、 <a href="#">[システム] → [システム基本設定]</a> (190ページ) を参照してください。		
起動スケジュール	本製品を指定時刻に起動、終了する機能を利用しているかどうかを表示します。 設定は、 <a href="#">[システム] → [スケジュール設定]</a> (191ページ) を参照してください。		
筐体内温度	現在の装置内の温度を表示します。		
FAN	FAN の現在の状態を表示します。		
UPS 接続状態	UPS 装置の接続状況を表示します。		
UPS バッテリー充電容量	接続されているバッテリーの残容量を%表示します。		
UPS 警告機能	UPS 監視の有効/無効を表示します。		

情報表示

■ ネットワーク情報

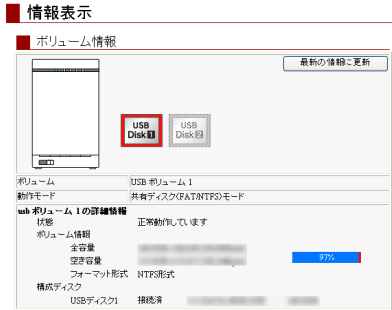
LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL4-G series
ワークグループ名	WORKGROUP
DHCPクライアント	有効
IPアドレス	192.168.0.3
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
DNSドメイン名	apgbbr
DNSサーバアドレス	192.168.0.1
MACアドレス	00:A0:B0:FF:06:AC

項目	内容	出荷時設定
LANDISK の名前	本製品に設定している名前です。 この名前は、Windows ネットワークに接続しているクライアントから本製品を指定する場合などに利用します。設定は、[ネットワーク] → [基本設定] (178ページ) を参照してください。	LANDISK

コンピュータの説明	本製品に設定している説明文です。Windows ネットワークのプロパティ内にある [コンピュータの説明] 同様に、ネットワークで本製品を詳細表示したときのコメントです。 設定は、[ネットワーク] → [基本設定] (178ページ) を参照してください。	HDL4-G series
ワークグループ名/ドメイン名	本製品に設定しているワークグループ名です。 設定は、[ネットワーク] → [基本設定] (178ページ) を参照してください。	WORKGROUP
DHCP クライアント	本製品の IP アドレスを自動取得する DHCP 機能が有効か無効かを表示します。	有効
	有効 IP アドレスをルータなどの DHCP サーバーから自動取得します。	
	無効 IP アドレスを手動設定したと通りに設定します。	
	有効かつ DHCP サーバーから IP アドレスが取得できなかった場合は、以下の①と②の2つのアドレスを設定して起動しますので、管理用パソコンから上記アドレスのどちらかに接続して IP アドレスを固定に変更してください。 ①. 169.254.xxx.xxx のアドレス                      ②. 192.168.0.200 のアドレス 設定は、[ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (179ページ) を参照してください。	
IP アドレス	本製品に設定している IP アドレスです。 DHCP が有効の場合は、DHCP サーバーから自動取得したアドレスが表示されます。 (DHCP 取得失敗時) 192.168.0.200 および 169.254.xxx.xxx 設定は、[ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (179ページ) を参照してください。	DHCP サーバーから自動取得したアドレス
サブネットマスク	本製品に設定しているサブネットマスクです。 IP アドレスとの組み合わせにより、通信できるネットワークが決まります。 DHCP 機能を有効にしている場合は、DHCP サーバーから取得したサブネットマスク値が表示されます。 (DHCP 取得失敗時) 255.255.255.0 (169.254.xxx.xxx のサブネットマスクは 255.255.0.0) 設定は、[ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (179ページ) を参照してください。	DHCP サーバーから自動取得したマスク値
デフォルトゲートウェイ	本製品に設定しているデフォルトゲートウェイです。 通信相手と同じネットワーク内に存在していない場合、本製品は、このゲートウェイアドレス宛に通信を行い、中継を依頼します。 DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバーから取得したゲートウェイアドレスが表示されます。 設定は、[ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (179ページ) を参照してください。	DHCP サーバーから自動取得したアドレス
DNS ドメイン名	本製品に設定している DNS ドメイン名です。 DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバーから取得したドメイン名を表示します。 設定は、[ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (179ページ) を参照してください。	DHCP サーバーから自動取得したドメイン名
DNS サーバアドレス	本製品が名前解決に利用する DNS サーバアドレスです。この設定が正しくないとメール配信が正常に行えません。DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバーから取得した DNS サーバアドレスが表示されます。 設定は、[ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (179ページ) を参照してください。	DHCP サーバーから自動取得したアドレス
MAC アドレス	本製品の MAC アドレスです。 このアドレスは出荷時点で本製品に書き込まれており、変更はできません。	00:A0:B0:xx:xx:xx
ジャンボフレーム	本製品が通信する際に送り出す 1 回分のデータの最大値を指定します。 ネットワーク上のすべての製品がジャンボフレームに対応している場合のみご利用いただけます。 ネットワーク上の全ての機器が同一の値でないと通信できません。設定値が正しいかどうかご確認ください。 設定は、[ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (179ページ) を参照してください。	未使用 (1500byte)

[情報表示] → [ボリューム情報]

情報を表示させたいボリュームをクリックすると詳細情報が表示されます。  
構成ディスクに問題が発生している場合、色で内蔵ディスクの状態を示します。



●表示色での各ディスク状態

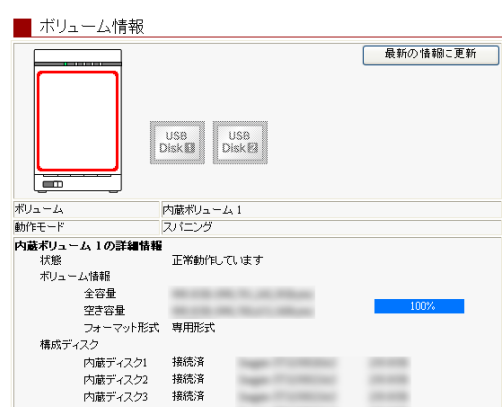
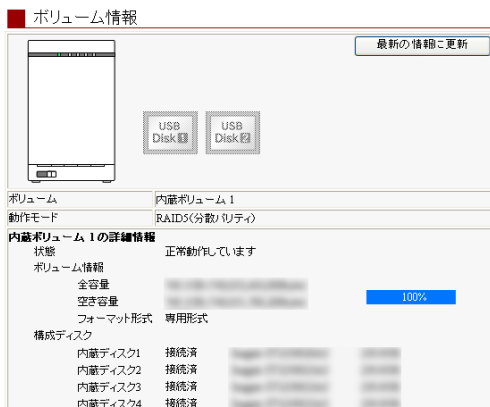
色	状態
グレー	接続済み、正常に動作中
赤	エラー発生、未接続

内蔵ハードディスク

[内蔵ハードディスク] をクリックすると詳細情報が表示されます。

▼RAID5 (分散パリティ) での表示例

▼スパニングでの表示例

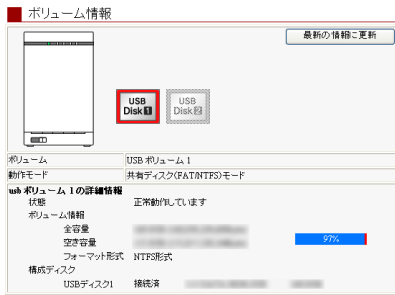


項目	内容	出荷時設定	
<b>▼ボリューム</b>			
選択したボリュームの名前を表示します。			
内蔵ボリューム1	本製品の内蔵ドライブによる RAID アレイです。	—	
<b>▼動作モード</b>			
ボリュームの動作モードを表示します。			
RAID5 (分散パリティ)	ディスクの利用効率、データ保護機能およびシステムパフォーマンスのバランスの良いモードです。	RAID5 (分散パリティ)	
スパニング	ディスクの利用効率、システムパフォーマンスが最も高いモードです。(データ保護機能はありません。)		
<b>▼内蔵ボリューム1の詳細情報</b>			
ボリュームの動作状態を表示します。			
状態	正常動作しています	ボリュームは正常に動作しています。	—
	再構築を行っています (XX% complete)	新しいディスクが追加され、RAID の再構築を行っています。	
	構成ディスクに問題が発生しています	RAID の構成に問題が発生しています。異常が発生しているディスクを新しいものに交換してください。	
	崩壊	崩壊モードで起動した、または、動作中に RAID が崩壊しています。	
	未使用	未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。	
	未接続	該当ポートにドライブが接続されていません。	
このボリュームの容量について表示します。			
ボリューム情報	全容量	ボリューム全体の容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)	—
	空き容量	ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)	

項目	内容		出荷時設定
フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を示します。		
	専用形式	[内蔵ボリューム1] のみの形式です。	専用形式
構成ディスク	ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。 (ディスク番号 ディスク状態 ディスク名 ディスク容量)		
	▼ディスク番号		
	内蔵ディスク1	1番左のディスクのドライブリストです。	-
	内蔵ディスク2	左から2番目のディスクのドライブリストです	
	内蔵ディスク3	左から3番目のディスクのドライブリストです	
	内蔵ディスク4	1番右のディスクのドライブリストです。	
	▼ディスク状態		
	接続済	本製品で正常に認識されています。	-
	未接続	本製品で認識されていません。内蔵ハードディスクの交換、またはケーブルの抜き差しが必要な状態です。	
	容量不足	本製品で認識されていますが、RAIDに組み込めない状態です。接続したディスクの容量がRAIDに組み込むために必要な容量よりも小さい場合にこの状態になります。必要な容量以上のディスクに交換してください。	
	故障	本製品で認識されていますが、接続したディスクのS.M.A.R.T.事故診断機能で故障と判断されていますので、RAIDに組み込めない状態です。ディスクを交換してください。	
	エラー	本製品で認識されていますが、接続したディスクにエラーが多数発生しており、危険な状態のため、RAIDに組み込めない状態です。ディスクを交換してください。	
	停止	本製品で認識されていますが、RAIDに組み込んでいない状態です。[ボリューム] → [ボリューム操作]で[メンテナンス]を実行してください。	
	▼ディスク名		
	ディスク名	ディスクのモデルナンバーを表示します。	-
▼ディスク容量			
ディスク容量	ディスクのディスク容量を表示します。(1Kbyte = 1000byteにて算出しています。)	-	

増設ハードディスク ([USB Disk1]、[USB Disk2])

▼USB Disk1 での表示例



項目	内容	出荷時設定
▼ボリューム		
選択したボリュームの名前を表示します。		
USB ボリューム 1	外付け USB ドライブの内、前面の [USB ポート 1] に接続されているドライブです。	-
USB ボリューム 2	外付け USB ドライブの内、背面の [USB ポート 2] に接続されているドライブです。	

項目	内容	出荷時設定	
▼動作モード			
ボリュームの動作モードを表示します。			
共有ディスク (FAT/NTFS) モード	接続された FAT/NTFS 形式のディスクが、共有ディスクとして使用できることを示します。	USB1 : デジカメコピー (アルバム) USB2 : 共有ディスク	
デジカメコピー	( [USB ボリューム 1] のみ ) デジカメコピー機能が利用可能なことを示します。		
デジカメコピー (アルバム)	( [USB ボリューム 1] のみ ) デジカメコピー機能 (アルバム) が利用可能なことを示します。フォトアルバム機能を利用するには、このモードでの取り込みを使用します。		
クイックコピー	( [USB ボリューム 1] のみ ) USB クイックコピー機能が利用可能なことを示します。		
▼詳細情報			
状態	このボリュームの状態を表示します。		
	正常動作しています	ボリュームは正常に動作しています。	
	未使用	未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。	
	未接続	ディスクが接続されていないか、取り外せる状態にあります。	
	デジカメコピー可能	[FUNC] ボタンでデジカメコピー機能、デジカメコピー (アルバム) 機能が実行できます。	
クイックコピー可能	[FUNC] ボタンでクイックコピー機能が実行できます。		
ボリューム情報	このボリュームの容量について表示します。		
	全容量	ボリューム全体の容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)	
空き容量	ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)		
	空き容量		
フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を表示します。		
	FAT 形式	Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。	
	NTFS 形式	Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。このボリュームは本製品では読み込み専用となります。	
不明な形式	上記以外の形式です。		
構成ディスク	ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。(ディスク番号    ディスク状態    ディスク名    ディスク容量)		
	▼ディスク番号		
	ディスク番号	[USB ディスク 1]    [USB ディスク 2]	-
	▼ディスク状態		
	接続済	ディスクが接続されており、本製品で正常に認識されています。	-
	未接続	ディスクが接続されていないか、取り外し処理を行ったか、あるいは正常に認識されていない状態です。ケーブルの抜き差しが可能な状態です。	
	▼ディスク名		
	ディスク名	ディスクのモデルナンバーを表示します。	-
	▼ディスク容量		
	ディスク容量	ディスクのディスク容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)	-



## 情報表示

### 表示イベント指定

表示するプログラム	<input checked="" type="checkbox"/> デバイス管理 <input checked="" type="checkbox"/> DHCPクライアント <input checked="" type="checkbox"/> WEB設定画面 <input checked="" type="checkbox"/> 共有サービス設定 <input checked="" type="checkbox"/> ログ記録 <input checked="" type="checkbox"/> RAID監視
<input type="button" value="再表示"/>	

ログを表示させるプログラムを指定することで表示内容を絞り込むことができます。ログが大量に表示されていて見づらい場合などにご利用ください。希望のプログラムのみをチェックし、再表示ボタンを押すことで絞り込み表示します。

### ログ情報

日時	プログラム	内容
1月1日 09:02:04	ログ記録	開始
1月1日 09:02:04	デバイス管理	sata1: ディスク交換を検出
1月1日 09:02:04	デバイス管理	sata2: ディスク交換を検出
1月1日 09:02:04	デバイス管理	sata3: ディスク交換を検出
1月1日 09:02:04	デバイス管理	sata4: ディスク交換を検出
1月1日 09:02:04	共有サービス設定	設定変更

表示イベント指定	表示するプログラム	記録されたログの種類のうち、表示するイベントを選択できます。 → [再表示] ボタンを押すとチェックをつけた項目のみが表示されます。
	[再表示] ボタン	[表示するプログラム] 設定に応じて、再度ログを表示します。
ログ	日時	ログを記録した日時を表示します。
	プログラム	イベント名を表示します。
	内容	ログ内容を表示します。 ログ内容の詳細については【 <a href="#">ログ一覧</a> 】(167ページ)をご覧ください。



ログ情報は、以下のような状況のときに削除されます。

- ・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
- ・本製品をシャットダウン/再起動した場合

※システムログをメール送信する設定については、【[システムログをメール送信する](#)】(140ページ)をご覧ください。

## [ネットワーク] → [基本設定]

### ■ ネットワーク

#### ■ 基本設定

LANDISKの名前	<input type="text" value="LANDISK"/>
コンピュータの説明	<input type="text" value="HDL4-G series"/>
ワークグループ	<input type="text" value="WORKGROUP"/>

項目	内容	出荷時設定
LANDISKの名前	ネットワーク上で表示される名前を入力します。 →ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。	LANDISK
コンピュータの説明	Windows ネットワークから本製品を参照したときに表示されるコメントです。(入力しなくてもかまいません。)	HDL4-G series
ワークグループ	ワークグループ名を入力します。	WORKGROUP

# [ネットワーク] → [TCP/IP 設定]

## ネットワーク

### TCP/IP 設定

自動で設定する(DHCP 有効)  
 手動で設定する(DHCP 無効)

IPアドレス: 192 168 0 3  
 サブネットマスク: 255 255 255 0  
 デフォルトゲートウェイ: 192 168 0 1  
 DNSドメイン名: apgbbbr  
 DNSサーバアドレス: 192 168 0 1

### その他の設定

ジャンボフレーム:
  フレームサイズを選択 未使用(mtu:1500)
  フレームサイズを設定 mtu = 1500 byte

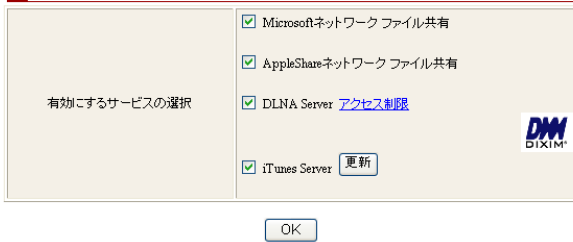
注意  
 ジャンボフレームを設定する場合、通信経路上にあるハブや通信相手のLANアダプタなど、他のネットワーク機器もすべてジャンボフレームに対応している必要があります。  
 ジャンボフレームサイズ設定値のmtu値は、フレームサイズにヘッダサイズを含まない値です

項目	内容	出荷時設定
<b>▼TCP/IP の設定</b>		
IP アドレスを自動取得する (DHCP)	<p>本製品の IP アドレスを、ルータなどの DHCP サーバから自動取得する場合に選択します。→DHCP サーバからの自動取得に失敗した場合、本製品は「169.254.xxx.xxx」の自動 IP アドレスと、「192.168.0.200」の固定アドレスの2つが自動的に設定されますので、設定変更などの際にはこれらのアドレスで通信してください。</p> <p>このとき、[STATUS] ランプは赤く点滅し、ブザー音が鳴ります。自動取得の成功・失敗にかかわらず、[情報表示] → [ネットワーク情報] では [DHCP クライアント] : "有効" と表示されます。</p>	-
次の IP アドレスを使う	<p>本製品の IP アドレスを直接指定したい場合、こちらを選択し、以下の IP アドレス関連項目を設定します。</p> <p>IP アドレス</p> <p>本製品に設定する IP アドレスを入力します。 (Auto IP 自動割当は、169.254.xxx.xxx)</p>	192.168.0.200
	<p>サブネットマスク</p> <p>本製品に設定するサブネットマスクを入力します。 (Auto IP アドレスは、255.255.0.0)</p>	255.255.255.0
	<p>デフォルトゲートウェイ</p> <p>本製品が接続されているネットワークのデフォルトゲートウェイを入力します。一般にインターネットと接続しているルータの IP アドレスを入力します。</p>	なし
	<p>DNS ドメイン名</p> <p>本製品が所属しているネットワークの DNS ドメイン名を入力します。</p>	localdomain
	<p>DNS サーバアドレス</p> <p>本製品が所属しているネットワークの DNS サーバアドレスを入力します。</p>	なし
<b>▼その他の設定</b>		
ジャンボフレーム	<p>ネットワーク上のすべての装置が Gigabit 対応製品で、より高速な通信をしたい場合に設定します。 ネットワーク上の機器すべてが同一のジャンボフレーム値を設定しなければなりません。異なった値が設定されていると通信できなくなります。ご不明の場合は設定値を変更しないようにしてください。</p> <p>フレームサイズを選択</p> <p>ジャンボフレームのフレームサイズを選択します。 以下から選択可能です。 「未使用：1500bytes」 「2KB：2034bytes」 「3KB：3058bytes」 「4KB：4074bytes」 「7KB：7154bytes」 「9KB：9000bytes」 上記以外の値を設定したい場合は「フレームサイズを設定」を選択し、希望する値を入力してください。</p>	未使用：1500bytes
	<p>フレームサイズを設定</p> <p>使用したいフレームサイズが上記の選択肢にない場合、こちらを選択して直接フレームサイズを入力してください。 設定範囲：1500～9676 ここで入力するフレームサイズ値にはフレームヘッダサイズを含めないでください。</p>	

# [ネットワーク] → [サービス設定]

## ネットワーク

### サービス設定



本製品で利用したいサービスを設定します。

項目	内容	出荷時設定
Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。 Windows ユーザーからアクセスする場合にチェックします。	有効
AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh パソコンがファイル共有に使用するサービスです。 Mac ユーザーからアクセスする場合にチェックします。	有効
DLNA Server	DLNA 対応製品からアクセスする場合にチェックします。 DLNA 対応ネットワークメディアプレーヤーや弊社製 DLNA 対応 AVeL Link Player、DLNA 対応テレビなどの DLNA クライアントに、本製品に蓄えられたマルチメディアデータをプレーヤーから直接再生する機能を提供します。 [DLNA Server] 設定時、アクセスできるネットワークメディアプレーヤーを制限することもできます。以下の【アクセス制限】参照	有効
iTunes Server	iTunes からアクセスする場合にチェックします。 パソコンの iTunes から本製品の音楽ファイルの再生を行うことができます。[更新]ボタンをクリックすると、共有フォルダに保存した音楽ファイルのリストを iTunes 上に反映できます。	有効

アクセス制限 ※[DLNA Server]の[アクセス制限]をクリックすると表示されます。

### アクセス制限(デフォルト許可)

#### アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	00-...	...

禁止 削除

#### アクセスを禁止するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	...	...

デフォルトを許可→禁止に変更

アクセスがあったDLNAクライアント	本製品にアクセスがあった DLNA クライアントが表示されます。
アクセスを禁止するDLNAクライアント	本製品へのアクセスを禁止している DLNA クライアントを表示します。
[デフォルトを許可→禁止に変更] ボタン	工場出荷時は、すべての DLNA クライアントからのアクセスを許可するモードですが、本ボタンを押すと全ての DLNA クライアントからのアクセスを禁止するモードとなります。(以下の【デフォルト禁止モード】画面) 参照)

**注意**

本製品には「デフォルトを許可」「デフォルトを禁止」の2つのモードがあります。モードを変更する際にはご注意ください。また、設定を変更した場合、DLNA クライアントを起動しなおしてください。

- ・「デフォルトを許可」モードの場合  
「アクセスを禁止する DLNA クライアント」以外のクライアントはすべてアクセスを許可します。  
ボタンが「デフォルトを許可→禁止に変更」となっている場合がこのモードです。
- ・「デフォルトを禁止」モードの場合  
「アクセスを許可する DLNA クライアント」以外のクライアントはすべてアクセスを禁止します。  
ボタンが「デフォルトを禁止→許可に変更」となっている場合がこのモードです。

## ● [デフォルト禁止モード] 画面

### アクセス制限(デフォルト禁止)

#### アクセスがあったDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input checked="" type="checkbox"/>	00-...	...

#### アクセスを許可するDLNAクライアント

選択	MACアドレス	IPアドレス
<input type="checkbox"/>	00-...	...

禁止

デフォルトを禁止→許可に変更

アクセスがあったDLNAクライアント	本製品にアクセスがあった DLNA クライアントが表示されます。
アクセスを禁止するDLNAクライアント	本製品へのアクセスを禁止している DLNA クライアントを表示します。
[デフォルトを禁止→許可に変更] ボタン	本ボタンを押すと全ての DLNA クライアントからのアクセスを許可するモード(出荷時設定)に戻ります。

## [共有管理] → [共有フォルダー一覧]

### 共有管理

#### 新規共有フォルダの追加

[新規共有フォルダの追加](#) 共有フォルダを追加します

#### 共有フォルダー一覧

内蔵ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
disk1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL4-G RAID volume	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>
dlna	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL4-G DLNA share	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a> <a href="#">DLNA</a>
itunes	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL4-G iTunes share	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a> <a href="#">iTunes</a>

USBボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
usb2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL4-G USB2 disk	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

項目	内容		出荷時設定
▼新規共有フォルダの作成			
新規共有フォルダの追加	共有フォルダを追加します。 → <a href="#">【新規共有フォルダの追加】</a> (次ページ) 画面を表示します。		
▼共有フォルダー一覧			
共有フォルダ名	内蔵ボリューム1の共有	内蔵ボリューム1に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。	disk1 dlna itunes
	USBボリューム1の共有	USBボリューム1に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。	usb1
	USBボリューム2の共有	USBボリューム2に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。	usb2
操作	詳細	共有フォルダの詳細情報を表示します。	
	変更	共有フォルダの設定を変更します。 → <a href="#">【共有フォルダの設定変更】</a> (183ページ) 画面を表示します。	
	削除	共有フォルダを削除します。	
コメント	コメントが表示されます。		
サービス	設定されている共有サービスが表示されます。		
	<a href="#">Win</a>	この共有はWindowsネットワークファイル共有サービスで利用可能です。	
	<a href="#">Mac</a>	この共有はMacintoshネットワークファイル共有サービスで利用可能です。	
	<a href="#">DLNA</a>	この共有はDLNAサービスとして公開されます。	
	<a href="#">iTunes</a>	この共有はiTunesサービスとして公開されます。	
<a href="#">Remote</a>	この共有はリモートアクセス共有サービスで利用可能です。		



FAT/NTFS ハードディスクに、新規の共有を作成することはできません。(ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。)

[共有管理] → [共有フォルダ追加]


共有管理

共有フォルダ追加

共有フォルダ名	LANDISK
共有フォルダのコメント	※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。
アクセス権の選択	<input checked="" type="radio"/> 全てのユーザーに許可 <input type="radio"/> 指定ユーザーのみ許可 <input type="checkbox"/> このフォルダを読み取り専用にする
サービスの選択	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoftネットワークファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShareネットワークファイル共有 <input type="checkbox"/> DLNA Server で公開 <input type="checkbox"/> iTunes Server で公開 <input type="checkbox"/> リモートアクセス共有
ごみ箱機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 ※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。

OK

項目	設定する内容	出荷時設定
共有フォルダ名	共有フォルダの名前を入力します。この名前が、ネットワーク上（「マイネットワーク」や「ネットワークコンピュータ」など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。	なし
共有フォルダのコメント	Windows 用です。ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。	LANDISK

項目	内容	出荷時設定	
アクセス権の選択	共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を設定できます。	全てのユーザーに許可	
	全てのユーザーに許可		本製品にアクセスできるすべてのユーザーがアクセスできる設定です。
	指定ユーザーのみ許可		本製品にユーザー登録したユーザーのうち、特定のユーザーと adminのみがアクセスできる設定です。
	このフォルダを読み取り専用にする		本製品にアクセスできるすべてのユーザーから読み取りのみできるように（書き込み禁止）にする設定です。
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;">  <b>注意</b> NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず読み込みのみ可能です。書き込みできる設定にすることはできません。         </div>			
サービスの選択	この共有で利用するネットワークサービスを選択します。実際にこれらを有効にするためには「ネットワーク」→「サービス設定」（180ページ）でそれぞれのサービスを有効にしてください。		
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。	有効
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。	有効
	DLNA Server で公開	DLNA 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。上記【アクセス権の選択】設定が「全てのユーザーに許可」となっている場合のみ、選択できます。	無効
	iTunes Server で公開	iTunes からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。上記【アクセス権の選択】設定が「全てのユーザーに許可」となっている場合のみ、選択できます。	無効
リモートアクセス共有で公開	リモートアクセス共有にてこのフォルダにアクセスしたい場合はチェックします。上記【Microsoft ネットワークファイル共有】にチェックが付いている場合のみ、選択できます。	無効	
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦【ごみ箱】フォルダに保管されます。【ごみ箱】フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに【ごみ箱】フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に【ごみ箱】フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。【ごみ箱】フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【ごみ箱】フォルダからファイルを戻す（62ページ）	無効	

[共有フォルダの設定変更] 画面での設定内容

共有フォルダ管理

共有フォルダの設定変更

変更する項目の選択	変更内容の設定
<input type="radio"/> 共有フォルダ名を変更	disk1
<input type="radio"/> コメントを変更	HDL4-G RAID volume
<input type="radio"/> アクセス権を変更	<input checked="" type="radio"/> 全てのユーザーに許可 <input type="radio"/> 指定ユーザーのみ許可 <input type="checkbox"/> このフォルダを読み取り専用にする
<input type="radio"/> サービスを変更	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワークファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShare ネットワークファイル共有 <input type="checkbox"/> DLNA Server で公開 <input type="checkbox"/> iTunes Server で公開 <input type="checkbox"/> リモートアクセス設定
<input type="radio"/> ごみ箱機能を変更	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

変更 クリア

項目	設定する内容
共有フォルダ名を変更	共有フォルダの名前を変更できます。この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。
コメントを変更	Windows 用です。ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（166ページ）を参照してください。

アクセス権を変更	共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を変更できます。	
	全てのユーザーに許可	本製品にアクセスできるすべてのユーザーがアクセスできる設定です。
	指定ユーザーのみ許可	本製品にユーザー登録したユーザーのうち、特定のユーザーのみがアクセスできる設定です。
	このフォルダを読み取り専用にする（FTP は除く）	本製品にアクセスできるすべてのユーザーから読み取りのみできるよう（書き込み禁止）にする設定です。
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>注意</b> NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず、読み取り専用となります。書き込みできる設定にすることはできません。</p> </div>		
サービスを変更	共有フォルダのサービスを変更できます。	
	Microsoft ネットワークファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワークファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	DLNA Server で公開	DLNA 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。上記 [アクセス権の選択] 設定が「全てのユーザーに許可」となっている場合のみ、選択できます。
	iTunes Server で公開	iTunes からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。上記 [アクセス権の選択] 設定が「全てのユーザーに許可」となっている場合のみ、選択できます。
	リモートアクセス共有で公開	リモートアクセス共有にてこのフォルダにアクセスしたい場合はチェックします。上記 [Microsoft ネットワークファイル共有] にチェックが付いている場合のみ、選択できます。
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。 [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 [ごみ箱] フォルダの使い方については以下の箇所を参照してください。 【[ごみ箱] フォルダからファイルを戻す】（62ページ）	

## [共有管理] → [ユーザー一覧]

### 共有管理

#### 新規ユーザの追加

[新規ユーザの追加](#) ユーザを追加します

#### 注意事項

LANDISKユーザ・NTFSメインユーザが登録されていません。

項目	設定する内容	出荷時設定
新規ユーザーの追加	新規ユーザーを追加します。 →以下の【ユーザー追加】画面を表示します。	—
既存のユーザー	ユーザーが登録されている場合に、すでに登録されているユーザーの一覧を表示します。	なし

## [共有管理] → [ユーザー追加]

### 共有管理

#### ユーザ追加

新しいユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
確認パスワード	<input type="password"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="クリア"/>	

項目	設定する内容
▼ユーザー追加	
新しいユーザー名	新しく追加するユーザーのユーザー名を入力します。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】(166ページ)を参照してください。
パスワード	ユーザーのパスワードを入力します。
確認パスワード	

## [ボリューム] → [ボリューム操作]

### ボリューム

#### ボリューム操作

内蔵ボリューム1	動作モード 状態 操作 ● 詳細情報	RAID5(分散リデュン) 正常動作しています フォーマット(専用) <input type="button" value="実行"/>
USBボリューム1	動作モード 状態 操作 ● 詳細情報	デジタルコピー 未使用 現在可能な操作はありません
USBボリューム2	動作モード 状態 操作 ● 詳細情報	共有ディスク(FAT/NTFS)モード 未接続 現在可能な操作はありません

[動作モード] [状態] [詳細情報]

[動作モード] [状態] [詳細情報] は、[情報表示] 画面の [ボリューム情報] と同じです。

#### ● 出荷時設定

内蔵ボリューム1：RAID5

USBボリューム1：デジタルコピー（アルバム）

USBボリューム2：共有ディスク

次の個所を参照してください。【情報表示】の【ボリューム情報】(174ページ)

項目	内容	出荷時設定
[操作]		
▼内蔵ボリューム1		
内蔵ボリューム1では、以下の操作が可能です。		
フォーマット（専用）	このボリュームを専用フォーマット形式にてフォーマットします。専用フォーマット形式のボリュームには複数の共有フォルダを作成することができます。また、ファイルサイズの制限がありません。マイウェブサーバー機能が有効になっているときには本製品が再起動します。	フォーマット（専用）
チェックディスク	専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。もしエラーがあった場合には、ファイル構造を修復します。 チェックディスクについては、次の個所を参照してください。【[チェックディスク]でチェックする】(71ページ)	
メンテナンス	RAID構成が正常に認識できず、復旧不能な状態の場合にのみ表示されます。 この状態から保存されていたファイル群を復旧することはできません。メンテナンスでは、失われたRAID構成を破棄し、新たに4台によるRAIDボリュームを作成しなおします。 手順については、次の個所を参照してください。【強制的にRAIDを再構成する】(149ページ)	
▼USBボリューム1、USBボリューム2		
フォーマット（FAT32）	このボリュームをFAT32形式にてフォーマットします。FAT32形式は、Windowsにて採用されているフォーマット形式の一種で、そのままWindowsパソコンに接続してデータの読み書きが可能です。FAT形式のボリュームはドライブ全体がひとつの共有フォルダとなり、複数の共有フォルダを作成することはできません。また最大ファイルサイズは4G-1バイトとなります。	
ディスクの取り外し	FATまたはNTFS形式のボリュームを取り外せる状態にします。 ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後以外してください。	



# [ボリューム] → [ボリューム設定]

## ■ ボリューム



ボリュームの選択	動作モードの選択		出荷時設定		
内蔵ボリューム	内蔵ボリュームの動作モードを選択します。				
	<table border="1"> <tr> <td>スパニング</td> <td>内蔵ディスク1～4を結合させ、1つのハードディスクとして認識します。大容量で使いたい場合に最適です。</td> </tr> <tr> <td>RAID5 (分散パリティ)</td> <td>内蔵ディスク1～4で RAID5 (分散パリティ) を構成し、1つのボリュームとして使用できます。ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。</td> </tr> </table>	スパニング	内蔵ディスク1～4を結合させ、1つのハードディスクとして認識します。大容量で使いたい場合に最適です。	RAID5 (分散パリティ)	内蔵ディスク1～4で RAID5 (分散パリティ) を構成し、1つのボリュームとして使用できます。ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。
スパニング	内蔵ディスク1～4を結合させ、1つのハードディスクとして認識します。大容量で使いたい場合に最適です。				
RAID5 (分散パリティ)	内蔵ディスク1～4で RAID5 (分散パリティ) を構成し、1つのボリュームとして使用できます。ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。				
USBボリューム1	USBボリューム1の動作モードを選択します。				
	共有ディスク (FAT/NTFS)	FAT/NTFS形式のUSBハードディスクを接続し、共有できるモードです。	デジカメコピー (アルバム)		
	クイックコピー	前面の [FUNC] ボタンを使ってクイックコピーができるモードです。			
	デジカメコピー	前面の [FUNC] ボタンを使ってデジカメコピーができるモードです。			
	デジカメコピー (アルバム)	前面の [FUNC] ボタンを使ってデジカメコピー (アルバム) ができるモードです。フォトアルバム機能を利用する場合は、このモードにてデータを取り込みます。			
DVD/CD イメージ取り込み機能	前面の [FUNC] ボタンを使って、前面の [USBポート 1] に接続した外付け DVD ドライブから DVD/CD のデータを ISO イメージで取り込みます。 ※市販のコピープロテクトされたメディアや音楽 CD には対応していません。				
USBボリューム2	USBボリューム2の動作モードを表示します。				
	共有ディスク (FAT/NTFS)	FAT/NTFS形式のUSBハードディスクを接続し、共有できるモードです。	共有ディスク (FAT/NTFS)		

## [ボリューム] → [省電力設定]

### ■ ボリューム

#### ■ 省電力設定:ディスク

時間選択	なし
------	----

本装置に接続した内蔵ディスク、およびUSBディスクにアクセスがなかった場合、ディスクの省電力モード(スピンダウン)を開始するまでの時間を選択します。

#### ■ 省電力設定:ボリューム

内蔵 ボリューム	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
USB ボリューム1	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
USB ボリューム2	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

各ボリュームを構成するディスクに対して省電力設定を有効するかどうかを設定します。  
上記の設定を有効に設定しても、接続するディスクによっては正常に省電力設定が機能しない場合があります。

OK

項目	内容	出荷時設定
ディスクの省電力設定		
時間選択	一定時間、本製品や増設ハードディスクにアクセスがない場合にハードディスクの動作を停止させる機能です。 この停止までの時間を変更できます。(初期値は「なし」です。) ※設定時間内にハードディスクにアクセスしなくても本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクの動作は停止しません。	なし
ボリュームごとの省電力設定		
内蔵ボリューム	有効：省電力機能を有効にします。	無効
USB ボリューム 1	無効：省電力機能を無効にします。	
USB ボリューム 2	※各ボリュームを構成するハードディスクに対して設定されます。 ※USB 接続のディスクが正常に認識されない場合は、省電力設定を無効に設定すると認識できる場合があります。	

## [ボリューム] → [アクティブリペア]

アクティブリペアとは、ミラーリングや分散パリティを行っている RAID のディスクの一部に不良セクタが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことによって、ディスク不良によるデータ破損を防止する機能です。

ファームウェアバージョン 1.11 以降より、本製品はアクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。

### ■ アクティブリペア設定

**■ アクティブリペア**

現在の状態	アクティブリペアは実行していません
最終実行時刻	
アクティブリペア機能	開始 <input type="button" value="停止"/>

アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ディスクおよび eSATA ディスク 1 の不良セクタの検出、および自動修復を行います。アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。また、自動修復に失敗した場合でも、フォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。[ディスクエラーのメール通知](#)を設定すると、アクティブリペアの開始/終了時にメール通知を行います。

**■ アクティブリペアのスケジュール実行**

スケジュール実行機能	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない 曜日指定: <input checked="" type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 時刻指定: <input type="text" value="2"/> 時 <input type="text" value="0"/> 分
------------	---

スケジュール実行機能を設定しておく、指定した時間にアクティブリペアを実行します。ディスク故障の早期発見に役立ちます。

項目	内容	出荷時設定	
アクティブリペア			
現在の状態	現在のアクティブリペアの実行状態または結果を表示します。		
	表示	意味	
	アクティブリペアは実行していません	本製品を起動後、一度もアクティブリペアを実行していません。	アクティブリペアは実行していません
	アクティブリペア実行中	アクティブリペアを実行中です。	
	アクティブリペアが中断されました	[停止] ボタンを押して、中断した状態です。	
	エラーは発見されませんでした	エラーはありません。ディスクは正常です。	
	アクティブリペアにより修復されました	エラーがありましたが修復完了しました。ディスクは正常です。	
	修復不能なエラーが発見されました	エラーがあり、修復できなかった状態です。ディスクを交換してください。(詳細はシステムログを参照してください。)	
不明な状態です	ディスク状態を取得できない状態です。本製品の再起動が必要です。		
最終実行時刻	最後にアクティブリペアを実行した時刻が表示されます。		
アクティブリペア機能	アクティブリペアの実行を制御します。		
	開始	アクティブリペアを実行します。	
	停止	実行中のアクティブリペアを停止します。	
アクティブリペアのスケジュール実行			
スケジュール機能	設定した日時にアクティブリペアを自動的に実行したい場合は【使用する】をチェックし、曜日、時刻を指定します。		
	曜日指定:	アクティブリペアする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。	使用しない
	時刻指定:	アクティブリペアする時刻を指定します。 24 時間制で指定します。 例) 午後 9 時ちょうどの場合は、[21]時[0]分	

## [ボリューム] → [USB 1 取り外し]、[ボリューム] → [USB2 取り外し]

本製品に接続した USB 機器を取り外す際に、それぞれ[USB1 取り外し]、[USB2 取り外し]をクリックします。

# [メール] → [メール基本設定]

## メール

### メール基本設定

メール通知機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
SMTP サーバ	<input type="text"/>
SMTP ポート番号	25
差出人メールアドレス	<input type="text"/>

「メール通知機能」の設定は、全てのメール通知機能に対するスイッチとなり、「無効」を選択した場合、それぞれの画面でメール通知設定を行ってもメールは送信されません。  
「メールエンコード」は、メールの本文が文字化けする場合、設定を変更してみてください。  
「差出人メールアドレス」は、SMTP サーバで使用可能なメールアドレスを入力して下さい。

### POP before SMTP 設定

POP before SMTP	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
POP サーバ	<input type="text"/>
POP ユーザー名	<input type="text"/>
POP パスワード	<input type="text"/>

SMTP サーバとの接続で POP before SMTP 認証を行っている場合に設定します。  
わからない場合は、「無効」を選択して下さい。

設定保存

### メール通知テスト

送信先メールアドレス	<input type="text"/>
メールエンコード	<input checked="" type="radio"/> ISO-2022-JP <input type="radio"/> UTF-8

上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。  
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。  
実際の宛先は、各機能で別々の宛先を設定することができます。

テストメール送信

項目	設定する内容	出荷時設定
メール基本設定		
メール通知機能	ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。	無効
SMTP サーバ	メール送信に利用する SMTP サーバを設定します。プロバイダや会社のメールサーバなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバ名を入力してください。	なし
SMTP ポート番号	メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。(初期値: 25) ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。	25
差出人メールアドレス	送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。	なし

項目	内容	出荷時設定
POP before SMTP 設定		
POP before SMTP	送信メールサーバのセキュリティ設定により、送信前にメール受信動作が必要な場合に設定します。 ※本動作において、本製品は実際にメール受信は実行しません。送信のために必要な認証処理のみ実行します。	無効
POP サーバ	POP サーバ名を入力します。	なし
POP ユーザー名	メール受信に使用するユーザー名を入力します。	なし
POP パスワード	メール受信に使用するパスワードを入力します。	なし
[設定保存] ボタン	上記の設定情報をシステム内に記憶します。	—
メール通知テスト		
送信先メールアドレス	上記の設定情報が正しく機能するか、実際にメールを送信してテストすることができます。テストメールの送信先アドレスを設定します。	なし
メールエンコード	メール本文のエンコード方式を選択します。通常は、[ISO-2022-JP]で使用します。	ISO-2022-JP
[テストメール送信] ボタン	テストメールを送信します。	—

# [メール] → [メール通知設定]

## メール

**注意**  
「メール基本設定」の「メール通知機能」が「無効」に設定されています。  
「メール通知機能」を使用するには、「メール通知機能」を「有効」に設定してください。

## メール通知設定

内容	メール通知	エンコード	送信先メールアドレス
システムログ	<input type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ISO-2022-JP <input type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
システム起動終了通知	<input type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ISO-2022-JP <input type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
システム温度エラー通知	<input type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ISO-2022-JP <input type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
ディスクエラー通知	<input type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ISO-2022-JP <input type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
リモートリンク通知	<input type="checkbox"/> 有効	<input checked="" type="radio"/> ISO-2022-JP <input type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>

OK

項目	内容		出荷時設定
内容	システムログ	<p>システムで発生したイベントなどを記録した「システムログ」をメールで送信することができます。</p> <p>(初期値は無効)</p> <p>本製品では随時システムログのサイズをチェックし、一定の大きさを超えた場合にメールでシステムログを送信します。また、シャットダウン時にもシステムログを送信します。</p>	—
	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p><b>注意</b> ログ情報は、以下のような状況のときに消去されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合</li> <li>・本製品をシャットダウンした場合</li> <li>・「システムログのメール送信」を[有効]にしている、ログメールが送信された後</li> </ul> <p>※システムログをメール送信する設定については、【システムログをメール送信する】(140ページ)をご覧ください。</p> </div>		
	システム起動終了通知	<p>システムの起動、または終了の通知メールを指定のメールアドレスに送信します。</p>	—
	システム温度エラー通知	<p>装置温度が異常に高温になった場合にメール送信されます。</p> <p>システム温度エラー時：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブザー：「ピーピーピー」となり続けます。ボタンで止めることができます。</li> <li>・[STATUS] ランプは赤く点滅します。</li> </ul> <p>通知時の動作：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度エラー：5分後にシャットダウン</li> </ul>	—
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p><b>注意</b> システム温度エラー時は、メール送信後、5分後に自動的にシャットダウンします。</p> <p>装置を保護するためです。</p> </div>			
ディスクエラー通知	<p>以下のディスクエラーが発生した場合、[送信先メールアドレス]で指定したメールアドレスに通知することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内蔵ハードディスクの読み書きでエラーが発生した場合</li> <li>・リビルドに失敗した場合</li> <li>・[アクティブリペア]の開始、終了時</li> </ul>	—	
メール通知	各メール通知設定を有効にする場合にチェックします。		無効
エンコード	メール本文のエンコード方式を選択します。通常は、[ISO-2022-JP]で使用します。		ISO-2022-JP
送信先メールアドレス	上記ログや通知情報を送信するメールアドレスを指定します。		なし

## [システム] → [システム基本設定]

### システム

本製品のシステム時刻を設定します。  
必ず現在時刻を設定してください。

#### 時刻設定

<input checked="" type="radio"/> 手動設定	2000 年 1 月 1 日 11 時 27 分00秒 PCの時刻を設定
<input type="radio"/> タイムサーバ使用	タイムサーバ名またはIPアドレス <input type="text" value="ntp.jst.mfeed.ad.jp"/> 同期のタイミング <input type="checkbox"/> システム起動時 <input type="checkbox"/> 毎日指定時刻 12 時 34 分

#### ランプの明るさ設定

ランプの明るさ	<input checked="" type="radio"/> 明るい <input type="radio"/> 普通 <input type="radio"/> 暗い
LANDISKのランプ(LED)の明るさを3段階で調節することができます。	

OK クリア

#### 時刻設定

項目	設定する内容	出荷時設定
手動設定	手動で時刻を設定する場合に選択します。本製品に設定する時刻を入力できます。	手動設定
	[PCの時刻を設定] ボタン パソコンと同じ時刻を設定します。	
タイムサーバ使用	タイムサーバを使用する場合に選択します。タイムサーバの設定を実行すると、そのタイミングでいったんタイムサーバ時刻を本製品に設定します。	
	タイムサーバ名またはIPアドレス	
	タイムサーバ名またはIPアドレス タイムサーバ名かタイムサーバのIPアドレスを入力します。通常は初期設定のタイムサーバをお使いください。	
	同期のタイミング	
	どんな時に時刻同期を行なうかを設定します。どちらかにチェックを入れてください。(システム起動時/毎日指定時刻を両方同時に選択することもできます。)	
システム起動時	本製品起動時にタイムサーバとの時刻同期を行ないます。	
毎日指定時刻	指定した時間(24時間表記で入力します)にタイムサーバとの時刻同期を行ないます。本製品を24時間稼働させる場合はこちらを選択してください。	

#### ランプの明るさ設定

項目	設定する内容	出荷時設定
ランプの明るさ	明るい	明るい
	普通	
	暗い	

## [システム] → [UPS 設定]

### システム

#### UPS 状態

UPS 接続状態	未接続
UPS バッテリー充電容量	取得できません。

#### UPS 警告設定

UPS 警告機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
「UPS 警告機能」を有効に設定すると、UPS の接続が確認できない、または停電状態を検出すると、ブザー音と STATUS ランプ (赤点滅) でお知らせします。	

#### シャットダウン条件設定

停電後の経過時間	1分後にシャットダウン
UPS バッテリー充電容量	10%以下でシャットダウン
UPS 接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれか1つに一致した時点でシャットダウン処理を開始します。	

OK

項目	設定する内容	出荷時設定
UPS 状態		
UPS 接続状態	UPS 装置の接続状態を表示します。	未接続
UPS バッテリー充電容量	UPS 装置のバッテリー状況を表示します。	取得できません。

UPS 警告設定		
UPS 警告機能	有効に設定すると、UPS の接続が確認できない、または、停電状態を検出すると、ブザー音と STATUS ランプ (赤点滅) でお知らせします。	無効

シャットダウン条件		
本設定は、本製品に対応した UPS 装置を USB 接続したときのみに有効です。		
停電後の経過時間	停電を検出後、指定時間が経過すると、本装置のシャットダウンを開始します。	1分後にシャットダウン
UPS バッテリー充電時間	UPS 装置のバッテリー充電容量が指定の充電容量以下になったことを検出したとき、本装置のシャットダウンを開始します。	10%以下でシャットダウン

## [システム] → [スケジュール設定]

### システム

#### スケジュール設定

起動スケジュール機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
「起動スケジュール機能」の設定で「無効」を選択した場合、「起動スケジュール表」で設定を行っても起動スケジュール機能は動作しません。	

#### 起動スケジュール表の設定

設定方法の選択				
<input type="radio"/> 毎日指定時刻に起動・終了				
<input type="radio"/> 平日の指定時刻に起動・終了				
<input checked="" type="radio"/> 曜日個別の指定時刻に起動・終了				
曜日	起動設定	起動時刻指定	終了設定	終了時刻指定
日曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
月曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
火曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
水曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
木曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
金曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
土曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0

OK

スケジュールを設定すると、指定した時刻に本製品を自動的に起動および終了させる (シャットダウン) ことができます。

**注意**

起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態にしておいてください。電源コンセントから電源ケーブルを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。

項目	設定する内容	出荷時設定	
起動スケジュール機能	有効にすると、以下の起動スケジュール表に従って、本製品の電源の ON/OFF を行います。無効にした場合は、以下のスケジュール表のすべての設定が無効になります。	無効	
起動スケジュール表の設定	起動方法の選択		
	毎日指定時刻に起動・終了	毎日同じ時刻に起動/終了します。	曜日個別の指定時刻に起動・終了
	平日の指定時刻に起動・終了	平日のみ設定時刻に起動/終了します。	
	曜日個別の指定時刻に起動・終了	すべての曜日について異なる設定を行えます。	
	曜日・起動設定・起動時刻設定・終了設定・終了時刻設定		
	起動設定	有効にチェックした場合、指定した時刻に起動します。	無効
	起動時刻指定	起動時刻を指定します。 24 時間制で指定します。例) 午前 8 時ちょうどの場合は、[8]時[0]分	なし
終了指定	有効にチェックした場合、指定した時刻に終了します。	無効	
終了時刻指定	終了時刻を指定します。 24 時間制で指定します。例) 午後 10 時ちょうどの場合は、[22]時[0]分	なし	

## [システム] → [シャットダウン]

**システム**

■ シャットダウン

システムの「シャットダウン」または「再起動」を行います  
処理を選択してください

今すぐシステムシャットダウンを実行する

今すぐシステム再起動を実行する

OK

システムのシャットダウンまたは、再起動を行います。	
今すぐシステムシャットダウンを実行する	本製品をシャットダウンします。 シャットダウン処理ではシステムの電源を安全に切断できるよう、設定情報や管理情報の更新作業の他、一時記憶されているデータファイルの保存作業を行います。STATUS ランプが消灯するまでそのままお待ちください。 [STATUS] ランプが消灯することを確認するまでは電源ケーブルを抜かないでください。
今すぐシステム再起動を実行する	本製品を再起動します。

## [システム] → [システム初期化]

**システム**

■ システム初期化

警告

システム初期化を実行すると、全ての設定、及び内蔵HDDのデータが削除されます。

システム初期化を実行しますか？

内蔵 HDD の完全消去を行う

「内蔵 HDD の完全消去を行う」にチェックをつけて「システム初期化」を実行すると、内蔵HDDのデータ領域をゼロクリアします。完全消去には数時間かかる場合があります。

OK

[OK] ボタンをクリックすると、すべての項目を本製品の出荷時設定値に戻し、内蔵ハードディスクもフォーマットします。 ハードディスク内に必要なデータがある場合は、必ずシステム初期化前に、データをバックアップしてください。 出荷時設定については、 <a href="#">【出荷時設定一覧】</a> （164ページ）をご覧ください。	
内蔵 HDD の完全消去を行う：	チェックすると、出荷時設定へ戻すと同時に内蔵ハードディスクのデータ領域を 0（ゼロ）クリアします。



**注意**

[内蔵 HDD の完全消去を行う]をチェックした場合、内蔵ハードディスクをフォーマットした後、全てのデータ領域に 0（ゼロ）を書き込みます。  
本製品を廃棄や譲渡される場合にチェックしてください。（本処理には、目安として、1G バイトあたり約 1 分ほど要します。）

## [システム] → [ファームウェア更新]

ファームウェアの更新（アップデート）手順については、以下の個所を参照してください。

[【ファームウェアを更新する】](#)（137ページ）

**システム**

■ ファームウェア更新

現在のファームウェアバージョンは1.00です。

ファームウェアのファイル名

ファームウェアのファイル名	[参照] ボタンをクリックして、ファームウェアのファイル名(update.tgz)を選択し、[更新] ボタンをクリックします。 ファームウェアのアップデートは画面にしたがって正しく行ってください。 また、あわせてダウンロードしたアップデートプログラム内の README.TXT ファイルもご覧ください。
---------------	---



## [システム] → [管理者パスワード変更]

### システム

#### 管理者パスワード

現在のパスワード	<input type="password"/>
新パスワード	<input type="password"/>
確認パスワード	<input type="password"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="クリア"/>	

項目	設定する内容	出荷時設定
現在のパスワード	管理者の現在のパスワードを入力します。	なし
新パスワード	管理者の新しいパスワードを入力します。 ※使用できる文字には制限があります。 <a href="#">【文字制限一覧】</a> （166ページ）を参照してください。	
確認パスワード	管理者の確認パスワードを入力します。	



●管理者はアクセス制限を設定した共有フォルダを含め、すべての共有フォルダにアクセスできます。  
(Windows パソコンからアクセスする場合のみ)

※Macintosh パソコンからすべての共有フォルダにアクセスすることはできません。

管理者がネットワークにログオンする際には、ユーザー名「admin」、パスワードを上記で設定したパスワードでログオンすれば、すべての共有フォルダにアクセスできます。

## [リモートリンク] → [iobb.net 設定]

弊社が提供するダイナミックDNSサービス「iobb.net」に関する設定を行います。

#### リモートリンク

##### iobb.net設定

iobb.netへの登録・更新	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
ステータス	iobb.net更新は無効です。
シリアル番号	<input type="text"/>
ホスト名	<input type="text" value="iobb.net"/>
パスワード	<input type="password"/>
確認パスワード	<input type="password"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
UPnP機能利用	<input type="radio"/> 使わない <input type="radio"/> 使う

項目	設定する内容		出荷時設定
iobb.netへの登録・更新	iobb.netへ登録更新の有無を設定します。		無効
	有効	iobb.netへの登録・更新を有効にします。	
	無効	iobb.netへの登録・更新を無効にします。	
ステータス	現在の状態を表示します。		—
シリアル番号	本製品のシリアル番号（12桁の英数字）を入力します。		—
ホスト名	iobb.netに登録するホスト名を入力します。		—
パスワード	iobb.netに登録するパスワードを入力します。		—
確認パスワード	確認のため再度パスワードを入力します。。		—
メールアドレス	iobb.netから送信される、登録通知メールを受信するメールアドレスを入力します。		—
UPnP機能利用	使う	UPnP機能を使用してポート設定をします。	使う
	使わない	UPnP機能を使用してポート設定ができない場合、「使わない」に設定しお使いのルーターから手動でポートを開放の設定をしてください。	

## [リモートリンク] → [リモートアクセス]

リモートリンクに関する設定を行います。

項目	設定する内容	出荷時設定	
リモートリンク	リモートリンクの有無を設定します。	無効	
	有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効		リモートリンクを有効にします。
	無効 <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/>		リモートリンクを無効にします。
ポート番号	ポート番号を選択します。	—	

## [リモートリンク] → [ホームメディアリンク]

ホームメディアリンクに関する設定を行います。

項目	設定する内容	出荷時設定	
ホームメディアリンク	ホームメディアリンクの有無を設定します。	無効	
	有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効		ホームメディアリンクを有効にします。
	無効 <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/>		ホームメディアリンクを無効にします。
ポート番号1,2	ポート番号を選択します。	—	

## [リモートリンク] → [マイウェブサーバー]

マイウェブサーバーに関する設定を行います。

項目	設定する内容	出荷時設定	
マイウェブサーバー	マイウェブサーバーの有無を設定します。	無効	
	有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効		マイウェブサーバーを有効にします。
	無効 <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/>		マイウェブサーバーを無効にします。
公開フォルダ	公開するフォルダを選択します。	—	
ポート番号	ポート番号を選択します。	—	
アクセスユーザー名	アクセスするユーザー名を入力します。	—	
アクセスパスワード	パスワードを入力します。	—	

困ったときには

本製品を使用していてトラブルがあった場合にご覧ください。

● **トラブルの状態と対処**

以下のトラブルの状態をクリックしてください。

弊社ホームページの[製品 Q&A]もご覧ください  
⇒<http://www.iodata.jp/support/product/hdl4-g/>

サポート Web ページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

◆ **本製品起動時のトラブル**

本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った	199
どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない	199
使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	199
起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	200
起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているディスクがある	201

◆ **セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）**

Mac と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？	202
現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない	202
(Windows)	205
[Magical Finder]で本製品が検索されない	
DHCP サーバーがあるのに、STATUS ランプが赤く点滅している	206
(Mac OS)	207
パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない	
パソコンと本製品を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している	209
[LANDISK の名前]を変更したい	209
ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない	210
ファイアウォールソフトで、本製品に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない	210
パソコンの IP アドレスがわからない	210

◆ **本製品へアクセス時のトラブル**

「LANDISK」のアイコンを開いたり、共有フォルダを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される	213
Mac OS(バージョン問わず)から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる	213
本製品にアクセスできないパソコンがある (他のパソコンからは既に LANDISK にアクセスできている場合)	214
本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？	214

● **Windows**

[コンピュータの検索]で[Landisk]が見つからない	215
Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある	216
Windows Vista®/XP/2000 のパソコンからユーザー権限共有フォルダにログオンしようとする、エラーメッセージが出てきてログオンができない	217
[Magical Finder]で本製品が検索されない	217

● **Macintosh**

[Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない	218
------------------------------	-----

## ◆設定画面に関するトラブル

(Windows) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない	219
(Mac OS) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない	220
設定画面で一部表示されない項目がある	222
空き容量が実際より少ない気がする	222
設定画面で文字が入力できない	222
設定画面上から入力できる文字制限について	222
パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない	223
設定画面にログオンするためのパスワードがわからない	223
以下のメッセージが表示された 「現在システムは処理中です。 しばらく待ってから操作してください。」	223
設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる	223
設定画面の動作が遅い	223

## ◆本製品の IP アドレスについて

本製品に設定した IP アドレスを忘れた 本製品に設定されている IP アドレスを調べたい	224
--	-----

## ◆ファイルの保存について

本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない	225
ファイル名やフォルダ名の制限について	225
ファイルを削除するとごみ箱に一旦入りますか？	225
共有フォルダにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？	225

## ◆ランプやブザーについて

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポー」となり続けている	226
使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている	226
STATUS ランプが赤く点滅している	226
パソコンと本製品を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している	227
ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない	227
ランプの動作について知りたい	227

## ◆DLNA サーバー機能使用時のトラブル

ネットワークメディアプレーヤーで本製品が表示されない	228
ネットワークメディアプレーヤーに表示されない、あるいは、再生できないファイルがある	228
ネットワークメディアプレーヤーで再生できる本製品のファイルについて	229
AVeL LinkPlayer から本製品のファイルやフォルダを見るができない	229

## ◆iTunes サーバー機能使用時のトラブル

iTunes に本製品が表示されない	230
iTunes に表示されない、あるいは、再生できないファイルがある	230
iTunes から本製品のファイルやフォルダを見るができない	230
iTunes サーバー機能で公開したファイルが iTunes に正しく表示されない、あるいは再生できないファイルがある	231

## ◆リモートアクセス機能使用時のトラブル

リモートアクセスが接続できなくなった	232
リモートアクセスクライアント使用中に「通信エラーが発生しました。」と表示される	232
コンテンツの再生ができない	232

## ◆内蔵および増設ハードディスクについて

[USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない	233
増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と3回鳴り、STATUS ランプが赤く点滅したままとなる	233
増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について	233
ハードディスクの不良で内蔵 HDD 交換が必要な場合は？	233
本製品に接続可能なハードディスクについて	233
デフラグ機能はありますか？	234
省電力機能が動かない	234

## ◆タイムサーバー機能使用時のトラブル

タイムサーバーとの同期が行われない	235
-------------------	-----

## ◆メール送信でのトラブル

メール送信テストでエラーとなる	236
-----------------	-----

## ◆パソコンのネットワーク設定について

パソコンの IP アドレスがわからない	237
Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない	237
(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない	238
パソコンに固定の IP アドレスを設定するには	240
(Windows Vista®/XP/2000) [ローカルエリア接続]アイコンに×マークが付いている	243

## ◆本製品起動時のトラブル

### 本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った

<b>原因</b>	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスを取得できていない。 ※本製品の IP アドレスの設定が、自動取得(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが点滅します。
<b>対処</b>	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200 に設定されます。

<b>原因</b>	DHCP サーバーのない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
<b>対処</b>	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 ・ Windows の場合 <a href="#">【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (14ページ)</a> ・ Macintosh の場合 <a href="#">【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (17ページ)</a>

<b>原因</b>	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
<b>対処</b>	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。しばらくすると緑点灯に変わります。

<b>原因</b>	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
<b>対処</b>	<a href="#">【ボリューム情報】</a> 画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

### どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない

<b>対処</b>	起動停止状態の対処については、次ページを参照してください。  どうしても起動できなくなった場合は、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【強制的に RAID を再構成する】 (149ページ)</a>
-----------	---

### 使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている

<b>原因</b>	RAID 崩壊の状態です。
<b>対処</b>	前面の [FUNC] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。 詳細は、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【強制的に RAID を再構成する】 (149ページ)</a>

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている

原因	起動を停止している状態です。
対処	前面の [FUNC] ボタンを押していったんブザーを止めた後、以下の【起動停止状態を確認する】を参照してください。

## 起動停止状態を確認する

本製品起動時に、[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯し、ブザーが「ピーポーピーポー」と鳴り続けている場合は、本製品が何らかの理由で起動停止している状態です。以下の手順で起動停止状態を確認し、原因・対処をご確認ください。

### STEP1 設定用パソコンのIPアドレスを一時的に変更する

本製品起動途中の場合、本製品は、「192.168.0.200」固定のIPアドレスで起動しています。

この時、パソコンから停止画面を開くには、パソコン側も一時的に「192.168.0」と同じセグメントで「192.168.0.200」以外に設定する必要があります。

※ネットワーク内に DHCP サーバーのあり、なしにかかわらず、本製品は「192.168.0.200」の固定のIPアドレスで起動しています。

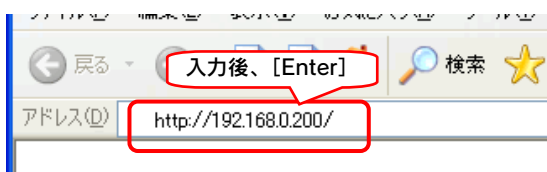
7	パソコンの [IP アドレス] [サブネットマスク] を一時的に以下の値に変更します。 [IP アドレス] ・ ・ ・ 192.168.0.xxx (xxx には 200 を除く 1~254 のいずれかの値) [サブネットマスク] ・ ・ ・ 255.255.255.0
---	--

**?** パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない  
⇒以下の個所を参照してください。  
【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】 (240 ページ)

**注意** ●後で元の設定に戻しますので、必ず現在の [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] [ (ルータ) アドレス] などはメモしておいてください。

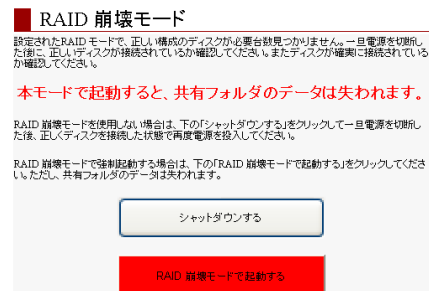
### STEP2 停止画面を開く

7	Web ブラウザを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。  http://192.168.0.200/
---	--



2	停止画面が表示されます。 停止画面の内容に応じて各対処を行ってください。
---	---

### ▼ 「RAID 崩壊モード」と表示されている



原因	内蔵システムディスク 1 台のみで起動した状態です。
対処	いったんシャットダウンし、内蔵 HDD が正しく接続されているかご確認ください。  なお、[RAID 崩壊モードで起動する] ボタンについては、以下の個所を参照してください。 【強制的に RAID を再構成する】 (149ページ)

原因	本製品の内蔵ボリュームを構成するために必要なディスクの台数が不足しています。 ・各ディスクの最終更新時刻が異なるため、内蔵ボリュームを構成できない。 ・ディスクの交換により、内蔵ボリュームが構成できない。 ・ディスクの故障により、ディスクを認識できないため、内蔵ボリュームを構成できない
対処	いったんシャットダウンし、必要な台数のディスクを接続してください。(故障と思われるディスクは交換してください。)



## 起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているディスクがある

<b>原因</b>	ディスクを正しく取り付けしていない。
<b>対処</b>	[ACCESS] ランプが消灯するディスクの取り付けを確認してください。
<b>原因</b>	ディスクの故障により、本製品が使用しない状態になっている。
<b>対処</b>	[情報表示]→[ログ情報]を開き、[ACCESS]ランプが消灯するディスクについてのログが表示されていないかを確認してください。 いったん本製品をシャットダウンし、再びシステムを起動しても同様に[ACCESS]ランプが消灯の場合は、該当するディスクは故障していると考えられますので、ディスクの交換をおすすめします。

# ◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）

Mac と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？

**対処** 本製品は、本製品と同一ネットワーク内の1台のパソコンからすべての設定を行うことができます。ご利用環境に、Windows と Mac OS のどちらもある場合は、一方のパソコンからすべての設定を行うことができますが、Windows パソコンから設定することをお勧めします。Windows 環境では、添付ソフト「Magical Finder」を使用できますので、本製品の IP アドレスの情報を知らなくても、本製品の設定画面を開いたり、また、直接「Magical Finder」で本製品の IP アドレスの設定等を簡単に行うことができます。

現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない

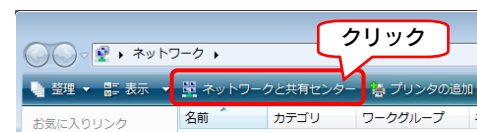
**対処** ご使用のネットワーク環境に、「ブロードバンドルーター」「ルーター機能付きの ADSL モデム」「Windows NT 系のサーバー」などがある場合は、これらの DHCP サーバー機能を使用している可能性があります。以下の【方法1】あるいは【方法2】などの手順で確認できます。  
方法1：パソコンの IP アドレスの設定で確認する（以下参照）  
方法2：Windows 標準添付のツールを使って確認する（Windows のみ）（次ページ）

## 方法1：パソコンの IP アドレスの設定で確認する

すでにネットワーク内にあるインターネットなどに正常にアクセスできるパソコンの IP アドレスの設定で確認できます。（IP アドレスの設定が“ DHCP サーバーから取得する”設定になっていて正常に LAN 内で使用できている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあります。）

### ●Windows Vista®の場合

**1** [スタート] → [ネットワーク] をクリックします。

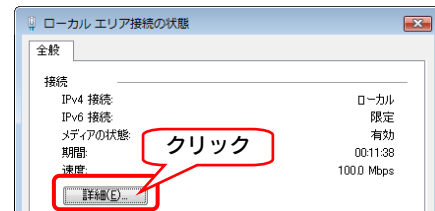


**2** [ネットワークと共有センター] をクリックします。

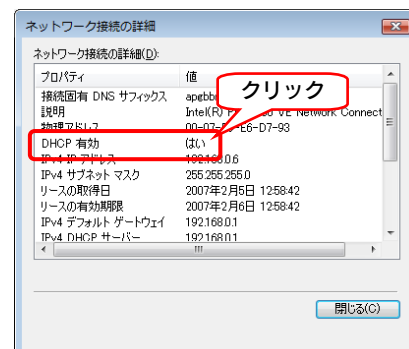


**3** [状態の表示] をクリックします。

**4** [詳細] をクリックします。



**5** [DHCP 有効] 欄に[はい]と表示されていれば、DHCP サーバーがあります。

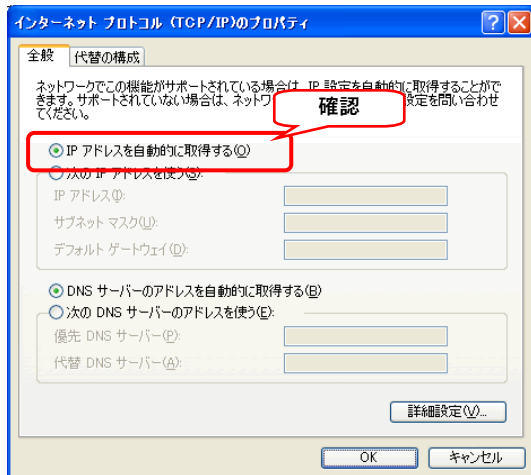


## ●Windows Vista®以外の OS の場合

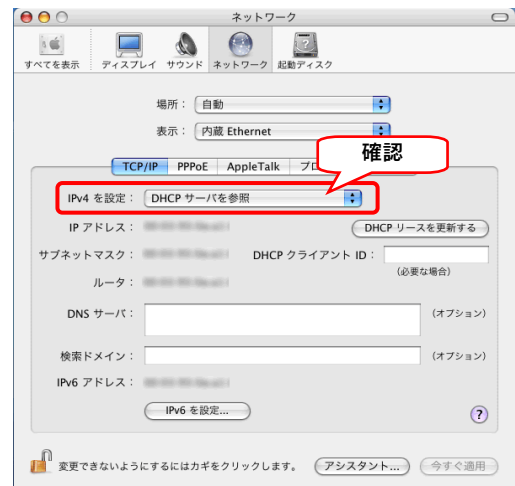
**1** パソコンの IP アドレスを確認できる画面を開きます。

**2** パソコンの IP アドレスの設定が、[IP アドレスを自動的に取得 (する)] や [DHCP サーバーを参照] となっている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあると考えられます。

### ▼Windows XP で DHCP サーバーを使用している場合



### ▼Mac OS X で DHCP サーバーを使用している場合



## 方法2：Windows 標準添付のツールを使って確認する（Windows のみ）

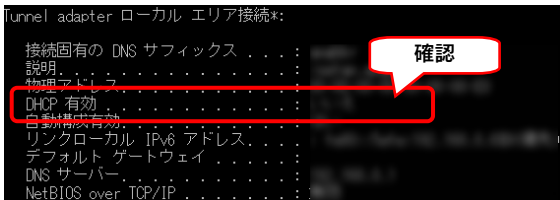
Windows 標準添付のツールで DHCP サーバーを利用しているかを確認できます。

### ●Windows Vista®の場合

**1** [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。

**2** IPCONFIG -ALL  
(G と-の間にスペースが入ります)  
と入力して [Enter] キーを押します。

**3** DHCP 有効の欄に「はい」が表示されている場合は、DHCP サーバーがあります。



```
Tunnel adapter ローカル エリア接続*:
接続固有の DNS サフィックス . . . . . :
説明 . . . . . :
物理アドレス . . . . . :
DHCP 有効 . . . . . :
DHCP 有効 . . . . . :
リンクローカル IPv6 アドレス . . . . . :
デフォルト ゲートウェイ . . . . . :
DNS サーバー . . . . . :
NetBIOS over TCP/IP . . . . . :
```

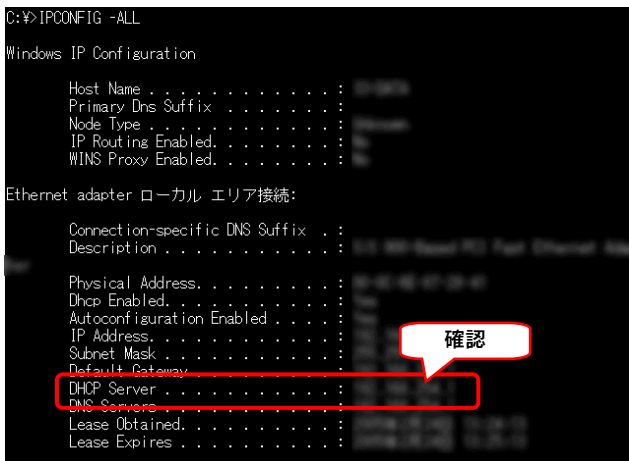
A red box highlights the 'DHCP 有効' (DHCP Enabled) line, and a red callout bubble with the word '確認' (Check) points to it.

### ●Windows XP/2000 の場合

**1** [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。

**2** IPCONFIG -ALL  
(G と-の間にスペースが入ります)  
と入力して [Enter] キーを押します。

**3** [DHCP Server] 欄にアドレス (DHCP サーバーのアドレス) が表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



```
C:\>IPCONFIG -ALL
Windows IP Configuration

Host Name . . . . . :
Primary Dns Suffix . . . . . :
Node Type . . . . . :
IP Routing Enabled. . . . . :
WINS Proxy Enabled. . . . . :

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

Connection-specific DNS Suffix . . . . . :
Description . . . . . :

Physical Address. . . . . :
Dhcp Enabled. . . . . :
Autoconfiguration Enabled . . . . . :
IP Address. . . . . :
Subnet Mask . . . . . :
Default Gateway . . . . . :
DHCP Server . . . . . :
DNS Servers . . . . . :
Lease Obtained. . . . . :
Lease Expires . . . . . :
```

A red box highlights the 'DHCP Server' line, and a red callout bubble with the word '確認' (Check) points to it.

(Windows)  
[Magical Finder]で本製品が検索されない

<b>原因</b>	接続が正しく行われていない。
<b>対処</b>	<p>本製品の電源が入っているか（ [STATUS] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルがLAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。</p> <p><b>【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（210ページ）</b></p> <p>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側のLAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。</p>

<b>原因</b>	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。																						
<b>対処</b>	<p>セキュリティ関連のソフトウェア（ファイアウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。</p> <p>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイアウォールソフトの除外設定を行うと、ファイアウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。（詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="background-color: #90EE90; margin: 0;"><b>&lt;参考：Windows Vista®のWindows ファイアウォール機能の除外設定&gt;</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">①</td> <td>                     あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。                      1)添付のDVD をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。                      2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>                     [スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。                      ※ユーザアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td>「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> </table> <p>以上で Windows Vista®のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="background-color: #90EE90; margin: 0;"><b>&lt;参考：WindowsXP ServicePack2 のWindows ファイアウォール機能の除外設定&gt;</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">①</td> <td>                     あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。                      1)添付のDVD をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。                      2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td>一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td>「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> </table> <p>以上で WindowsXPSP2 のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。 [スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</p> </div>	①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVD をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。 ※ユーザアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。	③	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	④	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑤	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。	①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVD をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。	③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。	④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVD をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。																						
②	[スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。 ※ユーザアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。																						
③	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。																						
④	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。																						
⑤	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。																						
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVD をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。																						
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。																						
③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。																						
④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。																						
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。																						
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。																						

<b>原因</b>	本製品が再起動中である。
<b>対処</b>	<p>本製品が起動するまで（ [STATUS] ランプが緑色に点灯※するまで）お待ちください。</p> <p>※DHCP サーバーの無いネットワークにはじめて接続した場合は、赤く点滅します。</p>

## DHCP サーバーがあるのに、STATUS ランプが赤く点滅している

<b>原因</b>	正しく接続されていない。
<b>対処</b>	一旦本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。
<b>原因</b>	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。 ※本製品の DHCP クライアント設定が on(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが赤く点滅します。
<b>対処</b>	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200 に設定されます。
<b>原因</b>	DHCP サーバーがない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
<b>対処</b>	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 <a href="#">【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (14ページ)</a> <a href="#">【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (17ページ)</a>
<b>原因</b>	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
<b>対処</b>	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。しばらくすると緑点灯に変わります。
<b>原因</b>	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
<b>対処</b>	[ボリューム情報] 画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

(Mac OS)

パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない

<b>原因</b>	接続が正しく行われていない。
<b>対処</b>	本製品の電源が入っているか（[STATUS] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（210ページ） 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

<b>原因</b>	本製品の IP アドレスとパソコンの IP アドレスの設定があていない。						
<b>対処</b>	パソコンと本製品を直接接続して設定画面を開くには、以下の設定にする必要があります。  <table border="1"><tr><td>①</td><td>本製品の STATUS ランプを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>・赤く点滅している場合 本製品の IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。 パソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</li><li>・緑色に点灯している場合 本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。 本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</li></ul><p>本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下の個所を参照してください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】（191ページ）</p></td></tr><tr><td>②</td><td>パソコンの IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。 例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 など に設定します。 <p>パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下の個所を参照してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（206ページ）</p></td></tr><tr><td>③</td><td>IP アドレスを設定できたら、Internet Explorer を起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。 http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合 <p>本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。</p></td></tr></table>	①	本製品の STATUS ランプを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>・赤く点滅している場合 本製品の IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。 パソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</li><li>・緑色に点灯している場合 本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。 本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</li></ul> <p>本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下の個所を参照してください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】（191ページ）</p>	②	パソコンの IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。 例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 など に設定します。 <p>パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下の個所を参照してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（206ページ）</p>	③	IP アドレスを設定できたら、Internet Explorer を起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。 http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合 <p>本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。</p>
①	本製品の STATUS ランプを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>・赤く点滅している場合 本製品の IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。 パソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</li><li>・緑色に点灯している場合 本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。 本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</li></ul> <p>本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下の個所を参照してください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】（191ページ）</p>						
②	パソコンの IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。 例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 など に設定します。 <p>パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下の個所を参照してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（206ページ）</p>						
③	IP アドレスを設定できたら、Internet Explorer を起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。 http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合 <p>本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。</p>						

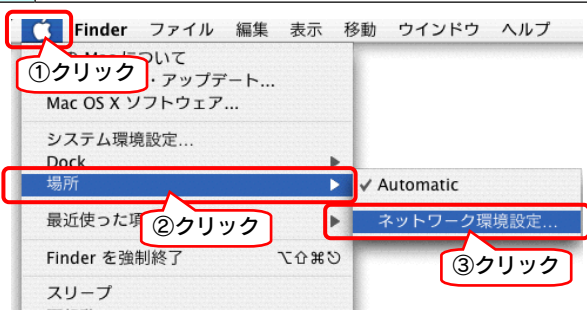
<b>原因</b>	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
<b>対処</b>	セキュリティ関連のソフトウェアのファイヤウォール機能により制限されている場合があります。 ファイヤウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイヤウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイヤウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。

<b>原因</b>	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
<b>対処</b>	RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（145ページ）参照  出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（17ページ）

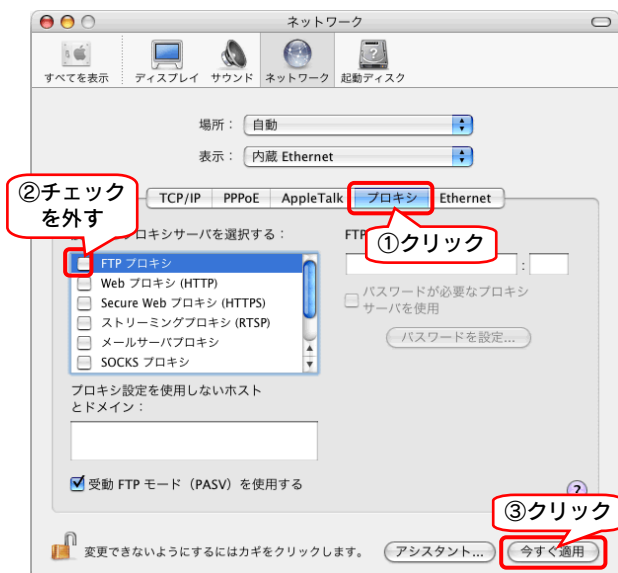
<b>原因</b>	Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
<b>対処</b>	<p>ブラウザがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。ブラウザの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>注意</b> 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。</p> </div> <p>以下の個所を参照してください。</p>

## Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定

- 1** [アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境])  
→[ネットワーク環境設定...]を選択します。



- 2** [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。



- 3** 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

以上で設定は完了です。



## パソコンと本製品を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している

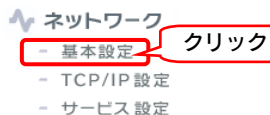
原因	はじめて本製品をパソコンに接続した。
対処	パソコンにはじめて直接接続した場合、STATUS ランプが赤く点滅します。 設定画面で、本製品の IP アドレスを固定に設定し、電源ボタンで一度本製品の電源を切り(シャットダウン)後、再度本製品の電源を入れれば、STATUS ランプが緑色に点灯します。

## [LANDISK の名前]を変更したい

対処	以下の個所を参照してください。
----	-----------------

### [LANDISK の名前]の変更手順

- 1** 設定画面の [ネットワーク] → [基本設定] を順にクリックします。



- 2** [LANDISK の名前] の項目で、[LANDISK の名前] を変更できます。



#### LANDISK の名前

ネットワーク上（[マイネットワーク] あるいは [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名称です。

※変更する場合は、必ずメモしてください。

※使用できる文字には制限があります。

[【文字制限一覧】（166ページ）](#)を参照してください。

- 3** 設定された内容を確認後、Web ブラウザを閉じてください。

#### 結果

##### ■ 名称の設定

LANDISK の名前	landisk1
コンピュータの説明	HDL4-G series
ワークグループ名	WORKGROUP

戻る

これで設定は完了です。

## ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない

<b>原因</b>	接続が正しく行われていない。
<b>対処</b>	本製品の電源が入っているか（[STATUS] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。
<b>原因</b>	接続先のネットワーク機器の電源が入っていない。
<b>対処</b>	本製品接続先のネットワーク機器（ルーターやハブなど）の電源が入っているかご確認ください。

## ファイアウォールソフトで、本製品に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない

<b>対処</b>	137～139 番、445 番のポートに対してアクセスを許可する設定を行ってください。 詳しい設定方法については、アプリケーションメーカーにご確認ください。
-----------	---

## パソコンの IP アドレスがわからない

<b>対処</b>	パソコンの IP アドレスは以下の方法で確認することができます。  ・ Windows の場合 添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。以下の個所を参照してください。 <a href="#">【Windows / パソコンの IP アドレスの確認】（次ページ）参照</a>  ・ Mac OS X の場合 OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。 <a href="#">【Mac OS X / パソコンの IP アドレスの確認】（212ページ）参照</a>
-----------	---

## Windows パソコンの IP アドレスの確認

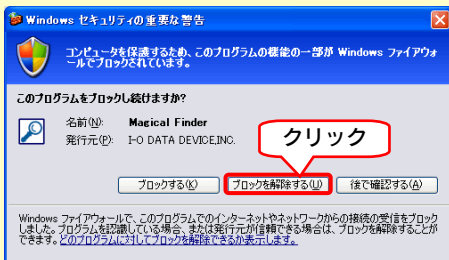
Windows パソコンの IP アドレスは、添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。

- 1** 添付 DVD をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの「Magical Finder 起動」をクリックすれば、「Magical Finder」が起動します。

Magical Finder 起動

**注意**

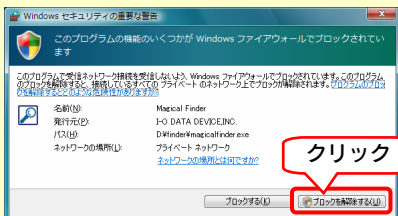
- Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



- Windows Vista®をお使いで、DVD を挿入すると、以下の画面が表示された場合、「Autorun.exe の実行」をクリックしてください。



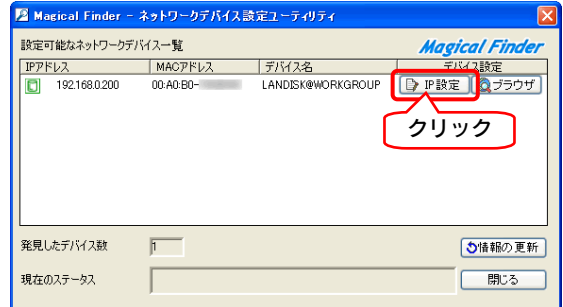
- Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



### サポートソフトメニューが表示されていない場合

- ① 「マイコンピュータ」を開きます。  
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。
- ② 「HDL4Gxxx」※アイコンをダブルクリックします。  
※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。  
(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに「Autorun.exe」アイコンをダブルクリックしてください。)

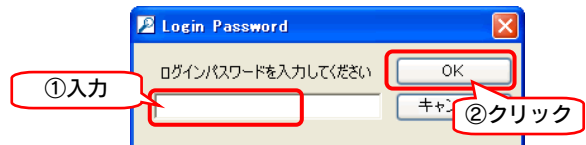
- 2** 自動で本製品が検索されますので、「IP 設定」ボタンをクリックします。  
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1～2 分かかる場合があります。



? 本製品が検索されない!

- 対処 1: 30 秒ほど待ってから「情報の更新」ボタンをクリックしてください。  
対処 2: 以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の205ページ

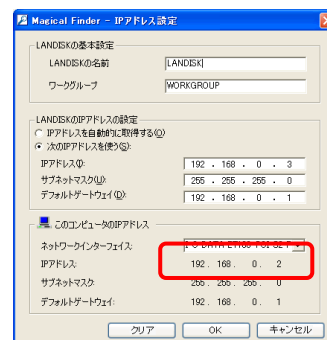
- 3** 管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK]ボタンをクリックします。



? 「パスワードが間違っています。」と表示された!

- 対処: [OK] ボタンをクリック後、以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の223ページ

- 4** 表示された「IP アドレス設定」画面の「このコンピュータの IP アドレス」で確認できます。

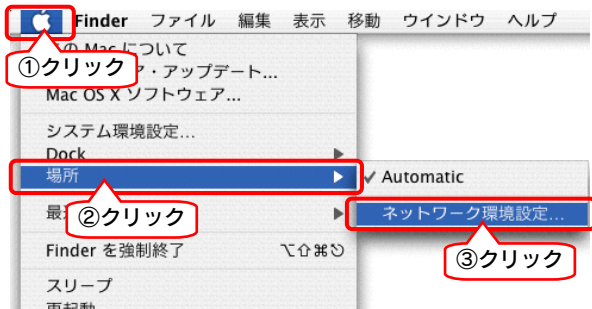


以上で確認は、終了です。

## Mac OS XパソコンのIPアドレスの確認

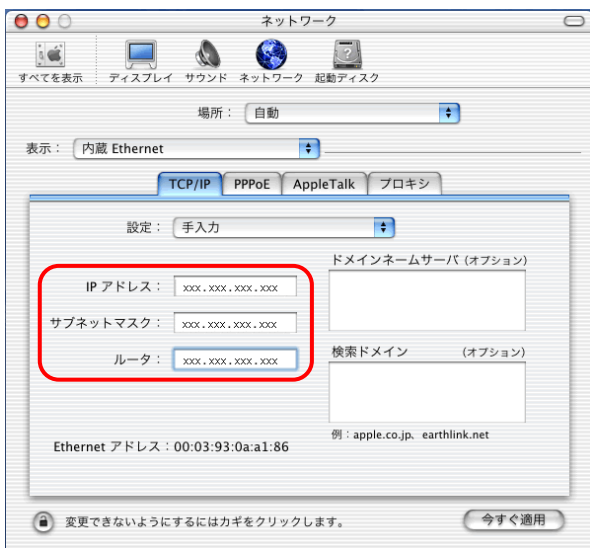
Mac OS XパソコンのIPアドレスは、OS標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。

- 7** [アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境])  
→[ネットワーク環境設定...]を選択します。



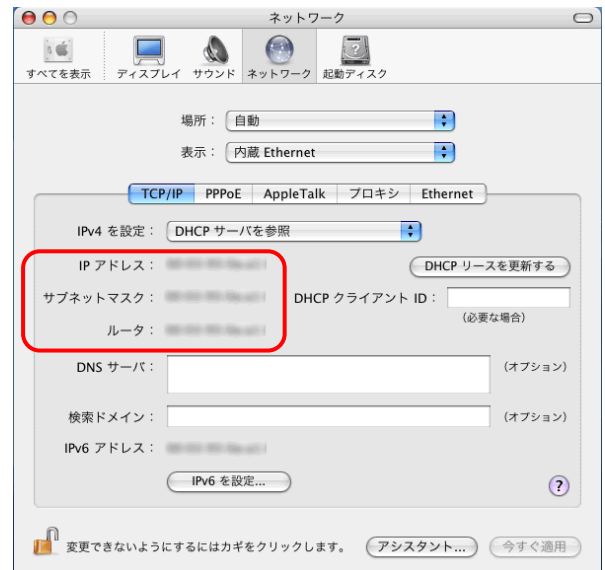
- 2** [ネットワーク]画面が表示されます。  
[表示:]から[内蔵 Ethernet]または[Ethernet]を選択します。  
表示された画面の[TCP/IP]タブで現在のIPアドレスの設定を確認できます。  
ただし、固定のIPアドレスで使用している場合と、DHCPサーバーを利用している場合では設定が異なります。

### ▼IPアドレスを固定で使用している場合



表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] がパソコンに設定されている値です。

### ▼DHCPサーバーを使用している場合



表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] がパソコンに設定されている値です。

DHCPサーバーご利用は、通常、[IPv4 を設定] (または[設定])で [DHCPサーバーを参照]を選択します。

表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] は、パソコンがDHCPサーバーより取得した (DHCPサーバーから割り当てられた) 値です。

## ◆本製品へアクセス時のトラブル

「LANDISK」のアイコンを開いたり、共有フォルダを開こうとすると、「アクセス権が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される

<b>原因</b>	共有フォルダにアクセス権限の設定を行っていて、本製品に登録したユーザー名、パスワードと、パソコンからログオンしたユーザー名とパスワードが一致していない。
<b>対処</b>	ネットワークログイン時に入力する [ユーザー名]、[パスワード] と本製品に登録したユーザーの [ユーザー名]、[パスワード] が一致するように、本製品とパソコンの設定をご確認ください。 パソコンの設定については、次を確認してください。  ▼Windows Vista®/XP/2000 の場合 OS 側にユーザー登録しなおします。 ユーザー登録されていない場合には、本製品に登録した [ユーザー名] [パスワード] と同じユーザーアカウントを作成してください。  ▼Mac OS X の場合 [移動] → [サーバーへ接続…] で本製品の IP アドレスを設定後、[接続] ボタンをクリックした際に表示される画面で、[登録ユーザー] を選択し、[名前] と [パスワード] に本製品に登録した [ユーザー名] と [パスワード] を入力してください。

Mac OS(バージョン問わず)から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる

<b>原因</b>	本製品のシステムに採用されている Windows サービスと Macintosh サービス間のファイル保存情報に不整合が生じるため。
<b>対処</b>	Mac OS のデスクトップ上にマウントした共有を一度、ゴミ箱へ捨て再度、Finder(Mac OS X)、またはネットワークブラウザ(Mac OS)から本製品の共有へアクセスしてください。

**本製品にアクセスできないパソコンがある  
(他のパソコンからは既に LANDISK にアクセスできている場合)**

<b>対処</b>	<p>既に別のパソコンが本製品にアクセスできている場合、本製品自体の動作、設定には問題はありません。LANDISK に接続できないパソコンで以下の点をご確認ください。</p> <p>▼Windows の場合</p> <p>「コンピュータの検索」にて LANDISK の名前ではなく、本製品に設定されている IP アドレスで検索を行ってみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●IP アドレスの検索で見つかる場合           <p>TCP/IP で正しく通信できていますので、IP アドレス設定は正常です。 また、検索の結果表示された共有フォルダへのアクセスをお試しく下さい。</p> </li> <li>●IP アドレスの検索で見つからない場合           <p>検索した IP アドレスが LANDISK に設定されたものではない、または IP アドレスが正しく設定されていない可能性があります。以下の点をご確認ください。</p> <p>&lt;本製品の IP アドレスに PING を実行する&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①MS-DOS プロンプト (コマンドプロンプト) を起動します。 Windows Vista®/XP/2000 の場合 「スタート」 - 「プログラム (すべてのプログラム)」 - 「アクセサリ」 - 「コマンドプロンプト」を起動します。</li> <li>②「ping」と入力し、スペースを 1 文字あけてから、本製品の IP アドレスを入力し Enter キーを押します。 入力例) C:\xxxx&gt;ping 192.168.0.200 [Enter]</li> <li>③応答メッセージが表示されますので、メッセージ内容によりそれぞれの対処をご確認ください。</li> </ol> <p>&lt;「Reply from . . .」と応答があった場合&gt;</p> <p>OS のファイル共有サービスが正しく動作していない可能性があります。 お使いの LAN アダプターのドライバーを再インストールしてみてどうかお試しください。</p> <p>&lt;「Request time out」と応答があった場合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本製品の IP アドレスが、パソコンの IP アドレスと同じセグメントの IP アドレスになっているかを確認してください。 Windows パソコンの場合、[MagicalFinder] より確認することができます。 【本製品に設定されている IP アドレスを調べたい】 (224ページ)</li> <li>・ファイアウォールソフトがインストールされている場合には、一時的に機能を無効にしてみてください。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>▼Macintosh の場合</p> <p>【[Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない】 (218ページ) の対処をご確認ください。</p>

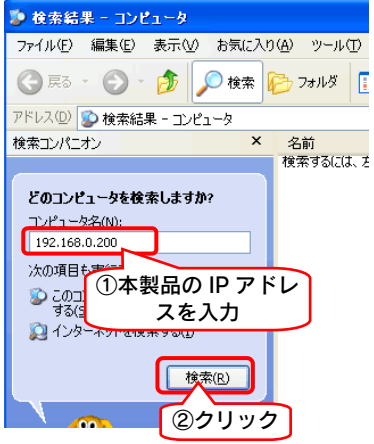
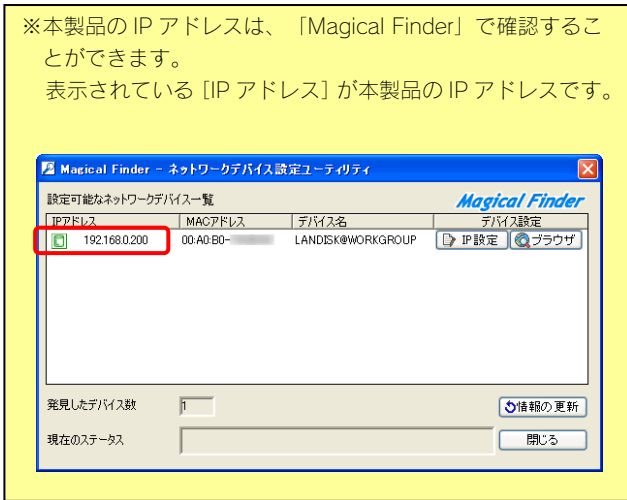
**本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？**

<b>対処</b>	<p>本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Windows パソコンの場合：推奨する同時接続台数は 8 台まで (ネットワークドライブの割り当ても同様です。)</li> <li>・Mac OS パソコンの場合：推奨する同時接続台数は 8 台まで (最大 16 台まで)</li> </ul>
-----------	--

## ◆本製品へアクセス時のトラブル (Windows)

### [コンピュータの検索]で[Landisk]が見つからない

<b>原因</b>	共有サービスが有効になっていない。
<b>対処</b>	設定画面の [ネットワーク] → [サービス設定] (180ページ) で、「Microsoft ネットワークファイル共有」にチェックが入っていることを確認してください。 また、[共有管理] → [共有フォルダー一覧] (181ページ) より、アクセスしたい共有フォルダの「Microsoft ネットワークファイル共有」が有効になっていることもご確認ください。
<b>原因</b>	ネットワークの参照に時間がかかっている。
<b>対処</b>	[表示] メニュー → [最新の情報に更新] をクリックしてください。
<b>原因</b>	本製品がネットワークに正しく接続されていない。
<b>対処</b>	本製品の電源が入っているか ([STATUS] ランプが点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)
<b>原因</b>	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
<b>対処</b>	ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピュータ名 (初期値は「Landisk」) や本製品の IP アドレス (初期値は「192.168.0.200」) を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
<b>原因</b>	本製品の IP アドレスを変更後、検索しようとしている。
<b>対処</b>	パソコンを一度再起動する必要があります。 Windows が以前の情報を保持しているため、再起動で保持している情報を一度クリアする必要があるからです。
<b>原因</b>	Windows のネットワーク機能が不安定なため、ネットワーク参照が正しく行えない。
<b>対処</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・設定画面が開けることをご確認ください。</li><li>・LAN アダプターが正常に認識されていることをご確認ください。(詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。)</li></ul>

<b>原因</b>	パソコン側の名前解決がうまくいっておらず、[LANDISK](コンピュータ名)の文字での検索では検索されない。
<b>対処</b>	<p>本製品に設定されている IP アドレス（出荷時は、192.168.0.200）を入力して検索してみてください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00;"> <p>※本製品の IP アドレスは、「Magical Finder」で確認することができます。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。</p>  </div> </div>

<b>原因</b>	お使いのネットワークの IP アドレスのセグメントが本製品の IP アドレスと異なっている。
<b>対処</b>	<p>▼ブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーをお使いの環境の場合 →一旦本製品の電源を入れ直していただき、再度検索できるかどうかお試しください。</p> <p>▼DHCP サーバーがない場合 →本製品の IP アドレスをお使いのネットワークに合った IP アドレスに変更してください。</p>

<b>原因</b>	<p>すでに LANDISK※1 を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LANDISK の名前] を変更していない。</p> <p>※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR.、HDL-AV、HDL4-G の各シリーズ</p>
<b>対処</b>	<p>本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LANDISK の名前] を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。設定方法は、以下の個所を参照してください。</p> <p><a href="#">【LANDISK の名前を変更したい】 (209ページ)</a></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00; margin-top: 10px;"> <p>※本製品の出荷時の [LANDISK の名前] は、LANDISK 共通の" LANDISK" となっています。 ネットワーク導入時に、他の LANDISK の [LANDISK の名前] を出荷時設定の" LANDISK" のまま変更していない場合は、本製品の [LANDISK の名前] を変更する必要があります。</p> </div>

<b>原因</b>	本製品とお使いのパソコンのワークグループ名が異なる。
<b>対処</b>	<p>本製品とパソコンのワークグループ名を一致するように設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本製品のワークグループ名・・・設定画面の <a href="#">【ネットワーク】</a> → <a href="#">【基本設定】</a> (178ページ) 参照</li> <li>・パソコンのワークグループ名・・・<a href="#">【Windows パソコンの【ワークグループ名】がわからない】</a> (237ページ) 参照</li> </ul>

## Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある

<b>原因</b>	Mac OS で、フォルダを作成したり、ファイルをコピーした。
<b>対処</b>	<p>Mac OS で、フォルダを作成したり、ファイルをコピーした際は、作成したファイル（フォルダ）の他に、別のファイル（フォルダ）が作成されます。（例：「.AppleDouble、.AppleDB」など、Windows 上から見ると、見覚えの無いファイル、フォルダになります。） このファイル（フォルダ）には、Mac OS ユーザー用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。</p>
<b>原因</b>	アプリケーションが作業中に作成・削除した。
<b>対処</b>	<p>アプリケーションによっては、作業ファイルを作成・削除するものがあります。 そのため、<a href="#">【ごみ箱】</a> フォルダにファイルやフォルダがある場合があります。</p>



Windows Vista®/XP/2000 のパソコンからユーザー権限共有フォルダにログオンしようとすると、エラーメッセージが出てきてログオンができない

<b>原因</b>	LANDISKに登録したユーザー名・パスワードと、Windowsのパソコンに登録したユーザー名とパスワードが一致していない可能性が考えられます。
<b>対処</b>	LANDISKに登録したユーザー名・パスワードを、Windowsのパソコンでも作成し、OSログイン時にそのユーザー名・パスワードを使ってログインしてください。

[Magical Finder]で本製品が検索されない

<b>原因</b>	接続が正しく行われていない。
<b>対処</b>	本製品の電源が入っているか（[STATUS]ランプが点灯しているか）、接続ケーブルがLANに接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 （本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側のLANポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。）

<b>原因</b>	検索に時間がかかっている。
<b>対処</b>	30秒ほど待ってから、[情報の更新]ボタンをクリックしてください。

<b>原因</b>	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。																														
<b>対処</b>	<p>セキュリティ関連のソフトウェア（ファイアウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイアウォールソフトの除外設定を行うと、ファイアウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。（詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #d9ead3;">＜参考：Windows Vista®のWindowsファイアウォール機能の除外設定＞</th> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td>あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>[スタート] - [コントロールパネル] - [Windowsファイアウォールによるプログラムの許可]を開きます。 ※ユーザーアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">以上でWindows Vista®のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。</td> </tr> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #d9ead3;">＜参考：WindowsXP ServicePack2のWindowsファイアウォール機能の除外設定＞</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター]を開きます。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>一番下の「Windowsファイアウォール」をクリックします。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">以上でWindowsXPSP2のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。 [スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finderが起動し、本製品が検索されます。設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</td> </tr> </table>	＜参考：Windows Vista®のWindowsファイアウォール機能の除外設定＞		①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] - [コントロールパネル] - [Windowsファイアウォールによるプログラムの許可]を開きます。 ※ユーザーアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。	③	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	④	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑤	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。	以上でWindows Vista®のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。		＜参考：WindowsXP ServicePack2のWindowsファイアウォール機能の除外設定＞		①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター]を開きます。	③	一番下の「Windowsファイアウォール」をクリックします。	④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。	以上でWindowsXPSP2のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。 [スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finderが起動し、本製品が検索されます。設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。	
＜参考：Windows Vista®のWindowsファイアウォール機能の除外設定＞																															
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。																														
②	[スタート] - [コントロールパネル] - [Windowsファイアウォールによるプログラムの許可]を開きます。 ※ユーザーアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。																														
③	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。																														
④	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。																														
⑤	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。																														
以上でWindows Vista®のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。																															
＜参考：WindowsXP ServicePack2のWindowsファイアウォール機能の除外設定＞																															
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。																														
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター]を開きます。																														
③	一番下の「Windowsファイアウォール」をクリックします。																														
④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。																														
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。																														
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。																														
以上でWindowsXPSP2のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。 [スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finderが起動し、本製品が検索されます。設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。																															

<b>原因</b>	本製品が再起動中である。
<b>対処</b>	本製品が起動するまで（[STATUS]ランプが緑色に点灯※するまで）お待ちください。 ※DHCPサーバーの無いネットワークに接続した場合は、赤点滅します。

## ◆本製品へアクセス時のトラブル (Macintosh)

### [Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない

原因	本製品がネットワークへ正しく接続されていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[STATUS] ランプが点灯しているか）、接続ケーブルがLANに接続されているか（背面の[ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側のLANポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)

原因	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
対処	ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピュータ名（初期値は「Landisk」）や本製品のIPアドレス（初期値は「192.168.0.200」）を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

原因	すでにLANDISK <sup>※1</sup> を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の[LANDISKの名前]を変更していない。 ※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV、HDL4-Gの各シリーズ
対処	本製品を複数台使用する場合や他の弊社製LANDISKと併用する場合など、LANDISKを複数台使用する場合は、導入する本製品の[LANDISKの名前]を、すでに導入済みのLANDISKと重複しない名前に変更する必要があります。 設定方法は、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【LANDISKの名前を変更したい】 (209ページ)</a>
<p>※本製品の出荷時の[LANDISKの名前]は、LANDISK共通の"LANDISK"となっています。 ネットワーク導入時に、他のLANDISKの[LANDISKの名前]を出荷時設定の"LANDISK"のまま変更していない場合は、本製品の[LANDISKの名前]を変更する必要があります。</p>	

### Mac OS Xのみ

原因	LANDISKの名前で検索できない。
対処	[サーバーへ接続]画面で、本製品のIPアドレスを使用して接続してください。 入力するIPアドレスは、本製品に設定されているIPアドレスを入力します。 DHCPサーバーが割り当てたIPアドレスが分からない場合、 <a href="#">【本製品のIPアドレスを調べたい】 (224ページ)</a> をご覧ください。 ●IPアドレスを指定して接続する場合： <code>afp://192.168.0.200/</code>

## ◆設定画面に関するトラブル

(Windows)  
ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

対処1	添付のDVD内の「MagicalFinder」を起動し、本製品を検索してみてください。 詳しくは【設定画面の開き方】(31ページ)をご覧ください。																						
対処2	<p>セキュリティ関連のソフトウェア(ファイアウォールソフト)の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。</p> <p>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイアウォールソフトの除外設定を行うと、ファイアウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。 (詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください)。</p> <p><b>&lt;参考：Windows Vista®のWindows ファイアウォール機能の除外設定&gt;</b></p> <table border="1"><tr><td data-bbox="331 757 379 882">①</td><td data-bbox="387 757 1449 882">あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。</td></tr><tr><td data-bbox="331 891 379 949">②</td><td data-bbox="387 891 1449 949">[スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。 ※ユーザアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。</td></tr><tr><td data-bbox="331 958 379 994">③</td><td data-bbox="387 958 1449 994">[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td></tr><tr><td data-bbox="331 1003 379 1039">④</td><td data-bbox="387 1003 1449 1039">一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td></tr><tr><td data-bbox="331 1048 379 1106">⑤</td><td data-bbox="387 1048 1449 1106">「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td></tr></table> <p>以上でWindows Vista®のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。</p> <p><b>&lt;参考：WindowsXP ServicePack2のWindows ファイアウォール機能の除外設定&gt;</b></p> <table border="1"><tr><td data-bbox="331 1249 379 1375">①</td><td data-bbox="387 1249 1449 1375">あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。</td></tr><tr><td data-bbox="331 1384 379 1420">②</td><td data-bbox="387 1384 1449 1420">[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。</td></tr><tr><td data-bbox="331 1429 379 1464">③</td><td data-bbox="387 1429 1449 1464">一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。</td></tr><tr><td data-bbox="331 1473 379 1509">④</td><td data-bbox="387 1473 1449 1509">[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td></tr><tr><td data-bbox="331 1518 379 1554">⑤</td><td data-bbox="387 1518 1449 1554">一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td></tr><tr><td data-bbox="331 1563 379 1621">⑥</td><td data-bbox="387 1563 1449 1621">「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td></tr></table> <p>以上でWindowsXPSP2のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。</p> <p>[スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finderが起動し、本製品が検索されます。設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</p>	①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。 ※ユーザアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。	③	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	④	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑤	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。	①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。	③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。	④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。																						
②	[スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可] を開きます。 ※ユーザアカウント制御の確認画面が表示された場合は「続行」ボタンをクリックします。																						
③	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。																						
④	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。																						
⑤	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。																						
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のDVDをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。																						
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。																						
③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。																						
④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。																						
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。																						
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。																						

(Mac OS)  
ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

<b>原因</b>	接続が正しく行われていない。
<b>対処</b>	本製品の電源が入っているか（[STATUS] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（210ページ） 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

<b>原因</b>	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
<b>対処</b>	セキュリティ関連のソフトウェアのファイヤウォール機能により制限されている場合があります。 ファイヤウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイヤウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイヤウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。

<b>原因</b>	（本製品に固定の IP アドレスを設定した場合） 本製品と設定用パソコンの IP アドレスのセグメント値が合っていない。
<b>対処</b>	お使いのパソコンの IP アドレスが例えば「192.168.1.xxx」に設定されている環境で、本製品の IP アドレスが「192.168.0.200」に設定されているなど、セグメント値が合っていないことが考えられます。（以下の図参照） 本製品の IP アドレスの設定を、お使いのネットワーク環境にあわせて設定し直してください。 【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（17ページ）

アドレス：ピリオドで区切られた4つの数字

<b>XXX</b>	.	<b>XXX</b>	.	<b>XXX</b>	.	<b>XXX</b>
セグメント（はじめの3つの数字）						この値のみ、パソコンやネットワーク機器で使用していない値にする
パソコンと同じ値にする						

<b>原因</b>	本製品が DHCP クライアントに設定されているため、IP アドレスがわからない。
<b>対処</b>	【本製品の IP アドレスを調べたい】（224ページ）を参照してください。

<b>原因</b>	設定画面を開こうとしているパソコンの IP アドレス設定が間違っている。
<b>対処</b>	設定画面を開こうとしている以外のパソコンで、設定画面が開けないかお試しください。 開ける場合は、開けなかったパソコン側の IP アドレスの設定が本製品にアクセスできる設定になっていない可能性があります。本製品を設定時にパソコンの IP アドレスやサブネットマスクを一時的に変更していた場合などは、本製品設定前の IP アドレスやサブネットマスクに戻してください。

<b>原因</b>	すでに LANDISK※1 を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LANDISK の名前] を変更していない。 ※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV HDL4-G の各シリーズ
<b>対処</b>	本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LANDISK の名前] を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。 設定方法は、【[LANDISK の名前]を変更したい】（209ページ）の個所を参照してください。

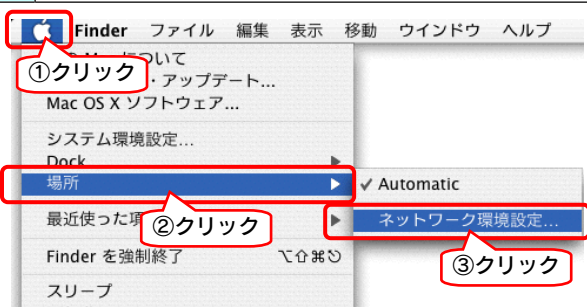
※本製品の出荷時の [LANDISK の名前] は、LANDISK 共通の "LANDISK" となっています。  
ネットワーク導入時に、他の LANDISK の [LANDISK の名前] を出荷時設定の "LANDISK" のまま変更していない場合は、本製品の [LANDISK の名前] を変更する必要があります。

<b>原因</b>	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
<b>対処</b>	RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（145ページ）参照 出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（17ページ）

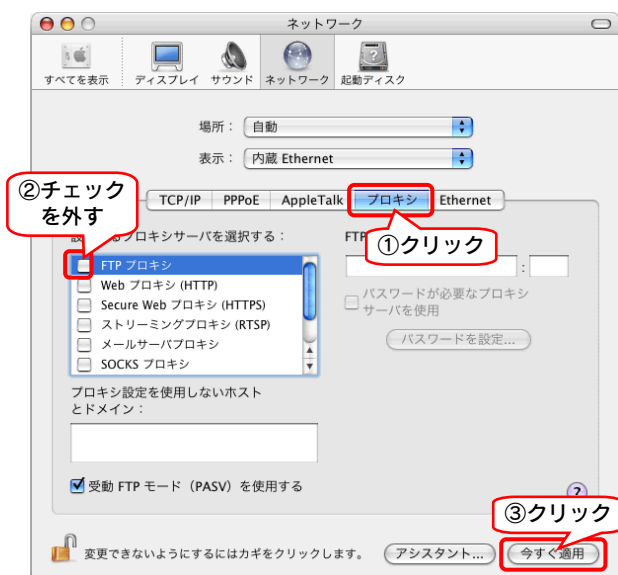
<b>原因</b>	Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
<b>対処</b>	<p>ブラウザがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。ブラウザの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>注意</b> 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。</p> </div> <p>以下の個所を参照してください。</p>

## Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定

- 1** [アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境] )  
→[ネットワーク環境設定...]を選択します。



- 2** [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。



- 3** 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

以上で設定は完了です。

## 設定画面で一部表示されない項目がある

<b>原因</b>	セキュリティ関連のソフトウェアの影響により表示されない。
<b>対処</b>	セキュリティ関連のソフトウェアのファイヤウォール機能により制限されている場合があります。 ファイヤウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイヤウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイヤウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。

<b>原因</b>	ブラウザのセキュリティレベルが高く設定されている。
<b>対処</b>	本製品の設定時のみセキュリティレベルを「中」に設定してください。 設定後は、元の「高」設定に戻してください。  ■Internet Explorer5.x/6/7 をご利用の場合 <b>【Windows の場合】</b> ①デスクトップ、またはスタートメニューにある「Internet Explorer」のアイコンを右クリックし、メニューの中の[プロパティ]または、「インターネットのプロパティ」をクリックし、[インターネットオプション]もしくは[インターネットのプロパティ]を開いてください。 ②[セキュリティ]タブをクリックし、[このゾーンのセキュリティレベル]を「中」に合わせます。 ③[OK]ボタンをクリックします。  以上で終了です。  <b>【Mac OS X の場合】</b> ①.[編集]→[初期設定]をクリックします。 ②[セキュリティゾーン]をクリックします。 ③[セキュリティゾーン]で[中]にチェックをします。 ④[OK]ボタンをクリックします。  以上で終了です。

## 空き容量が実際より少ない気がする

<b>原因</b>	[ごみ箱] フォルダのファイルが多数ある。
<b>対処</b>	各共有の [ごみ箱] フォルダを空にしてください。

## 設定画面で文字が入力できない

<b>原因</b>	入力個所をクリックしていない。
<b>対処</b>	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

<b>原因</b>	入力できない文字を入力しようとしている。
<b>対処</b>	入力できる文字かを確認してから入力してください。 本製品の設定画面上で入力できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（166ページ）をご覧ください。

## 設定画面上から入力できる文字制限について

<b>対処</b>	【文字制限一覧】（166ページ）をご覧ください。
-----------	--------------------------

## パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない

<b>原因</b>	パスワードが間違っています。
<b>対処</b>	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力なおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、 <a href="#">【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(145ページ)参照</a> をご覧になり、出荷時状態に戻してください。

<b>原因</b>	空白(スペース)のみのパスワードになっています。
<b>対処</b>	パスワード無しに設定したつもりで、空白(スペース)で設定されていることがありますので、空白(スペース)を入力してみてください。ログインできない場合は、上の原因をご覧ください。

## 設定画面にログインするためのパスワードがわからない

<b>対処</b>	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力なおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、 <a href="#">【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(145ページ)参照</a> をご覧になり、出荷時状態に戻してください。
-----------	---

## 以下のメッセージが表示された 「現在システムは処理中です。 しばらく待ってから操作してください。」

<b>原因</b>	設定処理実行中に他の設定をしようとした。
<b>対処</b>	他の設定処理が実行中でないかご確認ください。 設定処理の途中で別の設定を行おうとすると上記メッセージが表示されることがあります。

<b>原因</b>	ファームウェアが正常に動作していない。
<b>対処</b>	①いったん、本製品の電源を入れ直して、同様の操作をしてみてください。 ②本製品の初期化を行ってください。詳しくは、 <a href="#">【出荷時設定に戻す】(143ページ)</a> をご覧ください。

## 設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる

<b>対処</b>	本製品が使用するファームウェアの制限で、ハードディスクに問題はありません。
-----------	---------------------------------------

## 設定画面の動作が遅い


<b>原因</b>	ファイル転送中、アクティブリペア中など、本製品の処理動作中である。
<b>対処</b>	以下の動作中は、本製品の操作・動作が遅くなる場合があります。 処理が終了するまでお待ちください。 ・アクティブリペア中    ・RAID リビルド中    ・ファイル共有サービス転送中/再生中 ・DLNA データベース更新中    ・iTunes データベース更新中    ・スピンアップ中

## ◆本製品の IP アドレスについて

本製品に設定した IP アドレスを忘れた  
本製品に設定されている IP アドレスを調べたい



DHCP サーバーのあるネットワークで確認する場合は、毎回以下の手順を行うことをおすすめします。  
DHCP サーバーは常に固定の IP アドレスを割り当てるわけではありません。  
下記手順で一旦確認できた IP アドレスも、本製品の電源を入れなおした後や DHCP サーバーを再起動した場合などには、本製品やパソコンに割り当てられた IP アドレスが変更されている場合もあります。

<b>対処 1</b>	<p>(ネットワーク内に Windows パソコンがある場合のみ)</p> <p>添付ユーティリティ [Magical Fider] で調べる [Magical Finder] を起動してください。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。</p>	
<b>対処 2</b>	<p>(DHCP サーバーのあるネットワークの場合)</p> <p>DHCP サーバー内の情報から確認する ご使用のプロードバンドルーターなどの DHCP サーバーが、本製品に割り当てた IP アドレスの情報を記録している場合があります。詳しくは、DHCP サーバーとなっている機器の取扱説明書などをご覧ください。</p>	
<b>対処 3</b>	<p>ネットワーク内に DHCP サーバーがなく、かつ、Mac OS パソコンしかない場合は、確認する方法はありません。 本製品から LAN ケーブルを取り外した後、RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定 (192.168.0.200) に戻してください。 【出荷時設定に戻す】 (143ページ) 参照</p> <p>出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。</p>	



## ◆ファイルの保存について

本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない

対処	製品の仕様上、ファイルごとのセキュリティー設定はできません。
----	--------------------------------

### ファイル名やフォルダ名の制限について

対処	本製品に保存できるファイルやフォルダ名は、文字制限があります。 以下の個所を参照してください。 【文字制限一覧】（166ページ）
----	--

### ファイルを削除するとごみ箱に一旦入りますか？

対処	本製品の「ごみ箱機能」を有効（初期値は無効）に設定した場合は、該当フォルダの中に「ごみ箱」フォルダに一旦削除したファイルが入ります。 ごみ箱機能を無効にして削除した場合は、そのまま削除されます。  [参考] 【ごみ箱】フォルダからファイルを戻す】（62ページ）
----	---

### 共有フォルダにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？

対処	OSによりファイルサイズの制限があります。 以下の個所を参照してください。 【各 OS で使用できるファイルサイズについて（162ページ）
----	---

## ◆ランプやブザーについて

### 起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポー」となり続けている

<b>原因</b>	本製品が起動停止の状態です。
<b>対処</b>	前面の [FUNC] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、起動停止画面を開いて画面の表示に応じた対処を行ってください。 詳細は、以下の個所を参照してください。 【起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピー」となり続けている】 (200ページ)

### 使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている

<b>原因</b>	RAID 崩壊の状態です。
<b>対処</b>	前面の [FUNC] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。 詳細は、以下の個所を参照してください。 【強制的に RAID を再構成する】 (149ページ)

### STATUS ランプが赤く点滅している

<b>原因</b>	正しく接続されていない。
<b>対処</b>	一旦本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。

<b>原因</b>	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。 ※本製品の DHCP クライアント設定が on(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが赤く点滅します。
<b>対処</b>	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200 に設定されます。

<b>原因</b>	DHCP サーバーがない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
<b>対処</b>	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (14ページ) 【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (17ページ)

<b>原因</b>	(クイックコピーでデータコピー時) コピー先が正しく接続されていない。
<b>対処</b>	コピー先に増設ハードディスクを設定している場合に、増設ハードディスクが接続されていない場合などは、接続してください。 コピー先の設定については、以下の個所を参照してください。 【クイックコピー機能を設定する】 (87ページ)

<b>原因</b>	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
<b>対処</b>	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取外してください。しばらくして緑点灯に変わります。

## パソコンと本製品を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している

対処	以下の個所を参照してください。 <a href="#">【パソコンと本製品を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している】</a> (209ページ)
----	--

## ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない

対処	以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】</a> (210ページ)
----	--

## ランプの動作について知りたい

対処	添付の冊子【必ずお読みください】の【各部の名称・機能】をご覧ください。 <a href="#">【各部の名称・機能】</a> (157ページ) <a href="#">【ランプ表示別の対応】</a> (151ページ)
----	--

# ◆DLNA サーバー機能使用時のトラブル

## ネットワークメディアプレーヤーで本製品が表示されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[STATUS] ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 （本製品を接続したブロードバンドルーターやハブの LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。） また、ネットワークメディアプレーヤー側の電源が入っているか、接続ケーブルが LAN に接続されているか（LAN ポートのランプが点灯または点滅しているか）確認してください。

原因	ネットワークメディアプレーヤーまたは本製品の IP アドレスの設定が間違っている。
対処	ネットワークメディアプレーヤーと本製品の IP アドレスを確認し、同じネットワークアドレス（セグメント）で別々の IP アドレスとなっているかを確認してください。  ●ネットワークメディアプレーヤーの IP アドレス…ネットワークメディアプレーヤーの取扱説明書を参照ください。 ●本製品の IP アドレス…【本製品に設定されている IP アドレスを調べたい】（224ページ）参照

原因	本製品の「DLNA Server」設定が有効になっていない。
対処	設定画面の【共有サービス設定】（180ページ）を開いて、[DLNA Server] がチェックされているかご確認ください。 また、以前にアクセス制限を設定したことがある場合は、画面の【アクセス制限】（180ページ）をクリックして、アクセスを制限していないかご確認ください。

原因	本製品が再起動中である。
対処	本製品が起動するまで（[STATUS] ランプが緑色に点灯するまで）お待ちください。


## ネットワークメディアプレーヤーに表示されない、あるいは、再生できないファイルがある

原因	ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）が対応していないファイルフォーマットである。
対処	お使いのネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）が対応しているファイルかを、ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）の取扱説明書などで確認してください。 ※本製品が対応しているファイルフォーマットであっても、ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）側が対応していない場合は再生できません。

原因	本製品が対応していないファイルフォーマットである。								
対処	本製品は以下のファイル拡張子のファイルにのみ対応しています。 ※最新の対応情報は弊社ホームページ（ <a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a> ）をご覧ください。 <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #0000FF; color: white;"> <th style="padding: 5px;">種類</th> <th style="padding: 5px;">ファイル拡張子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr style="background-color: #ADD8E6;"> <td style="padding: 5px;">動画</td> <td style="padding: 5px;">mpg mpeg mpeg2 vob wmv asf avi mp4 mts m2ts divx</td> </tr> <tr style="background-color: #90EE90;"> <td style="padding: 5px;">写真</td> <td style="padding: 5px;">jpeg jpg png bmp</td> </tr> <tr style="background-color: #FFFF00;"> <td style="padding: 5px;">音楽</td> <td style="padding: 5px;">mp3 wma wav pcm lpcm m4a mpa</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合があります。</p>	種類	ファイル拡張子	動画	mpg mpeg mpeg2 vob wmv asf avi mp4 mts m2ts divx	写真	jpeg jpg png bmp	音楽	mp3 wma wav pcm lpcm m4a mpa
種類	ファイル拡張子								
動画	mpg mpeg mpeg2 vob wmv asf avi mp4 mts m2ts divx								
写真	jpeg jpg png bmp								
音楽	mp3 wma wav pcm lpcm m4a mpa								

原因	DLNA Server 機能にて公開している共有に非常に多くのファイルが入っている。
対処	DLNA Server 機能にて公開している共有に非常に多くのファイルが入っている場合には、初回接続時や共有内ファイル操作時にネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で表示されるまでに待たされることがあります。 この場合、DLNA 用データベースの更新が行われていますので、しばらくお待ちください。 ※ 1 万ファイル以内でご利用ください。

## ネットワークメディアプレーヤーで再生できる本製品のファイルについて

<b>対処</b>	<p>ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で再生できるファイルのファイルサイズによる制限はありませんが、本製品は以下のファイル拡張子のファイルにのみ対応しています。</p> <p>※最新の対応情報は弊社ホームページ（<a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a>）をご覧ください。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #0000ff; color: white;">種類</th> <th style="background-color: #0000ff; color: white;">ファイル拡張子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #e0ffff;">動画</td> <td>mpg mpeg mpeg2 vob wmv asf avi mp4 mts m2ts divx</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0ffe0;">写真</td> <td>jpeg jpg png bmp</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffffe0;">音楽</td> <td>mp3 wma wav pcm lpcm m4a mpa</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合があります。</p>	種類	ファイル拡張子	動画	mpg mpeg mpeg2 vob wmv asf avi mp4 mts m2ts divx	写真	jpeg jpg png bmp	音楽	mp3 wma wav pcm lpcm m4a mpa
	種類	ファイル拡張子							
動画	mpg mpeg mpeg2 vob wmv asf avi mp4 mts m2ts divx								
写真	jpeg jpg png bmp								
音楽	mp3 wma wav pcm lpcm m4a mpa								
<div style="display: flex; align-items: center;">  <p>● ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で本製品内のファイルを再生する場合、本製品およびネットワークメディアプレーヤーの両方が対応しているファイルフォーマットである必要があります。 お使いのネットワークメディアプレーヤーが対応しているファイルかを、ネットワークメディアプレーヤーの取扱説明書などで確認してください。</p> </div>									

## AVeL LinkPlayer から本製品のファイルやフォルダを見ることができない

<b>原因</b>	DLNA に対応していない AVeL LinkPlayer である。
<b>対処</b>	DLNA に対応していない AVeL LinkPlayer からは、本製品のファイルやフォルダを見ることはできません。
<b>原因</b>	本製品側で「DLNA Server 機能」の設定が有効になっていないことが考えられます。
<b>対処</b>	<p>以下の手順を行います。</p> <p>① 本製品の設定画面から [ネットワーク] → [サービス設定]（180ページ）にて [DLNA Server] にチェックをつけ、[OK] ボタンをクリックします。</p> <p>② [共有管理] → [共有フォルダー一覧]（181ページ）より、公開する共有フォルダや増設ハードディスクの [変更] → [DLNA Server で公開] にチェックをつけ、[OK] ボタンをクリックします。</p> <p>以上の設定を行いましたら、LinkPlayer のログイン先選択画面に本製品のログインアイコンが自動的に表示されます。表示されましたら、そのログイン名を選択し、本製品上のファイルの参照をお試しください。</p>

## ◆ iTunes サーバー機能使用時のトラブル

### iTunes に本製品が表示されない

<b>原因</b>	接続が正しく行われていない。
<b>対処</b>	本製品の電源が入っているか（[STATUS] ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブの LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)
<b>原因</b>	iTunes を実行するパソコンと本製品が通信できない設定になっている。
<b>対処</b>	iTunes を実行するパソコンより、本製品の設定画面を開けることを確認してください。 <b>●設定画面の開き方・・・【本設定画面の開き方】（31ページ）参照</b>
<b>原因</b>	本製品の「iTunes Server」設定が有効になっていない。
<b>対処</b>	設定画面の「サービス設定」（180ページ）を開いて、「iTunes Server」がチェックされているかご確認ください。 また、以前にアクセス制限を設定したことがある場合は、画面の「アクセス制限」（180ページ）をクリックして、アクセスを制限していないかご確認ください。
<b>原因</b>	本製品が再起動中である。
<b>対処</b>	本製品が起動するまで（[STATUS] ランプが緑色に点灯するまで）お待ちください。

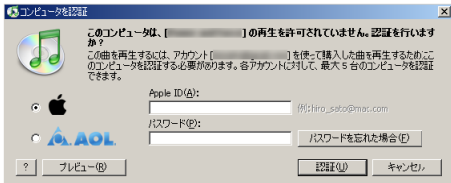
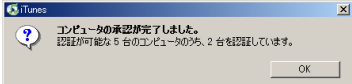
### iTunes に表示されない、あるいは、再生できないファイルがある

<b>原因</b>	本製品が対応していないファイルフォーマットである。								
<b>対処</b>	本製品は以下のファイル拡張子のファイルにのみ対応しています。 ※最新の対応情報は弊社ホームページ ( <a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a> ) をご覧ください。 <table border="1" data-bbox="466 1258 1155 1335"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th colspan="3">ファイル拡張子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音楽</td> <td>mp3</td> <td>m4a</td> <td>m4p</td> </tr> </tbody> </table> ※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合もあります。	種類	ファイル拡張子			音楽	mp3	m4a	m4p
種類	ファイル拡張子								
音楽	mp3	m4a	m4p						
<b>原因</b>	iTunes Server 機能にて公開している共有に非常に多くのファイルが入っている。								
<b>対処</b>	iTunes Server 機能にて公開している共有に非常に多くのファイルが入っている場合には、表示されるまでに待たれることがあります。 この場合、iTunes 用データベースの更新が行われている場合がありますので、しばらくお待ちください。 ※1万ファイル以内でご利用ください。								

### iTunes から本製品のファイルやフォルダを見ることができない

<b>原因</b>	本製品側で「iTunes Server 機能」の設定が有効になっていないことが考えられます。
<b>対処</b>	以下の手順を行います。  ①本製品の設定画面から「ネットワーク」→「サービス設定」（180ページ）にて「iTunes Server」にチェックをつけ、[OK] ボタンをクリックします。 ②「共有管理」→「共有フォルダー一覧」（181ページ）より、公開する共有フォルダや増設ハードディスクの「変更」→「iTunes Server で公開」にチェックをつけ、[OK] ボタンをクリックします。  以上の設定を行いましたら、iTunes 画面に本製品のログインアイコンが自動的に表示されます。 表示されましたら、そのアイコンをクリックし、本製品上のファイルの再生をお試しください。

**iTunes サーバー機能で公開したファイルが iTunes に正しく表示されない、あるいは再生できないファイルがある**

<b>原因</b>	iTunesServer 機能で公開する共有フォルダに、音楽ファイルを追加、削除した後、iTunes Server のデータベースの更新を行ってない。
<b>対処</b>	iTunesServer 機能で公開する共有フォルダに、音楽ファイルを追加、削除した後、本製品の設定画面[ネットワーク]-[サービス設定]画面を開き、[iTunes Server]の項目の更新ボタンをクリックしてデータベースの更新を行う必要があります。
<b>原因</b>	MP3 の ID3 タグ情報の文字は UTF-16 のエンコーディングに対応しています。 UTF-16 以外の形式でエンコードされた ID3 タグ情報は、iTunes 上で曲名、アーティスト名、アルバム名などの情報が文字化けて見える場合があります。
<b>対処</b>	曲名、アーティスト名、アルバム名などの情報が文字化けするファイルをいったん本製品の共有フォルダから、iTunes を実行するパソコンに移動し、iTunes にて「ID3 タグを変換」を行ってください。
<b>原因</b>	iTunes Store で購入したファイルを購入したパソコンの iTunes 以外の、iTunes にて再生しようとしている。
<b>対処</b>	<p>iTunes Store で購入した著作権保護されたファイルを共有する場合、iTunes にて再生しようとすると「コンピュータを認証」画面が表示される場合があります。</p>  <p>これは iTunes の著作権管理機能により、著作権保護されたファイルを再生する場合の手続きになります。「コンピュータを認証」画面にて認証を行うことで、最大 5 台まで著作権保護されたファイルを再生することができます。</p> 

## ◆リモートアクセス機能使用時のトラブル

### リモートアクセスが接続できなくなった

<b>原因</b>	インターネット接続が不通になった場合などに iobb.net が無効に変更されます。 (インターネットサービスプロバイダがメンテナンスなどでインターネット接続が一時間以上不通になった場合など)
<b>対処</b>	インターネットアクセスを確認し、[iobb.net 設定]を再度有効に設定してください。

### リモートアクセスクライアント使用中に「通信エラーが発生しました。」と表示される

<b>原因</b>	インターネット回線の状態が一時的に悪化し、操作中の処理が失敗した。
<b>対処</b>	いったんログアウトし、しばらく待ってからログインしてから操作を行ってください。 それでも同様のエラーメッセージが表示される場合は、本製品の設定を確認してください。

<b>原因</b>	自宅のルーターのグローバル IP アドレスが更新された。
<b>対処</b>	いったんログアウトし、10 分以上待ってから再度ログインし操作を行ってください。 それでも同様のエラーメッセージが表示される場合は、本製品の設定を確認してください。

### コンテンツの再生ができない

<b>原因</b>	インターネット回線の状態によってはスループット不足によりコンテンツの再生が正常に行えない場合があります。
<b>対処</b>	本製品および、ホームメディアリンククライアントを動作させるインターネット環境は光回線（10Mbps 以上の通信速度を維持できること）を推奨します。



## ◆内蔵および増設ハードディスクについて

### [USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない

対処	本製品の出荷時設定では、前面の[USB ポート 1]は、デジカメコピー用に設定されているため、そのままの状態では利用できません。 【USB ポート 1 (前面)の設定について】 (75ページ) をご覧になり、USB ポート 1 を増設用に変更してください。
----	---

### 増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と3回鳴り、STATUS ランプが赤く点滅したままとなる

原因	FAT/NTFS 以外のフォーマット形式の増設ハードディスクを接続した。 FAT/NTFS 以外のフォーマット形式としては以下のような場合があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ Macintosh で使用していたハードディスク</li><li>・ 未フォーマット状態のハードディスク</li><li>・ HDL4-G シリーズ以外の LANDISK で専用フォーマットにした増設ハードディスク</li></ul>
対処	いったんケーブルを抜いて F A T / N T F S 形式にパソコンなどでフォーマットしてから再度接続する必要があります。 または、接続したまま WEB 設定画面「フォーマット (FAT32)」を実行することで、FAT32 形式にフォーマットすることもできます。 フォーマット方法については、以下の個所を参照してください。 【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】 (80ページ)

### 増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について

対処	FAT32 や NTFS 形式のハードディスクはそのまま Windows パソコンではご利用になれます。 再度フォーマットする場合などのフォーマット方法の詳細については、お使いの増設ハードディスクの取扱説明書を参照してください。 ※フォーマットするとデータはすべて消去されます。 ※本製品をパソコンに直接接続して、NTFS 形式にフォーマットすることはできません。
----	---

### ハードディスクの不良で内蔵 HDD 交換が必要な場合は？

対処	以下の場合が考えられます。 内蔵ハードディスクの状態については、【ボリューム情報】画面の【構成ディスク】でご確認ください。 【ボリューム情報】画面 (174ページ)  ①【S.M.A.R.T 自己診断機能】で異常と判断されたハードディスク システムログには、【ディスク故障】と表示されています。 ②アクティブリペアで修復不能の場合と判断されたハードディスク ③エラーが多数発生しているハードディスク システムログには、【ディスク故障】と表示されています。
----	---

### 本製品に接続可能なハードディスクについて

対処	【増設できる USB 機器】 (160ページ) を参照してください。
----	------------------------------------

## デフラグ機能はありますか？

<b>対処</b>	本製品にデフラグ機能はありませんが、本製品に採用しているファイルシステムの仕様により、フラグメンテーション（断片化）が起こりにくい仕様となっています。
-----------	---

## 省電力機能が働かない

<b>原因</b>	省電力に対応していない増設ハードディスクである。
<b>対処</b>	増設ハードディスクによっては、省電力に対応していないハードディスクがあります。 対応状況については、弊社ホームページ ( <a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a> )にてご確認ください。

<b>原因</b>	本製品のシステムがアクセスしている。
<b>対処</b>	本製品のシステムが必要なファイルにアクセスする場合があります。

# ◆タイムサーバー機能使用時のトラブル

## タイムサーバーとの同期が行われない

<b>原因</b>	[TCP/IP 設定] で正しく設定されていない。
<b>対処</b>	<p>設定画面の[メニュー]→[ネットワーク] - [TCP/IP 設定] で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバアドレス」を設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP の設定」画面に入力してタイムサーバーとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p><b>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの確認方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>●Windows Vista®の場合<ul style="list-style-type: none"><li>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。</li><li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li><li>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。</li></ul></li><li>●Windows XP/2000 の場合<ul style="list-style-type: none"><li>① [スタート] → [ (すべての) プログラム ] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。</li><li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li><li>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。</li></ul></li><li>●Mac OS X の場合<ul style="list-style-type: none"><li>① [アップルメニュー] → [場所] (または [ネットワーク環境] ) → 「ネットワーク環境設定」を開きます。</li><li>② 「TCP/IP」画面で「ルータ」と「DNS サーバー (ドメインネームサーバー)」の IP アドレスを確認します。</li></ul></li></ul>

## ◆メール送信でのトラブル

### メール送信テストでエラーとなる


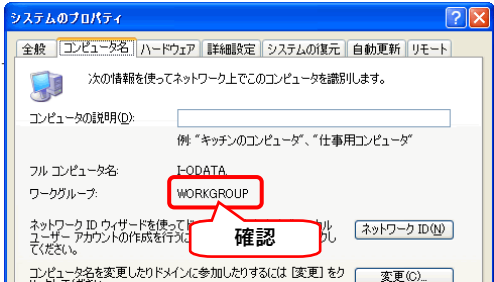
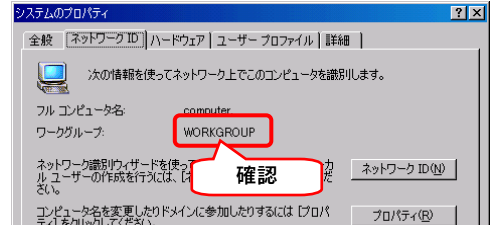
<b>原因</b>	[TCP/IP 設定] で正しく設定されていない。
<b>対処</b>	<p>[ネットワーク設定] → [TCP/IP 設定] (179ページ) で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバードレス」を設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP 設定」画面に入力してタイムサーバーとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Windows Vista®の場合           <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。</li> <li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Windows XP/2000 の場合           <ol style="list-style-type: none"> <li>① [スタート] → [ (すべての) プログラム ] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。</li> <li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Mac OS X の場合           <ol style="list-style-type: none"> <li>① [アップルメニュー] →[場所] (または [ネットワーク環境] ) →「ネットワーク環境設定」を開きます。</li> <li>②「TCP/IP」画面で「ルータ」と「DNS サーバー (ドメインネームサーバー)」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> </ul>
<b>原因</b>	<p>メール送信先のサーバー (プロバイダ)が「POP Before SMTP」を使用している。</p> <p>※ 「POP Before SMTP」を使用しているかどうかはプロバイダやメール送信サーバーの管理者にご確認ください。</p>
<b>対処</b>	[メール] → [メール基本設定] (188ページ) で、「POP before SMTP 設定」を「有効」に設定し、使用するメールアドレスの POP サーバー等の設定を行ってください。
<b>原因</b>	メール通知の「メール基本設定」で、[メール通知機能]を「有効」にしていない。
<b>対処</b>	メール通知を「有効」に設定し、「SMTP サーバー」などを設定してください。

# ◆パソコンのネットワーク設定について

## パソコンの IP アドレスがわからない

<b>対処</b>	パソコンの IP アドレスは以下の方法で確認することができます。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ Windows の場合 添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。以下の個所を参照してください。 <a href="#">【Windows パソコンの IP アドレスの確認】(211ページ)参照</a></li><li>・ Mac OS X の場合 OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。 <a href="#">【Mac OS X パソコンの IP アドレスの確認】(212ページ)参照</a></li></ul>
-----------	---

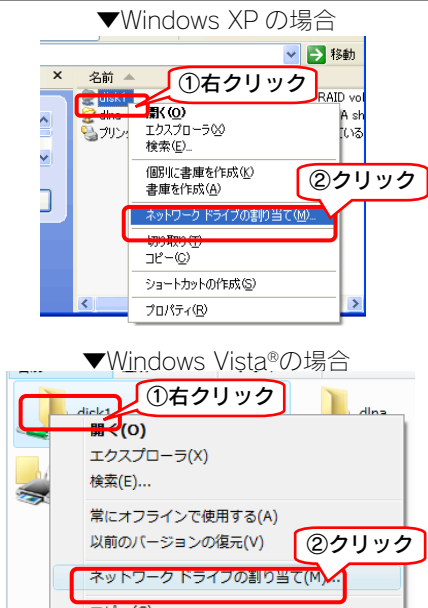
## Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない

<b>対処</b>	<p>【Windows パソコンのワークグループ名の確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● Windows Vista® の場合<ol style="list-style-type: none"><li>① [スタート] をクリック後、[コンピュータ] を右クリックメニュー内の [プロパティ] をクリックします。</li><li>② コンピュータ名、ドメイン及びワークグループの設定のワークグループの欄で確認できます。</li></ol></li><li>● Windows XP の場合<ol style="list-style-type: none"><li>① [スタート] をクリック後、[マイ コンピュータ] を右クリックし、メニュー内の [プロパティ] をクリックします。</li><li>② [システムのプロパティ] 画面で [コンピュータ名] タブをクリックすれば確認できます。</li></ol></li><li>● Windows 2000 の場合<ol style="list-style-type: none"><li>① [マイ コンピュータ] を右クリックし、メニュー内の [プロパティ] をクリックします。</li><li>② [システムのプロパティ] 画面で [ネットワーク ID] タブをクリックすれば確認できます。</li></ol></li></ul>   
-----------	---

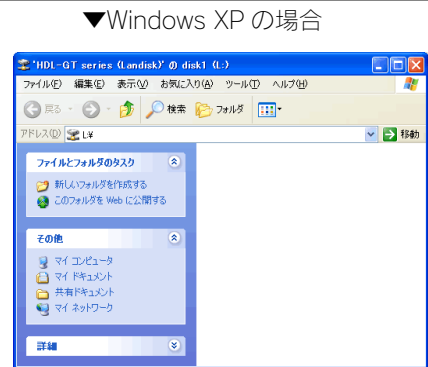
(Windows)  
ネットワークドライブの割り当て方法がわからない

本製品（[disk1] 共有フォルダ）を、ネットワークドライブとして割り当てることができます。  
ネットワークドライブとして割り当てれば、[マイコンピュータ] 上から簡単にアクセスできるようになります。  
※画面は Windows XP を例にしています。

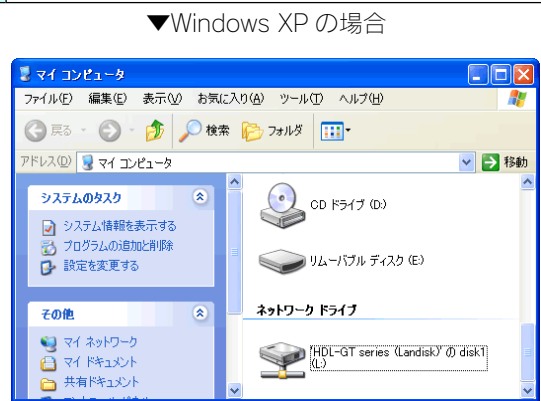
**7** [disk1]フォルダを右クリックして、[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。



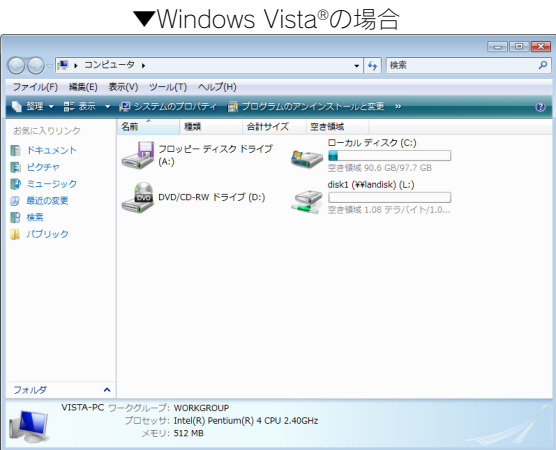
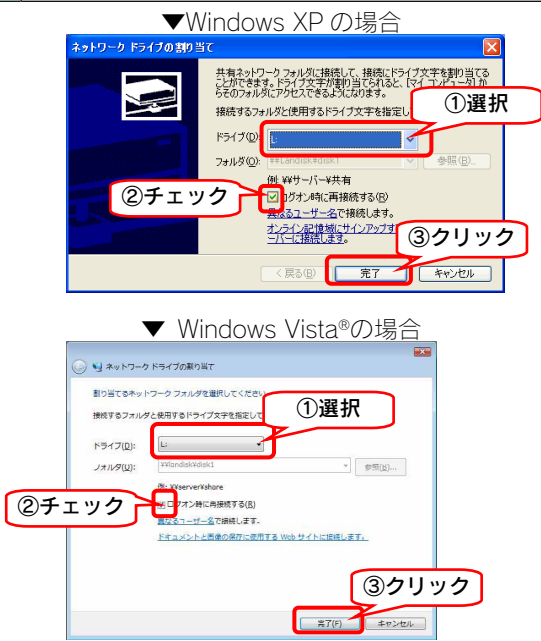
**3** ドライブの割り当てが完了すると、割り当てられたドライブのウィンドウが表示されます。



**4** [マイコンピュータ]を開いて、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。  
ネットワークドライブは、通常のディスクと同様にアクセスできます。



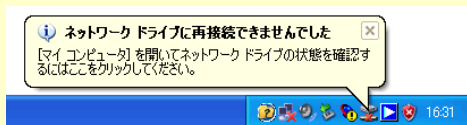
**2** ネットワークドライブの割り当てを行います。  
①[ドライブ]にて本製品に割り当てる文字を選びます。  
（画面例では、L を選択しています。）  
②[ログオン時に再接続する]にチェックを付けます。  
③[完了]ボタンをクリックします。



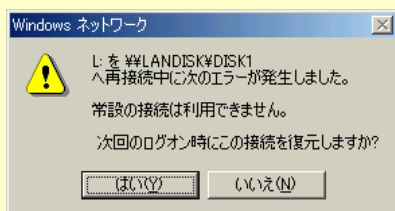


- 手順3 で[ログオン時に再接続する]へチェックを入れることにより、次回パソコン起動時にも、本製品がドライブとして登録されます。ネットワークに接続していない場合は、パソコン起動時に以下のエラーメッセージが表示されます。

・ Windows XP でのエラー画面例



・ Windows Me でのエラー画面例



- 多くのパソコンからネットワークドライブとして割り当てると、本製品のパフォーマンスが低下する場合があります。

以上で完了です。

## パソコンに固定の IP アドレスを設定するには

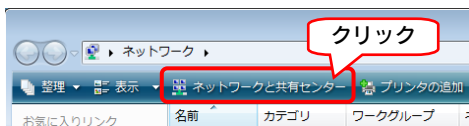
以下の手順は、パソコンに固定の IP アドレス（例は「192.168.0.3」）を設定する場合の例です。

一時的に変更する場合などは、必ず、以前の[IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] などのアドレスはメモしてください。

ネットワーク内に DHCP サーバーが無い場合（本製品が「192.168.0.200」の IP アドレスで起動した場合）などに、パソコンから設定画面を開く際には、パソコン側は同じネットワークアドレスで別の IP アドレスを設定する必要があります。

### Windows Vista®の場合

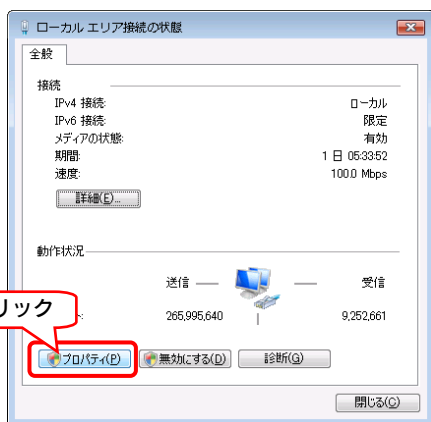
- 1** [スタート] → [ネットワーク] をクリックし、[ネットワークと共有センター] をクリックします。



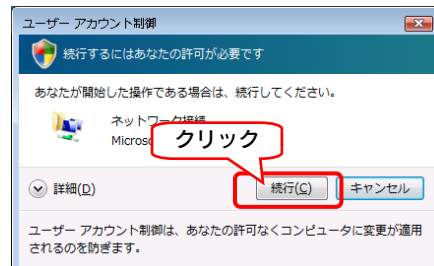
- 2** [状態の表示] をクリックします。



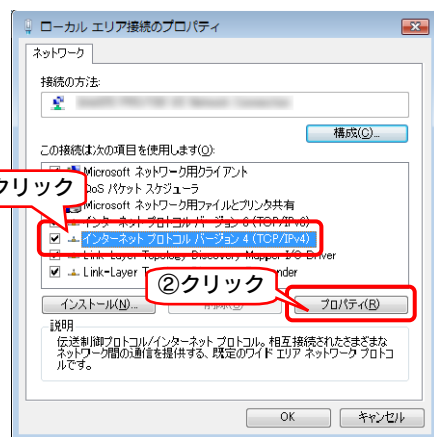
- 3** [プロパティ] をクリックします。



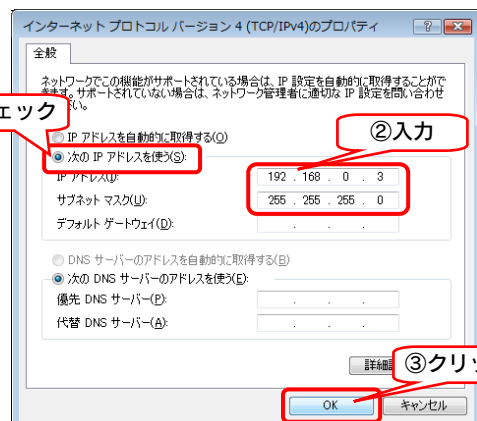
- 4** 以下の確認画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。



- 5** [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。



- 6** [次の IP アドレスを使う] をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
※画面は設定値は、設定例です。



以上で設定終了です。  
開いた画面を閉じてください。

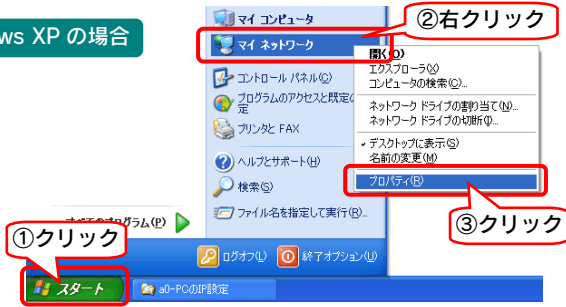


## Windows XP/2000 の場合

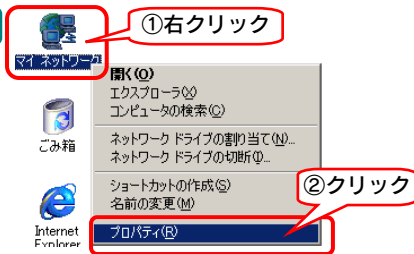
※画面は Windows XP での例です。

- 7** [スタート] → [マイネットワーク] を右クリック後、[プロパティ] をクリックします。  
(Windows 2000 の場合は、[マイネットワーク] アイコンを右クリック)

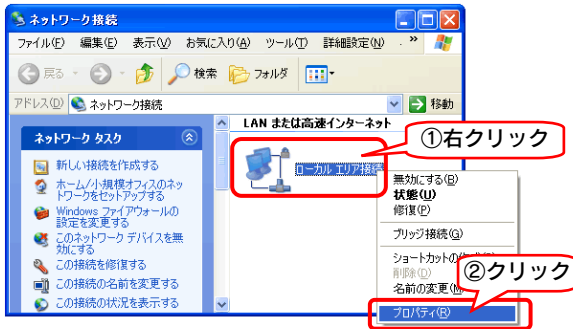
### Windows XP の場合



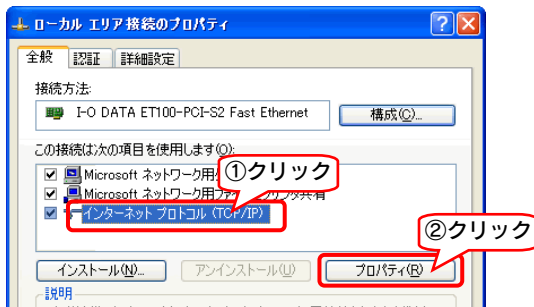
### Windows 2000 の場



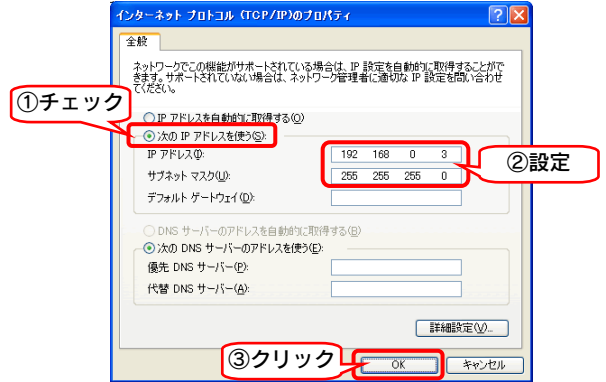
- 2** [ローカルエリア接続] アイコンを右クリック後、[プロパティ] をクリックします。



- 3** [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリック後、[プロパティ] ボタンをクリックします。



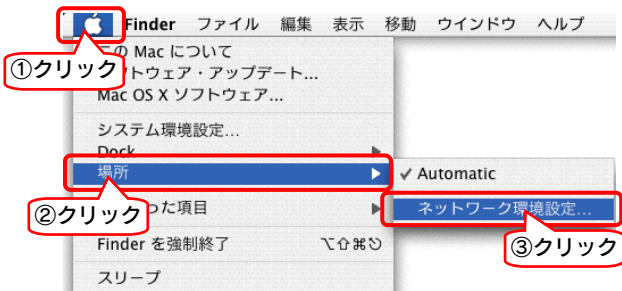
- 4** [次の IP アドレスを使う] をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク]を設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
※画面は設定値は、設定例です。



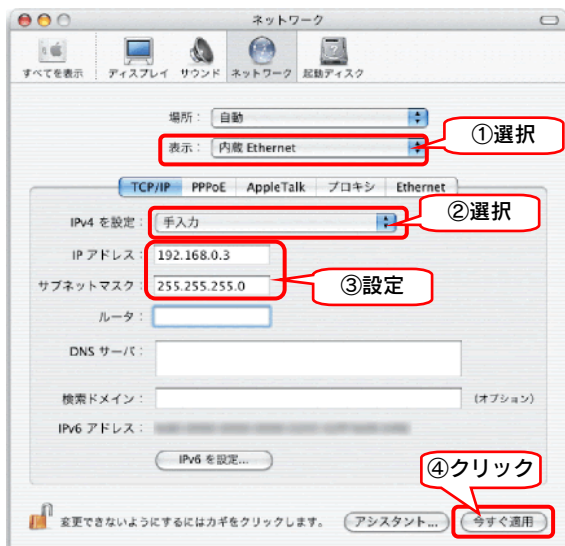
以上で設定終了です。  
開いた画面を閉じてください。

## Mac OS Xの場合

- 1** [アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境])  
→[ネットワーク環境設定...]を選択します。



- 2** 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更します。
- ①[表示:]から[内蔵 Ethernet]または[Ethernet]を選択します。
  - ②[TCP/IP]タブで [IPv4 を設定:] (または[設定:]) から[手入力]を選択します。
  - ③以下を設定します。  
IP アドレス: 192.168.0.3  
サブネットマスク: 255.255.255.0
  - ④[今すぐ適用]ボタンをクリックします。



- 3** 画面を閉じて、パソコンを再起動します。

(Windows Vista®/XP/2000)

[ローカルエリア接続]アイコンに×マークが付いている

<b>原因</b>	LAN ケーブルが正しく接続されていない。
<b>対処</b>	パソコンに LAN ケーブルが接続されているか、また、パソコン接続先のネットワーク機器（ルーターやハブなど）に LAN ケーブルが接続されているかご確認ください。

<b>原因</b>	LAN ケーブルに問題がある。
<b>対処</b>	別の LAN ケーブルをお持ちの場合は、LAN ケーブルを交換してみてください。

# オプション品について

本製品のオプション品です。最新情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp> をご確認ください。

## ▼交換用 HDD

品名	容量
HDI-SAH7 シリーズ	250GB
	500GB
	750GB
	1.0TB

以下の使用方法があります。

・内蔵 HDD 故障時の交換用

内蔵 HDD が1台あるいは複数台故障した場合の、交換用内蔵 HDD として使用できます。

交換用内蔵 HDD としては、以下が必要です。

HDL4-G1.0 の場合 . . . . . 「HDI-SA250H7」

HDL4-G2.0 の場合 . . . . . 「HDI-SA500H7」

HDL4-G3.0 の場合 . . . . . 「HDI-SA750H7」

HDL4-G4.0 の場合 . . . . . 「HDI-SA1.0TH7」

※1 容量の大きいディスクに交換した場合、自動的に小さい容量に調整されます。

※2 交換用ハードディスクには RAID システムは入っていません。交換用のハードディスクのみで RAID を再構築することはできません。

※3 HDL4-G1.0 において、500GB の交換用 HDD を 4 つ使用して HDL4-G2.0 と同容量とする等、後から容量を増やすことはできません。

※4 オプション品以外の HDD のご使用は動作保証外となります。

# 本製品のお問い合わせ

## ① 弊社ホームページをご覧ください

サポート Web ページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらをご参考ください。

製品 Q&A、News など ⇒ <http://www.iodata.jp/support/product/hdl4-g/>

ソフトウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のソフトウェアをダウンロードしてお試しください。

最新サポートソフト ⇒ <http://www.iodata.jp/lib/>

## ② それでも解決できない場合は、下記にお問い合わせください

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地  
アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター  
電話： 本社…**076-260-3644** 東京…**03-3254-1144**  
※受付時間 9:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）  
FAX： 本社…**076-260-3360** 東京…**03-3254-9055**  
インターネット： <http://www.iodata.jp/support/>

### ※お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1. ご使用の弊社製品名
2. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番
3. ご使用のシステムバージョン
4. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

# 修理について

## 修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

### ●内部のデータについて

- ・検査の際には、内部のデータはすべて消去されてしまいます。

(厳密な検査を行うためです。どうぞご了承ください。)

※データに関しては、弊社はいつさいの責任を負いかねます。バックアップできる場合は、修理にお出しになる前にバックアップしてください。

弊社では、データの修復は行っておりません。

### ●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。

その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

### ●修理金額について

- ・保証期間中は、無料にて修理いたします。

ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」の「保証適応外」の内容に該当する場合は、有料となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

- ・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

- ・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。

修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。

(ご依頼時に FAX 番号をお知らせいただければ、修理金額を FAX にて連絡させていただきます。)

## 修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

### ①メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号(S/N)、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

### ②これらを用意してください

- ・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書 (コピー不可)

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

- ・下の内容を書いたもの

返送先 [住所/氏名/(あれば)FAX 番号]、日中にご連絡できるお電話番号、

ご使用環境 (機器構成、OS など)、故障状況 (どうなったか)

### ③修理品を梱包してください

- ・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

- ・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

### ④修理をご依頼ください

- ・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

- ・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先 〒920-8513

石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地 アイ・オー・データ第 2 ビル

株式会社アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

【ご注意】

- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。  
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。  
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
- 4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。  
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 5) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- I-O DATA は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- Apple, Macintosh, Power Macintosh, PowerBook, iMac, iBook, FireWire, Power Mac, Mac, Mac OS, Mac OS ロゴおよびその標章は、米国 Apple, Inc. の登録商標です。
- DigiOn, DiXiM は、株式会社デジオンの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

HDL4-G シリーズ取扱説明書 2008.12.26  
発行 株式会社アイ・オー・データ機器  
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2007-2008 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.  
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので無断で複写、  
複製、転載、改変することは禁じられています。